甲府市文化財調査報告55

塚本遺跡

―甲府市立千塚小学校建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―

2011

甲府市
甲府市教育委員会
財団法人山梨文化財研究所

甲府市文化財調査報告55

塚本遺跡

— 甲府市立千塚小学校建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

2011

甲府市
甲府市教育委員会
財団法人山梨文化財研究所

序

本書で報告のある千塚小学校は荒川の扇状地の一端に位置します。荒川はその名のとおり荒ぶる川で、その流路が時代によってかなり異なったことが想定されます。荒ぶる川という一面のほか、周辺に生活した人々には母なる川として恩恵をもたらしたことが各地の発掘調査から解明されつつあります。

具体的には飲料水や生活用水・農業用水の確保、漁労の場の提供のほか荒川を使った水上交通が考えられます。荒川によってもたらされた恵みによって、周辺には数多くの古墳が築かれ、「千塚」の名称が興ったものと思われます。なかでも6世紀後半に築造された加牟那塚古墳は、石室の全長が16mを超え、同時代における東日本の古墳の石室規模でも上位に位置づけられます。このような大規模な古墳を築造するにあたっては、相当数の人員を動員する必要があり、それを可能にする権力・財力があったことが想定されます。

発掘調査によって解明される先人たちの努力の痕跡、先人たちの知恵が本書を通じて皆様がたに伝わると幸いです。

また、本報告が甲府市のみならず、山梨県の歴史を研究する糧となり、また将来、地域学習の素材として活用されることを期待しております。

末筆ではありますが、発掘調査から報告書作成にいたるまで、地元自治会の関係各位をはじめ、また現地における発掘調査や室内での整理作業に携わった多くの方々から多大なご指導やご協力をいただきました。厚く御礼を申し上げ序といたします。

平成23年3月

甲府市教育委員会
教育長　長谷川　義高

例　言

1　本書は山梨県甲府市千塚１丁目（甲府市立千塚小学校）に所在する塚本遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査は千塚小学校校舎および体育館建設に先立ち実施したもので、平成21年度に試掘調査を国庫補助金の交付を受けて甲府市教育委員会が実施した。また平成21年度に校舎地点の本調査を甲府市教育委員会が実施し（第１次調査）、平成22年度には体育館地点を甲府市より委託を受けて㈶山梨文化財研究所が実施した（第２次調査）。試掘調査および第１次調査は平塚洋一（甲府市教育委員会）、第２次調査は櫛原功一（㈶山梨文化財研究所）が担当した。

3　本書の編集は戸澤慎一（甲府市教育委員会文化振興課長）を責任者とし、平塚・櫛原が行った。本書の原稿執筆は、第４章を植月学（山梨県立博物館）、第１章第１節１・２、第３章第３節１～30号竪穴、１～４・７号周溝墓、５～11号土坑墓を平塚が執筆し、そのほかの執筆は櫛原が行った。また遺物観察表の石材鑑定は河西学（㈶山梨文化財研究所地質研究室）による。なお植月氏にはご厚意により出土人骨および馬骨の鑑定および原稿執筆をしていただいた。心より感謝申し上げたい。

4　第１次調査では竪穴をSB、土坑墓をSX、溝をSD等と略称を付けたが、第２次調査では和名とし、本報告でも第１次分を含めて和名で統一した。また第１次調査では、調査区の方向に合わせてグリッドを組んだが、第２次調査ではそのグリッドを踏襲しなかった。また方形周溝墓、円形周溝墓を総称して「周溝墓」と呼称した。

5　発掘調査における基準点測量、空中写真撮影、全体図作成業務は㈱テクノプラニングが実施した。

6　金属製品の保存処理は㈶山梨文化財研究所保存処理室が実施した。

7　本書の遺物写真撮影は、中川美治が行った。

8　本書に関わる出土品、記録類は甲府市教育委員会で保管している。

9　発掘調査から報告書作成に至るまで、以下の諸氏、諸機関からご教示、ご協力、御配慮を賜った。記して感謝申し上げたい（順不同、敬称略）。

甲府市立千塚小学校、山梨県教育委員会学術文化財課、山梨県埋蔵文化財センター、村石真澄（山梨県埋蔵文化財センター）、稲垣自由（大月市教育委員会）、大嶌正之（甲斐市教育委員会）、小渕忠秋・望月和幸（笛吹市教育委員会）、三澤達也（山梨市教育委員会）、森谷忠・柴田直樹（㈱テクノプラニング）、三枝哲雄（三枝興業）、望月祐仁・伊藤正幸・志村憲一・伊藤正彦・佐々木満（甲府市教育委員会）、萩原三雄・河西学・畑大介・鈴木稔・宮澤公雄・平野修・望月秀和・中山千恵（㈶山梨文化財研究所）、植月学・中山誠二（山梨県立博物館）、山梨県考古学協会

凡　例

1　遺跡全体図におけるX・Y数値は、平面直角座標第８系（原点：北緯36度00分00秒、東経138度30分00秒）に基づく座標数値である（世界測地系数値）。各遺構平面図中の北を示す方位はすべて座標北で、真北方向は－0° 1′ 26.18″。

2　遺構・遺物の縮尺は次の通りである。

竪穴住居　1：60
竈・炉　1：30
土坑　1：40
ピット　1：30
周溝墓　1：60　1：100　1：120
縄文土器・弥生土器・土師器　1：3（1：6）
金属製品　1：2
古銭　1：1
石器　1：3
石鏃　2：3

3　遺構図における遺物の種別を示す記号は以下のとおり。

●土器（図化）　・土器（未図化）　▲須恵器
■陶磁器　◎縄文　□土製品　◆骨　○金属製品
★炭化物　☆木材　△石器

4　土器断面中の破線は接合帯を、黒の塗りつぶしは須恵器、ドット網掛けは陶磁器を示す。土器の内外面の網掛けについては、細かい密なドットは黒変、やや粗いドットは赤彩を示す。

5　土層説明における土色表示は農林水産省水産技術会議事務局監修『新版　標準土色帖』に基づく。

6　遺構図版中の遺物番号は、写真図版番号、遺物観察表番号と一致する。

7　本書図１は国土地理院発行の20万分の一地勢図「甲府」、図２は２万５千分の１地形図「甲府」「甲府北部」を使用した。

目　次

序　文
例　言
凡　例
本文目次
挿図目次
表目次
図版目次
写真図版目次
第１章　経過 …… 1
　第１節　調査の経過 …… 1
　第２節　発掘作業の経過 …… 1
　第３節　整理等作業の経過 …… 3
第２章　遺跡の位置と環境 …… 3
　第１節　地理的環境 …… 3
　第２節　歴史的環境 …… 6
第３章　調査の方法と成果 …… 7
　第１節　調査の方法 …… 7
　第２節　層　序 …… 8
　第３節　遺　構 …… 8
　第４節　遺　物 …… 20
第４章　塚本遺跡から出土した馬歯・馬骨および人骨（植月学） …… 28
　第１節　ウマ …… 28
　第２節　ヒト …… 30
第５章　総　括 …… 31
　第１節　弥生時代後期の竪穴住居 …… 31

第２節　周溝墓の変遷 …… 33
第３節　平安時代の遺構の変遷と成果 …… 35
第４節　河道および出土遺物 …… 36
写真図版
報告書抄録・奥付

挿図目次

図１　遺跡の位置 …… 4
図２　周辺の遺跡 …… 4
図３　分開図１ …… 5
図４　分開図２ …… 5
図５　調査区および周辺 …… 7
図６　全体図 …… 9・10
図７　地形図 …… 11
図８　第１次調査区グリッド配置図 …… 12
図９　遺跡の変遷 …… 34

表　目　次

第１表　馬歯による個体数集計 …… 28
第２表　ウマ遺体同定結果 …… 29
第３表　土器類観察表 …… 37
第４表　土製品観察表 …… 44
第５表　石器類観察表 …… 44
第６表　金属製品観察表 …… 44

挿写真目次

写真１　証文塚古墳 …… 6
写真２　33号竪穴の礫石 …… 36

図版目次

第１図　１号竪穴 …… 45
第２図　２号竪穴 …… 46
第３図　２号竪穴 …… 47
第４図　３号竪穴 …… 48
第５図　４・７・19号竪穴 …… 49
第６図　４・７・19号竪穴 …… 50
第７図　５・30号竪穴 …… 51
第８図　５・30号竪穴 …… 52
第９図　８号竪穴 …… 53
第10図　９～11号竪穴、６・７・15号土坑 …… 54
第11図　９～11号竪穴 …… 55
第12図　９～11号竪穴 …… 56
第13図　12号竪穴 …… 57
第14図　13・21号竪穴、７・８・13号ピット …… 58
第15図　13・21号竪穴、７号ピット …… 59
第16図　14・15・22号竪穴 …… 60
第17図　14・15・22号竪穴 …… 61
第18図　18号竪穴、３号ピット、８～11・13号土坑 …… 62
第19図　18号竪穴 …… 63
第20図　20号竪穴 …… 64
第21図　21号竪穴 …… 65
第22図　25・26号竪穴 …… 66
第23図　25・26号竪穴 …… 67
第24図　28・37号竪穴 …… 68
第25図　28・37号竪穴 …… 69
第26図　32号竪穴 …… 70
第27図　33号竪穴 …… 71
第28図　34・35号竪穴 …… 72
第29図　36号竪穴、15号溝 …… 73
第30図　38号竪穴 …… 74
第31図　39号竪穴 …… 75
第32図　40・47号竪穴、30号土坑 …… 76
第33図　41号竪穴 …… 77
第34図　42号竪穴 …… 78
第35図　43・44号竪穴 …… 79
第36図　45号竪穴 …… 80
第37図　46号竪穴、３号撹乱 …… 81
第38図　５号周溝墓、23号土坑 …… 82
第39図　１号周溝墓（２・５号溝）、８号溝 …… 83・84
第40図　２～４・７号周溝墓、22号溝、14～17号ピット …… 85・86
第41図　５・18～20号土坑 …… 87
第42図　26～29号土坑、１～12号ピット …… 88
第43図　１号掘立柱建物、23～34号ピット …… 89
第44図　６号周溝墓（16号溝）、21・23号土坑、18・20・25号溝 …… 90
第45図　１号河道 …… 91・92
第46図　１・２号竪穴遺物 …… 93
第47図　２・３号竪穴遺物 …… 94
第48図　４号竪穴遺物 …… 95
第49図　５号竪穴遺物 …… 96
第50図　５・７号竪穴遺物 …… 97
第51図　７～９号竪穴遺物 …… 98
第52図　10～13号竪穴遺物 …… 99
第53図　13～15号竪穴遺物 …… 100
第54図　15・18号竪穴遺物 …… 101
第55図　19・20・22・24・25号竪穴遺物 …… 102
第56図　25・26・28号竪穴遺物 …… 103
第57図　32・33号竪穴遺物 …… 104
第58図　33・34号竪穴遺物 …… 105
第59図　34・36号竪穴遺物 …… 106
第60図　36・37号竪穴遺物 …… 107
第61図　37～39号竪穴遺物 …… 108
第62図　39・40号竪穴遺物 …… 109
第63図　41号竪穴遺物 …… 110
第64図　41・42号竪穴遺物 …… 111
第65図　42・43・45号竪穴遺物 …… 112
第66図　45～47号竪穴遺物 …… 113
第67図　２・７・８・11・15土坑墓、１号周溝墓遺物 … 114
第68図　１号周溝墓遺物 …… 115
第69図　１～３号周溝墓遺物 …… 116
第70図　４～７号周溝墓遺物 …… 117

第71図　17・18・20・30号土坑、3・8・19・20・23・26号溝、
1号河道遺物 …… 118
第72図　1号河道遺物 …… 119
第73図　1号河道遺物 …… 120
第74図　1号河道遺物 …… 121
第75図　1号河道遺物 …… 122
第76図　遺構外遺物 …… 123
第77図　遺構外遺物 …… 124

写真図版目次

図版1　1　塚本遺跡発掘写真　2・3　2次調査区俯瞰写真
図版2　1　1号竪穴遺物出土状況　2　2号竪穴完掘状況
3　3・8号竪穴遺物出土状況
4　3・8号竪穴完掘状況
5　4号竪穴遺物出土状況
6　5号竪穴遺物出土状況
7　5号竪穴遺物出土状況　8　5号竪穴出土遺物
図版3　1　7号竪穴遺物出土状況
2　7号竪穴内配石状石組
3・4　9号竪穴完掘状況
5　10・11号竪穴完掘状況　6　10号竪穴炉
7　13号竪穴遺物出土状況
8　14号竪穴遺物出土状況
図版4　1　13・21号竪穴完掘状況
2　14・15号竪穴遺物出土状況
3　14・15号竪穴完掘状況
4　18号竪穴内炭化物出土状況
5　19号竪穴完掘状況
6　22号竪穴・6号溝（7号周溝墓）完掘状況
図版5　1　24号竪穴遺物出土状況　2　25号竪穴完掘状況
3　25号竪穴炉　4　25・26号竪穴完掘状況
5　28号竪穴完掘状況
6　25・26号竪穴遺物出土状況
7　25号竪穴出土遺物　8　26号竪穴出土遺物
図版6　1　26号竪穴遺物出土状況　2　30号竪穴完掘状況
3　1号周溝墓完掘状況　4　1号周溝墓内出土遺物
5　1号周溝墓（2号溝）内出土遺物
6　1号周溝墓溝内出土遺物　7　1号周溝墓溝断面
図版7　1　3号周溝墓（9号溝）遺物出土状況
2　4号周溝墓（13号溝）遺物出土状況
3　3号周溝墓（9号溝）遺物出土状況
4　3号周溝墓内遺物出土状況
5　5号周溝墓（10号溝）完掘状況
6　4号周溝墓（13号溝）完掘状況
図版8　1・2　5号土坑馬骨出土状況
3　7号土坑墓人骨出土状況
4　7号土坑墓人骨出土状況
5　8号土坑墓人骨・銭貨出土状況
6　9号土坑墓人骨出土状況
7　10号土坑墓人骨出土状況
8　11号土坑墓人骨出土状況
図版9　1・2　1号河道完掘状況
3　1号河道遺物出土状況
図版10　1　1号河道中央断面写真
2～4　1号河道遺物出土状況
5　1号河道内帯金具（高方）出土状況
6　1号河道内自然木出土状況
7・8　1号河道内須恵器横瓶出土状況
図版11　1　32号竪穴遺物出土状況　2　32号竪穴完掘状況
3　32号竪穴断面　4　32号竪穴竈遺物出土状況
5　32号竪穴竈断割り状況　6　32号竪穴竈完掘状況
7　33号竪穴完掘状況　8　33号竪穴竈
図版12　1　34号竪穴遺物出土状況
2　34号竪穴竈天井石出土状況
3・4　34号竪穴竈遺物出土状況
5　34号竪穴完掘状況　6　34号竪穴竈完掘状況
7　35号竪穴完掘状況　8　36号竪穴遺物出土状況
図版13　1　34号竪穴遺物出土状況　2　38号竪穴炉
3　39号竪穴炭化材出土状況　4　39号竪穴竈
5　40・47号竪穴遺物出土状況
6　40～42号竪穴完掘状況　7～9　40・47号竪穴竈
図版14　1・2　41号竪穴遺物出土状況
3　41号竪穴竈周辺遺物出土状況
4・5　41号竪穴竈　6　41号竪穴下層遺物出土状況
7　42号竪穴遺物出土状況
図版15　1～3　42号竪穴竈　4　43・44号竪穴遺物出土状況
5～7　45号竪穴遺物出土状況
図版16　1　45号竪穴完掘状況　2　45号竪穴土器埋設炉
3　46号竪穴完掘状況　4　46号竪穴遺物出土状況
5　18号土坑礫等出土状況
6　18号土坑内曲物出土状況
7・8　30号土坑馬歯出土状況
図版17　1　3号掘乱完掘状況　2　41号竪穴西側集石状況
3　3号掘乱礫出土状況　4～7　2次調査区全景
図版18　1　6号周溝墓全景
2　5号周溝墓（27号溝）・1号掘立完掘状況
3　1号河道内作業風景　4　2次調査区完掘状況
5　作業風景　6　2次調査区全景
図版19　1～4号竪穴遺物
図版20　4・5号竪穴遺物
図版21　7～10号竪穴遺物
図版22　10～14号竪穴遺物
図版23　15・18～20・22・24号竪穴遺物
図版24　25・26・28・32・33号竪穴遺物
図版25　33・34号竪穴遺物
図版26　36・37号竪穴遺物
図版27　37～40号竪穴遺物
図版28　41号竪穴遺物
図版29　42・43・45号竪穴遺物
図版30　45～47号竪穴、2・7号土坑墓遺物
図版31　7・8・10・11・15号土坑墓、1号周溝墓遺物
図版32　1～4号周溝墓遺物
図版33　5～7号周溝墓、17・18・20・30号土坑、
3・8・19・20・23・26号溝、1号河道遺物
図版34　1号河道遺物
図版35　1号河道遺物
図版36　1号河道、遺構外遺物
図版37　遺構外遺物

第1章　経　過

第1節　調査の経緯

1　調査に至る経緯

甲府市立千塚小学校では校舎の全面建て替えに伴い、校舎棟を平成23年8月、校舎東側に隣接する体育館（屋内運動場）を平成23年2月末完成予定として建設することになった。平成21年7月27日付けで建築営繕課より埋蔵文化財発掘の通知の提出を受け、夏休み期間のうちの8月16日から8月31日に試掘調査を甲府市教育委員会が実施した。校舎建設予定地にトレンチを2本、体育館建設予定地にトレンチを1本設定し実施した結果、校舎予定地点では近世から近代にかけての墓地、平安時代の竪穴住居ほか須恵器提瓶などが出土した。また体育館側では幅5.5m以上の近世後期とみられる流路跡、東側に幅15m以上の大溝があり、溝の上層では平安時代、下層では古墳時代の土坑などが確認された。遺構の保存状態も良いことから、甲府市教育委員会では両地点ともに全面的な本調査の必要があると判断した。本調査にあたっては、廃土置場の確保のため校舎地点と体育館地点を2度に分けて別々に実施することとした。

第1次調査（校舎地点）は甲府市教育委員会が平成22年1月18日より調査を開始し、3月末までに校舎地点の調査を終えた。

第2次調査（体育館地点）の約1000㎡については、甲府市からの委託により（財）山梨文化財研究所が実施することとなり、6月末現地調査終了を目指して平成22年4月末着手、7月上旬に現地調査を完了した。甲府市との契約内容は次のとおりである。

委託事業名　塚本遺跡（千塚小学校体育館地点）
埋蔵文化財発掘調査業務

契約期間　平成22年4月26日～平成22年7月10日

調査期間　平成22年4月26日～平成22年7月7日

調査実施面積　1001.3㎡

2　試掘調査

試掘調査の結果は以下の通りである。

トレンチ1　2×15m で設定。旧分間図によると墓地にかかる地区である。重機により掘り下げたところ須恵器提瓶が出土するなど、地表下30～40cmの深さから土器がややまとまって出土した。古墳時代、平安時代～中世の遺物があり、さらに江戸時代と思われる墓坑から人骨が出土した。

トレンチ2　2×15mの試掘坑を設定。旧分間図の原野にあたる地点である。西側では砂地を地山とし、黒褐色土の土坑を確認した。また東西方向を基軸とする大形方形遺構も確認された。石組みの墓坑も確認され、大正時代の磁器類が出土している。東側では地表下30cmで竪穴住居を確認した。床面までは70cm以上とみられ、保存状態はよい。

トレンチ3　体育館予定地中央に東西方向、2×20mの試掘坑を設定した。西側では江戸後期とみられる流路跡がある。古代の遺構確認面は地表下75cm。トレンチ東側では幅15m、深さ2m以上となる大規模な溝跡が確認できた（河道）。地表下1.5mには酸化鉄の堆積層がある。最下層の一部には溝に先行するように掘削された土坑が存在する。

第2節　発掘作業の経緯

第1次調査は平成22年1月18日より開始した。重機による表土剥ぎの後、調査区の東西方向の向きに合わせた5mグリッドを設定し調査を行い、3月末に調査を終えた。

第2次調査は平成22年4月26日より開始した。体育館の設計図に従い調査区を設定し、重機による表土剥ぎを開始したところ、グランドの地中には水道管、電気の配線、下水管などが埋設されていて、東壁、南壁の一部については手を付けることができず、予定よりも調査面積を縮小せざるをえなかった。調査は東側に広がる旧河道の掘削から開始し、その後、西側台地面の遺構群を北側より調査していった。南西の一角では平安時代の竪穴住居が多数重複し、プランがわかりにくく、また梅雨時の天候不順があったものの、7月3日に現地調査を終了、ただちに埋め戻しを開始し、7月7日に埋め戻しを完了した。

【調査日誌】

第1次調査

平成22年（2010）1月18日(月)　フェンス設置。内側より表土剥ぎ開始。
1月19日(火)　重機およびダンプにより表土剥ぎをしつつ、遺構確認を開始。
1月20日(水)　表土剥ぎおよび遺構確認。
1月21日(木)　重機による表土剥ぎは本日にて終了。
1月22日(金)　撹乱の掘り下げ（SX1～3）。
1月25日(月)　グリッド杭打設。
1月26日(火)　遺構確認。撹乱等の掘り下げ開始。

1月27日(水)　掘乱等掘り下げ。
1月29日(金)　遺構確認。溝等掘り下げ。竪穴掘り下げ(SB1)。
2月1日(月)　SB1・2、SD1調査。
2月3日(水)　SB2調査。
2月4日(木)　SB1・2および周辺調査。
2月5日(金)　SB1・2および周辺調査。
2月8日(月)　SB2・3調査。
2月9日(火)　SB2および周辺調査。
2月10日(水)　グリッド精査、平安時代土師器集中区(SB7)調査。
2月11日(木)　SB3調査。
2月12日(金)　グリッド精査。SB5調査。
2月16日(火)　SB5・6調査。
2月17日(水)　SB2床面精査。グリッド掘り下げ。千塚小教員見学。
2月18日(木)　SB2ピット掘り下げ。
2月19日(金)　SB2・3調査。SX5(馬の墓)調査。
2月22日(月)　SB3・8調査。
2月23日(火)　SB3・8、SD1調査。
2月24日(水)　SB3～8調査。
2月25日(木)　SB～7、SX6～9(人骨出土)調査。
2月26日(金)　SX8・9調査。SX8より六文銭出土。
3月1日(月)　SB3・8調査。グリッド掘り下げ。
3月2日(火)　千塚小学校小学生の体験発掘。山梨日日新聞掲載。方形周溝墓とみられる溝調査。
3月3日(水)　SX9～11調査。人骨出土。山梨日日新聞掲載。
3月4日(木)　SB9調査。千塚小4年生体験発掘。
3月5日(金)　SB9・10調査。SD2(のちに方形周溝墓と判明)より壺出土。
3月6日(土)　SX1・2および周辺調査。
3月8日(月)　SB9～14、SX6・7調査。
3月9日(火)　SB4・12等調査。グリッド掘り下げ。
3月11日(木)　除雪作業。
3月12日(金)　方形周溝墓と思われる溝調査。
3月13日(土)　午前中、甲府市教育委員会主催により遺跡見学会実施。約120名参加。SB5・6調査。SD9より壺出土。
3月15日(月)　SB9～15調査。SD2とSD5が同一の溝(方形周溝墓の一部)と判明。
3月16日(火)　SD5調査。SX11調査(人骨出土)。グリッド掘り下げ。
3月17日(水)　SB9完掘。SB10～17、SD2調査。SX15より六文銭出土。
3月18日(木)　SB18・19、SD2調査。
3月19日(金)　SD2・5調査。
3月20日(土)　SD2・4調査。
3月22日(月)　SD2掘り下げ。SB9～11調査。
3月23日(火)　SB9～18調査。SB9完掘。SX10より人骨出土。
3月26日(金)　SB13～21調査。遺構外土器集中区調査。
3月27日(土)
3月29日(月)　SB15～22調査。SD6完掘。
3月30日(火)　SB26調査。
3月31日(水)　SD9(方形周溝墓)調査。1号方形周溝墓ほぼ完掘。SB25、SD11・12調査。

第2次調査

【調査日誌】

平成22年(2010)　4月26日(月)　重機による表土剥ぎを開始したところ、早々に給食室南西角で水道管破裂。調査予定位置内には水道管、マンホール、下水、電気の線などが埋設されているため、図面を手配。業者に補修工事をしてもらう。調査範囲の杭打ち、基準杭3か所の打設を行う。フェンスを一部移動し、固定した。
4月27日(火)　機材搬入。フェンスを一部設定し直す。重機による表土剥ぎ。図面を見ながら、地下埋設の電線の有無を確認。
4月28日(水)　調査区内に溜まった水をポンプで抜く。今後の雨対策として調査区周辺に溝を掘る。谷の一部を重機で抜いたところ、底は2m以上下から遺物が出土したため、遺物が出る層まで重機により掘削することとする。
4月29日(木)　重機による表土剥ぎ。水路が一部汚濁し、調査区内に水浸入。村石真澄氏より、微地形についてアドバイスを受ける。
4月30日(金)　鍬簾がけ。調査区の壁精査。重機による1号河道内の掘削。
5月1日(土)　重機による表土剥ぎ。
5月2日(日)　表土剥ぎ。小学生への注意を促す説明板設置。
5月3日(月)　表土剥ぎ。
5月4日(火)　本日にて表土剥ぎは終了。
5月6日(木)　本日より作業員全員が参加し、本格的な調査を開始。まず全体を鍬簾がけし、シートを掛けた。谷状遺構を1河(1号河道)とし、遺物を取り上げながら、掘り下げる。
5月7日(金)　室内にて作業。
5月10日(月)　1号河道北区の掘り下げ。東端で竪穴確認(32号竪穴)。緑釉陶器椀出土。
5月11日(火)　1号河道北区の掘り下げ。
5月12日(水)　1号河道北区掘り下げ。
5月13日(木)　1号河道北区を下層礫層面まで掘り下げたところ、弥生土器など出土。ベルトの精査、土層確認。
5月14日(金)　1号河道北・中区掘り下げ。
5月17日(月)　1号河道北・中区掘り下げ。
5月18日(火)　1号河道中区掘り下げ。
5月19日(水)　1号河道中区掘り下げ。
5月20日(木)　1号河道中区で炭化材がまとまって出土。
5月21日(金)　1号河道南区掘り下げ。
5月24日(月)　1号河道南区掘り下げ。ベルト断面図作成。
5月25日(火)　1号河道南区掘り下げ。礫層面まで遠し、ほぼ掘り上る。完形の須恵器横瓶が河道底面より出土。周囲には川然木も分布する。ベルト断面図作成。
5月26日(水)　1号河道のベルトを遺物の周辺的な出土状況を観察しながら除去開始。
5月27日(木)　1号河道南区で覆土中の礫層下より帯金具(巡方)出土。
5月28日(金)　1号河道ベルト除去。
5月31日(月)　32号竪穴調査。1号河道内土坑調査。18号土坑で鉄物出土。
6月1日(火)　32号竪穴竈立ち掘り。18号土坑調査。
6月2日(水)　1号河道底面精査。
6月3日(木)　32号竪穴竈完掘。20号土坑掘り下げ。
6月7日(月)　西側台地面の遺構確認のため、33～35号竪穴の調査開始。
6月8日(火)　33～35号竪穴調査。
6月9日(水)　33・34号竪穴出土状況写真、遺物取り上げ。
6月10日(木)　33・34号竪穴調査
6月11日(金)　16号溝(6号周溝墓)調査。

6月14日(月) 16号溝調査。
6月15日(火) 22～25号土坑セクション図。18～21号ピットの半截セクション図。36号竪穴遺物取り上げ。24・25号土坑はのちに45号竪穴となる。
6月16日(水) 22～24号溝（撹乱溝）掘り下げ。
6月17日(木) 27・28号土坑、2号撹乱掘削。36号竪穴内礫除去、完掘。調査区壁のセクション図作成。37号竪穴掘り下げ。13号溝掘り下げ。3号撹乱上層の礫を除去。
6月18日(金) 37号竪穴掘り下げ。3号撹乱調査。21号溝付近に壁に沿ってトレンチを入れる。26号溝調査。
6月21日(月) 15号溝掘り下げ。34号竪穴調査。
6月22日(火) 37号竪穴遺物出土状況写真、遺物取り上げ。41・42号竪穴周辺掘り下げ。プラン確認。38号竪穴掘り下げ。24・25号土坑調査。39号竪穴付近の炭化材精査。13号溝掘り下げ。
6月23日(水) 千塚小学校にて学校側、建設側（早野組）と協議。調査工程の確認など。
6月24日(木) 41・42号竪穴調査。
6月25日(金) 40～42号竪穴調査。遺物取り上げ。39号竪穴炭化材出土状況写真。38号竪穴調査。
6月27日(日) 33・34・39号竪穴調査。下層の竪穴（のち45号竪穴）確認のための掘り下げ。
6月28日(月) 43・44号竪穴遺物取り上げ。空撮の準備、調査区内の清掃を行い、ラジヘリによる空撮を行う。
6月29日(火) 小学校教員見学。40～42号竪穴遺構調査。
6月30日(水) 山梨日日新聞にて報道。34号竪穴完掘。46号竪穴より紡錘車出土。
7月1日(木) 45号竪穴遺物出土状況写真、遺物取り上げ、床面精査。
7月2日(金) 1号掘立確認。45・46号竪穴完掘。セクション図作成。ポール撮影実施。45号竪穴埋甕炉調査。27号溝完掘。1号掘立調査。
7月3日(土) 掘り残しを完掘、図化し、発掘作業は終了とする。重機による埋め戻し開始。
7月4日(日) 埋め戻し。
7月5日(月) 埋め戻し。
7月6日(火) 埋め戻し。
7月7日(水) 埋め戻し終了。

【発掘調査作業員】（敬称略）
（第1次）会田昇、秋山高之助、飯田圭祐、飯室かつ美、池谷富士子、岩堀信太朗、小澤美幸、河西元彦、加藤みりか、勝田美和、北野礼子、窪田信一、小池直輝、厚芝金夫、斉藤里美、坂本しのぶ、坂本行臣、佐田金子、田窪直人、田代雅士、田中丹朗、手塚松雄、長谷川規愛、深澤友子、古屋袈裟男、細田和彦、望月孝次、望月勝、横山忠以、米長恭子
（第2次）秋山高之助、小沢正臣、小澤美幸、小幡敏一、河西元彦、岸本美苗、窪田信一、輿石邦次、坂本行臣、鮫田勝大、清水征二、醍醐三郎、角田勇雄、手塚松雄、長谷川規愛、早川栄蔵、深澤友子、細田和彦、横内清次

第3節　整理等作業の経過

報告書刊行までの整理作業については、甲府市教育委員会と㈱山梨文化財研究所の間で業務委託契約を締結し、校舎地点（第1次調査分）は平成22年6月1日より平成23年3月30日、体育館地点（第2次調査分）は平成22年12月6日より平成23年3月28日までの間を委託契約期間として、山梨文化財研究所内で遺物水洗、注記、接合、実測、図版作成、原稿執筆、編集作業を行った。

遺構図については、1次、2次ともに「遺構くん」による現場で作成したデータを空撮及びポール撮影によって作成したデータと合成する編集作業を行い、図化資料の出土位置、接合関係のデータ統合をはかった。遺構断面図については、現場で手取りにより作成した原図をスキャナーで読み込み、パソコン上でトレースして図版に組み込んだ。遺物は従来どおりの手取り実測を行い、ロットリングによるトレースののち図版作成を行った。

【整理作業員】（敬称略）
伊藤美香、岩崎満佐子、大村明子、角屋さえ子、梶原薫、岸本美苗、櫛原ゆかり、河野さおり、川崎二美、小林典子、三枝千穂美、斎藤ひろみ、崎田貴子、佐野眞雪、須田泰美、竜沢みち子、田中真紀美、中川美治、中川美千子、古郡明、永沢淳子、永田恵、林紀子、原野ゆかり、藤井多恵子、藤原五月、横田杏子、柳本千恵子

第2章　遺跡の位置と環境

第1節　地理的環境

塚本遺跡は、甲府盆地北縁部、甲府市西部に位置する。甲府市街地西側にあたり、甲斐市と隣接した荒川左岸の荒川扇状地に所在し、標高291～292mを測る。『甲府市遺跡地図』によれば、甲府市立千塚小学校付近から県道6号甲府韮崎線（山の手通り）北側の称念寺付近までの東西450m、南北130mの細長く広がる微高地上が遺跡範囲として括られている。周囲の地形を微視的に観察すると、荒川左岸にはこうした微高地（自然堤防）と背後の後背湿地（旧河道）が連続した地形

図１　遺跡の位置

図２　周辺の遺跡

甲府市

13 朝堀遺跡
20 西大原A遺跡
27 八幡荒遺跡
34 湯村山5号墳
41 和田廃寺跡
14 御坂遺跡
21 西大原B遺跡
28 金宗遺跡
35 万寿森古墳
42 緑ヶ丘二丁目遺跡
15 天神北遺跡
22 天神平遺跡
29 大平1号墳
36 湯村山4号墳
43 緑ヶ丘一丁目遺跡
16 天神西遺跡
23 羽黒条里遺跡
30 塩沢寺廃寺跡
37 湯村山3号墳
72 前田遺跡
17 樋田遺跡
24 金塚西遺跡
31 太平2号墳
38 湯村山2号墳
73 富士見遺跡
18 静部遺跡
25 加牟那廃寺跡
32 湯村山6号墳
39 湯村山1号墳
74 塩部遺跡
19 塚本遺跡
26 禅田遺跡
33 湯村山8号墳
40 三先寺山遺跡
A 延文陣古道

甲斐市

1 原田A
11 村上B
21 大下条遺3
31 大下条A
41 中沢C
51 松ノ尾B
61 不動ノ木B
71 宿前D
81 若原前B
2 深畑B
12 村上C
22 大下条遺4
32 大下条B
42 中沢D
52 松ノ尾C
62 千蛇ノ木C
72 大蔵A
82 金ノ脇B
3 清田C
13 村上D
23 大下条遺5
33 大下条C
43 村上E
53 松ノ尾D
63 東堀A
73 大蔵B
83 落A
4 東法
14 村上E
24 大下条遺6
34 清田A
44 村上I
54 樋谷神A
64 千蛇ノ木D
74 大蔵古墳
84 天狗沢瓦窯跡
5 深畑D
15 村上F
25 中沢D
35 為瀬B
45 村上J
55 三味堂A
65 目ノ沢
75 山宮神A
85 後堂
6 金の鷹
16 中沢A
26 中沢E
36 大下条D
46 村上K
56 三味堂B
66 上ノ山
76 塩部E
86 上前A
7 御坂南
17 中沢B
27 大下条遺7
37 清田C
47 寺前
57 小笠E
67 中堂
77 山宮神B
87 北川原1
8 金天人
18 中沢C
28 大下条遺8
38 内田D
48 御堀平A
58 荒神原A
68 塚越A
78 山宮神C
9 金武田
19 大下条遺1
29 大下条遺9
39 内田E
49 御堀平B
59 荒神原B
69 塚越B
79 石塔HA
10 村ヶ入
20 大下条遺2
30 大下条遺10
40 村上H
50 松ノ尾A
60 不動ノ木A
70 榎神C
80 村橋

図3　分間図1

図4　分間図2

が認められ、微高地上が遺跡範囲と重なる場合が多い。今回の調査地区は塚本遺跡の南側、県道南に位置する千塚小学校グランド内、南半である。

遺跡の北側2kmには片山の低い山並みがあり、その北東部では湯村山が張り出し、甲府市街地と本遺跡が所在する湯村、千塚地区を隔てている。湯村山までは本遺跡より約700mである。また西側300mには昇仙峡方面より荒川が南流する。この一帯では荒川対岸の甲斐市（旧敷島町）にかけて扇状地を形成するため、千塚一帯は南向きの緩斜面となっている。現在、遺跡周辺は密集した住宅街となり、湯村温泉街に近いことからホテルや大型商業施設も存在するが、荒川沿いには水田や畑の農村風景も残っている。

第2節　歴史的環境

本遺跡を東西に横切る県道6号線付近はかつての信州往還で、近世甲府城下と信州諏訪方面を結ぶ主要道路であった。また本地区の東側にあたる塩部地区はかつて「塩部田圃」と呼ばれた水田地帯で、条里地割が良好に残り、古代から中世に水田開発された地域とみられる。また旧分聞図によれば、本調査地点が千塚小学校となる以前には、調査区一帯は大部分が水田と畑、墓地であった（図3・4）。

本遺跡周辺は「千塚」という地名が示すように、かつては周辺に多数の古墳が分布したといわれるが、本遺跡北側にある称念寺の墓地は塚状に盛り上り、円墳と考えられている（証文塚古墳）。また本遺跡北東500mには甲府盆地西部で最大の石室をもつ円墳、加牟那塚古墳（図2上25）があるほか、湯村山山麓から山頂にかけては万寿森古墳、湯村山古墳群などが分布する。いずれも後期古墳で、現存する古墳は少ない。また本遺跡の周囲の遺跡としては音羽遺跡、榎田遺跡、天神北遺跡、天神西遺跡、跡部遺跡、御蔵遺跡、金塚西遺跡、神田遺跡、八幡東遺跡、音羽遺跡などの弥生～平安時代を中心とした集落遺跡が荒川左岸の扇状地面に分布する。

荒川対岸の甲斐市（旧敷島町）域には、川田瓦窯跡と並んで県内最古の瓦窯、天狗沢瓦窯跡が存在する（図2下84）。天狗沢瓦窯で生産された瓦を用いた古代寺院の位置は未確認ではあるが、島上条、中下条、大下条の地名が示すように荒川左岸一帯には条里地割が残り、古墳～平安時代の遺跡が多く、旧巨麻郡の中心地域ではなかったかとして巨麻郡衙を想定する向きもある。

写真1　証文塚古墳

本遺跡周辺ではいくつかの遺跡で調査が行われている。本遺跡の北に位置する榎田遺跡（図2上17、山梨県 1995）では弥生後期1軒、古墳前期1軒、古墳後期12軒、奈良期8軒、平安期5軒の竪穴、古墳前期の方形周溝墓4基が検出され、弥生後期の土器は複合口縁に粘土紐を縦に貼付した東海東部系の壺型土器が目立つ。また本遺跡南に所在する音羽遺跡（図2上28、山梨県 1997）では、弥生後期3軒、古墳後期4軒、奈良期5軒が検出され、弥生後期では櫛描波状文系の土器類を中心に東海系、菊川式土器の高坏も認められた。また磨製石鏃が6点出土したが、3点が弥生後期の竪穴中より出土し注目される。塩部遺跡（図2上74、山梨県 1996）は本遺跡東方にあり、弥生後期1軒、奈良・平安期8軒の竪穴、弥生後期～古墳前期の方形周溝墓11基が検出された。そのうち古墳前期のSY03（方形周溝墓）周溝中から検出された馬歯は、全国的にも古い部類に属するとみられている。また旧河道から奈良・平安時代の律令祭祀に伴う人形、斎串状木製品などの木製祭祀遺物が出土している。塩部遺跡では「愛宕町下条線」建設時にも2回調査が行われ（甲府市 2004・2005）、弥生末～古墳初頭の竪穴住居跡22軒、古墳前期の竪穴住居跡7軒、古墳初頭の方形周溝墓4基、平地建物跡・掘立柱建物跡などが多数検出されている。そのうち方形周溝墓の周溝中からは東海系といわれる二段鍬が出土し、築造集団を伺う手がかりになるとして注目されている。

このように弥生～平安時代の間、断続的に集落遺跡が存在するのが甲府市西部地域の特徴といえ、方形周溝墓を伴う弥生末～古墳時代初頭の集落と奈良～平安時代の集落が重複するケースが多い。

なお、甲府市立千塚小学校は明治6年（1873）9月、称念寺を仮校舎として開設され、明治11年に宮塚学校、明治20年に千塚尋常小学校となり、大正9年（1920）に校舎本館が完成し、現在の校舎は昭和45年に竣工し

たもので、長い歴史をもつ。

文献

敷島町教育委員会　1990『大狗沢瓦窯跡』
山梨県教育委員会ほか　1995『桜田遺跡』　山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第105集
山梨県教育委員会　1996『塩部遺跡』　山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第123集
山梨県教育委員会　1997『舞羽遺跡』　山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第125集
甲府市教育委員会ほか　2004『塩部遺跡Ⅰ』　甲府市文化財調査報告　24
甲府市教育委員会ほか　2005『塩部遺跡Ⅱ』　甲府市文化財調査報告　30

第３章　調査の方法と成果

第１節　調査の方法

【第１次調査】西側の校舎予定地で、調査区外形のラインに合わせるように５ｍメッシュのグリッドを設定し、南北方向にＡ～Ｆ、東西方向に０～９の組み合わせでグリッド表示することとし、基点は南西隅とした。重機による表土剥ぎののち各グリッド杭を結ぶ幅１ｍの方眼状のベルトを残し、各グリッド内を掘り下げるグリッド調査法を採用し、ベルト断面により遺構の土層堆積状況を確認するとともに廃土運び出しのためのルートとしてベルトを利用した。ただ遺構

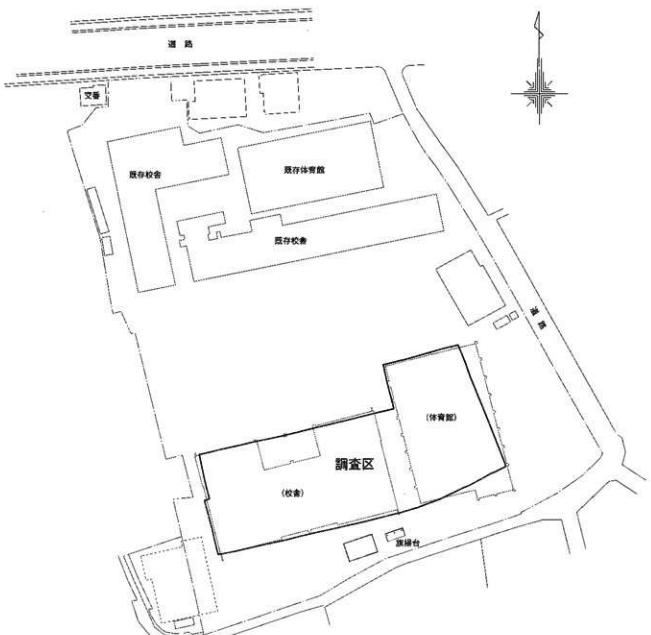


図５　調査区および周辺

間のつながりがベルトを撤去するまで判断できないなど、デメリットが目立つ結果となった。遺構名は竪穴住居をSB、溝をSD、土坑墓・不明遺構をSXとして呼称した。遺物取り上げ、調査過程での礫・遺物出土状況、一部の遺構に関しては、光波とノートパソコン（Panasonic TOUGHBOOK）を接続したトータルステーションによる光波測量を行い、取り上げソフトは「遺構くん」（Cubic 社製）を用いた。全体図の図化はラジコンヘリによる空中写真をベースとして図化し、ポール撮影、光波測量で補足した。

【第２次調査】市教育委員会の試掘データをもとに、甲府市教育委員会作成の「発掘調査仕様書」に基づき調査を実施した。まず重機により遺構確認面まで表土剥ぎを行い、調査区外に測量のための基準杭を打設した。遺構確認面を勾配により精査し、竪穴等の遺構の掘り込みを確認したのち、遺構ごとにベルトを設定して出土遺物を残しながら掘り下げた。遺構名、遺物番号は第１次調査を踏襲したが、SBを竪穴、SDを溝、SXを土坑として遂番とした。遺物取り上げ等については、１次調査同様に「遺構くん」を用いた光波測量を行い、ラジコンヘリによる空撮を行った。

遺構番号については、遺構の確認順に番号を付した。しかし、個々に溝として調査したものが結果的にひとつの方形周溝墓となった例、第１次、第２次調査区境では、異なる遺構番号を付けたため整理段階で統一した遺構があり、調査時点とは若干の変更点がある。また遺構として認識できないと判断されたものについては番号を抹消した場合がある。

第２節　層　序

土層については基本土層を設定していないが、調査区のいくつかの地点で地表面からの断面図を作成しているので、整理しておく。

調査区東壁にあたる32号竪穴では、１層（黄褐色土、グランド整地土）、２層（暗褐色土）、３層（褐灰色土、旧水田土）、４層（褐色砂質土、旧水田床土）、５層（淡褐色砂質土）、６層（黒褐色砂質土）で、３・４層の旧水田は近世以降の所産と考えられ、６層直下が平安時代の竪穴確認面となる。調査区南壁の43・44号竪穴では、グランド整地層下に１層（褐灰色砂質土）、２層（鈍い黄褐色土）、３層（黒褐色砂質土）があり、その下層に砂礫層、黄褐色砂層が流下したようにブロック状に広く存在し、その直下が竪穴覆土となる。第１次調査区の南壁では１～３層のグランド整地層以下、４層（黄色砂層）、５層（暗褐色土層）、６層（茶褐色土層）となり、その直下が竪穴覆土となる。５号竪穴周辺では１～３層（グランド整地層）、４層（褐色土層）、８層（灰黄褐色砂質土）、10層（黒褐色砂質土）となる。

北壁中央の24号竪穴付近では、１層（グランド整地層）、２層（暗赤褐色土）、３層（黒褐色土）、４層（黒色土）で、４層以下が遺構覆土となる。調査区西壁、10号竪穴付近では、１層（グランド整地層）、２層（鈍い黄褐色シルト質土）、５層（黒褐色砂質土）で、５層以下は竪穴覆土とみられる。

このように地点によって層序は異なるが、現在のグランド整地面の下には近世の暗褐色～褐灰色土下層に黒～黒褐色土があり、その直下が平安時代以前の確認面となっている。東側では埋没旧河道である１号河道上層に近世以降水田利用の痕跡が認められ、また調査区中央付近では砂礫層が厚く存在するが、荒川の氾濫による砂礫層の浸入が部分的に発生したものとみられる。また地山面は黄褐色砂質土であるが、１号河道底面で判明したように、地表下約３ｍに礫層面が存在する。黄褐色砂質土中の試掘は実施していないが、１号河道で縄文土器、石器が出土していることから、弥生以前の遺構が下層に存在する可能性については検討が十分ではない。

第３節　遺　構

検出された遺構数を整理すると次のようになる。

弥生時代末竪穴住居　20軒
平安時代竪穴住居　16軒
周溝墓　８基
溝　30本（周溝墓等を含む）
土坑　30基（うち墓坑は９基）
掘立柱建物　１棟
河道　１本

【竪穴住居】

〈１号竪穴〉（第１図、図版２）調査区南西コーナー付近、Ａ１グリッドに位置し、２号竪穴に切られる。遺物出土状況より竪穴と判断し、遺物の分布範囲を竪穴住居と想定した。覆土は黒色粘土質。竪穴の壁の立ち上がりは明確でなく、周溝はない。床面は軟弱であるが、東壁寄りに硬化面が一部存在した。掘り上がりのプランは長軸長９ｍ以上、短軸長推定６ｍの大形不整方形、主軸方向はN-45°-Eで、北東から南西に主軸方向があるとみられる。北側にややきつい角をもっているが、

3690
3700
3710
3720
3730
3740
3750
3760
3770
-35430
-35440
-35450
-35460
-35470
-35480
0
(1:250)
10m

図6　全体図

-35430
-35440
-35450
-35460
-35470
-35480
3690
3700
3710
3720
3730
3740
3750
3760
3770
0
(1:400)
20m

図7　地形図

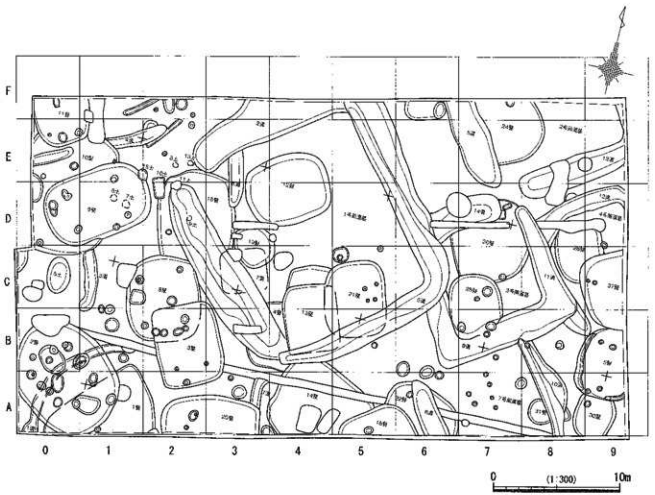


図８　第１次調査区グリッド配置図

正確にプランを把握できたとはいい難い。炉、柱穴ともに未確認で、焼土分布範囲も存在しない。遺物は住居の北東側にまとまって出土した。弥生末。

〈２号竪穴〉（第２・３図、図版２）調査区南西隅コーナー、A0～B1グリッドに位置し、１号竪穴を切る。覆土中に１号溝（近世以降）が存在する。北壁に小学校の旧屋外トイレ浄化槽による円形の撹乱が床面よりも深く掘り込まれている。覆土は暗褐色シルト質土。9.4×7.3mの小判形を呈した大形竪穴住居で、主軸方向はN-54°-W。壁は確認面から床面まで65cmと深い。床面は全体的に硬く、柱穴は４本あるいは６本か。柱穴はいずれも深い掘り込みではない。周溝はない。南東隅の３号ピットは出入り口施設に関わる可能性があるが、上手状の盛り上がりは確認していない。炉は北寄りに存在する。70×50cmの不整円形の掘り方中央に三角形の炉石を枕石としてもつ。調査では炉周辺を2.4×1.7mの楕円形掘り方として調査したが、やや掘り過ぎたようである。炉の掘り方内には焼土が薄く分布する。遺物出土量は比較的少なく、床面出土遺物はほとんどない。時期は弥生末。

〈３号竪穴〉（第４図、図版２）調査区南西寄り、１号周溝墓南西側に位置する。A2～C3グリッド。８号竪穴を切る。竪穴中央、覆土上層には東西方向に２号竪穴北側の浄化槽の撹乱へ通じる溝がある。形態は6.5×5.2mの隅丸方形で、主軸方向はN-25°-W。周溝はない。壁高は45cm。床面は全体的に硬化が認められた。遺物の多くは覆土中からの出土である。時期は弥生後期。

〈４号竪穴〉（第５・６図、図版２）調査区西側、B3～C4グリッド、１号周溝墓南西コーナーの溝上層に存在し、当初SB22とした範囲である。形態は不明だが、南西隅と北壁の一部が確認され、5.1×3.2m以上の隅丸方形と考えられる。主軸方向はN-22°-W。床面は軟弱で、竈は不明。床面よりやや浮いて赤変した竈の構築材とみられる礫が出土した。周溝は未確認である。遺物は周溝墓溝の覆土上層からまとまって出土した。時期は平安時代。

〈５号竪穴〉（第７・８図、図版２）調査区ほぼ中央の校舎地点と体育館地点の中間、A8～B9グリッドに位置する。30号竪穴を切り、37号竪穴に一部切られる。

形態は5.9×4.6mの小判形で、ピットが床面に３本あるが、柱穴かどうかは不明。主軸方向はN-5°-W。炉は不明。東壁、西壁の検際には幅25～60cmの周溝が存在する。床面は全体的に硬化する。遺物は床面よりやや浮いた状況でまとまって出土した。壁高は25cm。時期は弥生時代後期。

〈7号竪穴〉（第５・６図、図版３）調査区のやや西寄り、校舎地点のほぼ中央。C3グリッド。１号周溝墓西溝中央付近にあたり、２号溝と重複する。平安時代の土器が集中したことから１辺3.5m程度の大きさの竪穴と判断した。19号竪穴と重複し、一部の遺物は19号竪穴として図示されている。プランは全く不明であるが、礫で囲んだような方形の石組み遺構が存在し、竈の可能性があるが、調査時点では焼土分布が認められないこと、礫の立て方が竈とは異なることから竈ではないと判断した。時期は平安時代。

〈8号竪穴〉（第９図、図版２）調査区南西寄り、B1～C2グリッドにあり、１号周溝墓の西辺の溝に接し、３号竪穴に切られる。北西の隅は後世の撹乱を受ける。6.6×5.9mの隅丸方形プランで、主軸方向はN-16°-W。３号竪穴、撹乱と重なる部分以外の壁は確認されたが炉はなく、また周溝もない。床面は南側に一部やや硬化した面が確認できたが、全体にやや軟弱であった。遺物は床面よりやや浮いた状況で散漫とした出土状況を示した。ピットは９本あり、４本柱穴とみられる。南壁際にはピットが複数存在するが、それらの中には出入り口施設に伴うものも含まれると考えられる。時期は弥生時代後期。

〈9号竪穴〉（第10～12図、図版３）調査区北西寄り。D0～E2グリッドに位置し、10号竪穴を切る。覆土上層に６・７・15号土坑墓（いずれも近世以降の墓坑）がある。形態は小判形で8.4×5.5m。東西方向に長い長楕円形を呈し、主軸方向はN-55°-E。炉は不明であるが、北東隅近くに焼土が薄く堆積していた。焼土付近のみ硬化面が確認できたが、全体に床面は軟弱であった。周溝はない。柱穴は４本で、そのほかに西壁際にピットがあり、出入り口に関わる施設かと考えられる。遺物出土量は多くない。時期は弥生時代後期。

〈10号竪穴〉（第10～12図、図版３）調査区北西隅、C0～E1グリッドに位置し、10・11・16号竪穴、３号溝・８号溝、撹乱溝に切られる。西側は調査区外にかかり、また９・11号竪穴との重複で、壁は南、北東、北西の一部にとどまるが、推定長軸長10.2m、短軸長７m以上の小判形を呈した大形竪穴で、主軸方向はN-3°-W。炉は中央やや北寄りにある。東側と南側に礫をL字状に組んだ炉石が残り、周囲に直径60×65cmの円形の掘り方が確認された。全体的に硬化した床面は認められなかった。周溝はない。ピットは南壁際に１本存在するのみで、確実な柱穴は未確認である。土器の出土量は多くない。時期は弥生時代後期。

〈11号竪穴〉（第10～12図、図版３）調査区北西隅。E0～F1グリッドに位置し、10号竪穴を切る。東側の辺は後世の撹乱を受け、判然としない。小判形と思われるが、北側は調査区外に延びるため詳細は不明である。現状では南北４m以上、東西4.5mで主軸方向はN-25°-W。炉は中央やや北寄りにあり、南側に長さ40cmの枕石をもち、北側に60cm以上×50cmの掘り方をもつ炉である。全体的に硬化した床面は認められなかった。周溝はない。土器の出土量は多くない。時期は弥生時代後期。

〈12号竪穴〉（第13図）調査区西寄り、D3～E4グリッドに位置し、１号周溝墓に囲まれる。形態は6.6×5.5mの隅丸方形で、主軸方向はN-54°-E。竪穴東壁寄りの覆土には長径30～100cmを超える角の丸い河原石が堆積していたが、近世の耕作により周辺から集められたものと推測している。竈は不明。焼土のまとまった堆積も確認できなかった。床面は比較的軟弱。遺物は覆土中より散漫とした出土状況であった。時期は平安時代。

〈13号竪穴〉（第14・15図、図版４）調査区西寄り、B4～C5グリッドに位置する。南を１号方形周溝墓の南辺に、東を21号竪穴に切られ、北・西壁のみが残る。全形は不明だが、形態は南北推定5.5m、東西推定4.3mの隅丸方形か。主軸方向はN-23°-W。北側に浅い掘り込みが存在するが、何らかの遺構の一部である。炉は中央やや北寄りにある。42×38cmの円形の掘り方をもち、２個の礫を用いた枕石の北側に薄く焼土が堆積する。床面は軟弱。出土遺物は北西隅を中心に床面近くから遺物がやや多く出土している。時期は弥生時代後期。

〈14号竪穴〉（第16・17図、図版３）調査区西寄り、南端、A3～B5グリッドに位置する。北隅は１号周溝墓に、南東を15号竪穴に切られる。また竪穴中央北寄りは東西方向に塩ビ管による撹乱を受け、竪穴の中央部分２箇所に撹乱坑が存在し、南側は調査区外にのびる。全形は不明だが、北、西壁から推定すると推定８×6.9mの隅丸方形で、主軸方向はN-62°-W。床面は炉の付近がやや硬化するが、全体的に軟弱。竪穴の中央北

西寄りに62×53cmの円形の炉があり、長さ36cmの枕石を伴う。炉石の北西側には薄く焼土が堆積する。遺物は全体から出土しているが、南西床面上にひとつのまとまりがある。時期は弥生時代後期。

〈15号竪穴〉（第16・17図、図版4）調査区西寄りの南端、A5～A6グリッドに位置する。14号竪穴・22号竪穴を切り、南側2/3程度は調査区外に展開する。全体像は不明だが、短軸長5.8mの隅丸方形か。主軸方向は推定N-38°-W。床面には硬化面が確認できた。炉は調査区の南壁に近いところにあり、直径33cmの円形の掘り方内に長さ36cmの枕石が1石残る。焼土はほとんど確認できなかった。時期は弥生時代後期。

〈16号竪穴〉 調査区西端、D0～E0グリッドに当初設定し、現場では竪穴として認識していたが、小規模なことから整理段階で土坑に変更した。

〈17号竪穴〉 調査区西端、C0グリッドに当初設定した。遺構のほとんどが調査区外の西側に展開するため、整理段階で竪穴にはならないと判断し、17号土坑とした。床面直上から弥生後期の土器1点が出土している。

〈18号竪穴〉（第18・19図、図版4）1次調査区西側、C2～E3グリッドに位置する。1号周溝墓、8号竪穴、10号土坑墓に切られる。南壁を欠くが、8.1×6.2mの隅丸方形で、主軸方向はN-17°-W。炉は不明。床面は比較的硬化した面が確認できた。本竪穴は焼失住居で、北壁、西壁付近では竪穴の中心方向から放射状に炭化材が分布し、焼土を伴う。炉は不明。床面のすぐ上にまとまって土器が出土している。弥生時代後期。

〈19号竪穴〉（第5・6図、図版4）1次調査区の西寄り、C3～D4グリッドに位置し、1号周溝墓西辺溝に内接する。3.4×3mの略円形～隅丸方形で、北西隅を近代の墓坑に切られ、北辺を校庭整備に伴う撹乱溝に切られる。住居としては小規模な竪穴状遺構で、床面は軟弱である。中央付近、覆土中に集中的な分布を示す。時期は平安時代。

〈20号竪穴〉（第20図）1次調査区の西寄り、南端にあり、調査区南壁にかかる。A2～A3グリッドに位置する。7号溝跡を切る。遺構の半分は調査区外に展開する。東西7.7m、南北3m以上の隅丸方形で、床面は比較的軟弱。主軸方向は推定N-83°-E。土器は覆土中からわずかに出土している。時期は弥生時代後期。

〈21号竪穴〉（第14・15図、図版4）調査区西寄り、B4～C5グリッドに位置する。西側は13号竪穴を切り、南側は1号周溝墓の溝覆土中にあり、壁が検出されていないため、北壁から東壁にかけて壁が存在する。全体像は不明だが、形態は推定5.9×4.8mの隅丸方形で、主軸方向はN-15°-W。床面は比較的軟弱で、小ピットが4基存在するが柱穴ではない。竈は不明。遺物は覆土上層からわずかに出土している。時期は平安時代か。

〈22号竪穴〉（第16・17図、図版4）調査区の西寄り、南端、A5～A6グリッドに位置する。15号竪穴・6号溝跡に切られる。東西方向に直線的に延びる塩ビ管により撹乱を受ける。北・東・西壁から推測すると形態は6.2×4.8mの隅丸方形で、主軸方向はN-63°-Wか。床面は炉付近に部分的な硬化面が存在した。炉は竪穴の中央北西寄りにあり、直径30cmの円形の掘り方内に、長さ45cmの枕石の炉石が1石存在するが、焼土の堆積はほとんど確認できなかった。床面近くから土器が少量出土している。時期は弥生時代後期。

〈24号竪穴〉（第21図、図版5）調査区中央北寄り、E7～F8グリッドに位置する。2号周溝墓西辺溝（SD5）が西壁に重複する。プランは北側が調査区外にのびるため全体像は不明であるが、隅丸長方形もしくは小判形と思われ、長軸長は推定6.4×5mで、主軸方向は推定N-45°-W。床面は全体的に軟弱。炉は竪穴の中央北寄りに位置し、棒状の礫を枕石とする炉で、掘り方は確認できなかった。炉石の周囲にわずかに焼土が存在する。遺物は少なく、床面からやや浮いた状態で出土している。ピットは炉の脇、壁際に1基存在するが、柱穴ではない。周溝、出入り口施設はない。時期は弥生時代後期。

〈25号竪穴〉（第22・23図、図版5）調査区中央付近、B6～C7グリッドに位置する。3号周溝墓内側、南西コーナーにあり、南壁の立ち上がりは重複のため確認できていない。26号竪穴の南西隅を切る。形態は小判形で、推定長軸長5.3m、短軸長4.2mを測る。床面は比較的硬質。炉は中央北寄りに存在し、直径40cmの円形の掘り方南側に直列した長さ46cmの2石を枕石としたものである。西壁付近の床面にやや広い範囲で炭化物が厚く堆積していた。床面のピット5本中、柱穴は3本で、本来は4本柱穴とみられる。土器は床面および床面からやや浮いた状態で出土している。時期は弥生時代後期。

〈26号竪穴〉（第22・23図、図版5・6）調査区中央寄り、C6～D7グリッドに位置する。3号周溝墓に北壁、東壁を切られ、南壁を25号竪穴に切られるほか、撹乱溝が住居内にかかる。全体像は不明であるが6.6×6mの隅丸方形で、主軸方向はN-25°-Wと考えられる。

確認面から床面までの掘り込みは浅く、床面は軟弱。炉は未確認。遺物は、南東隅近くの床面直上に土器のまとまりがある。時期は弥生時代後期。

〈28号竪穴〉（第24・25図、図版5）4号周溝墓内側にあり、37号竪穴に南東壁を切られ、北壁を撹乱溝に切られる。そのため全体像は不明だが、推定4.8×3.9mの小判形で、主軸方向はN-19°-W。炉は中央北寄りに、長さ38cmの枕石が1石あるが、炉の掘り方は確認されていない。遺物は床面付近からごく少量が出土したのみである。

〈30号竪穴〉（第7・8図、図版6）調査区中央南寄り、A8~A9グリッドに位置する。5号竪穴に切られ、南壁が調査区外にかかる。プランは推定4×3.2mの小判形とみられるが、長さ34cmの炉石が西壁に寄っていることから、プランを正確に把握できていない可能性がある。床面は比較的硬質。ピットは1本ある。炉は西壁寄りにあり、枕石を--石もつタイプだが、焼土の堆積は薄い。土器が床面やや上からごくわずかに出土している。時期は弥生時代後期。

〈32号竪穴〉（第26図、図版11、写真1）調査区北東隅、G14グリッドに位置する。1号河道の東脇にあたり、東壁の大半が調査区外にかかり、また西壁は1号河道に切られるため西壁は確認できないが、4.2×4mの隅丸方形とみられ、主軸方向はE-4°-Sである。竈は東南隅に存在し、袖石は扁平礫を幅55cm、高さ27cmで2列立てて並べたもので、中央奥側には支脚石が立つ。また左手前の袖石には石の表面に白色粘土が厚く付着し、竈の表面を粘土で仕上げていたことがわかる良好な事例であった。また竈右手には小形土器（12）があり、竈祭祀に関連した遺物かもしれない。壁高は北側で25cmをはかり、周溝はない。竈周辺には2~12cm程度のやや細かな炭化材が散在したほか、粉状の炭化物が北壁寄りの床面上に50×60cmの範囲で認められ、焼失家屋の可能性がある。床面には硬化面はとくに見受けられなかった。時期は平安時代。

〈33号竪穴〉（第27図、図版11）調査区北端に位置し、約半分が調査区外にかかる。東側が1号河道により浸食されているため、東壁と南壁の一部が明確に確認できなかったが、東西3.3m、南北2.6m以上の規模と思われ、南壁から推測すると主軸方向はE-9°-S。壁高は西・南側が深く55cmである。平面図では竈の東側に壁らしい立ち上がりを図示しているが、住居の壁ではない。覆土上層には径10~30cmの礫がやや多く分布し、出土土器量も比較的多い。また遺物は覆土上層からの出土例が多い。東壁のやや南壁寄りと思われる位置に竈の石組みがある。袖石の右列のみ確認され、3つの礫を立てて並べている。

〈34号竪穴〉（第28図、図版12）調査区東側、北寄りの1号河道西に位置し、北壁に15号溝が隣接する。3.3×3mの隅丸方形で、主軸方向はE-11°-N。南東隅に竈をもつ。竈は袖石に礫を2個ずつ2列に並べたもので、礫の高さは32cmを測る。長さ40cmの天井石が手前の焚口に遺存する。煙道はコーナー付近の壁がわずかにくぼんでいるのみである。壁高は西壁で40cm、東壁で25cmあり、周溝は断続的に北、西、南壁に認められる。遺物は覆土上層から下層にかけて非常に多く、竈内、周辺には甕を中心に大形破片が分布する。竈内には中心に支脚石はないが、左袖石寄りに礫があり、また中心には完形に近い坏が正位で検出された。

〈35号竪穴〉（第28図、図版12）東側の調査区西壁に位置する。南北4mの推定隅丸方形で、大半は調査区外である。壁高は約30cm。炉は不明で、周溝はない。床面に硬化面はとくにない。遺物はごくわずかで、床面上には板状の台石らしき礫があり、壁面に一部露出するが、取り上げなかった。竪穴住居としたが、部分的な調査のため、溝などの可能性もある。

〈36号竪穴〉（第29図、図版12）東側、南壁にかかるようにして検出された住居。南側は調査区外へ延びている。東西3.5m、南北2.5m以上の隅丸方形で、主軸方向はN-15°-W。西壁の壁高は30cm、東壁は12cmで周溝はない。竈は不明。遺物は床面よりやや浮いて北壁付近と調査区境の南壁付近にまとまって出土した。時期は平安時代。

〈37号竪穴〉（第24・25図）第1次調査の際に調査区東端で5号竪穴を切るように、6・29号竪穴が重複して確認されたが、第2次調査ではその位置で直線的な北壁が確認でき、37号竪穴と番号を付して調査を行った。整理の過程でほぼ同時期の平安時代の土師器が6・37号竪穴に分布することがわかり、それらを1軒の竪穴として理解すべきだろうと判断し、6・29号竪穴は抹消することとした。第2次調査の範囲では、遺構確認の段階で北壁のラインは一部把握できたが、南、東壁はまったくわからなかったため、仮の範囲を決めてベルトを設定して掘り下げた。その結果、東側は13号溝が下層に存在するため壁は不明で、13号溝の範囲内に東壁が存在したと考えておきたい。南壁については隣接して42号竪穴が存在し、37号竪穴を切ることから確認できなかったが、元の6号竪穴南壁付近、5号竪

穴北壁付近まで広がることが考えられ、その範囲はおおむね7.5×6.4mで隅丸方形プランと考えられる。遺物は覆土中を中心にやや多い。なお、床面精査時点で、東西方向の浅い立ち上がりが認められ、当初6号竪穴とした壁ラインと一致するように続いていた。弥生期の楕円形プランの住居が37号竪穴と重複して存在していた可能性も大いに考えられるが、いずれにしても6号竪穴として取り上げられた遺物は37号竪穴の遺物である。竈、周溝は未確認。時期は半安時代後半～末。

〈38号竪穴〉（第30図、図版13）45号竪穴覆土中に枕石をもつ炉があり、住居とした。45号竪穴が埋没した段階で構築している。調査区南壁に竪穴の半分が続くとみられ、また西壁は36号竪穴により切られている。さらに下層に45号竪穴があることから北壁は検出することができなかった。したがって東壁の一部と床の一部と炉を確認した。東西5.5m、南北4.2m以上で、主軸方向はN-30°-W。炉は70×75cmの円形の掘り方をもつと思われるが、下層の住居覆土のため掘り過ぎてしまい、深さ、範囲ともに不明瞭であった。長さ35cmの礫を枕石とし、焼土は石の南側にわずかに遺存した。床面は不明瞭で貼り床は確認できなかったが、炉の確認面を床面とし、床面より上層の遺物を38号竪穴の遺物とした。

〈39号竪穴〉（第31図、図版13）40号竪穴東側、5号周溝墓上層にて竪穴覆土らしき灰褐色砂質土が広がり、同一面上に炭化材が多数分布したため、その範囲を39号竪穴とした。竈らしき石組みが南東隅に相当する45号竪穴内に存在し、立ち割ったところ焼土が確認されたため竈とした。竪穴東半に炭化材がかなり多く存在し、火災住居と考えられるが、焼土はほとんどない。壁は5号周溝墓内に一部存在し、また東壁に当たる部分にわずかな立ち上がりがあることからそれらと竈をつなぐ線を壁と考えると、推定南北4m、東西4mの隅丸方形で、主軸方向はE-2°-Sとみられる。壁高は10cmと浅い。遺物は覆土上層を中心に出土している。

〈40号竪穴〉（第32図、図版13）5号周溝墓西側にあり、47号竪穴と重複し、30号土坑に西壁を切られる。図面上では西側が42号竪穴に切られるが、47号竪穴は東壁中央に竈をもち、40号竪穴よりは一段階古い竪穴と考えられるので、調査過程で把握することはできなかったものの本来西壁の一部は存在したと思われる。47号竪穴の手前に存在する石組竈を東南隅に想定し、竈左側の壁の立ち上がりを東壁の一部と考え、また42号竪穴北東の立ち上がりを北壁の一部とみなし、推定5×4.2mの隅丸方形と推測する。主軸方向はE-4°-N。竈は当初、47号竪穴竈と重複していることに気付かず、袖石間が広い竈として断ち割りを行ったところ、ベルトをはずした段階で2基の重複であることが明確になった。47号竪穴の左袖手前に40号竈右袖が構築され、3列の袖石が並ぶ。焚口には天井石が落ち込んでいる。

〈41号竪穴〉（第33図、図版14）調査区東側、南寄りに位置し、47号竪穴と重複する。複数の住居が密集して切りあう状況が想定されたため、覆土を徐々に掘り下げていく中で、南壁と東壁がが確認できた。ベルトを南北に長く残して北壁の立ち上がりを探したところ、北東隅および北壁の一部が確認できたが、30号土坑の重複により遺存状況は不良であった。西壁は近代の撹乱溝である24号溝に切られているが、北寄りの一部でわずかな立ち上がりが認められた。床面には段差があって重複状況が認められ、内側の床面に竈が伴う（41A号竪穴）。南東隅のコーナー竈である。外側（41B号竪穴）の住居には竈がないらしい。41A号竪穴は2.8×2.8m。41B号竪穴は3.4×3.2m。ともに主軸方向はE-7°-N。2軒の重複は北壁が一致することから、拡張的なあり方、あるいは棚状遺構など壁外施設を想定すべきかもしれない。壁寄りには焼土が薄く分布するほか、竈周辺には遺構確認面直下付近に炭化物と焼土の分布が認められた。また床面直上には薄く炭化物層がある。床面はとくに硬化面がなく、壁際には南から西壁の南寄りに周溝が見られる。竈は石組竈で、円礫を2個程度、幅50cm、高さ30cmで2列に立て並べたもので、手前には長さ46cmの天井石が2つに折れて遺存したほか、煙道には半たい礫が存在した。竈内および周辺には羽釜片や坏などが多い。

〈42号竪穴〉（第34図、図版14）37·40号竪穴と重複し、4号周溝墓（13号溝）上層に位置する。4.9×4.9mの隅丸方形で、東壁ほぼ中央に竈をもつ。主軸方向はE-10°-N。南壁中央に30号土坑が重複し、竪穴内西側と北側に近代以降の撹乱溝が入る。また竈北側には1号掘立の柱穴がある。北から東壁は比較的良好に遺存するが、南壁、西壁は不明瞭であった。壁高は北側で30cmあり、竈北側から北壁の一部に周溝が存在する。竈は2個の円礫を2列に立てた袖石で、天井石はない。

〈43号竪穴〉（第35図、図版15）調査区東側と南壁にかかる大形の落ち込みで、西側に44号竪穴が重複する。断面観察によれば43号竪穴が44号竪穴を切るようにみえる。東側、覆土中には36号竪穴（平安末）が重複す

る。また東端には掘乱が入る。東西８ｍ以上の落ち込みで、主軸を東西方向にもつ楕円形の竪穴住居の可能性があるが、床面にはとくに硬化面がなく、柱穴、炉もないことから、確実に竪穴とすることができない。方形周溝墓の溝の可能性もあり仮に８号周溝墓としておくが、他の方形周溝墓に比べて北方向に対する振れが大きい。古墳時代～平安時代の遺物を伴うが、床面近くから出土した甕などから古墳時代の竪穴状遺構、あるいは方形周溝墓と考えられる。

〈44号竪穴〉（第35図、図版15）調査区東側、南壁にかかって存在する長い43号竪穴の西端に存在する。断面観察によれば、43号竪穴に切られている。東西3.8ｍ、南北1.4ｍ以上の楕円形で、南北方向に主軸をもつと思われる。主軸方向は推定N-64°-E。北から東壁に沿って周溝をもつ。遺物はほとんどなく、時期は不明だが、弥生末頃だろう。

〈45号竪穴〉（第36図、図版15・16）調査区東側、AB 11～12に位置する。５号周溝墓南側にあり、38・39号竪穴が覆土上層に重複し、36号竪穴に切られる。38号竪穴の床面精査中に黒色の落ち込みを確認し、サブトレンチを入れて床面および壁立ち上がりを確認し、竪穴とした。5.8×5.2ｍの隅丸方形で、４本柱穴をもち、炉は中央東寄りに壁溝炉をもつ。主軸方向はN-55°-E。炉は直径30cm、深さ12cmの壷形土器の下半を埋め込んだもので、内面、周囲ともに焼土は皆無であったが、土器内面が中心を除いてひどく黒変し、炉体土器内で火が焚かれたことがわかる。床面に貼り床、硬化面はなく、中央にごく浅い窪みが存在したほか、全体的に細かな凹凸がある。床直上に遺物がやや多く出土した。覆土中には炭化物がやや多く、また床面から炭化材が２本出土したことから火災住居とみられるが、床面上に焼土は分布していなかった。また当初24・25号土坑として45号竪穴覆土中を掘り下げ、多数の土器片が出土したが、覆土上層のシミ状の変色部と判明したため土坑からは除外し、遺物は45号竪穴帰属とした。壁高は50cmで、周溝はない。

〈46号竪穴〉（第37図、図版16）調査区東側、１号河道に面して存在する。3.5×3.1ｍの小形隅丸方形で、主軸方向はE-20°-N。東壁は北寄りの一部の立ち上がりがわずかに遺存するが、南東隅を中心に河道の浸食が及んでいる。竈はないが、おそらく東壁にあったのであろう。壁高は西壁で33cmあり、周溝はない。床面は比較的硬質だが、貼り床はない。遺物は少ないが、北壁際で折れた軸をもう一方の軸に揃えた紡錘車が出土している。

〈47号竪穴〉（第32図、図版13）２次調査区南西側に位置し、40・41・42号竪穴に切られる。40号竪穴下層に本竪穴に伴うとみられる北壁が確認されていて、南北3.4ｍ、東西3.2以上の隅丸方形プランと見られる。主軸方向はE-11°-N。竈は東壁南東隅寄りに位置し、東壁に対して斜めに袖石が並ぶことから、コーナー竈ではなかったかと思われる。40号竪穴の袖石が重複し、40号竪穴竈のほうが手前に構築されていることから、47号竪穴よりも新しいことがわかる。天井石が手前に遺存する。40号竪穴の南壁が不明なため、40号竪穴の遺物との厳密な区別ができなかったが、南壁近くの遺物が47号竪穴に伴うのであろう。

【掘立柱建物跡】

〈１号掘立〉（第43図、図版18）西側を42号竪穴に切られ、５号周溝墓と重複する５本×２列（４間×１間）の掘立柱建物。4.1×2.1ｍで主軸方向はE-26°-N。５号周溝墓との切りあい関係は定かでないが、柱穴内出土遺物からすると掘立柱が後出する。柱穴のうち５号周溝墓の溝に重なるピットは確認できていないが、本来は存在したものと思われる。各柱穴は直径35～45cm、深さ25～40cmの円形の掘り方で、35号ピットでは柱痕が観察されている。柱穴内からの出土遺物および、42号竪穴との重複関係から、平安時代末の所産かと思われるが、主軸方向からすると周溝墓群と共通性があり、時期に関しては検討を要する。

【土坑（墓）】

〈５号土坑墓〉（第41図、図版８）調査区西端C0グリッドに位置する。長径2.9ｍ、短径2.1ｍの楕円形の掘り込みを持ち、中央やや北寄りから馬の下顎骨が出土した。完全骨格ではないため、部位によっては食用など別な用途に供された可能性も否定できないが、掘り込みの規模から１頭分の馬が埋葬されたもので、出土状態から北頭位、西向きで埋葬されたものと考えられる。埋葬された時期については、周囲に展開する墓域と同時期の近世以降と理解したいが、30号土坑が平安末とすれば、同時期の所産の可能性がある。

〈６号土坑墓〉（第10図）調査区西寄り、D1グリッド、９号竪穴の覆土中に位置し、７号墓の西側に存在する。直径約１ｍの略円形プランと思われる。大腿骨等の人骨が３本出土し、再葬墓の可能性がある。近世以降の土葬墓と思われる。

〈７号土坑墓〉（第10図、図版８）調査区西寄り、D1グリッドに位置する。９号竪穴の覆土中、６号墓の東

側に存在する。直径約120cmの略円形の掘りこみを持つと思われ、頭骨と尺骨らしき骨が出土した。頭位は北で南に顔を向けた状態であるが、頭骨と尺骨の位置関係は原位置を保っているとはいえず、再埋葬された可能性が高い。副葬品に銅製のキセル雁首2点と吸口1点がある。また、銅銭（寛永通宝）が4枚出土した。近世の土葬墓である。

〈8号土坑墓〉（第18図、図版8）調査区西寄り、18号竪穴北側、E2グリッドの巨石群脇に位置する。プラン確認はできなかったが、骨が出土した直径42cmの円形の範囲を墓坑として想定した。骨は劣化が著しい。鉄銭4枚が重なった状態で出土したほか、2枚の銅銭（寛永通宝）があり、六文銭となる。近世の土葬墓。

〈9号土坑墓〉（第18図、図版8）調査区西寄り、18号竪穴中央の覆土上層、D2グリッドに位置し、1号周溝墓の溝埋土中に存在する。掘り込みのプランは確認できなかったが、人骨が出土した直径40cmの略円形の範囲を土坑の範囲と想定した。人骨は頭骨、歯、上腕骨？が出土している。副葬品は出土していない。近世以降の土葬墓と思われる。

〈10号土坑墓〉（第18図、図版8）長方形の掘り方内に北頭位、東向きで屈葬された人骨1体が出土している。棺の木質部は遺存していないが、約1.65×0.9mの長方形の掘り方をもち、棺に埋葬されたと考えられ、棺の南端（足側）には棺を装飾した金具らしきものも残存した。人骨の遺存状況は比較的良好。副葬品として、本人が生前使用していたと考えられる眼鏡が出土している。近世以降の土葬墓。

〈11号土坑墓〉（第18図、図版8）調査区西寄りD2グリッドに位置し、1号周溝墓と18号竪穴の覆土中に存在する。70×80cmの不整円形の浅い掘り方をもち、風化した骨が出土したため確認できた。頭骨と尺骨、上腕骨がまとまって出土していることから、再葬墓と考えられる。ガラス製管（かんざし）と瀬戸系染付の紅皿が出土した。副葬品から女性の墓と思われる。

〈12号土坑〉学校の施設に伴う近代～現代の掘り込みと思われる。

〈13号土坑墓〉（第18図）18号竪穴北側、E2グリッドに位置し、E1～E2グリッドにかけて分布する自然石の凹石の上層で検出された。掘り込みはまったく確認できなかったが、骨が出土した直径43cmの円形の範囲を墓坑と推定した。

〈15号土坑墓〉（第10図）E1グリッドとE2グリッドの境界に位置し、9号竪穴の東側の崖上に存在する。90×80cmの略円形の掘り込みを持つ。風化した骨とともに銅銭、キセルが出土したことから、土坑墓と確認できた。

〈18号土坑〉（第41図、図版16）1号河道内、32号竪穴西側に位置する。1.65×1.5mの円形土坑で、川底面の精査段階で確認された。底から浮いて礫が多数散在する中に曲物側板が約半分のみ遺存していたが、底板はなく、腐敗して脆弱化し、底形をほとんど留めない状況であった。礫から底までの深さは45cm。覆土は黒色粘質土で、細長い「薙木（ちゅうぎ）」状木製品を数点伴うが、確実に霧木といえる状態のものではなかった。高台坏片を伴うことから、時期は平安末と思われる。

〈19号土坑〉（第41図）1号河道内、32号竪穴西側に位置する円形土坑。2×1.8m、深さ13cmをはかる。川底面の精査によって確認され、覆土は18号土坑と同じ黒色粘質土であった。遺物はとくにない。

〈20号土坑〉（第41図）1号河道内、46号竪穴東側に位置する大形土坑で、3.7×3mの楕円形。深さは54cm。凹み石を伴う。

〈30号土坑〉（第32図、図版16）東側、41号竪穴と42号竪穴の間に存在する楕円形土坑で、3.4×1.8m、深さ14cmである。複数個体の馬歯が存在し、いくつかは歯の配列が窺える事例があったものの、ほとんど本来の位置関係を留めないばらばらの状態で発見された。しかも歯以外の骨はなく、顎骨もないことから、硬い歯以外の骨は溶けて消失したか、もともと馬の歯のみをまとめて廃棄した土坑と考えられる。馬の再葬墓、あるいは馬歯を含む廃棄土坑と考えられる。土坑内からは坏が出土していることから、時期は平安末とみなしておく。

【周溝墓】

〈1号周溝墓〉（第39図、図版6）校舎地点調査区のほぼ中央、D2～B6グリッドに位置する。8・13・14・18号竪穴、3号方形周溝墓の北西隅を切り、4・7・21号竪穴に切られる。規模は大形で、溝を含めた長軸長は南東21m、短軸長は東西19.4m、溝を除く方台部の規模は16×13mで、県内でも大形の周溝墓といえる。主軸方向はN-45°-W。北西コーナーにブリッジをもち、南西コーナーもやや浅い落ち込みとなっている。調査半ばに方形周溝墓となることに気づいたため、当初は2・5号溝として別々の溝名で調査を進めた。溝幅は2～3.8mで、内側が直線的で深く、壁の立ち上がりは急で、外側はなだらかに丸くはらみ、外側に向っ

て浅くなるため、壁の傾斜は緩い。溝の底面よりやや上層から土器類が出土したが、供献土器とみられる1は北辺西寄り、2は西辺やや南寄り、8は南辺西寄りと、各辺の溝内からそれぞれ出土している。出土傾向としては特に集中的な出土状況はなく、全体的に分散するが、南東コーナー側にはやや薄い傾向がある。北辺の溝中からは北西のブリッジにかけて礫が多数出土しているが、一部は地山の礫層の露出礫である。断面観察によれば、黄褐色の砂が堆積土の中でも2層確認できたことから、2時期にわたって埋没したものと推測できる。

〈2号周溝墓〉（第40図）1次調査区、中央北寄りのD7～F9グリッドに位置し、北側半分以上が調査区外に展開する。24号竪穴を切る。西辺の5号溝と東辺から南辺の12号溝により構成され、南西コーナーにブリッジをもつ。規模は東西14.6m、南北10m以上、推定15mで、主軸方向はN-34°-W。ブリッジの正面は3号周溝墓の北東隅、ブリッジに向かい合う。溝幅は1.8～2.6mで、断面形は底形が平らな逆台形。遺物は少ないが、南東コーナー付近で磨製石鏃が出土している。

〈3号周溝墓〉（第40図、図版7）調査区のほぼ中央、B6～D8グリッドに位置する。25·26号竪穴を切り、1号周溝墓南東コーナーに切られる。4号方形周溝墓と東辺の溝を共有する。9·11·14号溝から構成される方形周溝墓で、東西11.8m、南北12m、主軸方向はN-34°-W。北東コーナーにブリッジをもち、向かい合うように2号周溝墓のブリッジがある。溝幅は1.6～2.5m、深さ40mと浅い。底面に近いところから土器の出土があるが、供献用とみられる壺形土器1·2はともに南西コーナー付近からの出土である。

〈4号周溝墓〉（第40図、図版7）1·2次調査区にかかる周溝墓。調査区中央に位置し、28·37号竪穴などと重複する。西辺にあたる11号溝、北·東辺にあたる13号溝からなる方形周溝墓で、南辺には溝が確認できていない。平安時代の37·42号竪穴下層に存在した可能性が高いが、同じ確認面で13号溝が検出されていることからすれば、当初から南辺には溝がなかった可能性もある。11号溝は3号周溝墓との共有、あるいは重複している。規模は東西10.9m、南北10.6mで、主軸方向はN-40°-W。溝の断面形は逆台形、深さ50cm。13号溝をみると溝の内側上端は直線的で、外側はやや丸くなる。溝断面は逆台形で、底は平らとなる。供献用と思われる1の甕、2の壺は共に北西コーナー付近からの出土である。そのほかの遺物量は少ない。

〈5号周溝墓〉（第38図、図版18）2次調査区内、6号周溝墓（16号溝）西側に存在する27号溝。直径6.8～8mの円形～隅丸方形に全周する周溝墓で、南西隅がやや浅くブリッジ的になる。上層に平安時代の39·40号竪穴が重複する。規模は東西6.4m、南北7.1m、周溝幅は約1.2～2.4m、深さ40cmで、溝の断面形は逆台形。主軸方向はN-45°-W。上層に1号掘立柱建物が重複する。周溝に伴う遺物として、古墳後期の坏が溝覆土中から出土している。

〈6号周溝墓〉（第44図、図版18）体育館地点、調査区東隅の周溝墓で、1号河道右岸にあり、東辺の溝を欠失する。溝は北辺·西辺·南辺がコ状に連続し、西辺が深さ50cmと深く、東側へ向って深さを減じ、南辺の東端では痕跡的にかすれている。規模は南北13.8m、東西10m以上で、溝内側では上端ラインが直線的となるが、外側は緩く弓なりとなっている。こうした特徴は1·4号周溝墓でもみられる。主軸方向はN-34°-W。溝幅は1.3～2.3m、溝断面は逆台形の箱状で、底は平らとなる。周溝墓に伴う遺物は皆無であった。

〈7号周溝墓〉（第40図）1次調査区、調査区中央南、調査区壁にかかるようにして存在する方形周溝墓。西辺の6号溝、東辺の10号溝からなり、北辺は3号周溝墓の9号溝を共有し、北東隅に当たる位置にブリッジが形成されている。東西11.4m、南北8m以上で、主軸方向はN-36°-W。遺物は少なく、6号溝出土の紡錘車片も重複する22号竪穴の遺物かもしれない。10号溝は内側が直線的で溝状に深く、外側は浅く立ち上がっている。

〈8号周溝墓〉43号竪穴を参照。

【溝】

〈15号溝〉（第29図）体育館地点北端、34号竪穴脇に位置するゆるやかにカーブした溝。幅0.9～1.2m、長さ6mを測り、東端では1号河道の浸食の影響で立ち上がりが不明瞭となる。円形周溝墓の可能性もあるが、部分的な調査のため断定できない。

【河道】

〈1号河道〉（第45図、図版9·10·18）調査区東側に南北に流下する自然の谷状地形で、幅約10～15m、深さ3mを測る。蛇行して南流するため、川幅は一定ではなく、調査区外東側にも川幅は広がる。断面観察によれば、上層には近世の面とみられる水田遺構があり、川岸には平安時代の竪穴住居が浸食されるようにして存在する。上層からは中近世の遺物、中·下層か

らは古墳～平安時代の遺物、最下層の礫層面上からは弥生～古墳時代の遺物が出土する。弥生土器の中には形を保つものがあることから、弥生時代以降の溝といえるが、最下層の礫層中からは縄文時代中期の土器片や打斧、磨斧も存在することから、さらに河道化した時期は遡る可能性はある。こうした状況から平安時代には埋没により川の規模が縮小化し、周辺が居住域化したらしい。しかし中世以降にも浸食を伴う流水があったらしく、局溝墓の溝や平安時代の竪穴住居を削り、近世段階には埋没谷化し、上層が水田化したと考えられる。

深さは、北端で1.6 m、南東隅では3.5 mを測る。南東隅では最下層に黒色粘質土が堆積し、7世紀代とみられる須恵器横瓶がほぼ完存状態で出土し、そのそばには小形の銅製腰帯具（巡方）1点が出土している。また周辺には自然木、炭化材なども出土し、植物質の腐植土もみられたが、人工的な板材や建築材などは皆無であった。

河道底にはいくつかの土坑が存在する。そのうち18号土坑は直径1 mの円形で、曲物の側板が出土した。遺存状況は極めて悪い。

河道内覆土出土の土器類は、遺存状況が良いものが多く、前述したように須恵器横瓶をはじめとして完形の坏・皿類、壺形土器などがある。川底からは弥生時代の小形壺などの出土があり、覆土中からは平安末の完形の坏・皿が目立った。

【その他】

〈3号攪乱〉（第37図、図版17）調査区東側、46号竪穴西に位置する。有段の方形土坑で、覆土上層に礫が充満する。各コーナー及び北側中央に計5本の放射状の溝が派生していて、溝先端には土坑や撹乱坑が存在する。戦時中の遺構と思われ、22～24号溝、28号溝とも関連するものとみられる。

第4節　遺　物

【竪穴住居】

〈1号竪穴〉（第46図、図版19）1は頸部に櫛描波状文帯をもつ甕で、表面のナデが顕著である。被熱により表面の多くが灰色に変色している。2は甕であるが、口縁部のキザミ、頸部の縦ナデ技法は1と共通する。やはりひどく被熱して灰色化している。3は有段口縁に縦位棒状降線と斜格子状の沈線文をもつ壺。4はハケメをもつ小形甕で、外面に薄くススが付着する。

〈2号竪穴〉（第46・47図、図版19）1～7は甕。3は折返しL縁の甕で、刻みはハケメ端部を押し当てている。5は頸部に櫛描波状文、口縁部に短条線を施文する。6は口唇部に櫛描波状文を施文する小形甕で、内外面は煮沸により黒変する。8・9はS字甕で、8の外面にはススが付着する。10は小形壺で、ミニチュア土器か。13は坏あるいは高坏か。14の器台は脚に径8㎜の孔を3か所、中央に1か所もつ。17は横刃形石器とみられ、石側刃部が顕著に摩耗している。18は楕円形の磨り石で、両面を中心にかすかに摩耗する。

〈3号竪穴〉（第47図、図版19）1は甕で、頸部に右回りの擬沈文、口縁部に櫛描波状文、胴部に斜格子状条線文を施文する。外面胴部上半は煮沸のため黒変し、底部には灰が付着する。また外面胴部中央には黄灰色の灰汁状付着物がある。2は頸部に擬沈文、口縁部に櫛描波状文をもつやや小形の甕で、胴部下半はススが付いて黒変する。4は3段の櫛描波状文をもつ甕であるが、胴部下半にススが付着する。5は櫛描波状文をもつ甕で、外面は赤味があり、内面は黒色とする。7は小形壺で、ミニチュアか。9・10は類似した文様の頸部で、羽状沈線文、鋸歯文を描く。別個体である。11は手づくね土器で、竈又は甕形土器のミニチュアか。

〈4号竪穴〉（第48図、図版19・20）1～19は土師器坏皿。1は体部・底部に手持ちヘラ削りを行う甲斐型坏。2も甲斐型坏で、ともに口縁部の玉縁化が著しい。3～8は削りをもたない土師器坏で、3は内面が薄く黒変する。4は内面の6割程度が薄く黒色化した坏。6は完存。7は口縁部内面にススがわずかに付着する。8は器壁が厚く、重量感があり、堺的な胎土を呈し、全体的に違和感のある坏である。9～13は内面に細かなカキメ状ナデ痕を残す土師器坏。9は内面が薄く黒変する。10は完存し、内外面、口唇部が薄く黒変する。11はほぼ完存し、内面が薄く黒色化する。12は完存し、体部外面に一部ススが付着する。13は外面にヘラ削りを行う甲斐型坏であるが、内面にはカキメ状のナデ痕をもち、さらにらせん暗文状のヘラ描きをもつ。14～19は皿で、15は完存し、内面はごく薄く黒変する。17～19は内面に細かなカキメ状ナデ痕をもつ皿で、17は底部が柱状高台状に突出する。18は内面がごく薄く黒変し、底部、外面には粘土紐が付着する粗雑な整形の皿。20はナデ調整を主とする小形甕で、内面に一部ハケメがみられる。被熱により内外面ともに変色する。21は羽釜で、内外面の一部は黒変し、外面胴部下半に灰が付着する。22は鍔付甕で、正面に長方形の開

口部をもち、その周囲にコ状の鍔を貼付する。左側面には円形の孔1か所がある。内外面ともに薄く変色する。また口縁部内面には焼成前ヘラ描きでV字状の沈線があるが、人為的ではないかもしれない(指本参照)。底部接地面の指頭痕が顕著である。

〈5号竪穴〉(第49・50図、図版20) 1は高さ28cm以上の壺で、外面は赤く内面とは対照的であるが、赤彩ではない。ただ焼成前に何らかの処理が行われた可能性はある。頸部に縄文帯をもつ。2は最大径を胴下半にもつ壺で、内面は全体的に黒色となる。3は小形甕で、頸部に鋸歯文を7個描き、中を円形刺突文で埋める。その上部には2条、胴部に1条の櫛描波状文を巡らせる。6は黄褐色の軟質な胎土の甕で、頸部に櫛描波状文を施文し、そのほかをハケメのよる調整のままとする。外面にはごく薄く灰、ススが付着する。4は短い複合口縁の壺。5は口唇部がわずかに内湾気味に直立する甕で、頸部に廉状文、その上下に櫛描波状文を描く。煮沸痕が顕著で、内面は全体的に黒変し、外面上半にはススが付着し変色する。7は内外面ともに薄く黒変した甕。8は甕で、煮沸により胴上半にスス、内面下半が黒変する。また底部には灰が付着する。10は甕胴部で、頸部に廉状文、胴部に櫛歯による斜位の条線文を施文する。外面には薄くスス、灰が付着する。11は器形が不明であるが、直立した単純口縁の甕と思われる。12は手づくね土器。13は甕底部で、外面にはススが付着する。胎土には長石・石英粒が目立つ。14は内面に赤彩が残る鉢で、赤色塗料を保管した容器だったとみられる。

〈7号竪穴〉(第50・51図、図版21) 1は口縁部を欠く壺で、外面のヘラナデが顕著である。2は内外面にハケメをもつ甕で、煮沸痕はない。3は口縁部が長く胴部が丸い小形甕。4は小形ロクロ甕で、胴部のほとんどと底部を手持ちヘラ削りする。外面はススにより黒変し、内面も上半が変色する。5・6は内面黒変した小形甕。7～12は底部糸切りのままの坏皿で、7は内面がごく薄く黒変した坏。8は7に比べるとやや粗い胎土の坏。9は小皿で、完存する。10はゆがみのある皿。10・12ともに整形はやや雑で、内面見込部の調整は不十分のままである。13は内外面黒変した小形甕。14は内面上部にオコゲが付いた小形ハケメ甕で、外面には灰が付着する。16は外面に灰が付着したハケメ甕で、器形は図よりももう少し外傾する。18は羽釜で、鍔下に灰汁状の灰色付着物が残る。

〈8号竪穴〉(第51図、図版21) 1は折返し口縁の壺で、側面および内面に縄文を施文する。2は縦位磨きの顕著な壺で、内面は黒変し、器面が剥離する。3は小形壺で、頸部に櫛描波状文と斜格子文を充填した鋸歯文を描く。内外面ともに赤味があるが赤彩ではない。4は内外面ともに黒変したハケメ甕。5も内外面ともに黒変した櫛描波状文の甕で、内面の磨きが顕著である。7は打篩と理解して図化したが、横刃形石器とも考えられる。

〈9号竪穴〉(第51図、図版21) 1は刻みをもつ甕で、外面が黒変し、頸部にはオコゲが厚く付着する。また粘土も付いている。2は櫛描波状文をもつ小形甕で、ミニチュア土器らしい。3は縄文中期土器片。4は磨製石鏃で、径2㎜の孔が開く。

〈10号竪穴〉(第52図、図版21・22) 1は弥生後期の甕で、頸部から口縁部、口唇部に櫛描波状文を施文するが、頸部にあたる波状文を強く施文する。外面上半にはススが付着し、内面は変色する。2は弥生後期の甕で、頸部に廉状文、上下に櫛描波状文を描き、胴下半に櫛歯条線で樺状に施文する。4は小形甕で、口縁部から胴部上半を縦位条線とするハケメ甕。外面には全体的にススが付着し、灰汁状の付着も認められる。7は両端に敲打痕をもつ棒状自然礫。全体に薄く黒変する。

〈11号竪穴〉(第52図、図版22) 1は高坏1縁部と思われ、内外面ともハケメ上に赤彩が薄く付着するらしい。

〈12号竪穴〉(第52図、図版22) 1は坏で、口唇部に瘤芯痕をもつ擂鉢である。内面の剥離が著しい。2は外面に薄くスス、内面に薄い灰汁状付着があるハケメ甕。

〈13号竪穴〉(第52・53図、図版22) 1は口唇部に波状文をもち、縦位磨きが顕著な高坏で、外面は赤味があるが、赤彩ではない。2は折返し口縁の壺で、側面に縄文?を施文するらしいが、器面の荒れが激しく判然としない。内面は櫛描波状文を描くが、器面が荒れている。3は壺頸部片で、2本の横位沈線を引き、2段の櫛描波状文を密に施文する。4は壺胴部で、ハケメを樺状に施文したのち縦位にナデを施し、外面は一部ススが付着する。底部外面は中央が丸く窪んでいる。なお3とは別個体である。5は頸部に細かな櫛描波状文をもち、11唇部には櫛描文で細かな刻みを付ける。6は甕底部で、底部外面と胴部の一部に灰が付着し、内面は煮沸により変色する。8は須恵器甕。9・10は極小のミニチュア土器で、9は高坏形、10は坏形であり、両者はセットになる可能性がある。11は磨製石鏃

で、両側縁には刃部が作られ、孔をもつ。12も11とほぼ同じ大きさで孔をもち、表裏面の研磨は弱い。13は銅銭で、無銘。

〈14号竪穴〉（第53図、図版22）1・3～5は甕で、1は内面の磨きが顕著。2は無文の壺で、外面には黒斑があり、木葉痕のある底部外面には豆状圧痕も見られる。4は被熱により外面が変色した甕。5は外面を斜位のハケめののち縦位ナデ（磨き）を施す。ススや灰汁が付着する。6の甕底部は4と同一個体らしい。7は小形鉢？で、底部外面を除く全面に赤彩があり、焼成前に施されたとみられる。8・9は坏で、9の内外面は赤味があり、赤彩の可能性がある。

〈15号竪穴〉（第53・54図、図版23）1は有段口縁の側面に刻みのある板側面を押し当てて沈線状に施文した壺。2は折返し口縁の壺で、側面に縦位の刻みを施文し、内面にも同じ文様を2段に施文す。3は内面が変色した甕。7は頸部に縄文帯をもち、ボタン状貼付文をつけた壺で、内面は灰褐色を呈する。8は壺底部で、内面が黒変し、底部には木葉痕をもつ。色調は7と類似し、同一個体とみられる。10の甕は内面に煮沸による変色が見られる。11は内外面赤彩をもつ高坏で、全面を丹念に磨いたのち脚部内面を除き全面に赤彩を施す。焼成前の塗彩とみられる。

〈18号竪穴〉（第54図、図版23）1は小形甕で、頸部に横位の櫛描条線文をもち、外面に一部ススが付着する。2は頸部に簾状文、口縁部に櫛描波状文をもち頸部のくびれた甕で、胴部は斜位ハケめののち縦位ヘラナデ（磨き）を行う。3は胴部外面に網代状（斜格子）隆線文をもつ壺。4は小形壺で、内面上半に輪積痕を残し、外面には黒斑がある。また焼成後に開けた孔があるが、人為的かどうかはわからない。5は片口をもつ小形鉢で、上半を中心にススが付着することから煮沸用とみられる。6は壺で器面は粗い。7は大形磨製石鏃で、両側縁の刃部は鋭利である。

〈19号竪穴〉（第55図、図版23）1は内面にカキメ状のナデ痕をもつ土師器坏で、内外面が薄く黒変する。2は玉線を残す甲斐型直後の土師器坏で、胎土は黄色味を帯び、やや異質である。3は口縁を1周水平に欠く土師器坏で、割れ口を再調整して使用しているらしい。4は内面を全面的に赤彩した高坏とみられる土器で、外面については赤彩が残っていない。5は内面に灰汁状のシミ、外面上半にスス、下半に灰が付着した甕。6の高坏脚部は4と同一の可能性がある資料で、縦位磨きが顕著で外面には赤味があり、赤彩の可能性がある。

〈20号竪穴〉（第55図、図版23）1はロート状に短く内側に立ち上がる口縁をもつ壺で、口縁部側面と口唇部（口縁上端）に櫛描波状文を施し、外面の磨きが著しい。2は頸部に櫛描文を一周巡らせ、横位の櫛描波状文で器面を埋めたもので、外面には薄くススが付着し、内外面に灰汁あるいは炭が着く。3は大形壺で、縦磨きが顕著である。1と同一の可能性があり、図では頸部径が合わないものの剔部かもしれない。

〈22号竪穴〉（第55図、図版23）1は折返し口縁の甕で、肥厚口縁にはハケメと連続押圧文を加える。また外面にススが付着する。2は土偶脚のような円柱状土製品であるが、円柱として完結し、下面にはすだれ状圧痕がある。

〈24号竪穴〉（第55図、図版23）1は高坏で、脚部内面を除く全面に赤彩を施す。

〈25号竪穴〉（第55・56図、図版24）1は大形壺の口縁直下～頸部片で、内外面ともに赤褐色を呈し、とくに外面はミガキが顕著で、赤彩されたようにもみえるが明瞭ではない。縄文帯の下辺には付加縄らしき縄文圧痕を施し、2個1組とみられる円形貼付文をもつ。2はハケメをもつ小形壺で、内面に輪積痕が残る。3は壺頸部片で、外面はハケメの後縦ミガキを行う。4は高坏坏部で、口縁部は強く外反する。内外面ともに赤彩を施す。東海系菊川式に類似する。5は内外面ともにハケメをもつ小形甕。6は小形壺で、頸部に櫛描簾状文をもつ。7は口縁部に孔をもつ鉢で、壺形土器の頸部をカットしたような形態である。口縁部の孔は2個1対で相対して存在し、焼成前に穿孔されている。8は有段口縁の壺で、有段上にハケメで連続的な刻みを施す。9は壺頸部小破片で斜格子沈線文をもつ。10は凹み石で、片面にのみ小さな凹みがあり、端部に敲打痕がある。凹み周辺は磨り面としても利用しているらしいが、研磨痕は顕著でない。

〈26号竪穴〉（第56図、図版24）1は弥生後期、神奈川方面の壺で、短い口縁部側面に3本単位の棒状隆線文を貼付し、鴨面から内面にかけて縄文を施文する。頸部は3段の向きを違えた羽状縄文とし、それ以外の外面は磨きが顕著である。胎土には長石のほか茶褐色の角の取れた砂粒を多く含み、胎土も異質である。2は坏状の小形土器で、内面が薄い黒色を呈する。3は口縁部に4段以上の櫛描波状文をもち、頸部および胴部中央には推定5個ずつのボタン状貼付文を配置し、それを起点として櫛状の櫛歯条線文が胴部を巡らせ、

その隙間を縦位条線文と横位波状文を交互に充填する中部高地系の甕である。外面は胴部上半がススで黒変し、下半はススが飛んだ典型的な煮沸甕で、内面には下半にオコゲ状の付着があり、口縁部内面には灰汁状の付着物がある。

〈28号竪穴〉（第56図、図版24）1は壺頸部で、沈線文による文様は板の側面圧痕によるもので、沈線内に木目痕が認められる。

〈32号竪穴〉（第57図、図版24）1・2は甲斐型坏。1は器面の調整が粗く、粘土塊が付着する。2は鼈出土。手持ちヘラ削りは雑で、器面に窪んだ部分がある。3も甲斐型の小形皿だが、やはりヘラ削りが雑で整形も粗い。4は完存。6はひどく歪んだ皿で、胎土はやや粗い。内面の線刻は人為的ではない。10は鼈内出土のハケメ甕。11は弥生壺で、内面に赤味のある粘土を薄く化粧掛けしているらしい。12は小形土器で、回転ナデにより整形し、手持ちヘラ削りで下半から底部を整形している。完存。

〈33号竪穴〉（第57·58図、図版24·25）1は甲斐型坏で、内面が薄く変色する。2は甲斐型皿で、器形は歪み器面調整は粗い。6も口縁部が歪み、器面に粘土粒など付着する。10はやや砂質の胎土の皿。14は須恵器蓋で、丸い摘みは珍しい。15は緑釉皿。16は小形のいわゆるロクロ甕。17の小形甕の内面は黒変する。19·20は羽釜で、20は鍔が完全に剥離し、器面のハケメ痕が出ている状態である。22は口縁部が大きく開いた鉢形土器で、内外面が薄く変色する。23は縄文前期、諸磯式土器で、無節縄文を施文する。

〈34号竪穴〉（第58·59図、図版25）1～12は甲斐型坏。3は鼈出土で、器面調整は粗い。4は完存の坏で床面出土。5は内外面薄く変色した坏で、黒色土器の黒味とは違う。6は鼈出土坏で、器面調整は粗い。8は鼈出土で、内外面薄く変色する。9は内黒土器と見られるが、黒味が薄くなっている。11は内黒の黒色土器で、12も内面が薄く黒変し、本来は黒色土器であったとみられる。13·14·18～23は皿で、13は竈内出土。14は底部付近が歪んだ皿。18·19は手持ちヘラ削りをもつ甲斐型皿。18～20·23はいずれも内面にまだらの黒色付着物があるが、燈明具としての油煙・タールのあり方とは異なり、土中の汚れのようだ。23は鼈出土の完存の皿で、底部付近が歪んでいる。24は内外面の一部が変色する。26は口が開く鉢系甕で、内外面ともに黒変する。29は鼈内出土羽釜で、内面胴部中程が薄く黒変する。30は口が開いた鉢系甕で、26と同一個体の可能性がある。31は磨り石で、実測面の正面1面と左側面を磨り面としている。

〈36号竪穴〉（第59·60図、図版26）1～9は土師器坏で、1·2は甲斐型坏。3は器形が甲斐型直後の坏類とは異なる坏で、胎土はやや粗く、違和感がある。5は口縁部に2ケ所の燈心痕をもつ燈明具。6はほぼ完存する坏で、器面の調整は粗い。8は内面に油煙状の厚い付着物をもつ完存の坏で、外面にも黒味が染み出している。器形がやや凹んでいる。10·11は土師器皿。12·13は土師器甕。12には内面に灰汁・ススが薄く付着し、13には内面にオコゲが全体的に付着する。14は灰釉壺で、回転ヘラ削りで調整する大形品である。16の甕も内面にオコゲが付着し、13と同一の可能性がある。15の羽釜は内面が薄く変色する。18は鍵で、基部を欠く。

〈37号竪穴〉（第60·61図、図版26·27）1～13は土師器坏、14～18は土師器皿。さらに1～8は甲斐型坏、また7·8は内黒の黒色土器である。8は鉢とみられ、内面黒色で、器壁が厚い。9はほぼ完存する坏で、内外面は変色し、外面にはススが付く。10は内外面黒変した坏で、燈明具かと思われる。11は底部が円柱状を呈する坏で、底部調整が行われていない。14は器面調整の粗い皿で、外側には重ね焼きの際に生じたらしい色の違いが見られる。16は外面に粘土粒が付き、口縁部は上から見ると不整円形を呈し、ひどく歪んだ皿である。19は小形坏で、器形としては珍しい。20は灰釉陶器長頸壺で、肩および口縁内面に施釉する。21は20の胴部とみられる灰釉壺で、外面には全面施釉する。22·23は土師器羽釜。22は外面鍔下～胴部、内面上半が黒変する。23は外面鍔下から胴中まで、内面全面が黒変し、外面鍔上から口縁部には灰色の灰汁状付着が認められる。いずれも羽釜を竈にかけた状態での煮沸に伴う使用痕を良く示した事例である。24は口縁が大きく開いた鉢系甕で、外面は変色し、煮沸に用いたことがわかる。26はヘラ削りを施す小形ロクロ甕で、煮沸に用いたために外面上半と内面中ほど、口縁部内側に黒変部がある。27～29は灰釉陶器で、27は口縁部の一部に押圧を加えた輪花皿である。28は三日月高台、漬け掛け。30は須恵器坏で、外面に削りを行う。

〈38号竪穴〉（第61図、図版27）1は弥生後期の折返し口縁の壺で、下層の45号竪穴と接合関係をもつ。口縁内側および頸部外面に無節rの縄文を施文する。口縁側面にもハケメを加え、内面に輪積痕を残す。2は

甕で、頸部に1条の櫛描波状文をもち、上下に櫛歯による斜位の単条線を施文する。内外面ともに被熱により薄く黒変する。3は底部外面を除く内外面に赤彩を施す鉢。4は磨製石鏃とみられる破片で、図の左側は刃部となり、右側は欠損している。石製模造品の可能性も考えられる。

〈39号竪穴〉（第61図、図版27）　1は内面がごく薄く黒変した土師器皿で、外面に大きな黒斑がある。2は軟質で胎土中に褐色粒をやや多く含んだ坏。3は底部外面に黒斑をもつ完存の坏で、底部の中心が寄っている。4は体部、底部外面を横位ヘラ削りした坏であるが、玉縁の甲斐型坏とは器形が異なる。5は内面黒色の大ぶりの坏で、外面にヘラ削りをもち、内面に花弁状の暗文を描く。6は高台付坏であるが、高台部を全部カットしている。7は古墳後期の坏で、内外面の一部が黒変するが、埋没土中の変色かもしれない。8は灰釉陶器小壺で、底径が大きく器高の低い器形である。9は須恵器甕片で、内面には黒色物の付着がある。内面は滑らかだが研磨痕は認めがたい。

〈40号竪穴〉（第62図、図版27）　1～9は土師器坏、10～12は皿で、いずれも底部糸切り未調整の平安末の土器で、やや軟質のものが目立つ。3・9・10は竈内出土。6・7は黒色土器で、意図的かどうかわからないが内外面が黒色化する。7は器形が歪んでいる。13・14は灰釉陶器皿で、いずれも漬け掛け。高台は13は断面三角形、14は三日月高台となる。15～18は羽釜で、15・18は内外面が煮沸により黒変する。16は竈内出土。

〈41号竪穴〉（第63・64図、図版28）　1～11は手持ちヘラ削りをもつ甲斐型坏皿。3は内外面がごく薄く黒変し、4は内外面ともにかなり強く黒変する。6は大形の坏で、器壁はやや厚く重量感があり、底部は糸切りのままとする。7の皿は底部の糸切りの一部を削るがほとんど糸切りを残す。また器形に歪みが生じている。8は胎土がやや粗く、口縁部に油煙が付着した燈明皿で、器形は歪む。9の皿は成形が粗雑で、削りも雑である。10は完存の皿。12～18は削りのない坏。12・13はともに内外面が薄く変色し、13は器形が歪んでいる。14は甲斐型直後の坏で、口唇部に油煙をもつ燈明具である。15も内面見込部を中心に黒変する。16は口唇部のほぼ全体に油煙が付着した燈明具。17は内面黒色、外面黒斑をもつやや大形の坏。19～24は土師器皿。19は歪みのある黄褐色の皿で、底部には割れが生じている。21は完存の皿。22は内外面が薄く黒変した皿。24は底部外面に粘土塊が付いた整形が雑な皿で、見込み部内面に線刻（焼成後）と見られる数条の線があるが、調査時の傷かもしれない。25～28は土師器羽釜。26・28は内外面が著しく黒変し、28には鍔上部に灰状のものが付着する。29は竈内出土の甕で、胴部外面に竈に伴う粘土が付着し、内面には褐色の灰汁状付着物がある。30は小形甕で、外面にススが薄く付着する。31も小形甕で、内外面が被熱で変色する。32は須恵器短頸壺で、器面には釉が掛かり、灰釉の可能性もある。34は須恵器小壺頸部。35は壺G類の底部で、34とは異質。36は手づくね土器で完存。37は灰釉小壺で、言は細く、取手が肩にひとつ付く。38・39は灰釉壺で、釉、胎土の類似性から同一個体とみられる。

〈42号竪穴〉（第64・65図、図版29）　1～4・6・7は体部外面、底部に手持ちヘラ削りをもつ甲斐型坏。4は内外面が薄く黒変した皿。5は口縁部に薄くススが付着し、燈明皿として使用したものらしい。6は体部に手持ちヘラ削りを施すが、底部は回転糸切りのままである。7はやや大形の黒色坏。8は完存で、甲斐型直後の玉縁を留める坏。9もほぼ完存し、内外面は薄く黒変する。10は口縁部にスス痕をもつ皿で、燈明皿か。10・11ともに器面は粗い。12は口縁部に擬心痕をもつ燈明皿で、やや軟質。15は器面が粗く、底部に大きな歪みが生じている。17は完存で、やはり底部が大きく歪み、底が平らではない。20は高台坏で、高台の破損面を磨いて再調整する。内面にはタール状付着物がある。21・22は灰釉陶器椀。ともに漬け掛け、三日月高台であるが、胎土が21は密で灰白色に対し、22はやや粗で色は暗い。23・24は緑釉椀皿。23は皿で、色はやや薄い。24は椀で、緑色が濃い。26は土師器甕で外面にススが付着する。30は大形の灰釉壺で、高台をもつ。29は折返し口縁の甕で、口縁部には木目のついた刻みが連続する。胴部外面は薄くススが付いて黒変する。

〈43号竪穴〉（第65図、図版29）　1は甲斐型坏で、体部に手持ちヘラ削りを行う。2は底部糸切りを2度したような痕跡をもつ坏で、高台が張り出す。3は口唇部が玉縁化を留める皿。4は台付壺脚部。5は底部に直径6㎜程度の穿孔を5個もつ小形甑で、孔は半分側に片寄って開けられている。

〈45号竪穴〉（第65・66図、図版29・30）　1は高さ70㎝以上、横幅60㎝の大形壺で、頸部に4条程度の波状文を描き、口縁部は内外面とも磨きを丹念に行い、

頸部以下はハケメ・ナデとする。口縁部内外に黒斑がある。2は壺下半を土器埋設坑に転用したもので、径28cm、高さ16cmを測る。胴部内面は黒変する。3は頸部に櫛描波状文を2～3段もつ甕で、外面にススが付着し、内面は変色する。4は頸部に廂状文、その上下に櫛描波状文をもつ甕。外面上半はススで黒変し、内面は底部付近、口縁部付近が煮沸により黒変している。5は口縁部に櫛描波状文をもつ甕で、口唇部には縄文を施文する。外面は黒変する。7は台付甕脚部で、器面は赤褐色を呈すが、内面の胎土は黒色である。13は薄くなった中央に径5mm程度の孔をもつ円板状土製品で、紡錘車の可能性があるが、軸を挿す構造とはいえない。用途不明土製品である。14は分銅形打斧で、刃部と反対側の上側に顕著な摩耗痕がある。15は片面にのみ凹み面がある凹み石で、破損面を砥面として再利用している。16は凹み石で、ごく浅い小さな凹みが両面にあり、上下両端には弱い敲打痕をもつ。

〈46号竪穴〉（第66図、図版30）1～3は玉縁を残した坏皿。1は体部、底部に手持ちヘラ削りを行う皿で、底部の削りは部分的で糸切り痕を多く残す。2はヘラ削りのない坏であるが、器形は甲斐型土器そのものである。胎土は甲斐型ではなく、焼成不良により器面の荒れがひどい。3も玉縁の坏で、胎土は甲斐型とは異なり砂粒が多く粗い印象を受ける。4は玉縁ではない皿。5・6は沈線文をもつ弥生の壺頸部。7は鉄製紡錘車で、型穴の縦際より出土した。鈎がある軸に反対側の軸を重ねた特殊な出土状況を示している。復元長は28cmになる。

〈47号竪穴〉（第66図、図版30）1・2は竈内出土遺物で、1は内面にオコゲ状の付着をもつ皿状の坏、2は内面黒色の深い坏で、ともに底部は糸切りのままである。

【土坑】

〈2号土坑墓〉（第67図、図版30）1は銅製キセル吸い口。扁平に潰れている。

〈7号土坑墓〉（第67図、図版30・31）1・2は銅製キセル雁首で、2の中には羅宇の一部が残る。3は銅製吸い口。4～7は銅銭の「寛永通宝」。

〈8号土坑墓〉（第67図、図版31）1～3は寛永通宝。そのほか実測できなかったが、4枚重ねの錆着した鉄銭がある。錆のため判読できないが、寛永通宝であり、1～3と合わせて7枚の六文銭となる。

〈10号土坑墓〉（第67図、図版31）1は銅製メガネで、レンズはガラスか。支柱式天狗眼鏡（鼻立て眼鏡）で、中央の鼻当てを起こして使用した。弦は紐で、小さな穴の中にわずかに紐が残っている。江戸から明治初に使われたとされる珍しい資料である。

〈11号土坑墓〉（第67図、図版31）1はガラス製笄（こうがい）あるいは簪（かんざし）か。幅9mm、長さ20.8cm、厚さ5mmで、端部は図上端が丸みをもち、表裏面には文様らしきごく浅い凹みが多数存在する。2は磁器小皿で、紅皿か。1と共伴することから、11号土坑墓は女性墓かと考えられる。

〈15号土坑墓〉（第67図、図版31）1・2は銅製キセルで、竹の筒でつなぐ。同一個体と思われる。3～7は銅製「寛永通宝」。

〈17号土坑〉（第71図、図版33）1は手づくね土器皿で外面にはシワが広がる。るつぼにも似ているが、被熱痕はない。

〈18号土坑〉（第71図、図版31）1は柱状高台皿または坏の脚部で、内面は黒変する。そのほか破損がひどく実測できなかったが、曲物底板がある。直径推定15cm、幅4cmのヒノキ板と思われる。底板は伴っていない。

〈20号土坑〉（第71図、図版33）1は凹み石で、両面に凹み面があり、正面側が深く大きい。

〈30号土坑〉（第71図、図版33）1は内外面にタール状付着物をもつ坏で、底部には2重に貼り合わせたような割れがある。本資料は馬歯を出した本土坑が平安末の可能性を示唆する。

【周溝墓】

〈1号周溝墓〉（第67・68図、図版31・32）1は幅広の複合口縁をもつ壺で、4方向に5本単位の棒状隆線文を縦位に貼付する。頸部には縄文帯下端を結節縄文で区切り、その結節縄文上に3個1単位で4方向に円文を貼付する。口縁部内外と胴部上半には赤彩を施すが、棒状貼付文と縄文、円文には彩色しない。円文と棒状隆線文の位置が重ならないのが特徴で、隆線文の単位間に円文を貼付するようだ。2は口縁部を欠く壺で、高さ33cm以上を測る。頸部に縄文を施文し、内外面に赤彩を施すが、外面の縄文部と胴下半には赤彩をしていない。外面の器面の剥離状況によれば、暗灰色の下地に褐白色の粘土を上掛けしていて、薄く炭皮がむけたような状態で暗灰色の地が見える部分が多い。内面にも一部上掛け粘土が付着している。底部は角が摩耗して斜めに取れている。3は大形甕で、頸部に廂状文を1条施文後、口縁部に櫛描波状文を4段程度施文する。胴部は櫛掛け状に櫛歯で条線を施文し、口唇部にはやはり櫛歯条線による浅い沈線をもつ。胴部は煮

沸により全体的にススが付着する。7は広口壺の折返し口縁部片で、縦位に断面三角形の棒状隆線を4本以上貼付する。また口頸部にもハケメの板端で刺突した疑似縄文的な文様を施文する。8は折返し口縁の壺で、頸部に細かな櫛描波状文を施し、3個1組でボタン状貼付文がある。口縁には8本の深い沈線を刻む。頸部と口縁部のつながりは想定復元のため、首の長さについては不明である。底部には豆状の圧痕が複数あるほか、胴部に黒斑がある。9は縦磨きが顕著な壺で、内面に輪積痕が残る。また底部には砂粒が付着し、豆状圧痕が複数認められる。10は火打金で、後世の混入だろう。11は横刃形石器で、刃部のない上縁を磨いている。12は木葉形の輪郭をもつ刃器で、尖頭器と理解しておく。13は中世の土師質のすり鉢片。

〈2号周溝墓〉（第69図、図版32）1は磨製石鏃で、刃部は剥離したままで、表裏面を研磨している。孔はない。未製品とも考えられるが、これで完成品であったと理解したい。

〈3号周溝墓〉（9号溝、第69図、図版32）1は下膨れの壺で、折返し口縁をもつ。長石粒を多く含んだ胎土が特徴的で、やや軟質。2は有段（折返し）口縁をもつ壺で、胴部は潰れた球形を呈し口縁は短い。外面は全体にやや粗いナデを施す。3は大形壺口縁部で、折返し口縁をもち、頸部と口縁部内面には縄文を施文する。内面の縄文は条の間隔が広いことから回転ではなく押圧のようであるが、検討を要する。頸部付近には黒斑が認められる。4は折返し口縁の壺で、頸部と口縁部内面に縄文を施文する。5は小形台付甕で、脚部の一部を欠くほかは完存する。煮沸により胴下半が赤く変色し、上半にススが薄く付着する。6は口唇部に刻みをもつハケメ甕。7・8は甕底部。

〈4号周溝墓〉（13号溝、第70図、図版32）1は胎土に長石・石英粒を多量に含んだ甕で、煮沸により胴部外面上半、内面下半が黒変する。ほぼ完存。内面は洗い出したように胎土中の粒子が器面に露出している。2も1と同類のハケメ甕。3は無文の壺で、胴部外面には大きな黒斑がある。4はハケメ甕で、口縁部外面にススが黒く付着する。5は土師器羽釜。6は中世の土師質土器小皿。7は棒状鉄製品。8は軟質安山岩を用いた凹み石で、凹み面は表裏2面。凹みは浅く大きい。

〈5号周溝墓〉（27号溝、第70図、図版33）1は坏で、外面は削りののちナデ、磨きを行い、内面にも暗文状の同心円状磨きを施す。内外面に黒色付着物がある。2は外面が薄く黒変した土師器坏。3は打斧。

〈6号周溝墓〉（第70図、図版33）1は平安末の小塊で、内面は煤によるものか黒変する。底には焼成後開けたような貫通孔があり、燈明皿として用いたものかもしれない。2は土師器S字甕で、外面に薄くススが付着する。3は壺口縁部で、被熱により還元炎状態になって灰色に変色している。

〈7号周溝墓〉（第70図、図版33）1は古墳後期？の土師器坏。2は内面黒色の高坏で、口縁が外湾する東海系土器である。3は弥生壺の折返し口縁で、内面には刻みをもつ。5は半分のみの石製紡錘車で、全面が錆色に染まっている。直径5.2cm、孔の直径は0.8cm。

【溝】

〈3号溝〉（第71図、図版33）1は幅広の複合口縁の壺口縁部で、8本以上の縦位棒状隆線を複数ブロック施文し、その間に縄文および結節縄文を施文し、さらに木目の付いたヘラで刻みを付けている。

〈8号溝〉（第71図、図版33）1は内面に同心円状の細かなカキメ状の回転ナデ痕をもつ土師器坏。

〈19号溝〉（第71図、図版33）1は土師器皿で、器面調整は粗く、胎土もやや粗い。2は口縁に片口状の抉りをもつ坏で、意図的とみるよりは歪みの一種だろう。3は小形ハケメ甕。

〈20号溝〉（第71図、図版33）1は焼成不良の土師器皿。

〈23号溝〉（第71図、図版33）1は土師器耳皿で、小皿の口縁部を内傾につまんで作っている。

〈26号溝〉（第71図、図版33）1は体部・底部に手持ちヘラ削りを施す甲斐型坏。

【河道】

〈1号河道〉（第71～75図、図版33～36）1・2は内外面黒色の坏。3は内面赤彩の坏で、錆に覆われた下に赤彩が見える。5は内外面黒色の坏で、内面には5本の沈線が焼成後線刻されている。6は内外面赤彩の坏。11～13は甲斐型坏皿で、12は口縁部外面に墨書がある。字形は不明。14は口縁部に2ケ所捏心痕がある。17は内面タール状の付着がある坏。19は内面黒色で、外面に一部タール状付着がある。20は口縁部が歪んだ坏。また24は底部に歪みがある。25は完存の皿で、内面に薄い油煙？痕を数ケ所もつ。26は内面がやや薄い黒色であるが、黒色土器とみられる。28は小形鉢で、内外面に赤彩が薄く認められる。30～41は高坏。30は高坏で、脚部外面と坏部内面に薄い赤彩をもつ。31は器面に錆が付着した高坏。33は内黒の坏部をもつ高坏で、坏部外面を中心にごく薄く赤彩が認められる。34はラッパ状に開いた脚部に径1.3cmの孔を3個

もち、また35には径1.2cmの孔が3個ある。36は孔がない。37は胎土がやや粗く、脚には孔のかわりに2ケ所の刺突がある。38は脚部内面を除き全面に赤彩をもつ高坏脚。39は内外面を黒色塗彩したような高坏。42・43は灰釉陶器皿。42は灰釉皿で、内面に重ね焼きの際、上に重ねた高台の一部が融着している。44・45は緑釉陶器。46は須恵器小形壺で、摘みは丸く小さい。50は弥生後期の壺で、頸部と口縁部内側に縄文を施文し、円文を3個1組で貼付する。口縁部は折返し口縁で、角にハケメ端の木目を強調するようにして刻みを入れる。54は小形壺で、外面の全体と内面口縁部内側に薄い赤彩がある。56～58はS字甕で、58は外面にススが付着する。59は内外面が赤味がかり、赤彩の可能性もあるが、錆による汚染とみたい。

60は土師器甕で、外面の一部に赤彩かと思われる部分があるが、確実ではない。内面、底部付近が変色する。69は厚手の器壁の壺で、内外面に鋳色が付着し、赤彩としたが、河道内での鋳付着の可能性が大である。70の壺は外面にススが付着する。74は口縁部が直立する壺とみられる。74・75ともに比較的大きい角張った長石を多く含む特徴がある。77はほぼ完存する小形丸底壺で、外面黒斑、内面黒色となる。78は口縁を欠く小形丸底壺で、ミニチュア土器とみられる。80は羽釜で、外面の鍔下から胴部にススが厚く付着する。また81・82の内面も黒変する。85は完存の手づくね土器で、内面が赤く、赤彩の可能性があるが判然としない。86は須恵器横瓶で、上部中央に蓋をして中心からずらした位置に孔を開け、口縁部を接合する。口縁部の脇、中央には円文を2個貼付する。ほぼ完存であるが、口縁部と胴部の一部はもともと欠けていたとみられる。上半には灰釉の自然釉が掛かる。底部は丸く膨らみ、やや黒ずんでいる。87は長頸壺で、胎土がやや粗い灰色のため須恵器として図示したが、灰釉が付くことから灰釉陶器か。内面は黒変する。92は須恵器壺底部で、灰釉が付くことから灰釉陶器かもしれない。88も同様で、胎土を見ると須恵器だが、灰釉が掛かっている。東海系、静岡方面の灰釉陶器か。89は須恵器壺で、自然釉が厚く掛かる。90も須恵器壺としたが、灰釉かもしれない。底外面にススが薄く付着する。93は壺底部で、内面に黒色付着物がある。94は須恵器大甕口縁部で、3段の波状文を描き、表面は暗褐色～黒色を呈し、表面に何かを塗ったような感じである。95は無文の須恵器大甕口縁部。98は打斧で、刃部付近が摩耗する。99は短冊形打斧。100は分銅形打斧で、上下両端の刃部が摩耗している。101も分銅形打斧で、下側刃部周辺が摩耗する。106は磨斧で、先端の欠損面にも使用痕がある。全面を敲打ののち、磨いている。107は石皿で、やや小さく、凹み面の磨り面は弱い。

【遺構外】

〈遺構外〉（第76・77図、図版36・37）1・2は縄文中期初頭の深鉢片。3は土師器丸底壺で胴部は完存する。4は外面が著しく黒変した甕で、頸部に粘土帯を巡らせ、押圧を加える。5は高坏（器台）で、内面は赤彩ではないが薄く褐色味がつく。6は高坏脚部で、内面および外面坏部に赤彩を施す。7は小形壺。8は壺で、底面には砂粒が付着する。9は底部に直径1.1cmの焼成前の穿孔を1つもつ竈で、内面黒変し、底部に灰が付着する。10は大形壺で、内外面ハケメを施し、頸部に2段の斜格子文と鋸歯文をもつ。口縁部は小破片のみでの復元図のため、器高、器形ともに確かではない。11～17は土師器坏。11・12は甲斐型直後の坏で、12は底部外面が大きく窪み、器面は粗い。14は内面に細かなカキメ状ナデ痕をもつ坏で、見込み部および外面の一部にススが付着する。15は玉縁化した口縁の坏で、内面に薄くススが付着し、外面に黒斑が付く。18・20は完存の皿で、19もほぼ完存である。20の内面には薄くススが付く。22は土師質土器皿で、中世の所産か。24は内外面ともに薄く黒い。26は円筒形の側面に口縁部を接合し、取手を付けた提瓶で、器面には同心円状のカキメ状ナデ痕をもつ。27は灰釉椀で、内外面に付け掛けによる釉をもち、高台形は断面三角形をなす。28は緑釉陶器椀。高台部は角高台で、高台部を含め全面に緑釉を施す。29は甲斐型坏の墨書土器で、体部外面に文字の一部がある。文字は判読不能。30は手づくね土器で、ほぼ完存する。31は土師質土器小皿で、中世か。32は底部が上げ底の小皿で、色調から白カワラケの一種かと思われる。33は陶器小皿で、山茶碗系か。34は青磁碗で、内面に陰刻文がある。35は志野皿（椀）とみられる。37は剥離で外形を整え、表裏面を平らに研磨している。孔はない。38は表裏面2面を研磨面とする磨り石で、図の左側面にも研磨が及んでいる。全体に黒変する。39は長軸両端を内欠き、磨いた石錘。40は硯で、小学校で使われたものだろうか。41は鉄製刀子。42は鉄鏃。43は『寛永通宝』。

第４章　塚本遺跡から出土した馬歯・馬骨および人骨

植月　学（山梨県立博物館）

本遺跡の４つの遺構（住居跡・土坑）からウマの歯と骨が出土した。また、10基の墓壙から人骨が出土した。前者は時期不明も含むが、平安時代末が中心とされ、後者は幕末～明治頃の所産とされる。なお、ウマ、ヒト共に調査時に露出させた部分についてパラロイドによる固定がおこなわれ、周囲の土ごと取上げられた場合がある。室内において取り出す際にも、標本を強化し、崩壊を防ぐために水で薄めた木工用ボンドを塗布した場合がある。

第１節　ウマ

37号竪穴（SI37）、42号竪穴（SI42）、30号土坑（SK30）では複数個体分の歯が、５号土坑墓（SX5）では全身の埋葬が検出された。前者は少量の平安時代末の遺物が共伴した。後者は遺物を伴わず、詳細な時期は不明である。他の平安期のウマ遺体とは位置的に離れ、近世人骨群に近い位置に埋葬されていることから、近い時期に属する可能性もある。ただし、近世遺構より掘り込みが深いことから、より古い時期の所産という所見もある。以下、それぞれに分けて記載する。

(1) 馬歯群

調査区東寄りの近接する遺構群から出土した。特にSI42とSK30の一群は近接しており、本来一連のものであった可能性もある。全般に遺存状態は不良で、骨は消失し歯のみが検出された。周囲の土ごと取り上げられている場合は、破損せずに取り出すことは困難であった。臼歯の多くは取り出す際に頬側と舌側のエナメル質に分離し、間の象牙質は崩壊してしまった。そこで、今回は個体数の算定に重点を置き、より残りの良い側面で同定、集計をおこなった。一般に上顎では頬側、下顎では舌側のエナメル質の残りが良く、同定が容易であった。この方法ではP3～M2の区別は多くの場合困難であるため、個体数算定に際しては一括して扱った。P２はエナメル質形状の違いにより、M3は湾曲の強さにより区別可能であった。個体数算出に際しては西中川・松元（1991）の推定式による推定年齢も加味した[1]。

個体数算定の結果を第１表に、同定結果を第２表に示す。

37号竪穴（SI37）　歯種による最小個体数では上顎２～３個体、下顎１個体が存在する。年齢からみると、上・下顎ともに少なくとも４歳前後と７歳前後の２個体が存在する。２～３個体分の上顎、下顎（を含む頭骨）が存在したと推測される。

42号竪穴（SI42）　歯種からみた最小個体数は上顎が２個体である。年齢からみても４歳前後と７歳前後の２個体が存在する。下顎歯は出土していない。

30号土坑（SX30）　歯種からみた最小個体数は上顎が３個体（右M3による）、下顎１個体である。年齢推定可能な標本は少ない。ウマと断定できない歯の小片は哺乳類に同定したが、他種はまったく同定されていないことから、これらも馬歯であると推定される。

第１表　馬歯による個体数集計

		歯種による集計								年齢群による集計		
上下		上顎				下顎				上顎	下顎	上下合計
側面		頬側				舌側						
左右		左		右		左		右				
歯種		P3-M2	M3	P3-M2	M3	P3-M2	M3	P3-M2	M3			
1個体あたりの数		4	1	4	1	4	1	4	1	※年齢は概数		
SI37	数	7	1	11	2	4		4	1	4･7歳	4･7歳	4･7歳
	個体数	2	1	3	2	1	0	1	1	2	2	2
SI42	数	3	1	6	1					4･7歳		4･7歳
	個体数	1	1	2	1	0	0	0	0	2		2
SK30	数	2		1	3	2		2	1	5歳	12歳	5･12歳
	個体数	1	0	1	3	1	0	1	1	1	1	2
SI42+ SK30	数	5	1	7	4	2		1	1	4･7歳	12歳	4･7･12歳
	個体数	2	1	2	4	1	0	1	1	2	1	3
総計	数	12	2	18	6	6		2	2	4･7歳	4･7･12歳	4･7･12歳
	個体数	3	2	5	6	2	0	1	2	2	3	3

※上下ともP2は少量であったため集計せず。

第２表　ウマ遺体同定結果

0	遺構	取上げ№	整理番号	枝	部位	左右	歯種	位置	年齢区分	推定年齢	HB ±	HL ±	備考
1			1				P/M	舌側	若				
2			2			左	P3/4	舌側	若				
3			3				M1/2	舌側	若	3～3.7		75	
4			4						若				
5			5		下顎		P2	舌側					
6			6				P3/4	舌側	若	～4.9	63.5＋		
7			7			右	M1/2	舌側					
8			8										
9			9				M3	舌側	壮	～8.7	57＋		
10			10			?	P/M	頬側	?	4.2～5.3	63		
11			11					完存					舌側欠け
12			12										
13			13				P/M						
14			14			左		頬側					
15		②	15										
16			16						壮	～7.4	50～		
17			17				M3	頬側	若	～3.3	72＋		
18	SI37		18		ウマ		P3/4	頬側					
19			19				P3/4	頬側	壮	～6.7	52.4＋		
20			20		上顎		M1	舌側	若				Br
21			20				M2	舌側	若	～4.6		66＋	
22			20				M3	舌側	?	～5.5		56＋	
23			21						若				
24			22			右							
25			23				P/M	舌側					
26			24						壮				
27			25						壮				
28			26				M3?	頬側					
29			27				M3	頬側					
30			28			左	P3/4	頬側					
31			29				P3/4	頬側					
32			30		上顎				若	～3.7	75＋		
33		②-1	31			右	M1/2	頬側	?	4～3.3	61		
34			32						若	2.9～4	71		
35			33				M3	頬側	?	～5.9	54＋		
36			34		下顎	右	P3?	完存	壮	7.2	49.5	48	L:29.0 B:15.85
37		7440	1			左	P/M	頬側					
38		7440	2				M3	頬側					
39		7440	3										
40		7440	4			右	P/M	頬側					
41		7440	5										
42		7440	6				M3	頬側	壮	7.8	46.5		
43		7440	7			?	P/M	中心					
44	SI42	7441	1	ウマ	上顎	左	P3/4?	頬側	若	3.7～4.4	66		
45		7441	2				P2	舌側					
46		7441	3					頬側	若	～3.6	52.4＋		
47		7441	4			右							
48		7441	5				P3/4	頬側	若				
49		7441	6						若				
50		7442	1			左	P/M	頬側					
51		7442	2			?	P/M	頬側					
52		7443		不可									
53		7603			上顎	右	M3	頬側		～5.3	57＋		
54		7604			歯	?							
55		7605		ウマ	下顎	右	P/M	頬側	老	11.4～13.8	31		
56		7605						舌側					
57		7606			上顎	右	M3	頬側					
58		7607											
59		7608		哺乳類	歯	?							
60		7609											
61		7610		ウマ	上顎	?	P/M	頬側					
62		7611		哺乳類	歯	?							
63		7612		不可									
64		7613		ウマ	切歯?	?							
65		7614											
66		7615		哺乳類	歯	?							
67		7616											
68		7617											
69		7618		ウマ	下顎	?	P/M	舌側					
70	SK30	7619			上顎	左	P/M	頬側					
71		7620											
72		7621		哺乳類	骨/歯	?							
73		7622											
74		7623		ウマ	上顎	右	M3	頬側		5.9	54		
75		7624			歯?	?							
76		7625		哺乳類									
77		7626			歯	?							
78		7627		ウマ	下顎	?	P/M	舌側	若				
79		7628		哺乳類	歯?	?							
80		7629			歯	?							
81		7630			切歯?	?							
82		7633			下顎	左	P/M	舌側					
83		7633				右	M3	舌側	若				
84		7635	1	ウマ		左	P/M	舌側					
85		7635	2		上顎			頬側					
86		7635	3			右	P/M	頬側					
87		7635	4		下顎	左	M1/2?	舌側					
88					上顎	左	I1I2xxP2		老	19.4±			P2=L:35.2 HC:10±
89						右	I1I2I3xP2P3P4		老				M1-M3摩滅？
90					下顎	左	I1I2xxP2P3P4M1M2M3		老				
91						右	I1I2I3xP2P3P4M1M2M3		老				P2-M3=L:144.6
92		⑩-1			前甲骨	左		骨幹部					
93	SX5			ウマ		右		骨幹部					
94					上腕骨	左		遠位部					
95						右		遠位部					
96					橈骨	左		骨幹部					
97						右		骨幹部					
98		⑦-2			大腿骨/脛骨	?		端片					

なお、SI42とSX30はきわめて近接して出土しており、同一個体が含まれる可能性がある。そこで、一括して算出したところ、最小個体数は上顎4（右M3）、下顎1となった。年齢によるとそれぞれ2個体だが、合わせると約4、7、12歳の最低3個体が含まれる。さらに、3遺構すべてが一連の廃棄（埋葬？）行為に由来すると仮定しても、最小で上顎5～6個体分、下顎2個体分程度が確認できる。年齢からみても少なくとも4、7、12歳前後の3個体は存在する。

したがって、今回の調査区には4歳未満の若齢から12歳前後までの最小6個体程度の平安期のウマが存在したことになる。これらが全身埋葬であったのか、頭部だけが何らかの理由により埋納されたのかは骨質部の消失により明らかにできない。なお、上顎に比べて下顎の数が全般に少ないのは、頭蓋だけが廃棄されたからではなく、歯の形状による遺存と同定の優劣性に起因すると推測される。

(2) 馬埋葬墓

調査区東端の5号土坑（SX5）から上顎歯と下顎骨・歯、左右の前肢、および後肢の一部と推測される骨が検出された。土坑の大きさから見て墓壙と推定され、頭位は南である。骨の遺存状態は不良で、前肢も骨幹部がかろうじて残存するに過ぎない。部分的に破砕され、土と混ざっている箇所もあり、後世の掘り込みによる破壊を受けている可能性がある。歯の咬耗が著しく、多くは咬合面中心部のエナメル質を消失する。遊離している上顎P2（左）による推定年齢は19歳前後となった。本遺体は前項の馬歯群と地点が離れるだけでなく、年齢がかなり高齢であることや、遺存不良ながら骨質部が遺存する点も異なり、年代的に隔たりがある可能性がある。

第2節　ヒト

墓壙群は調査区の東端でまとまって検出された。合計で10基あるが、全身が検出されたものはなく、いずれも断片的である。10号土坑墓（SX10·17）を除けば、解剖学的位置を留めておらず、墓壙のプランも小さすぎ、再葬の可能性が高い。周囲の土ごと取上げられているものが多いが、遺存状態が不良なため、かなりの時間をかけないと取り出す際に破損する恐れがあった。そこで、標本によっては今回は上面を露出させるにとどめ、下面をそのまま残した場合があり、全体的な調査ができなかったものもある。以下、遺構ごとの概要を記載する［L=左、R=右］。

6号土坑墓（SX6）　頭蓋の破片と下肢の一部が出土した。頭蓋は前頭骨・頭頂骨の一部で、冠状・矢状縫合とも外板は未融合で、内板はほぼ閉塞が完了しているので、壮年期に属すると推定される。側頭骨Lの乳様突起は大きく、男性と推測される。他に側頭骨R、後頭骨の破片がある。歯は出土していない。四肢骨は大腿骨L近位部—遠位部と近位部（両者は別個体）、大腿骨R近位部—遠位部、脛骨L骨幹部、脛骨R骨幹部が出土した。

7号土坑墓（SX7）　完存に近い頭蓋が出土した。左側面のみが露出しており、細い四肢骨（橈骨／尺骨か）骨幹部が上面にのっている。下面（右側面）は露出できていない。冠状、矢状縫合の外板は融合しておらず、壮年期（40歳未満）に属すると推定される。乳様突起が大きく、外後頭隆起が発達するため、男性と判断される。歯式は以下の通り。

※［ ］内は植立

他に大腿骨L近位部と四肢骨破片が少量出土した。

8号土坑墓（SX8）　骨片少量が出土したのみである。人骨かも不明だが、副葬品の銭貨が共伴していることから、人骨と推測される。

9号土坑墓（SX9）　頭蓋の破片と、四肢骨破片少量が出土した。歯は下顎切歯、前臼歯、上顎犬歯（L？）、後臼歯が各1点出土した。

10号土坑墓（SX10・17）　SX10・17は調査の過程で別々に取り上げられたが、同一遺構である。唯一全身が埋葬されていたと推測される例である。SX17からは頭蓋破片多数と上肢の一部が出土した。側頭骨Lの乳様突起は大きく、後頭骨の外後頭隆起が発達するため、男性と推定される。他に側頭骨Rが出土した。左右の下顎骨の一部が出土したが、後臼歯は左右共に脱落し、歯槽が閉鎖している。老齢の個体か。歯式は以下の通り。

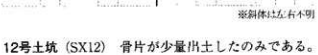
※「－」＝歯槽閉鎖

上肢は肩甲骨R、上腕骨L遠位端、尺骨R近位端が確認できた。

SX10はSX17と同一個体で、下肢の部分である。出土した部位は寛骨Rの大坐骨切痕付近（破片のため

性別判定不可)、大腿骨（L／R）近位部（大腿骨頭)、大腿骨R遠位端、大腿骨L/R骨幹部、脛骨L遠位端、脛骨R遠位端、踵骨L、距骨LとRである。

11号土坑墓（SX11） 頭蓋の破片と歯が出土した。頭蓋は前頭骨と側頭骨Lが確認できた。眉弓は発達し男性的だが、乳様突起はあまり発達しない。

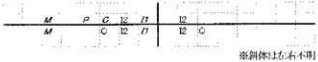


※斜体は左右不明

12号土坑（SX12） 骨片が少量出土したのみである。厳密にはヒトかどうか明らかでない。

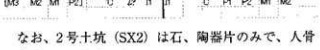
13号土坑墓（SX13） 上顎前臼歯1点と四肢骨破片が少量出土した。

15号土坑墓（SX15） 頭蓋と四肢骨の破片少量、および以下の遊離歯が出土した。



※斜体は左右不明

出土地不明土坑墓 SX18として取上げた人骨。正確な出土地点は不明だが、15号竪穴西寄り、調査区壁中出土とみられる。上面に頭蓋と下顎の左側面が露出している。下面に右側面が埋没しているが検出できていない。頭蓋は側頭骨と上顎骨が確認できる。乳様突起は破損してしまったが、比較的小さかった。歯式は以下の通り。他に四肢骨の破片が少量出土した。



なお、2号土坑（SX2）は石、陶器片のみで、人骨は含まれていなかった。

註

1）ただし、今回用いた計測値は上記推定式に用いられる歯冠中心部の高さではなく、頬側や舌側のエナメル質の高さ（それぞれHB、HLと表記）である。ここで数mm程度の誤差を生じる場合があるため（植月2011)、ここでは年齢推定の解釈にある程度の幅をもって、3歳以上の開きがある場合に別個体ととらえた。また、若干破損がある場合にも計測、推定をおこなった。この場合、本来の高さはやや高い（＝年齢はやや若い）ので、推定値は「～4.9」のような結果となる。P/M（P3～M2のいずれか）のように、同定結果が曖昧な場合にはそれぞれの歯種による年齢推定の結果の幅として示した。

文献

植月　学　2011「出土馬歯計測値の比較のための基礎的研究」『動物考古学』28

西中川駿・松元光春　1991「遺跡出土骨同定のための基礎的研究―とくに在来種および現代種の骨、歯の計測値の比較―」『古代遺跡山土骨からみたわが国の牛、馬の波来時期とその経路に関する研究』平成2年度文部科学省科学研究費（一般研究B）補助金研究成果報告書　164-188頁

第5章　総　括

第1節　弥生時代後期の竪穴住居

ここでは弥生時代後期の竪穴住居の時期について整理しておく。

弥生後期の竪穴住居は、1次調査区を中心に東側の河道周辺を除く中央部および西側に18軒が検出されている。大きく2群の群在性が窺え、さらに平面プランに楕円形（小判形)、隅丸方形の別がある。また主軸方向に南西向き、南向き、南東向きの大きく3群があるほか、炉のつくりに枕石の有無、埋甕炉などの違いがあり、出土土器から時期細別をするとともに土器群の系譜（中部高地系、東海系）を加味することによっていくつかのグループを抽出し、時期的な変遷を探ることができそうである。ここでは時期細別に関し、『山梨県史』編年（中山1999）を参考に弥生後期を5A(1)期、5A(2)古期、5A(2)新期、6A期の4段階区分を用いたい。

1号竪穴はプランが不明確ではあるが隅丸方形とみられ、主軸方向は西向きの一群である。波状文をもつ金の尾Ⅱ式の壺があり、弥生後期、5A(2)新期に相当する。1号竪穴を切る2号竪穴は、小判形プラン、南東方向の主軸をもち、時期は屑に横位ハケメのないS字甕D類の出土から、古墳Ⅱ期までくる可能性があるが、他の甕類が弥生末、6A～B期の可能性がある。ここでは竪穴プランを重視して6A期とみなしておく。

9～11号竪穴は重複関係をもつ一群である。9・11号竪穴は図化資料が少ないが、ともに10号竪穴を切る。10号竪穴は胴部斜格子文をもつ櫛描波状文の甕が存在することから5A(1)期に相当する。竪穴プランはいずれも小判形で、主軸方向は9号竪穴が南西方向、10・11号竪穴が南方向である。9・11号竪穴は6A期であろう。

3・8・18号竪穴では、隅丸方形の18号竪穴を楕円

形に近い隅丸方形の8号竪穴が切り、隅丸方形の3号竪穴を8号竪穴が切る。3号竪穴に5A(1)期の資料がまとまり、8号竪穴にも5A(1)期の資料がある。また18号竪穴にも5A(1)期相当の甕を含むことから、いずれも5A(1)期から(2)期にかけての時期であるが、ここでは18号竪穴を5A(2)期古、3・8号竪穴を5A(1)としておく。主軸方向はともに南方向である。

13・14・15・22号竪穴はいずれも隅丸方形で、13号竪穴が主軸方向を南とするほかは南東方向に主軸を向ける共通性がある。重複関係は14・22号竪穴を15号竪穴が切り、13号と14号がわずかに重複するが、周溝墓の溝のためによくわからない状況にある。このうち22号竪穴の遺物内容が不明であるが、15号竪穴に6A(1)期とみられる土器を含み、14号竪穴も甕の内容からすればほぼ同時期といえる。13号竪穴は櫛描波状文の壺、甕の存在から5A(2)期とみられる。

25・26号竪穴はともに小判形プランで主軸方向は南となり、26号竪穴を25号竪穴が切る。時期は26号竪穴が5A(1)期、25号竪穴が5A・B(2)期となる。

5・30号竪穴はともに小判形で、主軸方向がほぼ同一で南向きとなり、5号竪穴が30号竪穴を切る。30号竪穴では図化資料がなく時期不明だが、5号竪穴では5A(1)期を中心に(2)期古段階の良好な資料が存在する。したがって5号竪穴を5A(1)期、30号竪穴をそれ以前と想定しておくが、30号竪穴については調査所見を誤認とすれば、5A(2)期以降の可能性も十分ありうる。

38・45号竪穴は、隅丸方形の45号竪穴の覆土上層に38号竪穴が重複していて、主軸方向は45号竪穴が南西、38号竪穴が南方向となる。時期は45号竪穴が5A(1)期、38号竪穴が5A(1)～(2)期の遺物をもつ。重複関係は確かで、45号竪穴では良好な遺物量が存在し、時期は確定的であることから、38号竪穴は5A(Ⅱ)期古とみられる。

そのほかに単独で存在する竪穴として20・24・28・44号竪穴がある。20号竪穴は小判形プラン、主軸方向は南東で、時期は5A(1)期である。24号竪穴は小判形で、主軸方向は南と思われる。出土遺物が赤色塗彩の高坏のみで、時期は5A(2)古～新期である。28号竪穴は小判形、主軸方向は南向きで、遺物が少なく時期は明確でないが、5A(2)古～新期か。44号竪穴は遺物がなく時期不明だが、小判形プランと思われる。

塚本遺跡の弥生後期～古墳前期の竪穴住居について改めて整理しておく。時期は弥生後期前半、山梨県史編年5A(1)期から6A期まで存在するが、ここでは1から4段階の4時期細分を行い、時期別に列記する。

1段階(5A(1)期)－3・5・10・13・18・20・26・45号竪穴

2段階(5A(2)古期)－8・25・38号竪穴

3段階(5A(2)新期)－1・24・28号竪穴

4段階(6A期)－2・9・11・14・15・22号竪穴

段階別にプラン、主軸、大きさ、炉・柱穴等諸施設、竪穴の配置について整理してみたい(図9参照)。

1段階では調査区全体に均等に分散する形で竪穴8軒が存在する。その配置は東西に列状をなしつつ、西端の10・18号竪穴を中心とした群と、5・26・45号竪穴からなる東群の東西2群とみることもできる。竪穴プランは整が直線的な隅丸方形(3・18・20・45号竪穴)と、やや丸みを帯びた隅丸方形(5・10・26号竪穴)があるが、この時期の竪穴住居の特徴として中部高地では隅丸方形が主流であり、本遺跡でもそうした傾向を捉えることができる。主軸方向は南向きを中心に、わずかに東に振れたものが多いほか、それと直交方向の主軸をもつ竪穴がある(20・45号竪穴)。竪穴には長軸長10mを越す大形例(10号竪穴)、6～8mの中形例(3・18・26号竪穴)、5m台の小形例(5・13・45号竪穴)がある。炉は45号竪穴が炉体土器を採用し、13号竪穴では2石を用いた枕石となる。このように最大の大きさを示す10号竪穴を中心とした集落とみることができる。

2段階では1段階の竪穴のうちの3軒にそれぞれ重複するように存在し、主軸方向も踏襲する傾向がある。3・18号竪穴が8号竪穴に、26号竪穴が25号竪穴に、45号竪穴が38号竪穴に建替えを行ったと思われる。竪穴の大きさがいずれも小形化し、東西方向に並ぶ列状配置となる。竪穴プランは隅が丸みを帯びた小判形に近い隅丸方形で、隅丸方形から楕円形化しつつある。炉は25号竪穴が2石、38号竪穴が1石を用いた枕石タイプである。

3段階は2段階までの位置を離れ、それまで竪穴がなかった場所に重複せずに単独で作られている。主軸方向は南(28号竪穴)、東南(24号竪穴)、東南の直交方向となる南西(1号竪穴)があり、南向きからやや東あるいは西に大きく振れた方向の竪穴が出現し、周溝墓の主軸方向に類似する。竪穴の大きさは1号竪穴が推定で大形、24号竪穴が中形、28号竪穴が小形である。炉は24・28号竪穴が1石の枕石タイプである。この段階で1号周溝墓の位置を避けるように竪穴が周辺

に分布する傾向がある。1号周溝墓は出土遺物から4段階での構築と考えられるが、3段階に構築を予定したかのような居住域のあり方が認められることには注意しておきたい。

4段階では竪穴が西側に偏って分布し、周溝墓と重複しない分布を示している。後述するようにこの時期以降に周溝墓群が作られていて、4段階では東側に墓域、西南側に居住域を区分する構成が認められる。竪穴プランは2・9・11号竪穴が主軸線の両側にあたる壁面が強い丸みをもつ小判形、14・15・22号竪穴が隅丸方形に近い形となる。主軸方向は南東を主とするが、南東でもより東への振れが強い例もみられる。炉は円形の掘り方内の南辺に1石の枕石を置く例が多い（2・11・14・15・22号竪穴）。2・9・14号竪穴は大形、11・15・22号竪穴は中形で、大・中形が主体的となる。

弥生後期での動きをまとめると、竪穴プランは隅丸方形から小判形へ、主軸方向は南（西）から東南（西南）へ、竪穴配置は帯（列）状から西側への群在へと変遷する。竪穴の大きさは、大形1軒に対し中・小が複数存在する構成から、大・中を主とする大きさに著しい差がない構成に変化する傾向がある。

第2節　周溝墓の変遷

周溝墓は1・2・6号周溝墓が単独、3・4・7号周溝墓が溝を共有する方形周溝墓である。また円形周溝墓とみられる5号周溝墓のほか、15号溝もその可能性がある。さらに43号竪穴とした溝状遺構も方形周溝墓の北辺溝の可能性が高く、仮に8号周溝墓とした。したがって、方形周溝墓6～7基、円形周溝墓1～2基の計7～9基の周溝墓が検出されたことになる。ここではそれらの時期と変遷を整理してみたい。

1号周溝墓は東西19.4m、南北21mの本遺跡最大の方形周溝墓で、西関東、神奈川方面の痕をもち、時期は6A期である。掘り上がりの図面では3号周溝墓を切るように見えるが、3号周溝墓では古墳時代初頭の土器類が複数含まれていることから、1号周溝墓の溝覆土中に3号周溝墓の溝底が存在したのか、あるいは1号周溝墓の溝を共有するように、1号周溝墓の溝に付け加えるようにして後に3号周溝墓が構築されたのであろう。溝断面観察では、5A(1)期の18号竪穴を1号周溝墓の溝が切っていることがわかる。

2号周溝墓は東西14.6mで、遺物がほとんどなく時期不明である。24号竪穴（5A(2)期新と推定）を切るように平面図が作図されているが、重複関係を示す断面図によれば、竪穴が後出するようにも見える。24号竪穴の遺物の時期認定の問題があるが、一応ここでは24号竪穴より新しいと判断し、間を埋めるように溝を共有して存在する3・4号周溝墓よりは古いと考えると、3号周溝墓が古墳初頭なので、1号と同じか1号の直後と考えられる。

3号周溝墓は東西11.8m、南北12mで、古墳前期の痕をもち、14号溝と26号竪穴の重複関係によれば、溝が竪穴を切っていることが確実である。また9号溝と25号溝の重複も竪穴を溝が確実に切っている。1号周溝墓との切り合いを示す断面観察地点に1号周溝墓の5号溝、C-C′ラインがあるが、3号周溝墓が重複するような形跡はない。したがって1号周溝墓の溝に付け足すようにして3号周溝墓を構築したのであろう。

4号周溝墓は東西10.9m、南北10.6mで、出土遺物からみると3号周溝墓より古い弥生末、6A期の様相を示している。したがって4号周溝墓構築の後、3号周溝墓が重複して溝を共有するように古墳前期に作られている。

5号周溝墓は東西6.4m、南北7.1mで、6号周溝墓と4号周溝墓の間を埋めるように作られていて、より後出的といえるが、出土遺物には古墳時代中期、5世紀代の坏が存在し、その時期まで下る可能性はあるが、よくわからない。

6号周溝墓は南北13.8mで古墳初頭の土器片を伴なう。1号周溝墓と主軸方向がほぼ同じことから弥生末、6A期と考えられる一方、5A(1)期以降、6号周溝墓の周囲に同時期の竪穴が分布していないことから6A期以前に遡って存在した可能性があるが、一応古墳前期としておく。

7号周溝墓は東西11.4mで、古墳段階の高坏が出土している。3号周溝墓の溝を共有するようにして構築していることから、3号周溝墓よりも新しく、古墳前期以降と推定しておく。

8号周溝墓（43号竪穴）については周溝墓かどうか定かではなく、時期がわからないが、東西8m以上あり、44号竪穴を切る。44号竪穴の時期が不明ではあるが、仮に5A(2)期とすれば、それ以降、6A期の可能性が高いといえる。15号溝については円形周溝墓になるかどうかもわからないが、周溝墓ならば東西推定10数mとなる。遺物がなく、時期不詳。

以上により、周溝墓の変遷を次のように整理しておく。なお段階設定については、弥生後期の4段階を踏襲する。

4段階（6A期）－1・2・4・（8）号周溝墓
5段階－3・6号周溝墓
6段階－5・7号周溝墓

3段階の時点で6号周溝墓周辺に竪穴が構築されていないことから、6号周溝墓が1号周溝墓に先行して3段階に構築された可能性もあるが、遺物から証明することはできない。また方形周溝墓という墓制の導入がこの地域でどのように採用されたのかわからないが、4段階になると1号周溝墓をはじめとする単独例が一斉に出現する。4段階では竪穴分布が西に偏り、東側を墓域としてあけていることから、周溝墓群として東側に複数基の構築を予定したことが窺える。

4段階の中でも構築順、新旧関係があったはずだが、その点を解明することは難しい。最大の1号周溝墓を先行するとみる見方が自然ではあるが、1号周溝墓は同時期の14号竪穴と一部重複することから、より後出的ともみられる。6号周溝墓が先行するとすれば、東側から西側へという構築順を想定することができるだろう。なお、1・2号周溝墓ではブリッジ（陸橋）がそれぞれ北西、南西に存在し、集落を意識した側に設定している。集落と周溝墓の関連性を示唆する現象といえるかもしれない。

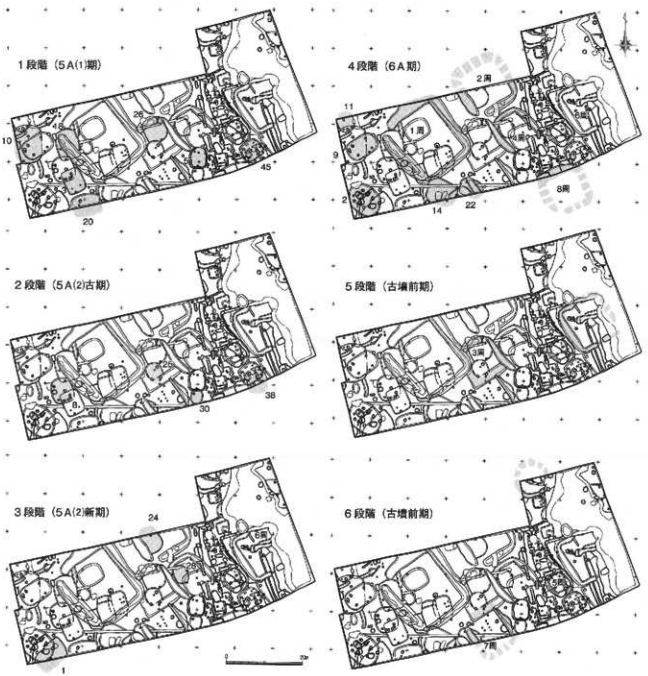


図9　遺構の変遷

集落と周溝墓の関連性について改めて整理すると、弥生後期初頭（1・2段階）では周溝墓が存在しない。1段階では大形住居の存在から、家族集団あるいはムラの長的な存在が窺え、2段階では竪穴の建替えが1段階の竪穴と重複するように行われていることから、集落構成、集落内組織に大きな変化はなかったと思われ、この段階でも10号竪穴が維持されていた可能性はある。土器の様相には櫛描波状文を用いた中部高地系土器群が主体をなし、竪穴住居の平面プランにもそうした影響力が窺える。3段階では、それまで竪穴がなかった位置に新しく竪穴が作られる傾向がある。

大きな変化をみせるのが次の4段階で、竪穴住居の配置は西偏に偏在し、東側を墓域として方形周溝墓群が構築される。竪穴住居は楕円形を主とし、その主軸方向は東南に振れたものが多くなる。竪穴住居のプランに関して隅丸方形から小判形になるのは、中部高地の影響力が弱まり、東海、西関東の影響を受けた結果とみられるが、そうした動きを示すように方形周溝墓内には副葬品と思われる西関東系の壺形土器が目立つ。このように4段階でのさまざまな変化の出現に注目すべきで、古墳時代の直前段階としてのあり方として理解したい。また古墳時代前期になると周溝墓の構築は継続し、若干の遺物も分布するものの、竪穴住居は皆無となる。弥生末で集落が断絶し、墓域化するという現象にも注目しておきたい。

第3節　平安時代の遺構の変遷と成果

竪穴住居は調査区中央西寄りの1号周溝墓付近、東寄りの4号周溝墓付近、北東側の大きく3つの群在性が認められる。これらをA・B・C群と仮称し、群別に時期的な変遷、遺物などの検討を行いたい。

A群は4・7・12・19・21号竪穴からなる。いずれも竪穴住居としたが竈がなく、壁の立ち上がりも不明確である。とくに4・7号竪穴については周溝墓の溝との重複で土器分布から住居範囲を推定した竪穴設定であり、4・7・19号竪穴は重複するとみられる。

4号竪穴は甲斐型坏直後の手持ちヘラ削りを略した段階が主体であるが、甲斐型坏もわずかに残る。坏・皿には特徴的な一群があり、カキメ状の細かな同心円の調整痕を内面全面にもつのが特徴である。周辺遺跡について調べる必要があるが、管見では類例を知らない。中部高地系の黒色土器群に似た調整技法で、信州系土器群ということもでき、甲斐型土器の制作地とはまた別に生産遺跡があるのだろう。7・12号竪穴は4号竪穴とほぼ同時期。19号竪穴も同時期で、1点のみカキメを持つ坏がある。21号竪穴は図化遺物がない。

B群は36・37・39・40・41・42・47号竪穴からなる。40・41・42・47号竪穴は重複し、41号竪穴は建替え痕跡をもつことから、5軒分が密集することになる。東壁に石組竈をもち、42号竪穴では中心に近い位置に、40・41・47号竪穴では南東隅に近い位置に竈がある。37号竪穴は2軒分の可能性があるほか、火災住居の39号竪穴はコーナー竈と思われる。

36号竪穴は甲斐型坏直後を主とし、甲斐型坏もわずかに存在する。カキメはないもののカキメ系の坏は存在する。37号竪穴は甲斐型坏と甲斐型坏直後の土器群との比率が約半々である。灰釉陶器類も存在し、わずかに古い様相がある。39号竪穴は甲斐型坏直後段階であるが、甲斐型黒色坏もあるなど、他の竪穴群とほぼ同時期である。40号竪穴は甲斐型直後の段階。41号竪穴は甲斐型坏・皿類が約半数を占め、わずかに古手の様相をもつ。42号竪穴も甲斐型坏皿が残る甲斐型直後の段階で、灰釉陶器なども存在する。47号竪穴は竈が40号竪穴と重複する住居だが、40号竪穴との差異は顕著でないものの、若干古い様相がある。

C群は分散して列状に配置された竪穴群で、重複することなく、一定の間隔を保ち、大きさも似ている。32・33・34・46号竪穴からなり、32号竪穴が1号周溝の対岸になるが、一応同じ群として扱うこととする。竈は46号竪穴が不明のほかは南東コーナー寄りの石組竈で、32号竪穴についてはコーナー竈である。

32号竪穴は甲斐型坏皿を残す甲斐型直後段階。33号竪穴も同じ段階といえる。34号竪穴は甲斐型段階が過半数で、坏類の多くはヘラ削り痕をもつほか、甲斐型直後段階の坏皿類が存在する。46号竪穴は遺物が少ないが、甲斐型直後を主とした土器構成となる。

以上を整理すると、甲斐型直後段階の住居群を主としつつ、B群37・41号竪穴、C群34号竪穴では甲斐型土器の比率がやや高く、先行するとみられる。竈の位置には東壁中央に近い42号竪穴、コーナー竈となる32・39号竪穴があり、そのほかは南東隅に近い東竈となるが、出土遺物から推定した時期はいずれも同じ段階に収まる。このように甲斐型土器の最終段階から直後の時期に出現し、短期継続した集落である。なぜ10世紀中ごろに突然集落が現れ、短期集落に終わったのか定かではないが、荒川流域の河道の移動による影響が想定できよう。10世紀段階での集落出現に関しては、公権力衰退に伴う民間による土地の再開発の動き

を示すものではないだろうか。

なお、32号竪穴の礫袖石（写真２）に残るしっくい状の白色粘土は、礫表面につけた粘土表面に白色粘土を塗ったもので、竈表面が白く化粧されていたことを示す（現状では褐色に変色）。成分分析を経ていないので何か不明だが、類例に韮崎市宮ノ前遺跡227号住例がある（韮崎市ほか 1992）。

そのほか注目される遺物に平安時代のミニチュア土器がある。32号竪穴竈右脇から胴部に手持ちヘラ削りをもつ小形土器が出土し、また41号竪穴の南壁、竈寄りの位置からヘラ削りはないもののほぼ同形の手づくね土器が出土している。食器構成にはない器種であり、祭祀遺物とみられるが、出土位置から竈祭祀に関わる可能性がある。

第４節　河道および出土遺物

調査区東端に南流する自然河道跡が見つかり、覆土中、河底から多数の遺物が出土した。とくに南東隅でほぼ完形で出土した須恵器横瓶、小さな鋼製巡方は特筆すべきもので、そのほか緑釉陶器皿類が破片として目立つ。巡方の時期は不明ながら、集落形成が行われた平安末の段階での使用は考えにくいことから、奈良時代の遺物と考える。古墳時代後期から奈良時代には竪穴住居はないものの、河道東岸か、上流方面に集落域や公的施設が存在し、また河道は水場として水流が利用されていたのであろう。ここでは河道の形成と遺跡との関連について断面観察と合わせて整理しておきたい。

河道両岸には32・46号竪穴（平安末、10世紀中）、６号周溝墓（弥生後期）が存在する。それらが浸食されたようにして検出されたことから、ある時点で河道の氾濫で浸食を受けたことは間違いない。また河底には平安末の高台坏（11世紀）を伴う18号土坑が存在する。したがって平安末の段階で河道が存在していたことは確かだが、一部は水のない状態となっていた可能性がある。近世～近代段階では河道内中位面に水田面が存在したことから、埋没河道として竈地化した低い面に水田が作られていた。また河床の礫層面近くには弥生末～古墳後期の遺物があり、覆土中には平安時代の遺物が存在する。このような状況から次のような状況を想定したい。

河床面が礫層で、調査区一帯の基盤層となっていることから、縄文時代中期を遡るある時点での荒川氾濫により土砂が運ばれて扇状地面が形成された。弥生～古墳時代前期には６号周溝墓があることから、その時点では埋没化を終え、やや低い地形となっていた。７～８世紀に河道底に置き去りにされたような須恵器横瓶があり、周囲に自然木などが残ることから、南東側が流路だったことは間違いなく、水の利用も行われていたようだ。したがってその間の４・５世紀頃に河底を抉るような流水があったとみられる。平安末に32・46号竪穴が存在することから、その頃までに埋積により浅く竈地化し、竪穴が作られるなど居住地化していった。しかしその直後、再び河底、河床礫に達するような大きな浸食作用があり、土坑が作られている。その後、埋没谷化していった。

文献

中山誠二　1999「甲斐の弥生土器編年」『山梨県史　資料編２　原始・古代２　考古（遺構・遺物）』
韮崎市教育委員会ほか　1992『宮ノ前遺跡』
山梨県考古学協会　2010『山梨県考古学協会2010年度研究集会「中部高地南部における擬凸文系土器の拡散」資料集』

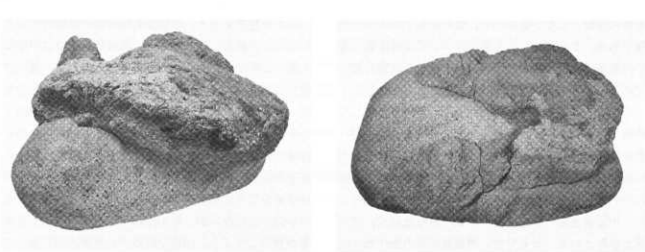


写真２　32号竪穴の袖石（石の表面に白色粘土が残る）

第3表　土器類観察表

図版	地点	No.	種別	器種	時期	口/底/高cm	整形技法 外/内/底	色調 外/内	胎土	残存率%	焼成	出土	備考
46	1竪	1	弥生	壺	弥生後	(21.6)/5.8/36.8	ハケ・刷み・櫛描波状文・ミガキ/ハケ・ナデ/不明	浅黄～灰褐	長・黒・赤・雲・石・石	60	良	2,7,13,16,17,18,20,21,22,24,25,26,27,28,29,38,39,40,41,42,43,44,45,46,47,48,49,51,54,57,59,60,61,62,65,66,67,70,75,134,136,140,一括	
46	1竪	2	弥生	甕	弥生後	(20.0)/-/-	ハケメ・刷み/ナデ/-	暗灰～黒	長・石・赤・黒		やや良	10,11	被熱
46	1竪	3	弥生	壺	弥生後	(25.0)/-/-	ハケメ・沈線・擬凹線・刷み/ハケメ/-	暗灰～黒	長・黒・赤・雲	—	良	129	文様部赤
46	1竪	4	弥生	壺	弥生後	(15.0)/3.7/(17.5)	ハケメ/ハケメ・ナデ/葉文	明褐～暗褐	長・石・黒・赤・黒	30	良	14,15,51,55,56,82(23)	外～底面スス付着
46	1竪	5	弥生	壺	弥生	-/6.6/-	ナデ/ナデ・ハケメ/ナデ	明赤褐/褐	赤・長・黒・黒		良	36	
46	2竪	(1)	弥生	甕	弥生末	(21.0)/-/-	ハケメ・刷み/ナデ/-	にぶい橙	長・石	—	良	一括	内外面薄く黒変
46	2竪	2	弥生	壺	弥生末	(22.8)/ /	刷み・ナデ/ナデ/-	灰褐	長・雲・赤	—	良	一括	
46	2竪	3	弥生	甕	弥生末	(20.6)/-/-	刷み・ハケメ/ナデ/-	にぶい橙	長・雲・黒		良	一括	
46	2竪	4	弥生	甕	弥生末	(21.4)/-/-	刷み・ハケメ/ナデ・指頭痕/-	にぶい橙/橙～黒	黒・長・石・赤	—	良	56	外面変色
46	2竪	5	弥生?	壺	弥生?	(19.7)/ /	櫛歯段・波状文・ナデ/ナデ/-	褐灰	赤・石		良	一括	内外面赤変
46	2竪	6	弥生?	壺	弥生?	(28.5)/-/-	ナデ・波状文/ナデ/-	黒褐	雲	—	良	一括	内外面黒変
47	2竪	7	弥生?	壺	弥生?	(17.0)/ /	ハケメ/ナデ/-	橙～褐灰	長・赤	—	良	一括,9,72,74,16	内外面黒変
47	2竪	8	土師	S字甕	古墳	(13.0)/-/-	ハケメ/ナデ/-	暗橙/橙	長・雲		良	80,81	外面スス付着
47	2竪	9	土師	S字甕	古墳	(13.2)/-/-	ハケメ/ナデ/	明赤褐	黒・石・長	—	良	5	
47	2竪	10	弥生?	小形壺	弥生?	(7.6)/5.0/6.8	ナデ/ナデ/ナデ	橙	雲・長	60	良	外109,2	
47	2竪	11	弥生?	壺	弥生?	(9.6)/-/-	ハケメ・刷条/ハケメ・ナデ/-	橙	長・石	—	良	11	
47	2竪	12	土師?	壺	古墳?	(9.0)/-/-	ナデ/ナデ/-	橙	長・雲	—	良	一括	
47	2竪	13	土師	坏?	古墳	(10.0)/ /	削り/ナデ/-	橙	長雲		良	一括	
47	2竪	14	土師	器台	古墳	-/-/-	ナデ/刷き/ナデ	橙	長・赤	—	良	一括	孔3、中央に1
47	2竪	15	土師?	高坏	古墳?	/ /	ナデ/ナデ/ナデ	灰褐/にぶい橙	長・白・角	—	良	一括	
47	2竪	16	弥生	壺	弥生後	-/-/-	縄文・ナデ/ナデ/-	橙黄褐	長・石		良	一括	
47	3竪	1	弥生	甕	弥生後	(21.0)/6.0/21.5	波状文・簾状文・条線/ナデ/木葉痕	浅黄橙/にぶい黄橙	長・雲・赤	50	良	90,一括	外面黒変
47	3竪	2	弥生	壺	弥生後	13.3/6.0/6.0	波状文・簾状文・ハケメ/ナデ/ナデ	浅黄	長・雲黒	90	良	35,36,37,38,39,40,41,42,107,138,一括	外面黒変
47	3竪	3	弥生	壺	弥生後	(14.0)/-/	沈線・波状文・ナデ/ナデ/-	にぶい黄橙	雲・長		良	15	内面一部黒変
47	3竪	4	弥生	壺	弥生後	-/-/-	波状文・ナデ/ナデ/-	にぶい橙/にぶい橙	長・石・雲	—	良	53,54	外面黒変
47	3竪	5	弥生	壺	弥生後	/ /	波状文・磨き/磨き/	赤褐/黒褐	長・赤・雲	—	良	44	内面黒色
47	3竪	6	弥生?	壺	弥生後	-/9.0/-	ナデ/ナデ/ナデ	橙黄褐	長・赤・角		良	68,69,70	内外面薄く変色
47	3竪	7	弥生	小形壺	弥生後	-/-/-	簾状文・ナデ/ナデ/-	にぶい橙	雲	—	良	48	
47	3竪	8	弥生	甕	弥生後	/ /	波状文・ナデ/ナデ/	にぶい黄橙/黒褐灰	黒・長	—	良	24	内面黒変
47	3竪	9	弥生	壺	弥生後	-/-/-	沈線・ナデ/ナデ/-	にぶい橙	長・石		良	56	
47	3竪	10	弥生	壺	弥生後	-/-/-	沈線・ハケメ/ハケメ/-	明褐	雲・長	—	良	58	
48	4竪	1	土師	坏	平安	12.2/5.8/4.0	ナデ・削り/ナデ/削り	褐/黄褐	長・赤・雲	60	良	27,44,65	
48	4竪	2	土師	坏	平安	(13.0)/ /	ナデ・削り/ナデ/-	明赤褐	赤	20	良	25	
48	4竪	3	土師	坏	平安	(12.8)/6.0/3.7	ナデ/ナデ/糸切り	橙	赤	60	良	21,22,39,76	内面に薄くスス付着
48	4竪	4	土師	坏	平安	(12.8)/5.8/4.0	ナデ/ナデ/糸切り	橙/黒～橙	赤・長・雲	50	良	7,58	
48	4竪	5	土師	坏	平安	12.2/6.2/3.7	ナデ/ナデ/糸切り	明褐	雲・長・赤	60	良	40	
48	4竪	6	土師	坏	平安	12.2/6.0/3.5	ナデ/ナデ/糸切り	黄橙	赤・雲	100	良	48	
48	4竪	7	土師	坏	平安	(12.2)/5.0/4.3	ナデ/ナデ/糸切り	褐	赤・長	60	良	4,16	内面にスス?付着
48	4竪	8	土師	坏	平安	12.9/6.5/4.2	ナデ/ナデ/糸切り	橙	長・赤・小礫	85	やや良	39,61,65,66,一括	
48	4竪	9	土師	坏	平安	(12.5)/(6.0)/3.0	ナデ/ナデ/糸切り	にぶい橙	雲・長	25	良	70	内面薄く黒変
48	4竪	10	土師	坏	平安	12.0/5.2/4.1	ナデ/ナデ/糸切り	にぶい黄橙	雲	100	良	47	内外面薄く黒変
48	4竪	11	土師	坏	平安	11.6/6.0/3.9	ナデ/ナデ/糸切り	黄橙/黒橙	雲	95	良	32,33	内面ごく薄く黒変
48	4竪	12	土師	坏	平安	12.2/5.0/4.0	ナデ/ナデ/糸切り	橙	雲・赤	100	良	46	外面一部スス付着
48	4竪	13	土師	坏	平安	(14.0)/-/-	ナデ・削り/ナデ・暗文/-	橙	雲・赤	10	良	75	
48	4竪	14	土師	皿	平安	(11.8)/ /-	ナデ/ナデ/-	橙	長・赤・雲	10	良	一括	内外面ごく薄く黒変
48	4竪	15	土師	皿	平安	11.6/5.0/2.4	ナデ/ナデ/糸切り	橙	雲・赤	100	良	35	内面ごく薄く黒変
48	4竪	16	土師	皿	平安	(10.8)/5.0/2.3	ナデ/ナデ/糸切り	橙	雲・赤	30	良	34	
48	4竪	17	土師	皿	平安	(11.2)/4.4/2.3	ナデ/ナデ/糸切り	橙	雲	30	良	11,26	
48	4竪	18	土師	皿	平安	(11.4)/5.0/2.2	ナデ/ナデ/糸切り	橙	雲・赤	60	良	1～8	内面ごく薄く黒変
48	4竪	19	土師	皿	平安	16.6/5.8/2.3	ナデ/ナデ/糸切り	明橙	雲	60	良	19,20,62	内面ごくわずかにスス付着
48	4竪	20	土師	小形甕	平安	(10.7)/ /	ナデ/ナデ・ハケメ/	にぶい橙/にぶい黄橙	赤・雲・長	30	良	1,59	内外面変色
48	4竪	21	土師	羽釜	平安	(29.6)/-/-	ナデ・ハケメ/ハケメ/-	明赤褐/にぶい橙	長・雲・赤	30	良	5,31,33,60,61,64	外面スス付着
48	4竪	22	土師	[illegible]	平安	37.0/(45.0)/30.5	ハケメ・ナデ/ハケメ/葉文・指頭痕	にぶい赤褐	雲・長	70	良	8,9,23,29,30,36,37,42,43,49,50,52,53,54,57,64,68,69,74,17,18,13,67	内面ヘラ描きあり
49	5竪	1	弥生	壺	弥生後	-/7.2/-	磨き・縄文/ナデ/ナデ	明赤褐/にぶい黄橙	長多・石	60	良	70	
49	5竪	2	弥生	壺	弥生後	/8.8/	ハケメ・ナデ/ナデ/木葉痕	黄橙/黒褐	黒・白・赤・石	30	良	43,54,18,34,30	内面黒色　文様部赤
49	5竪	3	弥生	小形壺	弥生後	(8.0)/5.0/12.0	波状文・沈線文・刺突文/ナデ/無文	赤褐	長・角・石	90	良	7	
49	5竪	4	弥生	壺	弥生	(17.0)/-/-	ハケメ/ナデ・ハケメ/	黄橙	長・雲・赤・石	—	やや良	14	
49	5竪	5	弥生	甕	弥生後	(17.4)/ /	波状文・簾状文・ハケメ/ナデ/	橙黄褐/黒褐	黒・長・石・礫	40	良	35,72	
49	5竪1?	6	弥生	甕	弥生後	(20.6)/-/-	ハケメ・波状文/ナデ・ハケメ/-	黄橙	雲・長	30	やや不良	83,1区1	
49	5竪	7	弥生	壺	弥生後	(21.6)/ /	ハケメ・ナデ/ナデ/	にぶい橙	黒・長	—	良	11	外面黒変
49	5竪	8	弥生	甕	弥生後	21.0/7.4/27.1	ハケメ/ハケメ・ナデ/ナデ	にぶい褐	長・雲	70	良	69	スス付着
50	5竪	9	弥生	甕	弥生	(21.6)/-/-	ハケメ/ナデ/	暗黄橙	赤・雲・赤	—	良	13	内外面変色
50	5竪	10	弥生	壺	弥生後	-/-/-	簾状文・条線/ナデ/-	橙	長・雲・角		良	82	外面灰・スス薄く付着
50	5竪	11	弥生?	壺?	弥生?	(10.8)/-/-	ナデ/ハケメ・ナデ/-	橙/黄橙	長・石・雲	—	やや良	1	
50	5竪	13	弥生?	壺	弥生?	-/6.2/	ハケメ/ナデ/葉文	赤褐/にぶい黄橙	長・石・雲・角	—	良	83,84	外面スス付着
50	5竪	14	弥生?	小形鉢	弥生?	(10.4)/5.6/7.25	ハケメ/ナデ/ナデ	にぶい赤/灰褐	長・雲・石	30	良	58	内面赤彩
50	5竪	15	弥生	壺	弥生前	/ /	撚糸縄文/条痕文/	赤褐	長・雲	—	良	63	
50	7竪	1	土師?	壺	古墳?	-/9.4/-	ナデ/ハケメ/木葉痕・ナデ	橙/灰褐	長・雲	70	良	7,4号14・16・56・72,5土47,C-4一括,外144	
50	7竪	2	弥生?	甕	弥生?	-/7.6/-	ハケメ/ハケメ/木葉痕	橙/明赤褐	長・石・雲・赤	—	良	50,51,48,10竪7・8,2土一括	
50	7竪	3	土師	小形壺	古墳	11.2/ /	ナデ/ハケメ/-	橙	長・雲・赤	50	良	45	
50	7竪	4	土師	小形甕	平安	10.0/6.6/9.2	ナデ・削り/ナデ/削り	にぶい橙/橙	雲・赤	70	良	3,32	外面黒変
50	7竪	5	土師	小形甕	平安	(11.8)/-/-	ハケメ/ナデ・ハケメ/	灰褐～黒褐	長・雲	—	良	一括	内面黒変
50	7竪	6	土師	小形甕	平安	(11.3)/ /	ハケメ/ナデ/-	にぶい赤褐/暗褐	長・雲・石	—	良	2	内外面黒変
50	7竪	7	土師	坏	平安	12.8/6.2/3.8	ナデ/ナデ/糸切り	明赤褐	雲	95	良	68	内面ごく薄く黒変

図版	地点	No.	種別	器種	時期	口/底/高 cm	整形技法 外/内/底	色調 外/内	胎土	残存率%	焼成	注記	備考
50	7号	8	土師	坏	平安	12.8/5.2/4.1	ナデ/ナデ/糸切り	鈍い赤褐	長・雲	90	良	21,一括	
50	7号	9	土師	小皿	平安	7.8/4.8/1.75	ナデ/ナデ/糸切り	橙	雲	100	良	9	
50	7号	10	土師	皿	平安	12/5.4/2.45	ナデ/ナデ/糸切り	浅黄橙	長・雲・石	95	良	32,40	内面煤、ゆがみあり
50	7号	11	土師	皿	平安	(12.2)/5.4/2.4	ナデ/ナデ/糸切り	鈍い橙/橙	雲・赤	30	良	8	
50	7号	12	土師	皿	平安	12.2/5.6/2.1	ナデ/ナデ/糸切り	橙	雲	90	良	1,44	
51	7号	13	土師	小形甕	平安	(12.6)/-/-	ナデ/ナデ/	黒褐	長・雲・角	-	良	34,37	内外面黒変
51	7号	14	土師	小形甕	平安	14.6/-/-	ハケメ/ナデ/-	褐/灰褐	雲・角	20	良	22	内面上部にコゲ付着
51	7号	15	土師	小形甕	平安	(17.4)/-/-	ハケメ/ナデ/-	鈍い橙	長・石・雲	-	良	38,58	
51	7号	16	土師	甕	平安	(29.0)/-/-	ハケメ/ハケメ/	赤褐~暗褐	雲・石	-	良	60,69,73	外面煤付着
51	7号	17	土師	甕	平安	(32.0)/-/-	ハケメ/ハケメ/-	明赤褐	長・雲	-	良	11,16,18	
51	7号	18	土師	羽釜	平安	(26.2)/-/-	ナデ/ハケメ/-	鈍い橙/暗褐	長・雲	-	良	26,一括	内外面に煤・炭化物あり
51	8号	1	弥生	壺	弥生後	(20.0)/-/-	縄文・ハケメ/縄文/-	黄褐	長・雲	-	良	1	折返し口縁
51	8号	2	弥生	壺	弥生後	-/8.6/-	磨き/ナデ/葉痕	橙/黒褐	雲・赤	-	良	25	内面黒変
51	8号	3	弥生	小形壺	弥生後	-/-/	網状文・波状文/ナデ/-	赤褐~黄褐	長・雲	-	良	一括	
51	8号	4	弥生	甕	弥生後	(17.0)/-/-	ハケメ・刻み/ハケメ・ナデ/-	黒褐/橙褐	長・雲・石	-	良	10,17	外面スス付着
51	8号	5	弥生	壺	弥生	-/-/-	網状文/磨き/-	黒褐	長・雲	-	良	4	内外面黒変
51	8号	6	灰釉	皿?	平安	-/7.3/	-/ナデ/高台	灰白	その他		良	20	内面施釉
51	9号	1	弥生	甕	弥生後	(20.8)/-/-	ハケメ・刻み/ハケメ/-	橙~褐/黒褐	長・雲・赤	-	良	306	外面にコゲ付着
51	9号	2	弥生	壺	弥生後	-/-/-	波状文・ナデ/ナデ/-	明褐/灰褐	長・石・雲	-	良	一括	
51	9号	3	縄文	深鉢	縄文?	/ /	縄文・沈線/ナデ/-	鈍い褐	長・角・雲		良	23,24,26	
52	10号	1	弥生	甕	弥生後	(22.0)/-/(16.8)	波状文・ハケメ/ナデ/-	橙/褐	長・雲・赤	-	良	349	外面スス付着
52	10号	2	弥生	壺	弥生後	-/-/-	波状文・網状文・条痕文/ナデ/-	橙褐/橙	長・石・雲	-	良	273	外面変色
52	10号	3	弥生	壺	弥生後	(27.0)/-/-	刻み・ナデ/ナデ/-	橙	石・雲	-	良	一括	
52	10号	4	弥生?	小形壺	弥生?	11.5/-/-	ハケメ/ハケメ/-	灰黄褐~黒褐	長・角・石	50	良	266	外面スス・炭化付着
52	10号	5	弥生?	小形壺	弥生?	(10.3)/ /	ナデ/ナデ/-	橙	雲・長・角		良	267	
52	10号	6	弥生	壺	弥生後	/ /	沈線文/ナデ/-	暗褐/明褐	雲・赤	-	良	一括	
52	11号	1	弥生?	高坏?	弥生?	(24.0)/-/-	ナデ・刻み/ナデ/-	灰褐/赤褐	長・雲	-	良	?	内外面赤彩?
52	12号	1	土師	坏	平安	12.8/5.6/3.8	ナデ/ナデ/糸切り	鈍い黄橙	赤・雲	80	不良	284	口縁部油煙
52	12号	2	土師	甕	平安	(29.0)/-/-	ハケメ/ハケメ/-	褐/赤褐	長・雲・赤	-	やや良	10,11,覆15,13	
52	13号	1	弥生	台付?	弥生後	(20.4)/-/-	網状文・磨き/磨き/-	赤褐/褐	雲・長・石	-	良	1,2	
52	13号	2	弥生	壺	弥生後	(22.0)/ /	ハケメ・縄文?/波状文/-	鈍い黄橙/鈍い橙	長・雲・白		良	38	
52	13号	3	弥生	壺	弥生後	/-/-	波状文・沈線文・ハケメ・ナデ/ハケメ・ナデ/-	明赤褐	長・角	-	良	13,14	
52	13号	4	弥生	壺	弥生後	-/-/7.5	ハケメ・ナデ/ハケメ・ナデ/ナデ	褐	長・雲	-	良	20	外面一部薄く黒変
53	13号	5	弥生	甕	弥生後	(24.0)/ /-	波状文・櫛描文/ナデ/-	鈍い黄褐/黄褐	雲多・長		良	7,23,37	
53	13号	6	弥生?	甕	弥生?	-/7.0/-	ナデ/ナデ/ナデ	鈍い褐	雲・長	-	良	6	底部外面、割面に炭
53	13号	7	弥生?	壺	弥生?	-/9.0/-	ナデ/ハケメ/ナデ	鈍い黄褐/明赤褐	雲・長・石	-	良	19	外面変色
53	13号	8	須恵	甕	古墳?	(28.8)/ /	叩き/当て具痕/	灰	長		良	332	
53	14号	1	弥生	甕	弥生末	(18.5)/-/-	刻み・ハケメ/ナデ・磨き/-	橙~褐	長・角・赤	-	良	455,458	
53	14号	2	弥生	甕	弥生末	-/(8.6)/-	磨き・ナデ/ハケメ/木葉痕	橙褐/赤褐	長・雲	40	良	25B-3.8-5-一括	
53	14号	3	弥生	甕	弥生末	(19.4)/ /	ナデ/ナデ/-	鈍い褐/明褐	長・雲・赤		良	466	外面薄く黒変
53	14号	4	弥生	甕	弥生末	(15.6)/-/-	ハケメ/ハケメ・ナデ/-	鈍い黄褐/赤褐	雲・長・赤・石	-	良	418,419,422,468	外面変色
53	14号	5	弥生	甕	弥生末	(21.0)/-/-	ハケメ・ナデ/ナデ/-	暗橙/黄橙	雲	40	良	13,A-5	外面黒変
53	14号	6	弥生?	甕	弥生?	-/8.0/	ハケメ/ナデ/ナデ	鈍い黄橙	長大・雲・赤		良	427	内面変色
53	14号	7	弥生?	小形鉢?	弥生?	/3.8/-	磨き/磨き/ナデ	橙	長・白・角・雲	-	良	10	内外面赤彩
53	14号	8	土師	坏	古墳	(13.0)/-/-	ナデ・削り/ナデ/-	橙/赤褐	長・石	-	良	45	
53	14号	9	土師	坏	古墳	(12.0)/-/	ナデ・削り/ナデ/	赤褐	長・角		良	371	内外面赤彩?
53	15号	1	弥生	壺	弥生後	(11.6)/-/-	刻み・ナデ/ナデ/-	浅黄/鈍い浅黄	長・白・雲	-	良	34	
53	15号	2	弥生	壺	弥生後	(16.0)/-/-	ハケメ・刻み/ハケメ・刻み/-	明褐	長・石・角	-	良	129	
53	15号	3	弥生	甕	弥生後	(17.0)/-/	ハケメ・刻み/ナデ/	鈍い黄橙/明褐	長・雲	-	良	8	
53	15号	4	弥生?	甕	弥生?	(13.0)/-/-	ナデ/ナデ/	鈍い褐	長・雲・白	-	良	30	外面一部スス付着
53	15号	5	弥生	壺	弥生後	(30.0)/-/-	刻み・ハケメ/ハケメ/-	明赤褐	長・角・石	-	良	33	内面変色
54	15号	6	弥生	壺	弥生後	(18.0)/-/	刻み・ハケメ/ナデ/	橙/灰褐	雲・石		良	44	
54	15号	7	弥生	壺	弥生後	/ /	縄文・円文・磨き/ナデ/-	黄橙/浅黄	長・雲・赤	-	良	16,A-5	
54	15号	8	弥生	壺	弥生後	-/(9.0)/-	ナデ・磨き/ナデ/木葉痕	橙/黒褐	長・石	-	良	28,29	内面黒変
54	15号	9	弥生?	壺	弥生?	(24.0)/-/	刻み・ハケメ/ハケメ/	橙	雲・長・石	-	良	40	内外面薄く変色
54	15号	10	弥生	甕	弥生	(20.0)/ /-	ハケメ/ハケメ・ナデ/-	橙~黒/灰褐	雲・長・白	-	良	19	内面灰色に変色、外面黒斑
54	15号	11	弥生	高坏	弥生	(12.0)/-/-	磨き/磨き/-	鈍い赤褐	長・雲	-	良	25	内外面赤彩
54	18号	1	弥生	小形甕	弥生後	(9.8)/-/(6.0)	条痕文・ナデ/ナデ/	橙/橙褐	長・雲・角	20	良	14,一括	外面一部スス付着
54	18号	2	弥生	甕	弥生後	/ /(19.2)	波状文・櫛状文・ナデ/ナデ/-	明黄褐	雲・長・石	30	良	8,10,11,E 3・一括	
54	18号	3	弥生	壺	弥生	-/-/-	波状文・櫛描文/ナデ/-	赤褐/暗褐	雲・長	-	良	10,一括	
54	18号	4	弥生	壺	弥生	-/6.0/	ハケメ/ハケメ/ナデ	橙~黒	長・雲	80	良	28	外面黒斑、底部穿孔?
54	18号	5	弥生	片口鉢	弥生	8.6/6.4/9.7	ナデ・ハケメ/ハケメ/ナデ	橙~黒褐	長・雲・角	60	良	15,20,21	外面スス付着
54	18号	6	弥生	壺	弥生	-/8.0/17.0	ナデ/ナデ/ナデ	橙	雲・長	40	良	20,23,H-3,24	
55	19号	1	土師	坏	平安	(12.8)/6.0/4.2	ナデ/ナデ/糸切り	鈍い黄橙	長・雲	60	良	5	内外面薄く黒変
55	19号	2	土師	坏	平安	(13.7)/6.0/4.0	ナデ/ナデ/糸切り	鈍い黄橙	雲・長	60	良	5,D-3	
55	19号	3	土師	坏	平安	-/7.0/-	ナデ/ナデ/糸切り	明赤褐	雲微・赤	60	良	6	口縁全体を欠く
55	19号	4	弥生?	高坏?	弥生?	(19.2)/-/-	ナデ/ナデ/	赤褐/赤褐	長・雲	-	良	479,481,482,483,488,500	内面赤彩
55	19号	5	弥生	壺	弥生	23.0/-/-	ハケメ/ハケメ・ナデ・指頭痕/	橙~褐/橙褐	白・長・赤	60	良	3,一括	内外面変色
55	19号	6	弥生?	高坏	弥生?	-/(14.4)/	ナデ・磨き/ハケメ/-	赤褐/橙	長・石・雲		良	487,488	
55	20号	1	弥生	壺	弥生後	(22.2)/-/-	波状文・磨き/ナデ/-	橙	赤・長・雲・石	-	良	219,220	
55	20号	2	弥生	壺	弥生後	16.0/-/-	波状文・櫛描文/ナデ/	橙褐/橙	長・雲	40	良	523	外面スス・炭付着
55	20号	3	弥生	壺	弥生後	/ /	磨き/ハケメ・ナデ/-	橙	長・雲・石	-	良	524	外面灰付着
55	22号	1	土師	甕	古墳?	(20.0)/-/-	ハケメ/ナデ/-	赤褐	雲・長	-	良	11,12	外面スス付着
55	24号	1	弥生	高坏	弥生	17.9/11.7/20.6	ハケメ・ナデ/ハケメ・ナデ/ハケメ	赤褐	雲・長	75	良	1,2	外面黒斑
55	25号	1	弥生	壺	弥生後	-/-/-	ハケメ・磨き・縄文・円文/ハケメ・ナデ/-	赤褐	雲・長・石・赤	-	良	7,24,28外646,一括	外面赤彩?
56	25号	2	弥生	壺	弥生	-/-/	ハケメ/磨き・ナデ・指頭痕/-	橙褐/明赤褐	長・赤・雲		良	20	
56	25号	3	弥生	壺	弥生	/ /-	ハケメ・磨き/磨き・ナデ/-	明赤褐	長・赤・雲	-	良	21	
56	25号	4	弥生	高台坏	弥生後	25.0/-/-	磨き/磨き/-	明赤褐	長・赤・雲	50	良	16,17,一括	内外面赤彩、器面荒れ
56	25号	5	弥生	甕	弥生末	(18.4)/-/-	ハケメ/ハケメ・ナデ/-	黄橙	長・黒・赤・雲		良	648	
56	25号	6	弥生	壺	弥生後	-/-/-	ハケメ・櫛状文/ナデ/-	赤褐	白・黒・金雲・雲		良	28	
56	25号	7	弥生?	鉢	弥生?	10.7/6.5/11.4	ナデ/ハケメ・ナデ/葉文	黄橙/橙	長・白・赤・黒	60	良	22	孔あり、大形黒色粒子多く含む
56	25号	8	弥生	壺	弥生末	/ /-	ハケメ・刻み/ハケメ/-	浅赤褐	長・黒・雲		良	2	
56	25号	9	土師	甕	弥生後	-/-/-	ハケメ・刻み/ナデ/-	浅赤褐/黄褐	黒・白・雲		良	15	
56	26号	1	弥生	壺	弥生前	13.0/ /	磨き・縄文・隆線文/縄文・磨き・ハケメ・ナデ/-	鈍い黄橙/灰褐	雲・長・砂		良	3	磨き顕著

図版	地点	No.	種別	器種	時期	口/底/高(cm)	整形技法 外/内/底	色調 外/内	胎土	残存率%	焼成	注記	備考
56	26竪	2	弥生	坏	弥生	8.9/5.0/3.2	ハケメ・ナデ/ナデ/無文	橙/浅灰黄	長・雲	70	良	2ピ一括	内面黒色
56	26竪	3	弥生	壺	弥生後	(23.0)/(8.0)/31.0	波状文・簾状文・円文・ハケメ/ナデ・ハケメ/木葉痕?	橙~暗橙	長・角・雲	40	良	7,8,9,12,13,14,15,16,17,18,19,21,22,24,27,28,30,32,42,一括	外面スス付着、内面黒変
56	28溝		弥生	壺	弥生後	-/-/-	ナデ・沈線/ナデ/	浅い黄橙	長・石・雲・赤		やや良	一括	
57	32竪	1	土師	坏	平安	(13.0)/(2.80)/4.1	ナデ・削り/ナデ/糸切り	浅黄橙/橙	赤・雲母	60	良	5183,5170,5171	
57	32竪竈	2	土師	坏	平安	14.0/4.0/5.0	ナデ・削り/ナデ/糸切り	橙	長・赤	80	良	竈6070	
57	32竪	3	土師	皿	平安	(15.6)/(4.5)/1.7	ナデ・削り/ナデ/糸切り	橙	赤・雲母	30	良	5155	内面黒色
57	32竪	4	土師	皿	平安	11.2/5.4/3.1	ナデ/ナデ/糸切り	橙	赤	100	良	5774	内面ごく薄い黒変
57	32竪	5	土師	皿	平安	(9.9)/(3.9)/2.6	ナデ/ナデ/糸切り	浅黄橙/鈍い橙	赤・長	25	良	5120	内面薄く黒変
57	32竪	6	土師	皿	平安	12.3/5.3/2.8	ナデ/ナデ/糸切り	鈍い橙	長・赤	95	やや良	5770	内面薄く黒変、歪み大、内面黒斑?
57	32竪	7	土師	坏	平安	(12.6)/-/-	ナデ/ナデ/	橙/鈍い橙	長・赤	10	良	5162,5163	内面薄く黒変
57	32竪	8	土師	坏	平安	(13.1)/6.8/4.0	ナデ/ナデ/糸切り	鈍い橙/橙	長・赤	50	良	5113,5115	外面薄く黒変
57	32竪	9	灰釉	椀	平安	(13.8)/-/	ナデ/ナデ/-	灰白	密	-	良	5114、一括	釉漬け掛け
57	32竪竈	10	土師	甕	平安	(28.0)/-/-	ハケメ/ハケメ/	橙	雲・長・赤		良	竈6072	内外面薄く黒変
57	32竪	11	弥生	壺	弥生末	/ /	ハケメ・櫛描/ハケメ/-	橙/灰褐	長・赤	-	良	5131	外面黒斑
57	32竪	13	緑釉	椀	平安	-/(7.3)/-	ナデ/ナデ/高台	緑	灰白	-	良	5141	緑釉
57	32竪	14	灰釉	瓶	平安	-/-/-	ナデ/ナデ/-	暗灰黄/灰白	密		良	5230,5238	外面施釉
57	33竪	1	土師	坏	平安	13.5/5.2/3.5	ナデ・削り/ナデ/削り	橙/鈍い橙	長・雲	50	良	6370	内面薄く黒変
57	33竪	2	土師	皿	平安	12.3/4.4/2.5	ナデ・削り/ナデ/削り	橙~黒褐/橙	赤・長	65	良	6391,7289,7294,7297	歪み大
57	33竪	3	土師	坏	平安	(14.4)/(6.3)/3.3	ナデ・削り/ナデ/削り	浅黄橙	赤・長	35	良	6354	
57	33竪	4	土師	坏	平安	-/6.0/-	ナデ・削り/ナデ/糸切り・削り	黄橙/橙	長・赤	25	良	6355	
57	33竪	5	土師	坏	平安	(12.2)/(6.0)/3.5	ナデ/ナデ/糸切り	橙	赤・長	15	良	6178,一括	
57	33竪	6	土師	坏	平安	12.9/4.4/4.3	ナデ/ナデ/糸切り	橙	赤	90	良	6303,6351,一括	歪みあり
57	33竪	7	土師	皿	平安	(12.8)/(5.5)/2.5	ナデ/ナデ/糸切り	橙	赤・長	25	やや良	6206,6208,一括	
57	33竪	8	土師	皿	平安	(12.4)/(5.6)/2.7	ナデ/ナデ/糸切り	橙	赤	20	良	7301	外面薄く黒変
57	33竪	9	土師	皿	平安	(13.2)/5.6/2.6	ナデ/ナデ/糸切り	橙	赤	25	良	6173,6301,6207	
57	33竪	10	土師	皿	平安	(12.5)/6.3/3.3	ナデ/ナデ/糸切り	橙	赤・長	60	良	6404	
57	33竪	11	土師	皿	平安	(12.2)/(5.2)/2.3	ナデ/ナデ/糸切り	鈍い黄橙	赤	25	良	一括	
57	33竪	12	土師	皿	平安	(13.2)/(6.0)/2.9	ナデ/ナデ/糸切り	橙/鈍い橙	赤・長	20	良	7388	
57	33竪	13	土師	坏	平安	(13.7)/-/-	ナデ/ナデ/	橙	長・赤・雲母	30	良	5153	
57	33竪	14	須恵	蓋	奈良?	(21.8)/-/	ナデ/ナデ/-	灰	密	13	良	6400	
57	33竪	15	緑釉	皿	平安	-/(8.0)/	ナデ/ナデ/高台	オリーブ黄	灰白	-	良	7304	内外面施釉
57	33竪	16	土師	小形甕	平安	(11.4)/-/-	ナデ/ナデ/	橙	長・石・赤	-	良	6264	
57	33竪	17	土師	小形甕	平安	(15.4)/-/-	ハケメ/ハケメ/-	橙/黒褐	長・雲		良	6192	内面黒変
57	33竪	18	土師	小形甕	平安	(17.2)/ /	ハケメ/ハケメ/-	明褐/明褐~黒褐	長・石・赤	-	良	7284,7577	
57	33竪	19	土師	羽釜	平安	(23.6)/-/-	ハケメ/ハケメ/-	赤褐	長・雲	-	良	6179,6375	外面薄く黒変
57	33竪竈	20	土師	羽釜	平安	(30.0)/-/-	ハケメ/ハケメ/	鈍い橙	雲・長		良	竈7576	内外面薄く黒変
58	33竪	21	土師	甕	平安	(29.2)/ /	ハケメ/ハケメ/-	橙	長・石・雲	-	良	6398	内面薄く黒変
58	33竪	22	土師	甕	平安	(43.5)/-/-	ハケメ/ハケメ/-	橙	長・雲	-	良	6389,6399,7286	内外面薄く変色
58	33竪	23	縄文	深鉢	前期	-/-/-	羽状縄文/ナデ/	にぶい赤褐	長・角		良	7299	
58	34竪	1	土師	坏	平安	(12.2)/5.0/3.5	ナデ・削り/ナデ/糸切り・削り	明赤褐	長・赤	40	良	6458	
58	34竪	2	土師	坏	平安	(14.4)/(5.6)/3.7	ナデ・削り/ナデ/削り	鈍い赤褐	長・赤	30	良	床6485	
58	34竪竈	3	土師	坏	平安	13.5/(5.2)/3.65	ナデ・削り/ナデ/削り	明赤褐	長・赤	50	良	竈6471,竈6472	
58	34竪	4	土師	坏	平安	13.8/4.7/4.3	ナデ・削り/ナデ/削り	鈍い橙/明褐~橙	赤・長	100	良	床7426	内面黒変
58	34竪	5	土師	坏	平安	(12.3)/(5.4)/3.7	ナデ・削り/ナデ/削り	明赤褐	長・赤	30	良	6437	内外面薄く変色
58	34竪竈	6	土師	坏	平安	(13.3)/(4.6)/3.7	ナデ・削り/ナデ/削り	橙~明褐/橙	長・赤	30	やや良	竈6473	
58	34竪	7	土師	坏	平安	(15.0)/-/-	ナデ・削り/ナデ/-	赤褐	長・赤	25	良	6185	
58	34竪竈	8	土師	坏	平安	(14.2)/5.8/5.1	ナデ・削り/ナデ/糸切り・削り	鈍い赤褐	長・赤	40	良	竈6474,竈6476	内外面薄く変色
58	34竪	9	土師	坏	平安	(14.7)/-/-	ナデ・削り/ナデ/	橙/黒褐	長・石・赤	30	良	床6482	内面黒色
58	34竪	10	土師	坏	平安	(15.5)/-/-	ナデ・削り/ナデ/-	明赤褐/黒褐	長・赤・石	20	良	床7320	内面薄く黒変
58	34竪	11	土師	坏	平安	14.1/6.5/4.5	ナデ/ナデ/糸切り	橙/黒	長・石・赤	70	良	6260,6422,6423,6424,6426	内面黒色
58	34竪	12	土師	坏	平安	-/6.9/-	ナデ/ナデ/糸切り	鈍い橙/黒褐	赤・長・石	40	良	6429	内面薄く黒変
58	34竪竈	13	土師	皿	平安	(11.3)/5.9/2.8	ナデ/ナデ/糸切り	橙/鈍い橙	赤・長	45	良	竈6476	内面変色
58	34竪	14	土師	皿	平安	(12.5)/4.5/2.1	ナデ/ナデ/糸切り	橙	赤・石・長	50	良	床6481	底部に歪み
58	34竪	15	土師	坏	平安	(12.0)/(5.2)/4.0	ナデ/ナデ/糸切り	橙	赤・雲母	20	良	6435	
58	34竪	16	土師	坏	平安	(12.8)/(6.0)/4.0	ナデ/ナデ/糸切り	橙	赤・雲母	25	良	6128	
58	34竪	17	土師	坏	平安	13.7/6.4/4.0	ナデ/ナデ/糸切り	浅い赤褐	赤・長・雲	70	良	7427	内外面薄く変色
58	34竪	18	土師	皿	平安	12.0/4.6/2.6	削り・ナデ/ナデ/削り	黄~赤褐	赤・長・石	70	良	6466	内面汚れ
58	34竪	19	土師	坏	平安	11.9/4.4/2.3	削り・ナデ/ナデ/削り	明赤褐	赤・長・雲	60	良	7312	内面汚れ(タール?)
58	34竪	20	土師	皿	平安	(11.8)/(4.8)/2.0	ナデ/ナデ/糸切り	鈍い赤褐	長・赤・雲	25	良	床7407	内外面変色
58	34竪	21	土師	皿	平安	(11.6)/(5.1)/2.6	ナデ/ナデ/糸切り	鈍い赤褐	長・赤	20	良	6464	内外面薄く変色
58	34竪	22	土師	皿	平安	15.6/6.3/2.6	ナデ/ナデ/糸切り	橙	赤	70	良	床6488	外面薄く変色
58	34竪竈	23	土師	坏	平安	12.0/5.9/3.3	ナデ/ナデ/糸切り	鈍い黄橙	長・石・赤・雲	100	良	竈6792	歪み大
58	34竪	24	土師	甕	平安	26.5/ /	ハケメ/ハケメ/-	明赤褐	長・雲・石	40	良	7411,7419	外面一部黒変
58	34竪	25	土師	甕	平安	(19.5)/-/-	ハケメ/ハケメ/-	赤褐	長・雲・石	-	やや良	床7325,床6324	
58	34竪竈	26	土師	鉢系甕	平安	-/-/-	ハケメ/ハケメ/ナデ	黒赤褐	雲・長		良	竈7415,竈7563	内外面黒変
59	34竪	27	土師	甕	平安	(30.0)/ /	ハケメ/ハケメ/-	暗褐	長・雲	-	良	7401	内外面薄く変色
59	34竪	28	土師	甕	平安	(27.0)/-/-	ハケメ/ハケメ/-	暗褐	長・雲	-	良	6268	内外面変色
59	34竪竈	29	土師	羽釜	平安	24.0/-/-	ハケメ/ハケメ/-	赤褐	長・雲	30	良	竈7416,竈7421,竈7420	内面変色
59	34竪	30	土師	鉢系甕	平安	(31.5)/-/-	ハケメ/ハケメ/-	黄橙/暗褐	雲・長	20	良	6293,6290,6296,6331,6445	内外面変色
59	36竪	1	土師	坏	平安	(12.6)/(4.4)/3.2	ナデ・削り/ナデ/削り	黄橙/橙	赤	30	やや不良	6677	
59	36竪	2	土師	坏	平安	12.8/5.0/3.5	ナデ・削り/ナデ/削り	黄橙	長・赤	90	良	6677,6678,一括	外面薄く黒変
59	36竪	3	土師	坏	平安	(10.8)/(6.0)/3.7	ナデ/ナデ/糸切り	黄橙	長・赤	30	やや良	6677,6678,6680,一括	
59	36竪	4	土師	坏	平安	12.3/(7.2)/3.2	ナデ/ナデ/糸切り	黄橙	赤	40	良	6664,一括	
59	36竪	5	土師	坏	平安	(12.2)/5.2/3.3	ナデ/ナデ/糸切り	橙	長・赤	60	良	5022,5020,5078	口唇部油煙付着
59	36竪	6	土師	坏	平安	11.7/5.4/3.5	ナデ/ナデ/糸切り	黄橙	長・赤	90	良	6677,6681,6682,6683,一括	
59	36竪	7	土師	坏	平安	12.1/5.9/3.9	ナデ/ナデ/糸切り	橙	長・赤	80	やや良	6624,6665	
59	36竪	8	土師	坏	平安	13.5/6.6/-	ナデ/ナデ/糸切り	橙/黒	雲・赤	100	良	6680	内面黒変(油煙)
59	36竪	9	土師	坏	平安	13.8/6.4/4.4	ナデ/ナデ/糸切り	橙	長・赤	50	良	6676,6677,一括	
59	36竪	10	土師	皿	平安	(13.2)/5.0/2.4	ナデ/ナデ/糸切り	橙	長・赤	40	良	6679,一括	
59	36竪	11	土師	皿	平安	12.0/5.2/2.5	ナデ/ナデ/糸切り	橙	赤・雲	70	良	5020	
59	36竪	12	土師	甕	平安	(38.0)/ /	ハケメ/ハケメ/-	明赤褐/暗褐	長・雲	-	良	6637	内面変色、外面黒斑
59	36竪	13	土師	甕	平安	(29.0)/-/-	ハケメ/ハケメ/-	赤褐/黒	長・雲	-	良	6652,6685,6686,6687	内面黒変

図版	地点	№	種別	器種	時期	口/底/高cm	整形技法 外/内/底	色調 外/内	胎土	残存率%	焼成	注記	備考
59	36溝	14	灰釉	壺	平安	-/(17.0)/-	削り・ナデ/ナデ/貼付	灰白	密	-	良	5017	
60	36溝	15	土師	羽釜	平安	(23.8)/-/-	ハケメ/ハケメ/-	赤褐	長・雲	-	良	6688	内面薄く黒変
60	36溝	16	土師	甕	平安	-/9.5/-	ハケメ/ハケメ/木葉痕	褐色/黒褐	長		良	5019	内面黒変、炭化付着
60	36溝	17	土師	小形甕	平安	(16.5)/ /	ハケメ/ハケメ/-	褐	長・角	-	良	6647	
60	37溝	1	土師	坏	平安	(15.0)/6.0/3.3	ナデ・削り/ナデ/糸切り・削り	鈍い赤褐	長・赤・石	40	良	6743	
60	37溝	2	土師	坏	平安	(15.0)/-/-	ナデ・削り/ナデ/	橙	長・赤	20	良	7036	
60	37溝	3	土師	坏	平安	(15.8)/ /	ナデ・削り/ナデ/	灰褐色	長・赤	50	やや良	一括	
60	37溝	4	土師	坏	平安	(15.0)/-/-	ナデ・削り/ナデ/-	黄橙	赤・雲母	20	良	6744,一括	
60	37溝	5	土師	坏	平安	(13.0)/(6.0)/3.3	ナデ・削り/ナデ/削り	鈍い赤褐	赤・雲・長	10	良	29	外面一部黒斑
60	37溝	6	土師	坏	平安	(13.0)/ /	ナデ・削り/ナデ/-	明赤褐	赤・長	10	良	15	
60	37溝	7	土師	坏	平安	(14.0)/-/-	ナデ・削り/ナデ/-	橙/黒	赤・長・雲母	20	良	20	内黒
60	37溝	8	土師	鉢	平安	-/9.0/-	ナデ・削り/ナデ/削り	明赤褐/黒	赤・長	20	良	6695,6697	内黒
60	37溝	9	土師	坏	平安	13.0/5.7/3.5	ナデ/ナデ/糸切り	鈍い橙	赤・長・雲母	90	良	7026,7266	内外面黒変
60	37溝	10	土師	坏	平安	(13.3)/6.1/4.4	ナデ/ナデ/糸切り	暗褐～黒	黒・長・赤	50	やや良	6739	内外面黒変
60	37溝	11	土師	坏	平安	14.0/7.0/4.3	ナデ/ナデ/糸切り	橙	雲母	80	良	7021	外面薄くスス
60	37溝	12	土師	坏	平安	(15.0)/6.1/4.7	ナデ/ナデ/糸切り	橙	赤・長	50	良	6989	
60	37溝	13	土師	坏	平安	14.4/6.7/4.7	ナデ/ナデ/糸切り	橙	赤・長	60	良	7023,7068	
60	37溝	14	土師	皿	平安	13.0/6.6/2.2	ナデ/ナデ/糸切り	橙/橙～黄	雲・長	50	やや良	6733,6962	
60	37溝	15	土師	皿	平安	12.6/6.0/2.8	ナデ/ナデ/糸切り	橙	赤	50	良	7268	
60	37溝	16	土師	皿	平安	10.9/5.1/2.5	ナデ/ナデ/糸切り	橙	赤	100	良	6699	歪み大、外面薄くスス
60	37溝	17	土師	皿	平安	(12.4)/(5.2)/1.8	ナデ/ナデ/糸切り	灰橙/橙	赤・雲	30	良	5039	内面薄く黒変
60	37溝	18	土師	皿	平安	(11.6)/6.0/2.5	ナデ/ナデ/糸切り	橙	長・赤	25	良	7007	外面薄く黒変
60	37溝	19	土師	小形坏	平安?	(8.4)/4.4/5.3	ナデ/ナデ/木葉痕?	橙	長・雲	40	良	3,4	
60	37溝	20	灰釉	壺	平安	(17.0)/ /	ナデ/ナデ/-	灰	密	-	良	6959	灰釉
60	37溝	21	灰釉	壺	平安	-/-/-	ナデ・削り/ナデ/-	灰	密	-	良	6961,6974,6981	施釉
60	37溝	22	土師	羽釜	平安	(22.8)/-/-	ハケメ/ハケメ・指頭痕/-	黒褐	長・雲・石・赤	30	良	1	内外面黒変
61	37溝	23	土師	羽釜	平安	(26.7)/ /	ハケメ/ハケメ・指頭痕/-	明赤褐～黒褐	長・雲・赤	50	良	6970,7027	内外面黒変
61	37溝	24	土師	鉢	平安	(38.4)/-/-	ハケメ/ハケメ/-	暗褐/赤褐	長・雲・石	30	良	6746,6764,6765,6975,7267	外面黒変
61	37溝	25	土師	小形甕	平安	(13.2)/-/-	ハケメ/ナデ/-	赤褐	雲・長	20	良	6973,6977	内外面薄く黒変
61	37溝	26	土師	小形甕	平安	10.2/6.6/8.6	ナデ・削り/ナデ/削り	鈍い黄橙～黒	雲母・赤	95	良	7028	内外面黒変、外面スス
61	37溝	27	灰釉	瓶	平安	(15.0)/-/-	ナデ/ナデ/-	灰白	密	-	良	一括	転用硯
61	37溝	28	灰釉	皿	平安	-/(7.2)/-	ナデ/ナデ/-	灰白	密		良	6954	
61	37溝	29	灰釉	椀	平安	-/(8.4)/	ナデ/ナデ/付け高台	灰白	密	-	良	6964	
61	37溝	30	須恵	坏	古墳	-/(11.0)/3.7	削り・ナデ/ナデ/-	灰	密	-	良	6948	
61	38溝	1	弥生	壺	弥生後	(19.2)/-/-	ハケメ・縄文・櫛描/ハケメ・縄文・磨き/-	明赤褐	長・角・雲・石	-	良	床7216,7230,7231,45溝一括	
61	38溝	2	弥生	甕	弥生後	-/-/-	櫛描文・条線/ハケメ/-	灰褐/鈍い褐	長・石・角	-	良	床7225	内外面薄く黒変
61	38溝	3	弥生	鉢?	弥生	-/5.2/-	磨き/磨き/ナデ	橙褐	赤・長	-	良	床7214	内外面赤彩
61	39溝	1	土師	坏	平安	(12.1)/6.0/2.8	ナデ/ナデ/糸切り	明赤褐～黒	赤・雲母	50	良	7236	外面黒斑、内面黒変
61	39溝	2	土師	坏	平安	(11.9)/5.0/3.8	ナデ/ナデ/糸切り	黄橙	赤	55	不良	6843,6846,一括	
61	39溝	3	土師	坏	平安	11.5/6.0/3.6	ナデ/ナデ/糸切り	明黄褐～黒	雲母	100	良	7239	底部黒斑
61	39溝	4	土師	坏	平安	(12.4)/4.4/5.7	ナデ・削り/ナデ/削り	橙	長・赤	10	やや良	一括	
61	39溝	5	土師	坏	平安	(15.1)/ /	ナデ・削り/黒色、磨き/-	黄橙/黒	長・赤・雲母	30	良	7237,一括	内面黒色
61	39溝	6	土師	坏	平安	15.5/-/5.0	ナデ/ナデ/糸切り	橙	長・雲	85	良	6841,7238,一括	内面一部黒色
61	39溝	7	土師	坏	古墳	12.8/-/4.2	ナデ・削り/ナデ	灰褐	長・赤	60	良	6838	内外面一部黒斑
61	39溝	8	灰釉	小瓶	平安	-/10.0/	ナデ/ナデ/糸切り	灰	長	30	良	6644	外面施釉
62	39溝	9	須恵	甕	平安	-/-/-	叩き/ナデ/-	灰	長	-	良	6836,6842	内面スス付着
62	40溝	1	土師	坏	平安	(12.6)/7.0/3.6	ナデ/ナデ/糸切り	黄橙	赤	50	やや不良	6828	
62	40溝	2	土師	坏	平安	(13.0)/6.0/4.0	ナデ/ナデ/糸切り	橙	赤・雲	60	良	7145	外面薄く黒変
62	40溝覆	3	土師	坏	平安	(13.6)/(5.6)/4.1	ナデ/ナデ/糸切り	橙	赤	20	やや不良	覆7429	内面黒色
62	40溝	4	土師	坏	平安	12.4/6.0/3.7	ナデ/ナデ/糸切り	鈍い黄橙	赤・長鉄	20	やや不良	7144	
62	40溝	5	土師	坏	平安	(13.2)/5.6/3.9	ナデ/ナデ/糸切り	明黄褐	赤	30	やや良	7141	内外面薄く黒変
62	40溝	6	土師	坏	平安	(14.8)/(5.0)/4.8	ナデ/ナデ/糸切り	橙/黒褐	長・赤	40	良	7147	内面黒色、外面黒斑
62	40溝	7	土師	坏	平安	12.0/5.0/4.5	ナデ/ナデ/糸切り	灰黄褐～黒褐	赤	60	良	6809,7043	内外面黒色、歪みあり
62	40溝	8	土師	坏	平安	(15.0)/(8.0)/4.9	ナデ/ナデ/糸切り	橙	赤・長	20	良	7145	内面一部黒変
62	40溝覆	9	土師	坏	平安	(15.6)/(7.3)/4.7	ナデ/ナデ/糸切り	橙	黒・赤	30	やや良	覆一括,6619	
62	40溝覆	10	土師	皿	平安	(12.0)/6.0/2.7	ナデ/ナデ/糸切り	黄橙	赤・安・雲	30	良	覆7550	
62	40溝	11	土師	皿	平安	(11.4)/(5.2)/2.2	ナデ/ナデ/糸切り	赤橙	長・雲	30	良	7149	
62	40溝	12	土師	皿	平安	(11.6)/5.2/2.6	ナデ/ナデ/糸切り	明赤褐	赤・長	50	良	7148	内外面薄く黒変
62	40溝	13	灰釉	皿	平安	(12.6)/(7.0)/2.8	ナデ/ナデ/付け高台	灰白	密	25	良	6813	
62	40溝	14	灰釉	皿	平安	-/(8.0)/-	ナデ/ナデ/高台	灰白	密		良	6806	
62	40溝	15	土師	羽釜	平安	(23.0)/-/-	ハケメ/ハケメ/-	黒褐	長・石・雲	-	良	7136	内外面黒変
62	40溝	16	土師	羽釜	平安	(25.2)/-/-	ハケメ/ハケメ/	灰黄褐～黒褐	長・雲		良	7146,47,覆7546,覆7551	
62	40溝	17	土師	羽釜	平安	(22.2)/-/-	ハケメ/ハケメ/-	暗褐/鈍い褐	長・雲	-	良	6832	外面黒変
62	40溝	18	土師	羽釜	平安	(22.0)/ /	ハケメ/ハケメ/-	暗褐	長・雲	-	良	7473	内外面黒変色、おこげ付着
63	41溝	1	土師	坏	平安	(12.4)/4.0/3.4	ナデ・削り/ナデ/削り	橙	雲・長	55	良	7087,一括	内面タール付着
63	41溝	2	土師	坏	平安	(13.4)/5.2/3.9	ナデ・削り/ナデ/削り	明赤褐	赤・長	40	良	6946	
63	41溝	3	土師	坏	平安	(14.2)/(6.0)/3.9	ナデ・削り/ナデ/削り	明赤褐	赤・長	40	良	7120,一括	内外面薄く黒変
63	41溝覆	4	土師	坏	平安	15.9/5.9/4.1	ナデ・削り/ナデ/削り	橙赤褐	赤・長	60	良	覆7435	内外面黒変
63	41溝	5	土師	坏	平安	(14.1)/4.3/4.5	ナデ・削り/ナデ/削り	鈍い赤褐	長・赤・石	30	良	7540	内外面薄く黒変
63	41溝	6	土師	坏	平安	15.9/5.5/5.8	ナデ・削り/ナデ/糸切り	橙褐	長・石・赤	60	良	7126	内外面薄く黒変
63	41溝	7	土師	皿	平安	(12.6)/4.4/2.3	ナデ・削り/ナデ/糸切り・削り	明赤褐	赤・雲	60	良	7106,7107	内面一部スス
63	41溝	8	土師	皿	平安	12.9/4.6/3.1	ナデ・削り/ナデ/削り	黄橙	長・赤	50	やや良	6862,6863	口縁部に煤付着
63	41溝	9	土師	皿	平安	(13.1)/(4.0)/2.6	ナデ・削り/ナデ/削り	明赤褐	赤・長	40	良	7076	
63	41溝	10	土師	皿	平安	13.0/5.2/3.1	ナデ・削り/ナデ/削り	明赤褐	赤・長	100	良	7128	
63	41溝	11	土師	坏	平安	-/5.0/(3.8)	ナデ・削り/ナデ/削り	黄橙/橙	赤・長・雲	40	良	6761,6751	外面黒変
63	41溝	12	土師	坏	平安	12.9/7.0/4.0	ナデ/ナデ/糸切り	橙	赤・長・石	60	やや不良	7131,7184	内外面薄く変色
63	41溝覆	13	土師	坏	平安	12.8/6.8/4.2	ナデ/ナデ/糸切り	橙褐	赤・長	80	やや良	7428,一括	歪み大
63	41溝B	14	土師	坏	平安	12.3/6.0/3.7	ナデ/ナデ/糸切り	明赤褐	赤・長	100	良	床7366	一部黒斑
63	41溝	15	土師	坏	平安	12.9/2.4/4.0	ナデ/ナデ/糸切り	暗黄橙	雲・長	100	良	7127	内外面黒変
63	41溝B	16	土師	坏	平安	(12.8)/5.6/3.5	ナデ/ナデ/糸切り	赤橙	黒・雲	50	良	床7360	一部黒斑
63	41溝	17	土師	坏	平安	14.6/7.7/5.0	ナデ/ナデ/糸切り	橙～黒/黒	赤・長	100	良	7130	内面黒色、外面黒斑
63	41溝B	18	土師	坏	平安	-/6.2/	ナデ/ナデ/糸切り	明赤褐	雲・赤	20	やや良	7252,7355	一部黒斑
63	41溝	19	土師	皿	平安	11.9/5.7/2.2	ナデ/ナデ/糸切り	黄橙	赤・雲	90	良	7075	低部歪み
63	41溝	20	土師	皿	平安	(11.8)/(5.0)/2.3	ナデ/ナデ/糸切り	鈍い橙	雲母	40	良	6712	内外面薄く黒変
63	41溝	21	土師	皿	平安	11.7/5.2/2.7	ナデ/ナデ/糸切り	赤褐	長・石	100	良	7121,一括	
63	41溝	22	土師	皿	平安	(11.8)/5.5/2.2	ナデ/ナデ/糸切り	橙・黒褐	赤多	40	良	7084	内外面変色
63	41溝B	23	土師	皿	平安	(12.8)/4.5/2.4	ナデ/ナデ/糸切り	明橙	赤	40	やや不良	7353,床7363,一括	

図版	地点	No.	種別	器種	時期	口/高/底cm	整形技法 外/内/底	色調 外/内	胎土	残存%	焼成	接合	備考
63	41竪	21	土師	皿	平安	(12.8)/6.6/2.35	ナデ・ナデ/糸切り	黄橙	雲・赤	60	やや良	7108,7113	
63	41竪覆	25	土器	羽釜	平安	(22.8)/-/	ハケメ/ハケメ/	鈍い褐/黒褐	長・雲・石	-	良	7433	
63	41竪竈	26	土師	羽釜	平安	(23.0)/-/-	ハケメ/ハケメ/-	褐色	長・雲	-	良	7545	内外面黒変
63	41竪B	27	土師	羽釜	平安	(23.2)/-/-	ハケメ/ハケメ/-	灰褐	長・雲・石		良	7369	
63	41竪	28	土師	羽釜	平安	(22.4)/-/-	ハケメ/ハケメ/-	橙褐	長・雲	-	良	7110	内外面黒変、外面炭付着
64	41竪竈	29	土師	甕	平安	(30.0)/-/-	ハケメ/ハケメ/-	赤褐	雲・長	-	良	竈7114,覆7129,竪7430,覆7544,7115	外面粘土付着、内面炭化物付着
64	41竪	33	土師	小形甕	平安	(16.4)/-/-	ハケメ/ハケメ/-	赤褐	長・雲	-	良	6860,6861,7100	内外面薄く黒変
64	41竪B	34	土師	小形甕	平安	(16.6)/-/	ハケメ/ハケメ/	赤褐/黒褐	長・雲・石	-	良	7259	内外面変色
64	41竪	32	陶器	瓶子壺	平安?	(11.5)/-/-	ナデ/ナデ/-	灰	密	-	良	7034	
64	41竪	33	須恵	盤	平安?	-/13.5/-	叩き/当て具・ナデ/未調整	灰	白		良	6948,7129,一括	
64	41竪	34	須恵	小壺	平安?	-/-/-	ナデ/ナデ/-	灰	密	-	良	7119	
64	41竪	35	須恵	盤	平安	-/(3.8)/-	ナデ/ナデ/糸切り	暗灰/灰白	長	-	良	7249	
64	41竪	37	灰釉	小壺	平安	-/0.4/-	ナデ/ナデ/糸切り	暗灰/灰白	長	90	良	5061	
64	41竪	38	灰釉	長頸瓶	平安	-/-/-	ナデ/ナデ/-	灰		-	良	6859,6864	外面施釉
64	41竪	39	灰釉	瓶	平安	-/19.4/-	ナデ・削り/ナデ/貼付高台	灰		-	良	7037,7039	外面施釉
64	42竪	1	土師	皿	平安	(1_.6)/(6.0)/2.2	削り・ナデ/ナデ/糸切り	橙	赤・長	20	良	7018	
64	42竪	2	土師	皿	平安	(10.5)/(5.0)/2.2	削り・ナデ/ナデ/糸切り	橙	赤	15	良	一括	
64	42竪	3	土師	椀	平安	(12.2)/(4.0)/3.1	削り・ナデ/ナデ/削り	橙/黄橙	赤・長	20	良	7088	
64	42竪	4	土師	皿	平安	11.9/6.6/2.7	削り・ナデ/ナデ/削り	赤橙	赤多・長	30	良	7183	内外面薄く黒変
64	42竪	5	土師	坏	平安	11.5/(5.2)/3.2	ナデ/ナデ/糸切り	橙	赤・長	30	良	6794	口縁部にスス、底部2重の糸切り痕
64	42竪	6	土師	坏	平安	11.6/5.0/3.3	ナデ・ヘラ削り/ナデ/糸切り	橙	雲・長	50	良	7181	
64	42竪	7	土師	坏	平安	(15.4)/6.0/5.0	削り・ナデ/ナデ/削り	鈍い橙/黒褐	長・赤	30	良	7017・7050	内面黒色
64	42竪	8	土師	坏	平安	13.0/5.0/3.5	ナデ/ナデ/糸切り	鈍い橙	赤・長	100	良	7025	内外面黒色
64	42竪竈	9	土師	坏	平安	(12.1/6.7/4.1	ナデ/ナデ/糸切り	鈍い橙/橙	長・雲	90	良	竈7532	内外面薄く黒変
64	42竪	10	土師	皿	平安	(12.1)/5.7/2.3	ナデ/ナデ/糸切り	鈍い赤橙	赤・長	65	やや良	7183	内外面スス
64	42竪	11	土師	皿	平安	12.0/5.3/2.6	ナデ/ナデ/糸切り	黄橙	赤・長	90	良	7165	
64	42竪	12	土師	皿	平安	(11.4)/(5.0)/3.0	ナデ/ナデ/糸切り	橙	赤・長	30	良	7386	口縁部油煙付着
64	42竪	13	土師	坏	平安	(13.2)/(7.0)/3.1	ナデ/ナデ/糸切り	橙	赤・長・石	45	良	7092,7096	
64	42竪	14	土師	皿	平安		ナデ/ナデ/糸切り	明褐	赤・長	50	良	37竪7011	
64	42竪竈	15	土師	坏	平安	13.5/6.4/3.6	ナデ/ナデ/糸切り	橙	赤・長	70	良	竈	底部にゆがみ
64	42竪	16	土師	坏	平安	(13.0)/(5.0)/2.8	ナデ/ナデ/糸切り	橙	長・石・赤	70	良	7101	
64	42竪	17	土師	坏	平安	12.9/7.4/3.8	ナデ/ナデ/糸切り	明褐	長・赤	100	良	7024	底部にゆがみ
64	42竪	18	土師	坏	平安	(12.0)/-/-	ナデ/ナデ/糸切り	橙	長・石・赤	15	良	7151	
64	42竪	19	土師	皿	平安	(12.6)/6.0/2.5	ナデ/ナデ/糸切り	橙	赤	30	良	一括	
64	42竪	20	土師	高台坏	平安	-/(6.0)/	ナデ/ナデ/高台	橙	赤・雲・長	20	やや不良	7174	内面タール付着
64	42竪	21	灰釉	椀	平安	-/(10.0)/-	ナデ/ナデ/高台	灰白	密	10	良	7175	
65	42竪覆	22	灰釉	椀	平安	-/6.8/-	ナデ/ナデ/高台	灰白	やや粗	10	良	覆7437,41竪7095	
65	42竪	23	緑釉	皿	平安	-/(8.3)/	ナデ/ナデ/高台	オリーブ黄	密	30	良	6885,7072,7153	
65	42竪	24	緑釉	椀	平安	-/(8.0)/-	ナデ/ナデ/高台	緑	密	30	良	7013,7015	
65	42竪	25	灰釉	皿	平安	-/(6.8)/-	ナデ/ナデ/付け高台	灰白	密		良	6821	
65	42竪	26	土師	甕	平安	(29.4)/-/-	ハケメ/ハケメ/-	橙褐/明褐	長・雲・石	-	良	7179,7205	
65	42竪	27	弥生	高坏	弥生	-/-/-	条痕文・磨き/ナデ/-	黄橙	長・赤・雲・石	-	良	6891	
65	42竪	28	弥生?	甕	弥生?	(14.0)/-/	ハケメ・ナデ/ハケメ・ナデ/-	橙褐	長・赤・雲・石	20	良	6804	内外面変色
65	42竪	29	弥生	甕	弥生末	(25.3)/-/-	ハケメ・刻み/ハケメ/-	鈍い橙	長・雲	-	良	6800,5081	外面黒変
65	42竪	30	灰釉陶器	椀	平安	-/(17.2)/-	ナデ/ナデ/高台	灰白	やや密	-	良	7160	
65	43竪	1	土師	坏	平安	(14.2)/-/(4.3)	ナデ・削り/ナデ/	明赤褐	赤・長・石	20	良	7374	
65	43竪	2	土師	坏	平安	(11.1)/(3.8)/4.5	ナデ/ナデ/糸切り	橙	長・雲・石	30	良	7375	
65	43竪	3	土師	皿	平安	(13.0)/(5.0)/2.9	ナデ/ナデ/糸切り	橙〜淡橙	赤・長	40	良	7376	内外面薄く黒変
65	43竪	4	土師	台付甕	古墳	-/(9.3)/	ハケメ・ナデ/ナデ/	浅橙/黒褐	長・赤・石	-	良	7371	内外面薄く黒変
65	43竪	5	土師	甕	古墳?	12.0/5.0/8.3	ナデ・ハケメ/ナデ/[illegible]	鈍い橙	長・赤	100	良	7378	
65	45竪	1	弥生	壺	弥生後	-/13.5/-	波状文・磨き/ハケメ/無文	浅い黄橙/黒〜褐灰	長・赤	40	良	7493,7494,7495,7496,7497,7498,7500,7502,7522,39竪6640	
65	45竪炉	2	弥生	壺	弥生後	-/8.6/-	ナデ・磨き/ナデ/木葉痕	明褐/鈍い橙	長・赤・雲	40	良	炉7624	内面黒変
65	45竪	3	弥生	壺	弥生後	(20.0)/-/-	波状文・ナデ/ナデ/-	にぶい黄橙	雲多・長・赤	-	良	24土6940,45竪7510・7521	内外面変色
66	45竪	4	弥生	壺	弥生後	24.0/7.8/28.7	波状文・簾状文・ナデ/ナデ/ナデ	暗褐/明褐	雲・長・角	90	良	24土6900・6902・6904・6906・6907・6910・6911・6912・6913・6914・6917・6918・6920・6921・6922・6924・6925・6927・6928・6931・6932・6933・6934・6935・6936・6947・7283	内外面黒変
66	45竪	5	弥生	壺	弥生後	(30.0)/-/-	縄文・波状文・沈線/ナデ/-	黒褐/灰黄褐	雲	-	良	24土6919	
66	45竪	6	弥生?	壺	弥生?	(18.0)/-/-	ナデ/ナデ/-	橙〜黒褐	長・雲・石		良	24土6938	
66	45竪	7	土師	台付甕	古墳前	-/8.5/-	ハケメ/ナデ/	浅黄橙	長多・雲	-	良	24土6901	
66	45竪	9	弥生	壺	弥生後	-/-/	沈線/磨き/	橙	雲	-	良	25土6852	
66	45竪	10	弥生	壺	弥生後	-/-/-	沈線/磨き/-	暗赤褐	雲	-	良	一括	
66	45竪	11	弥生	壺	弥生後	-/-/-	波状文/ナデ/-	赤橙	雲・長・角		良	24土6927	
66	45竪	12	弥生	壺	弥生後	-/-/-	簾状文・条痕文/ナデ/-	浅赤橙	雲・角	-	良	一括	内外面黒変
66	46竪	1	土師	皿	平安	(11.0)/5.4/2.6	ナデ/ナデ・削り/糸切り・削り	黄褐/橙褐	長・赤	35	良	7451,一括	
66	46竪	2	土師	坏	平安	12.6/5.6/4.1	ナデ/ナデ/糸切り	鈍い黄橙	雲・長	70	やや良	7446,7450,7465	器面荒れ
66	46竪	3	土師	坏	平安	(11.0)/5.0/3.6	ナデ/ナデ/糸切り	浅黄橙	長・赤	35	良	7458	
66	46竪	4	土師	皿	平安	(11.5)/5.4/2.5	ナデ/ナデ/糸切り	灰橙/黄橙	長・石・赤	30	良	7460	
66	46竪	5	弥生	壺	弥生	-/-/-	沈線/ナデ/-	明赤褐/灰褐	長・雲・角・石	-	良	一括	
66	46竪	6	弥生	壺	弥生	-/-/-	沈線/ナデ/-	鈍い橙/橙	長・角		良	一括	
66	47竪竈	1	土師	坏	平安	(14.4)/(7.0)/3.4	ナデ/ナデ/糸切り	明褐	長・雲	20	良	竈7549	内面オコゲ付着
66	47竪覆	2	土師	坏	平安	-/(7.2)/	ナデ/ナデ/糸切り	鈍い褐/黒褐	長・雲	30	良	覆7474,7476,7547	内面黒色
67	11土	2	陶器	小皿	近世					100	良		灯明皿か
67	1号周溝墓	1	弥生	壺	弥生後	16.2/8.4/35.3	縄文・円文・隆帯文・磨き/ハケメ・ナデ/無文	橙	長・赤・雲	60	良	25	内外面赤彩
67	1号周溝墓	2	弥生	壺	弥生後	/9.0/	ナデ・縄文/ハケメ・ナデ/ナデ	明黄褐/鈍い橙	長・石・赤	70	やや良	38	内外面に赤彩
68	1号周溝墓	3	弥生	壺	弥生後	(30.0)/-/-	波状文・ハケメ/ハケメ/	橙	雲多・長	30	良	39	外面スス付着
68	1号周溝墓	4	弥生	甕	弥生	(16.8)/-/	ハケメ/ナデ・ハケメ/	黒褐/暗褐	雲・長・石	-	良	30	外面スス付着
68	1号周溝墓	5	弥生	甕	弥生	(15.0)/-/-	ハケメ・刻み/ナデ/-	橙	長・石・雲	-	良	13	
68	1号周溝墓	6	土師	台付甕	古墳前	-/-/-	ハケメ/ナデ/-	灰黄褐/明褐	長・赤	-	良	一括	
68	1号周溝墓	7	弥生	壺	弥生末	(36.0)/-/	ハケメ・貼帯/ナデ/	橙/橙〜黒	長・石・赤	-	良	14	
68	1号周溝墓	8	弥生	壺	弥生後	(18.4)/9.2/-	波状文・円文・磨き/ナデ/無文	赤橙	長・雲	70	良	5,8,10,14〜16,外	

図版	地点	№	種別	器種	時期	口/底/高cm	整形技法 外/内/底	色調 外/内	胎土	残存率%	焼成	注記	備考
69	1号周溝墓	9	弥生	壺	弥生	-/9.9/-	ナデ・磨き/ナデ/無文	明赤褐	長・石・雲	30	良	4,25,34,35,36,43,一括	
69	1号周溝墓	13	土師質	[illegible]	中世	(36.6)/ /	ナデ/ナデ・指頭/-	橙	雲・長	—	やや良	一括C 6 一括	
69	3号周溝墓	1	弥生	壺	弥生後	15.0/-/-	ハケメ・ナデ/ナデ/	灰~褐灰	長多・石・赤	60	不良	21	
69	3号周溝墓	2	弥生?	甕	弥生末	18.2/7.9/27.9	ナデ・磨き/ナデ/ナデ	にぶい黄橙	長・赤・石	50	良	394,471	
69	3号周溝墓	3	弥生	壺	弥生	(31.0)/-/-	ハケメ・櫛文・刻み/櫛文・ハケメ・ナデ/-	黄橙	長・石・赤・黒		良	5,22,11,12,15,23,24,27	
69	3号周溝墓	4	弥生	壺	弥生	(16.0)/-/-	ハケメ・櫛文・刻み/櫛文・磨き/	明赤褐/褐橙	赤・長・赤	—	良	4	外面一部スス付着
69	3号周溝墓	5	弥生	小形台付甕	弥生末	9.9/(7.3)/14.5	刻み・ハケメ/ハケメ・ナデ/ナデ	明赤褐~褐橙	長・石・黒	90	良	25	外面被熱により変色
69	3号周溝墓	6	弥生	壺	弥生末	(21.8)/-/-	ハケメ・刻み/ハケメ	橙	長・雲・赤		良	657	
69	3号周溝墓	7	弥生?	壺	弥生?	/6.4/	ナデ/ナデ/無文	明褐灰	長・石	—	良	17	
69	3号周溝墓	8	弥生?	壺	弥生?	-/4.7/-	ナデ/ナデ/削り	浅黄橙~黒	雲・長	—	良	8	全体に摩滅
70	4号周溝墓	1	弥生	壺	弥生末	25.6/8.0/26.9	ハケメ・刻み/ハケメ・ナデ/木葉痕?	淡橙	長・石・赤・雲	90	良	21	内外面薄く黒斑
70	4号周溝墓	2	弥生	甕	弥生末	(21.0)/-/-	ハケメ・刻み/ハケメ/-	灰褐/褐	長・赤・雲	—	良	10	
70	4号周溝墓	3	弥生	壺	弥生末	12.4/6.0/20.9	ハケメ/ハケメ・ナデ/無文	黒褐~橙	雲・長	80	良	23	胴部黒斑
70	4号周溝墓	4	土師	甕	平安	(27.8)/-/-	ハケメ/ハケメ/-	黒褐/にぶい橙	長・雲		良	351	外面にスス付着
70	4号周溝墓	5	土師	羽釜	平安	(23.4)/ /	ナデ/ハケメ/-	橙褐	長・雲・石	—	良	7103	
70	4号周溝墓	6	土師	小皿	中世	(7.3)/(4.5)/1.7	ナデ/ナデ/糸切り	橙	長・雲	40	良	一括	
70	5号周溝墓	1	土師	坏	古墳	(13.8)/9.0/6.4	磨き・ナデ/磨き・ナデ/ナデ	灰黄褐	雲・石	60	良	7336	内外面スス?付着
70	5号周溝墓	2	土師	坏	古墳後	(13.0)/ /	ナデ・削り/ナデ/-	にぶい赤褐/にぶい橙	赤・長	10	良	7245	
70	6号周溝墓	1	土師質?	小皿	中世?	8.0/5.0/3.2	ナデ/ナデ/ナデ	橙/黒褐	雲多	完形	やや良	6549	内面黒色、中央[illegible]
70	6号周溝墓	2	土師	S字甕	古墳前	(15.0)/-/-	ハケメ/ナデ/-	にぶい黄橙/灰褐	雲・長・赤		良	5795	外面スス付着
70	6号周溝墓	3	弥生?	甕	弥生?	(13.4)/ /	ハケメ/ナデ/-	灰	長・赤	—	良	5765	被熱により灰色化
70	7号周溝墓	1	土師	坏	古墳	(15.6)/-/-	ミガキ/ミガキ/	灰褐/黄橙	白・黒・赤・雲		良	12,16	内面、少量のスス付着
70	7号周溝墓	2	土師	高坏?	古墳	(25.0)/-/-	磨き/磨き/-	橙~黒褐/黒	長・黒・雲	—	良	4,一括	内面、微量にスス汚れ
70	7号周溝墓	3	弥生	壺	弥生	-/-/-	ハケ/ハケ・刻み/	橙/黒~橙	長・雲	—	良	SD10-3	
71	18土	1	土師	柱状高台皿	平安末	/7.8/-	ナデ/ナデ/糸切り	橙~浅黄橙/黒	雲・赤		良	5776	内面黒色
71	30土	1	土師	坏	平安	(13.0)/(6.0)/4.3	ナデ/ナデ/糸切り	橙	長・角	20	良	7631	内外面油煙?
71	3溝	1	弥生	壺	弥生末	(30.0)/-/-	櫛描・櫛文・刻み/ハケメ/-	黄橙	雲・長・石・角	—	良	5,86外455	
71	8溝	1	土師	坏	平安	12.9/5.3/4.2	ナデ/ナデ/糸切り	橙	雲・赤	60	良	253	内面ウキメ状
71	19溝	1	土師	皿	平安	12.5/7.0/2.2	ナデ/ナデ/糸切り	橙	黄・長・赤	90	やや良	7324,一括	
71	19溝	2	土師	坏	平安	(13.8)/(6.0)/4.0	ナデ/ナデ/糸切り	明赤褐	長・雲・赤	20	良	6594	
71	19溝	3	土師	甕	平安	(16.6)/-/-	ハケメ/ハケメ/-	褐橙	雲多・長		やや不良	5600	
71	20溝	1	土師	皿	平安	(12.0)/6.3/2.8	ナデ/ナデ/糸切り	にぶい橙	長・赤	60	不良	6607	
71	23溝	1	土師	耳皿	平安	4.0/3.6/1.3	ナデ/ナデ/糸切り	明橙	長・雲	60	良	6700	
71	26溝	1	土師	坏	平安	(13.3)/(5.8)/3.8	ナデ・削り/ナデ/糸切り	にぶい赤褐	赤・長・雲	10	良	6721	
71	1河	1	土師	坏	古墳	(10.8)/-/3.8	ナデ・削り/ナデ/削り	赤褐/橙褐	赤・長	20	良	5293	外面黒色
71	1河	2	土師	坏	古墳	(12.0)/-/4.5	削り・ナデ/ナデ/削り	褐	赤・長	55	良	5701	内外面黒色
71	1河	3	土師	坏	古墳	12.7/ /4.2	削り・ナデ/ナデ/削り	黄橙/赤橙	赤	80	良	5700	
71	1河	4	土師	坏	古墳	13.7/8.5/3.4	削り・ナデ/ナデ/削り	橙/赤	赤	70	やや良	5443,5448,一括	内外面赤彩
71	1河	5	土師	坏	古墳	13.7/7.0/3.3	削り・ナデ/ナデ/削り	黒橙	赤・長	80	良	5274	内外面黒彩、内面線刻
71	1河	6	土師	坏	古墳	(15.0)/-/-	ナデ・削り/ナデ/-	明赤褐	赤・長	—	良	一括	内外面赤彩
71	1河3区	7	土師	坏	古墳	(10.9)/-/-	ナデ/ナデ/-	にぶい黄橙	赤・長		良	3区最下層	内外面黒彩か
71	1河	8	土師	坏	古墳	(12.6)/ /	削り・ナデ/ナデ/-	にぶい橙	赤・長	—	良	一括	内外面一部黒変
71	1河	9	土師	坏	古墳?	(11.0)/(7.4)/4.2	削り/ナデ/削り	赤褐	赤・長	20	良	5958	
71	1河	10	土師	坏	古墳?	(11.0)/-/-	削り/ナデ/-	赤褐	赤・長		良	5993	内外面薄く黒色
71	1河	11	土師	坏	平安	(12.1)/(6.0)/3.9	ナデ・削り/ナデ・暗文/削り	橙	赤	20	良	6331	
71	1河	12	土師	皿	平安	(11.8)/3.8/2.3	ナデ・削り/ナデ/糸切り・削り	橙/橙	赤・長	50	良	5108,5109	墨書あり
71	1河	13	土師	皿	平安	12.1/4.3/2.7	ナデ・削り/ナデ/糸切り・削り	明橙	赤・長	70	良	5283,5284,5286,5288	
71	1河	14	土師	坏	平安	(12.4)/5.2/3.3	ナデ/ナデ/糸切り	にぶい橙	赤・雲微	50	良	5446	口縁部歪みあり、外面薄く変色
71	1河	15	土師	坏	平安	(11.5)/6.3/3.7	ナデ/ナデ/糸切り	橙	赤・長	20	良	5463	
71	1河	16	土師	坏	平安	(12.1)/5.1/3.6	ナデ/ナデ/糸切り	にぶい橙	雲・長	45	良	5211,5345	内外面変色
71	1河	17	土師	坏	平安	(10.3)/(5.5)/3.4	ナデ/ナデ/糸切り	にぶい橙/黒	長・赤	30	良	5370	内面黒色
71	1河	18	土師	坏	平安	11.6/6.1/3.6	ナデ/ナデ/糸切り	にぶい橙	長・赤	80	やや不良	5240	
72	1河	19	土師	坏	平安	(13.0)/6.2/4.1	ナデ/ナデ/糸切り	暗橙/黒褐	雲・長	70	良	5091	内外面黒色
72	1河	20	土師	坏	平安	14.1/6.7/4.0	ナデ/ナデ/糸切り	橙	長・雲・赤	70	良	5301	歪み大
72	1河	21	土師	坏	平安	15.1/7.6/4.8	ナデ/ナデ/糸切り	浅黄橙	赤	60	良	5301	
72	1河	22	土師	坏	平安	(14.6)/7.8/3.9	ナデ/ナデ/糸切り	橙	雲・長	45	良	5688,5689,5690,5683	
72	1河	23	土師	坏	平安	(13.0)/(6.0)/4.0	ナデ/ナデ/糸切り	にぶい橙	赤・雲	16	良	5755	内外面薄く変色
72	1河	24	土師	坏	平安	(14.8)/(7.0)/4.7	ナデ/ナデ/糸切り	にぶい橙	赤・長	30	良	5563,5565	
72	1河	25	土師	皿	平安	11.4/5.8/2.2	ナデ/ナデ/糸切り	橙	赤・長	100	良	5311	外面黒斑、内面油煙?
72	1河	26	土師	坏	平安	/5.8/	ナデ/ナデ/糸切り	赤褐/明赤褐	雲・長	30	良	5616	内外面黒色
72	1河	27	土師	高台坏	平安末	-/-/-	ナデ/ナデ/ナデ	明赤褐	雲多・赤	—	良	5708	
72	1河	28	土師	小形鉢	古墳?	11.0/4.2/6.0	ハケメ・ナデ/ハケメ/ナデ	明赤褐	長・雲	75	良	5378	内外面赤彩?
72	1河	29	土師	小形鉢	古墳?	(10.0)/(4.2)/5.3	ナデ/ナデ/ナデ	黄橙/黒~赤橙	長・雲	10	良	5396	
72	1河	30	土師	高坏	古墳	(18.2)/(12.4)/9.0	削り・ナデ/ナデ/ハケメ	明赤褐	雲・赤	70	良	5657	内外面赤彩
72	1河	31	土師	高坏	古墳	(16.8)/-/-	削り・ナデ/ナデ/-	明赤褐	雲多・長	40	やや良	5758	
72	1河	32	土師	高坏	古墳	(19.2)/-/-	削り・暗文/ナデ・暗文	橙/灰橙	赤		良	5634	内面黒色
72	1河	33	土師	高坏	古墳	(12.8)/11.2/9.9	ナデ・削り/ナデ/ハケメ	黄橙/黒	赤	45	良	5125,5126,5129	内面黒色、外面薄く赤彩?
72	1河	34	土師	高坏	古墳	-/(12.6)/-	ナデ/-/ナデ	浅黄	赤・長	50	良	5377	脚に孔3
72	1河	35	土師	高坏	古墳	-/-/-	ナデ/-/ナデ	にぶい橙	長・角	40	良	5625	脚に孔3
72	1河	36	土師	高坏	古墳	/(14.0)/	ナデ/-/ナデ	橙	赤・長	30	良	5803	
72	1河	37	土師	高坏	古墳	-/-/-	ナデ/-/ナデ	明赤褐	長・赤	30	良	5864	脚に3ヶ所の円窓
72	1河	38	土師	高坏	古墳?	-/9.4/-	ナデ・ハケメ/ナデ/ハケメ	明赤褐	雲・長	50	良	5950	内外面赤彩
72	1河	39	土師	高坏	古墳	-/ /-	削り・ナデ/ナデ/ナデ	黒褐橙	雲	10	良	5723	内外面黒色
72	1河	40	土師	高坏	古墳	-/(7.4)/	ナデ/ナデ/ハケメ	明赤褐	赤	30	良	6069	
72	1河	41	土師	高坏	古墳	-/6.2/-	ナデ/ナデ/	浅黄橙	赤	30	やや良	5912	
72	1河	42	灰釉	皿	平安	(13.4)/(6.8)/2.7	ナデ/ナデ/付け高台	灰白	密	20	良	5469	
72	1河	43	灰釉	皿	平安	/(7.8)/	ナデ/ナデ/付け高台	灰白	密	30	良	5517	
72	1河	44	緑釉	椀	平安	(12.4)/-/-	ナデ/ナデ/-	緑	灰	—	良	5268	
72	1河	45	緑釉	皿	平安	-/(7.8)/-	ナデ/ナデ/付け高台	緑	灰		良	5505	内外面、釉
72	1河3区	46	須恵	小形壺	古墳?	-/ /(5.0)	ナデ/ナデ/-	灰	白	—	良	3区ベルト3~6層	
72	1河	47	須恵	坏	古墳	11.1/4.8/4.1	回転削り・ナデ/ナデ/回転削り	灰	密	90	良	5006	

図版	地点	No.	種別	器種	時期	口/底/高cm	整形技法 外/内/底	色調 外/内	胎土	残存率%	焼成	注記	備考
72	1河	48	須恵	蓋	古墳	(10.0)/-/	ナデ/ナデ/-	灰	灰青	-	良	3区サイロ6	
72	1河	49	須恵	蓋	古墳	(9.8)/-/-	ナデ/ナデ/	灰	灰	20	良	5195	
72	1河	50	弥生	壺	弥生	(14.0)/-/-	櫛文・刻み・円文/縄文・ナデ	黄褐/暗灰褐	長・赤・角	-	良	6055,3区最下層	
72	1河	51	土師	甕	古墳?	(12.0)/ /	刻み・ハケメ/ナデ/	橙	長・雲	-	良	5739	内外面薄く変色
72	1河	52	土師	甕	古墳?	(10.0)/-/-	刻み・ナデ/ナデ/-	鈍い橙/明橙	長・赤・石		良	5801	外面薄く変色
73	1河	53	弥生	鉢	弥生後	(18.5)/-/	ハケメ・刻み/ハケメ/	橙	長・雲	-	良	2区ベルト3~8層	
73	1河	54	土師	壺	古墳?	/6.0/-	ナデ・ハケメ/ナデ/木葉痕?	橙~赤橙	長・雲	70	良	5315	内外面赤彩
73	1河	55	土師	台付甕	古墳	-/(8.2)/-	ハケメ/ナデ/ナデ	橙	長・雲		良	5279	
73	1河	56	土師	S字甕	古墳	(16.4)/-/	ハケメ/ナデ/-	明橙	長・雲	-	良	5816	
73	1河	57	土師	S字甕	古墳	(18.0)/-/-	ハケメ/ナデ/	明褐	長・雲	-	良	5036	外面薄く黒変
73	1河	58	土師	S字甕	古墳	(20.0)/-/-	ハケメ/ナデ/-	黒変/鈍い橙	長・赤・石		良	5226	外面スス
73	1河	59	土師	甕	古墳	(24.4)/ /	ハケメ/ハケメ・ナデ/	淡褐/黄褐	雲・長	-	良	3952	内外面赤彩?
73	1河	60	土師	甕	古墳	(15.8)/8.1/19.3	ナデ/ナデ/ナデ	橙	長・雲	70	良	5778	外面黒斑
73	1河	61	土師	甕	古墳	(13.4)/-/-	ナデ/ナデ・指頭圧痕/-	鈍い黄褐/黄褐	長多・角・雲		良	5604	
73	1河	62	土師	甕	古墳	(15.0)/-/	ナデ/ナデ/-	橙~鈍い橙	長・雲・赤	-	良	5264	内外面一部黒変
73	1河	63	土師	甕	古墳	(16.0)/ /-	ハケメ/ナデ/	灰黄褐	長・赤・石	-	やや良	5250	内外面薄く変色
73	1河	64	土師	甕	古墳	(18.0)/-/-	ナデ/ナデ/-	鈍い黄橙	長・雲		良	5708	
73	1河	65	土師	甕	古墳	(21.4)/-/	磨き/磨き/-	橙	長・角・赤	-	良	5243	
73	1河	66	土師	甕	古墳	(24.0)/ /	ハケメ/ハケメ/	橙	長大・赤	-	良	6040	
73	1河	67	土師	甕	古墳	(19.0)/-/-	ナデ/ナデ/-	橙	長・角・赤		良	5824,5856	
73	1河	68	土師	壺	古墳?	(18.0)-/-	ハケメ/ナデ・指頭圧痕/-	鈍い橙	長大・赤	-	やや不良	5759	外面ごく薄く変色
73	1河	69	土師	壺?	古墳?	(20.0)/ /	ハケメ/ナデ/-	鈍い橙	長	-	良	5533	
73	1河	70	土師?	壺?	土師?	/8.5/-	ハケメ・ナデ/ハケメ・ナデ/ナデ	明赤褐	雲・長	-	良	6004	外面薄くスス
74	1河	71	土師	甕	古墳?	20.4/7.0/15.3	ハケメ/ハケメ/網文	橙~黒	赤・長・雲		良	5406	外面黒斑
74	1河	72	土師	甕	古墳	(21.0)/ /	ハケメ/ハケメ/-	明褐	長	-	良	5971	外面黒斑
74	1河	73	土師	甕	古墳	(19.0)/ /-	ハケメ/ナデ/	鈍い黄橙	長	-	良	5128	外面薄く黒変
74	1河	74	土師?	甕	古墳?	(11.0)/-/-	ハケメ/ナデ/-	橙/黄橙	長大・赤		やや良	5378	
74	1河	75	土師	壺	古墳?	(10.4)/-/	ナデ/ナデ/-	鈍い橙	長多・雲	-	やや良	5195	
74	1河	76	土師?	壺	古墳?	(5.0)/ /-	ナデ/ナデ/	鈍い橙	密	-	良	3区最下層	
74	1河	77	土師	丸底壺	古墳	6.3/3.5/5.8	ナデ	橙~黒/黒	長・雲	90	良	5196	内外面黒色
74	1河	78	土師	丸底壺	古墳	-/-/-	ナデ/ナデ/ナデ	赤褐	長・雲	60	良	5655	
74	1河	79	土師	甕	平安	(28.0)/ /-	ハケメ/ハケメ	鈍い赤褐	長・赤・雲	-	良	5508	内面薄く変色
74	1河	80	土師	羽釜	平安	(22.4)/-/-	ハケメ/ハケメ/-	鈍い橙~黒/鈍い	長・赤		良	5599	外面スス付着
74	1河	81	土師	小形甕	平安	(16.6)/-/-	ハケメ/ハケメ/-	橙/黒褐	長・雲	-	良	一括	内面黒変
74	1河	82	土師	小形甕	平安	(17.0)/ /-	ハケメ/ハケメ	暗褐/黒褐	長・雲・赤	-	良	5626	内外面黒変
74	1河	83	土師	小形甕	平安	(16.0)/-/-	ナデ/ハケメ・ナデ/-	黒	長・石		良	5543	内外面黒変
74	1河	84	土師	小形甕	平安	(13.0)/-/-	ハケメ/ハケメ/-	鈍い赤褐	長・石	-	良	5683	内外面薄く変色
74	1河	86	須恵	横瓶	古墳	13.6/6.2/30.6	叩き・円文・沈線/ナデ/ナデ	灰白	密	95	良	5656	
74	1河	87	須恵	甕	古墳?	(13.4)/-/-	ナデ/ナデ/-	灰	密		良	5190	灰釉か
74	1河	88	須恵	蓋	古墳?	-/-/-	ナデ/ナデ/-	灰	やや密	-	良	5523	外面釉
75	1河	89	須恵	蓋	古墳?	-/ /	ナデ/ナデ/	灰	やや密	-	良	5675	内外面釉
75	1河	90	須恵	盤	平安?	/(8.4)/	ナデ/ナデ/高台	灰	密	-	良	5571,5596	底部外面薄くスス付着
75	1河	91	須恵	盤	平安?	(16.6)/-/	ナデ/ナデ/-	灰	密	-	良	3525	
75	1河	92	須恵	壺	平安?	/(10.0)/-	釉/ナデ/高台	灰	長	-	良	5614	
75	1河	93	須恵	壺	平安?	-/(17.0)/-	削り/ナデ/高台	灰	長		良	5367	内面黒変
75	1河	94	須恵	甕	平安?	(39.0)/-/	ナデ・波状文/ナデ/-	暗褐/灰	密	-	良	5637,5638	
75	1河	95	須恵	甕	平安	(36.5)/-/-	ナデ/ナデ/	灰	密	-	良	5601	
75	1河	102	縄文	深鉢	中期	-/-/-	沈線・結節文/ナデ/-	明赤褐/暗褐	長・石		良	5518	内面黒変
75	1河	103	縄文	深鉢	中期	-/-/-	隆線/ナデ/-	にぶい黄橙	長・雲・石	-	やや良	5900	
75	1河	104	縄文	深鉢	中期末	/ /-	縄文・沈線・隆線/ナデ/-	鈍い橙	長・石・角	-	良	5830	
75	1河	105	縄文	深鉢	後期	-/-/-	沈線・縄文/ナデ/-	灰黄	長・石		良	5353	
76	遺構外	1	縄文	深鉢	中期	-/-/-	竹管文/ナデ/-	明赤褐/暗褐	角・長・石	-	良	543	
76	遺構外	2	縄文	深鉢	中期	/ /-	結節沈線・竹管文/ナデ/-	明赤褐	長・雲・石	-	良	536	
76	遺構外	3	土師	丸底壺	古墳	-/4.0/-	磨き/ナデ/ナデ	赤褐	長・雲・赤	70	良	3797	
76	遺構外	4	弥生?	甕	弥生?	(14.4)/ /	ハケメ/ナデ/-	橙褐/明褐	長・雲	-	良	75	外面黒変
76	遺構外	5	土師	高坏	古墳	(8.5)/-/-	ナデ/磨き/	黄橙/赤橙	長・雲・赤・花	-	良	一括	
76	遺構外	6	弥生	高坏	弥生?	-/-/-	磨き/磨き/ナデ	赤褐~黄褐/赤褐	長・角		良	245,252,516	内面赤彩
76	遺構外	7	弥生?	小形壺	弥生?	-/-/	ナデ/ナデ/-	黄褐/灰褐	長・雲	-	良	477	
76	遺構外	8	弥生?	壺?	弥生?	/10.0/-	ナデ・ハケメ/ナデ/ナデ	鈍い黄橙	長・雲・角	-	良	191,206	
76	遺構外	9	弥生?	鉢	弥生?	-/(5.8)/-	ナデ/ナデ・磨き/ナデ	鈍い黄褐/黒褐	雲・長・赤		良	651	底部に穿孔1
76	遺構外	10	弥生	壺	弥生後	(20.2)/(4.8)/-	沈線文・ハケメ・ナデ/ハケメ/無文	赤褐~橙	長・赤	40	やや良	6122	
76	遺構外	11	土師	坏	平安	11.5/3.5/3.8	ナデ/ナデ/糸切り	黄橙	雲微・石	85	良	289,297~299,D-3	
76	遺構外	12	土師	坏	平安	12.0/5.0/3.6	ナデ/ナデ/糸切り	明赤褐/橙	長・雲	60	良	6749	
76	遺構外	13	土師	坏	平安	13.4/6.0/4.0	ナデ/ナデ/糸切り	橙	長・赤・雲母	30	良	385	内外面薄く黒変
76	遺構外	14	土師	坏	平安	(11.6)/5.4/4.0	ナデ/ナデ/糸切り	橙	長・雲	30	良	185,186,187	内外面スス付着
76	遺構外	15	土師	坏	平安	(11.8)/6.0/4.7	ナデ/ナデ/糸切り	黒褐/橙	長・雲微	50	良	342	内外面一部薄く黒変
76	遺構外	16	土師	坏	平安	13.6/7.0/4.2	ナデ/ナデ/糸切り	橙	赤・長	80	良	327	外面一部スス
76	遺構外	17	土師	坏	平安	-/6.0/	ナデ/ナデ/糸切り	黄橙	赤・雲	20	良	285	外面一部スス
76	遺構外	18	土師	坏	平安	10.8/5.8/2.5	ナデ/ナデ/糸切り	橙	雲・長	100	良	670	
76	遺構外	19	土師	坏	平安	11.7/6.1/2.1	ナデ/ナデ/糸切り	黄橙	雲微・赤	90	良	287,D-3	底部外面に線刻痕
76	遺構外	20	土師	坏	平安	12.5/5.3/2.6	ナデ/ナデ/糸切り	橙	赤・長・雲	100	良	631	内面にスス付着
76	遺構外	21	土師	坏	平安	11.8/7.4/2.6	ナデ/ナデ/糸切り	鈍い橙	雲・長・赤	60	良	356	内外面黒く汚れる
76	遺構外	22	土師質	坏	中世?	(14.4)/(8.0)/2.85	ナデ/ナデ/糸切り	浅黄橙	雲	10	やや良	一括	
76	遺構外	23	土師	坏?	平安末	(14.0)/-/-	ナデ/ナデ/-	橙	雲・長・赤	25	良	429,430	内外面薄く黒変
76	遺構外	24	土師	高台坏	平安末	(16.0)/(7.4)/6.9	ナデ/ナデ/ナデ	鈍い黄橙		60	良	449,D-5	
76	遺構外	25	土師	耳坏	平安末	/5.6/-	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ	黄橙			良	495	
77	遺構外	26	須恵	提瓶	古墳	-/-/-	カキメ/ナデ/-	暗青灰	長	30	良	TM11	試掘時出土
77	遺構外	27	灰釉陶器	碗	平安	(15.0)/7.0/5.7	ナデ/ナデ/ナデ	灰白		40	良	497	
77	遺構外	28	緑釉陶器		平安	-/(7.2)/	ナデ/ナデ/ナデ	オリーブ灰	灰白	20	良	T1	
77	遺構外	29	土師	坏	平安	/ /	ナデ/ナデ/	橙	赤	-	良	一括	墨書土器
77	遺構外	31	土師質	小皿	中世?	(8.4)/4.8/1.7	ナデ/ナデ/糸切り	橙	雲	50	良	一括	
77	遺構外	32	土師質	小皿	中世?	(8.8)/(4.0)/2.3	ナデ/ナデ/ナデ	浅黄橙	長・雲	20	良	15	白かわらけか
77	遺構外	33	陶器	皿	中世?	(7.7)/3.2/1.8	ナデ/ナデ/糸切り	灰白		45	良	一括	山茶碗系か
77	遺構外	34	磁器	青磁	中世	/ /-	-/陰刻文/-	オリーブ灰	灰色	-	良	一括	
77	遺構外	36	志野	皿	中世	-/(8.0)/-		灰白			良	88,C-2	

第4表　土製品観察表

図版	地点	No.	種別	長/幅/厚cm	残存率%	重さg	整形技法 外/内	色調 外/内	胎土	焼成	注記	備考
47	3堅	11	手づくね土器	3.1/2.0/4.2	80		ナデ/ナデ/ナデ	暗褐	雲微	良	33	
50	5堅	12	手づくね土器	(4.6)/3.0/3.1	30		ナデ/ナデ/ナデ	暗褐	長・雲・赤	良	一括	
53	13堅	9	ミニチュア	2.5/2.1/3.2	90		ナデ/ナデ/ナデ	褐	雲微	良	40	
53	13堅	10	ミニチュア	1.8/0.8/1.3	100		ナデ/ナデ/ナデ	鈍い褐			348	
55	22堅	2	土鈴	2.0/2.1/2.1	100		ナデ	褐	長・雲	良	8	
57	32堅	12	小形土器	5.5/3.0/4.0	100		ナデ・削り/ナデ/削り	鈍い橙	長・赤	良	5773	外面一部変色
64	41堅	36	手づくね土器	6.7/3.0/4.9	100		ナデ/ナデ/ナデ	鈍い橙	雲・長	良	7125	
66	45堅	8	手づくね土器	-/4.2/-			ナデ/ナデ/ナデ	黒褐	長・赤・角	良	7499	
66	45堅	13	紡錘車?	(5.3)/5.3/1.7	43	27.6	ナデ	暗褐	雲・石	良	7508	
67	11土	1	ガラス製管	21.0/0.85/0.55	100	28.2		乳白			?	文物?
71	17土	1	手捏土器	6.9/2.0/2.7	100		ナデ/ナデ/ナデ	赤褐	長・雲・赤	良	1	外面シワ
74	1河	85	手づくね土器	3.5/3.5/2.8			ナデ/ナデ/ナデ	褐/黒褐	長・角	良	3851	内底赤彩?
77	遺構外	30	手づくね土器	7.8/6.9/4.0	100		ナデ/ナデ/ナデ	褐	雲・長	良	505	

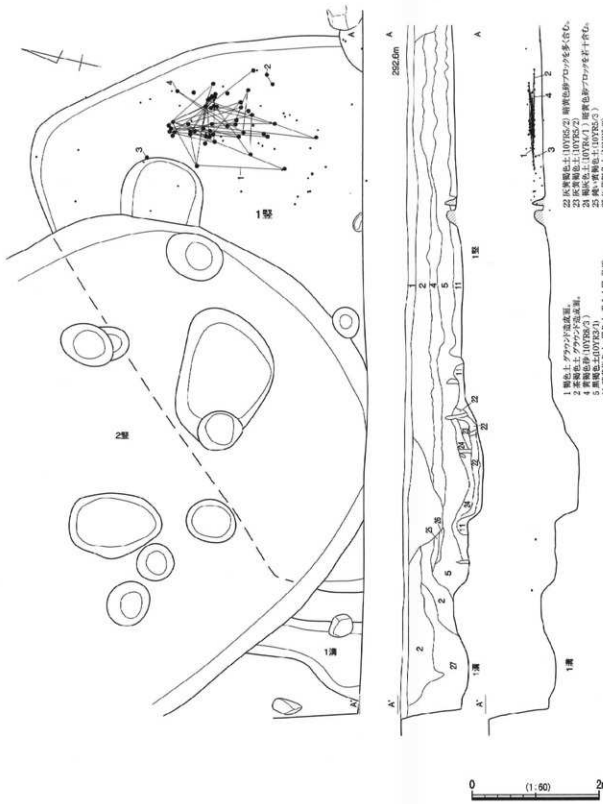
第5表　石器類観察表

図版	地点	No.	分類	長/幅/厚cm	重さg	石材	色調	注記	備考
47	2堅	17	横刃形石器	7.8/4.9/4.5	64.87	粘板岩	黒褐灰	一括	刃部の一部摩耗
47	2堅	18	砥石	6.7/5.3/1.7	87.12	安山岩質凝灰岩	褐灰	一括	両面・側面摩耗
51	8堅	7	打斧	6.6/4.7/0.7	30.0	粘板岩	灰褐	一括	
51	9堅	4	磨製石鏃	3.2/1.8/0.2	2.0	緑色片岩	灰	270	穿孔あり
52	10堅	7	棒状礫	18.5/5.1/4.9	682.8	安山岩	灰	1	両端敲打痕
53	13堅	11	磨製石鏃	3.6/2.1/0.2	3.0	緑色片岩	暗青灰	17	孔1
53	13堅	12	磨製石鏃	3.7/1.9/0.1	2.0	緑色片岩	緑灰	18	
54	18堅	7	磨製石鏃	7.4/3.3/-	13.0	安山岩	黄灰	66	
56	25堅	10	凹み石	9.0/7.4/4.8	463.0	安山岩	灰	一括	側面に敲打痕
59	34堅	31	磨石	8.3/7.3/3.5	370.34	安山岩	灰褐	6478	擦り面は1面
61	38堅	4	磨製石鏃?	3.3/0.9/0.2	0.78	緑色片岩	暗青灰	床7221	
66	45堅	14	打斧	-/6.3/2.5	131.0	緑色凝灰岩	緑灰	一括	上部の刃部摩耗
66	45堅	15	凹み石	12.6/8.6/2.0	217.0	凝灰質頁岩	褐灰	7503	割れ口が擦り面となる
66	45堅	16	凹み石	9.2/7.8/5.9	512.0	安山岩	黒褐	25土6852	
68	1号周溝墓	11	横刃形石器	7.4/4.6/0.7	37.0	粘板岩	暗青灰	45	
68	1号周溝墓	12	剥片	4.2/2.1/0.6	4.64	黒曜石	黒	G-P540	
69	2号周溝墓	1	磨製石鏃	6.3/3.1/5.5	11.8	粘板岩	灰	1	
70	4号周溝墓	8	凹み石	11.1/9.6/6.2	676.0	安山岩	灰白	20	
70	6号周溝墓	3	打斧	10.3/5.1/1.2	86.0	ホルンフェルス	灰	一括	
70	7号周溝墓	4	石鏃	1.5/1.3/0.3	0.29	黒曜石			
70	7号周溝墓	5	紡錘車	3.0/5.2/0.65	10.6	緑色凝灰岩	黄褐	SD6 13	半分欠
71	20土	1	凹み石	8.3/7.8/4.7	437.0	安山岩	灰白	6104	凹み面は2
75	1河	97	石鏃	3.0/1.0/0.5	0.96	黒曜石	黒透		
75	1河2区	98	打斧	10.0/6.7/1.6		凝灰質頁岩	灰黄	2区ベルト3~8	
75	1河	99	打斧	14.7/4.6/1.4	148.0	ホルンフェルス	灰	5473	
75	1河	100	打斧	13.9/7.0/0.9	153.0	砂質粘板岩	灰	5604	刃端摩耗
75	1河	101	打斧	12.0/6.3/2.4	200.0	凝灰岩	灰白	5890	
75	1河	106	磨斧	16.5/5.8/3.2	562.0	緑色凝灰岩	緑灰	5316	
75	1河	107	石皿	18.6/14.4/5.3	2000.0	安山岩	灰白	5846	
77	遺構外	36	石鏃	1.7/1.2/0.3	0.42	黒曜石			
77	遺構外	37	磨製石鏃	5.4/3.1/0.3	7.0	緑色片岩	灰	561	未製品か
77	遺構外E-0	39	砥石	8.9/4.8/2.0	106.16	緑色凝灰岩	黄褐	一括	
77	遺構外E-0	40	石錘	9.4/5.1/1.9	137.16	砂岩	黄灰	一括	
77	遺構外F-1	41	硯	(5.8)/6.3/1.25	68.5	粘板岩	灰・暗灰	一括	

第6表　金属製品観察表

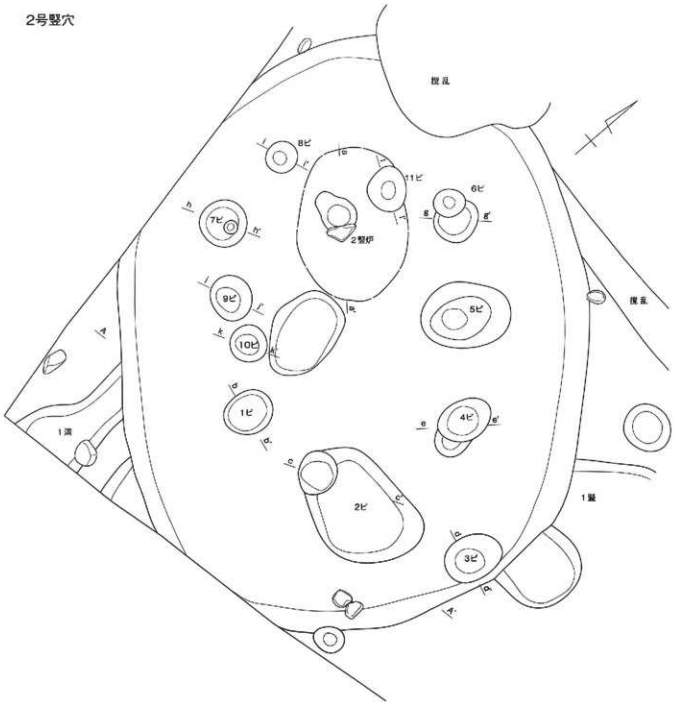
図版	地点	No.	分類	長/幅/厚cm	重さg	材質	注記	備考
53	13堅	13	古銭?	2.1/2.1/0.05	1.19	銅	322	銘なし(無銘銭)
60	36堅	18	鎌	10.7/4.8/0.4	34	鉄	6694	
66	46堅	7	紡錘車	15.0/0.5/0.5	65.0	鉄	7445	円板は5.5×2.0cm
67	2土	1	キセル?	3.65/1.1/0.7	1.56	銅	SX2(E-6)	
67	7土	1	キセル雁首	3.6/1.61/1.7	3.88	銅	SX7 P1	
67	7土	2	キセル雁首	5.0/1.06/2.0	7.3	銅	SX7 P3	
67	7土	3	キセル吸口	6.0/0.95/0.9	4.33	銅	SX7 P3	
67	7土	4	古銭	2.4/2.4/0.12	2.71	銅	SX7 P2	寛永通寶 4~7は4枚重ね
67	7土	5	古銭	2.3/2.3/0.13	2.99	銅	SX7 P2	寛永通寶
67	7土	6	古銭	2.4/2.4/0.12	2.39	銅	SX7 P2	寛永通寶
67	7土	7	古銭	2.3/2.5/0.12	2.99	銅	SX7 P2	寛永通寶
67	8土	1	古銭	2.58/2.58/0.11	3.47	銅	SX8 No.1	寛永通寶 1~3は3枚重ね
67	8土	2	古銭	2.28/2.28/0.11	2.06	銅	SX8 No.1	寛永通寶
67	8土	3	古銭	2.58/2.58/0.14	3.74	銅	SX8 No.1	寛永通寶
67	15土	1	キセル雁首	4.6/1.19/1.6	7.83	銅・竹	SX15 P4	
67	15土	2	キセル吸口	5.4/1.0/1.05	7.97	銅・竹	SX15 P3	
67	15土	3	古銭	2.35/2.35/0.11	3.0	銅	SX15 P1	寛永通寶 3~7は5枚重ね
67	15土	4	古銭	2.5/2.5/0.1	2.84	銅	SX15 P1	寛永通寶
67	15土	5	古銭	2.25/2.25/0.1	2.32	銅	SX15 P1	寛永通寶
67	15土	6	古銭	2.4/2.4/0.1	3.2	銅	SX15 P1	寛永通寶
67	15土	7	古銭	2.35/2.35/0.12	3.01	銅	SX15 P1	寛永通寶
67	10土	8	眼鏡	10.0/6.4/0.4	22.8	銅・ガラス?	5	レンズ欠、白いひもあり
68	1号周溝墓	10	火打金	2.8/5.7/(5.0)	26.3	鉄	SD2 87	
70	4号周溝墓	7	釘	14.7/7.0/(4.0)	16.4	鉄	SD13 一括	
73	1河	96	[illegible]	2.8/2.0/0.3	3.7	鉛	5725	
77	遺構外	41	ノミ	8.5/2.5/0.25	18.6	鉄	291	
77	遺構外	42	鉄鏃?	(8.7)/(2.2)・(1.1)/0.3・0.5	14.2	鉄		長七以下
77	遺構外	43	古銭	2.3/2.2/0.11	1.78	銅	562	寛永通寶

1号竪穴

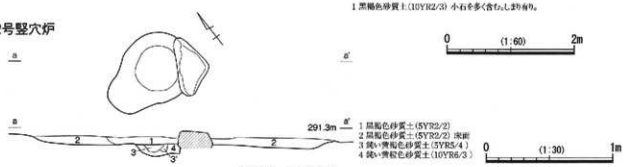


第1図　1号竪穴

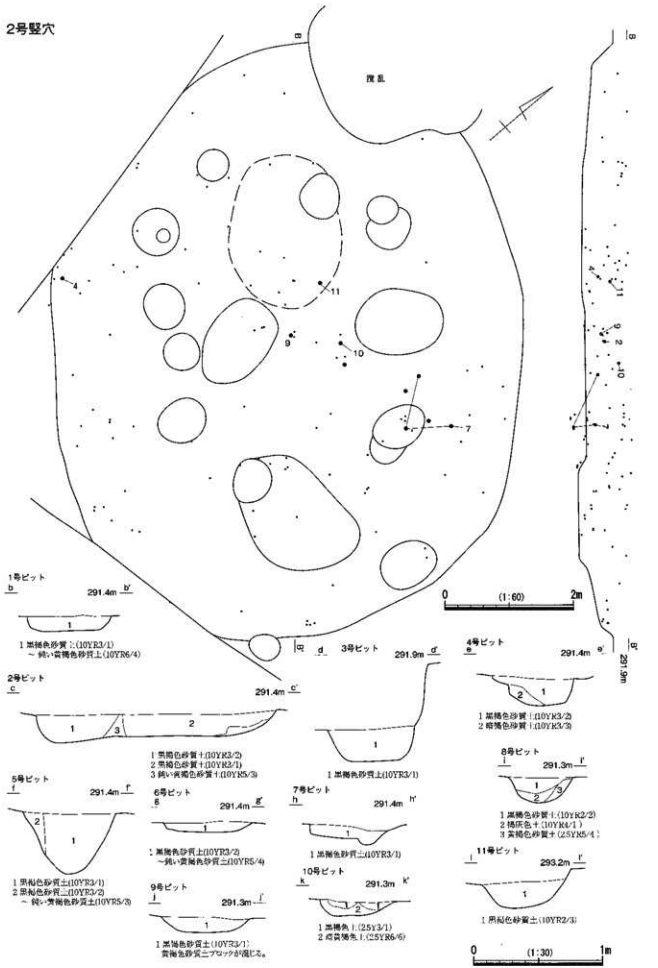
2号竪穴



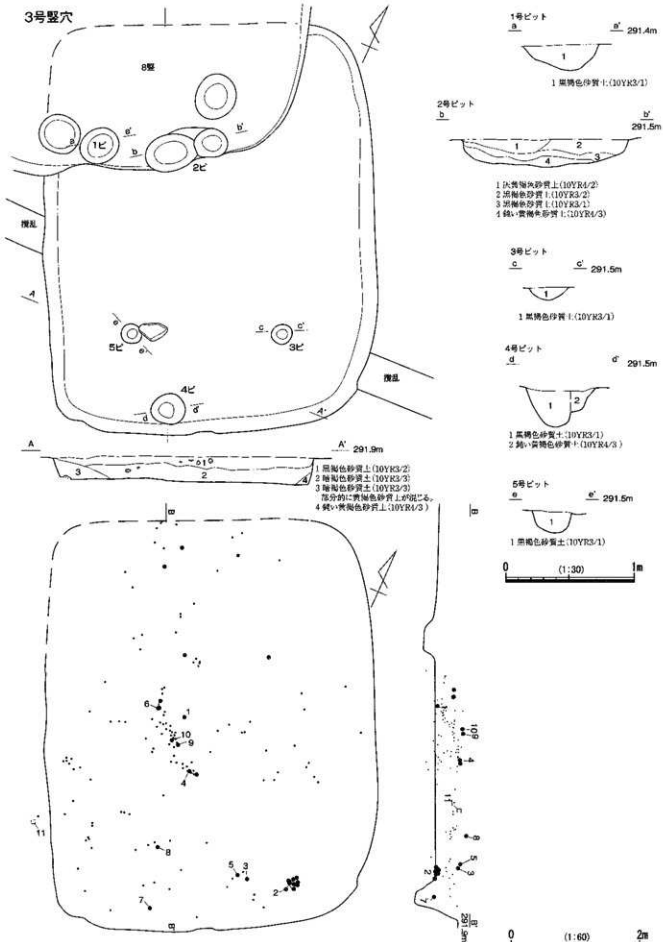
2号竪穴炉



第2図　2号竪穴

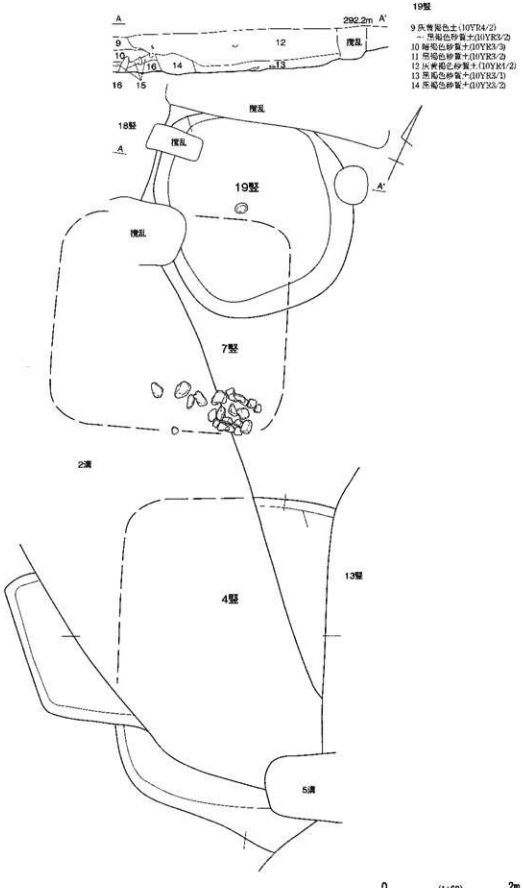

2号竪穴
1号ピット
291.4m
1 黒褐色砂質土(10YR3/1)
～ 鈍い黄褐色砂質土(10YR6/4)
2号ピット
291.4m
1 黒褐色砂質土(10YR3/2)
2 黒褐色砂質土(10YR3/1)
3 鈍い黄褐色砂質土(10YR5/3)
3号ピット
291.9m
1 黒褐色砂質土(10YR3/1)
4号ピット
291.4m
1 黒褐色砂質土(10YR3/2)
2 暗褐色砂質土(10YR3/3)
5号ピット
291.4m
1 黒褐色砂質土(10YR3/1)
2 黒褐色砂質土(10YR3/2)
～ 鈍い黄褐色砂質土(10YR5/3)
6号ピット
291.4m
1 黒褐色砂質土(10YR3/2)
～鈍い黄褐色砂質土(10YR5/4)
7号ピット
291.4m
1 黒褐色砂質土(10YR3/1)
8号ピット
291.3m
1 黒褐色砂質土(10YR2/2)
2 褐灰色土(10YR4/1)
3 黄褐色砂質土(2.5YR5/4)
9号ピット
291.3m
1 黒褐色砂質土(10YR3/1)
黄褐色砂質土ブロックが混じる。
10号ピット
291.3m
1 黒褐色土(2.5Y3/1)
2 暗黄褐色土(2.5YR6/6)
11号ピット
293.2m
1 黒褐色砂質土(10YR2/3)
0 (1:60) 2m
0 (1:30) 1m

第3図　2号竪穴


3号竪穴
8竪
1ピ
2ピ
3ピ
4ピ
5ピ
攪乱
攪乱
A
A'
291.9m
1 黒褐色砂質土(10YR3/2)
2 暗褐色砂質土(10YR3/3)
3 暗褐色砂質土(10YR3/3)
部分的に黄褐色砂質土が混じる。
4 鈍い黄褐色砂質土(10YR4/3)
1号ピット
291.4m
1 黒褐色砂質土(10YR3/1)
2号ピット
291.5m
1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)
2 褐色砂質土(10YR3/2)
3 黒褐色砂質土(10YR3/1)
4 鈍い黄褐色砂質土(10YR4/3)
3号ピット
291.5m
1 黒褐色砂質土(10YR3/1)
4号ピット
291.5m
1 黒褐色砂質土(10YR3/1)
2 鈍い黄褐色砂質土(10YR4/3)
5号ピット
291.5m
1 黒褐色砂質土(10YR3/1)
0 (1:30) 1m
0 (1:60) 2m

第4図　3号竪穴

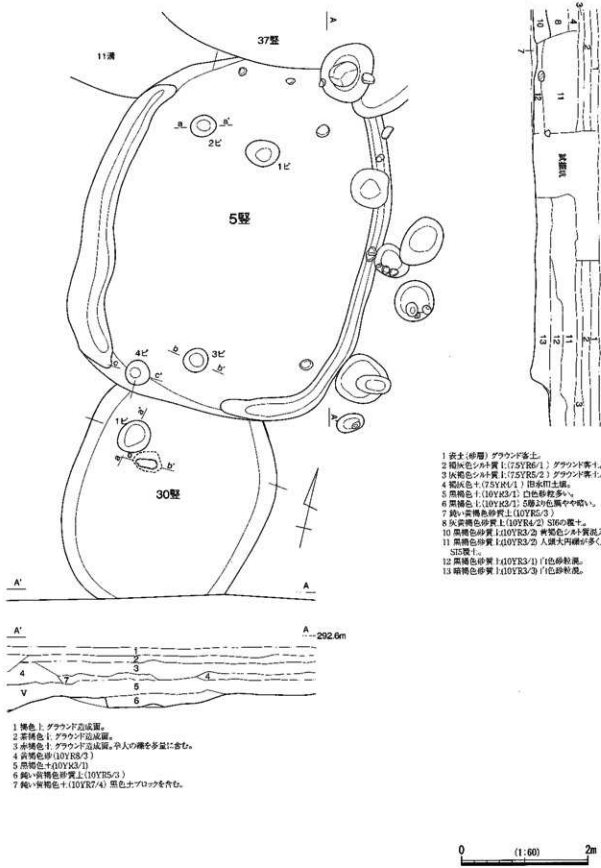
4·7·19号竪穴



第5図　4・7・19号竪穴

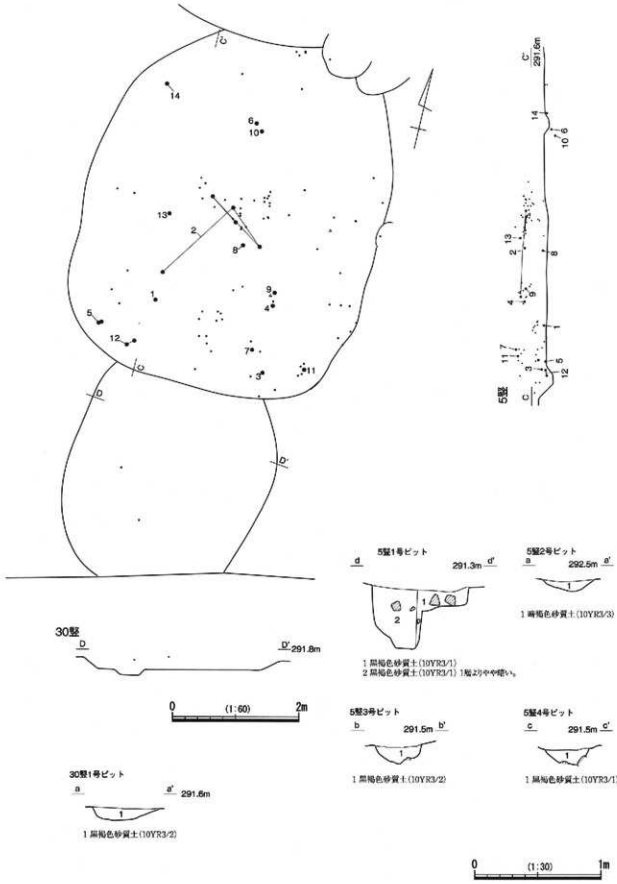
第6図　4・7・19号竪穴

5·30号竪穴

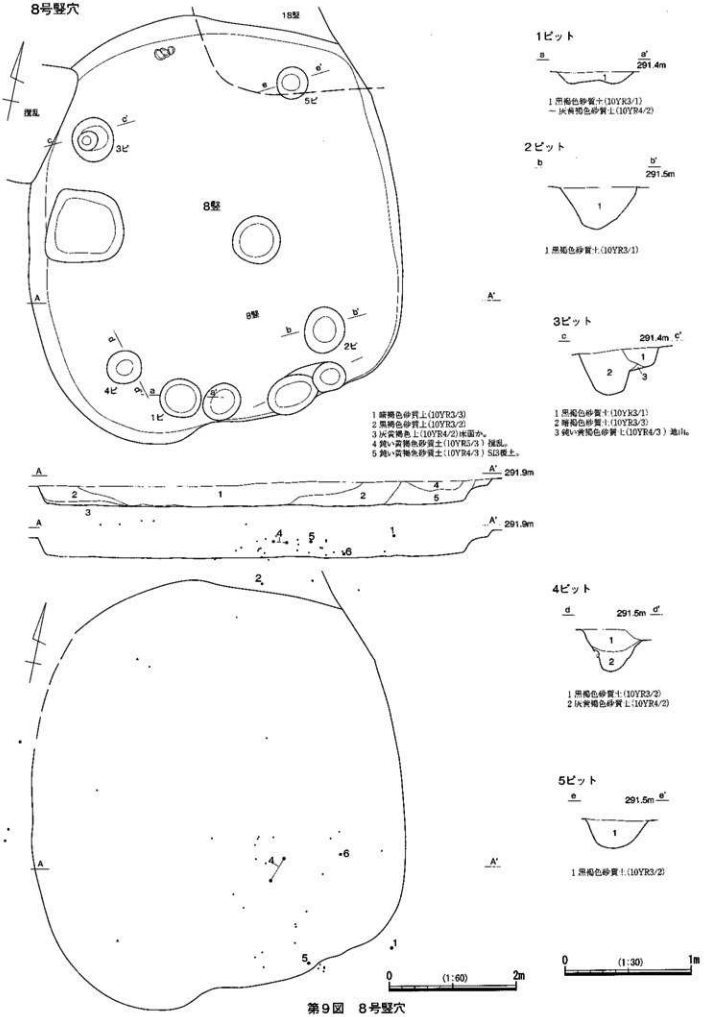


第7図　5・30号竪穴

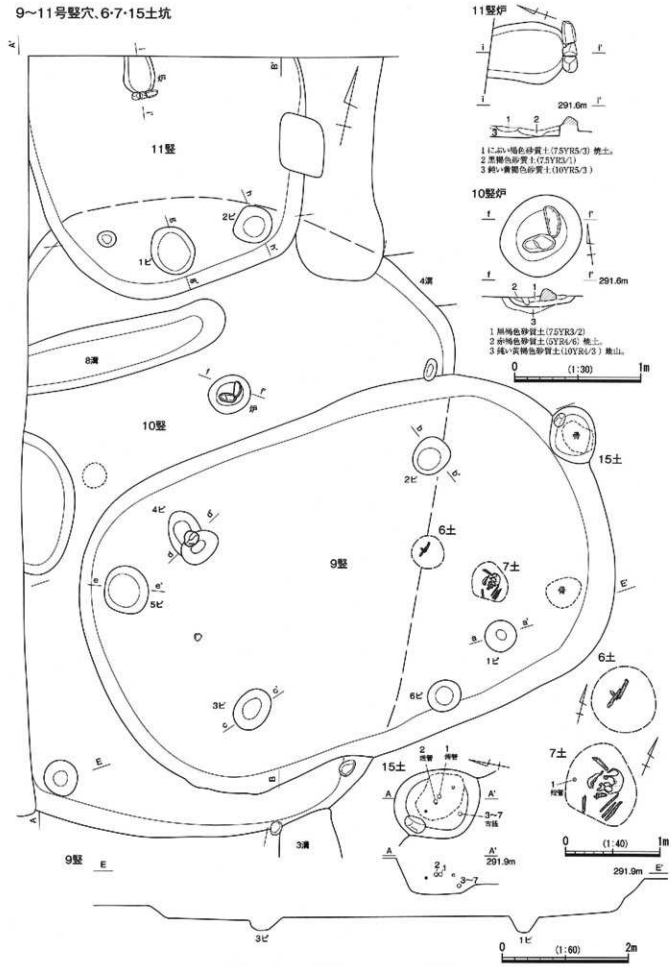
5·30号竪穴



第8図　5・30号竪穴

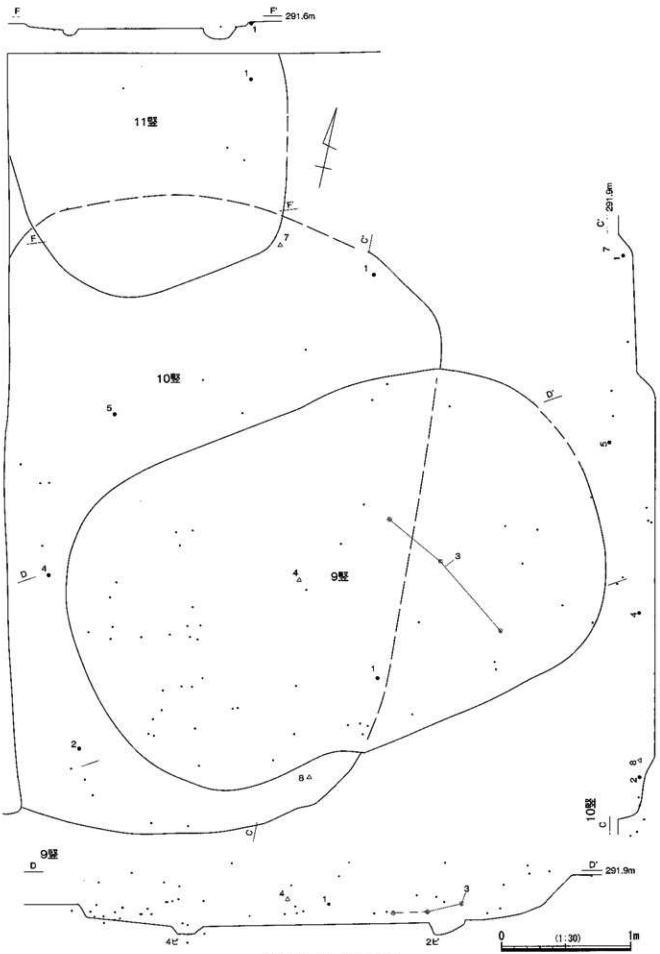

8号竪穴
18竪
8竪
8竪
1ピット
291.4m
1 黒褐色砂質土(10YR3/1)
～灰黄褐色砂質土(10YR4/2)
2ピット
291.5m
1 黒褐色砂質土(10YR3/1)
3ピット
291.4m
1 黒褐色砂質土(10YR3/1)
2 暗褐色砂質土(10YR3/3)
3 鈍い黄褐色砂質土(10YR4/3)地山。
4ピット
291.5m
1 黒褐色砂質土(10YR3/2)
2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)
5ピット
291.5m
1 黒褐色砂質土(10YR3/2)
1 暗褐色砂質土(10YR3/3)
2 黒褐色砂質土(10YR3/2)
3 灰黄褐色土(10YR4/2)床面か。
4 鈍い黄褐色砂質土(10YR5/3)撹乱。
5 鈍い黄褐色砂質土(10YR4/3)SI3板土。
291.9m
291.9m
0 (1:60) 2m
0 (1:30) 1m

第9図　8号竪穴



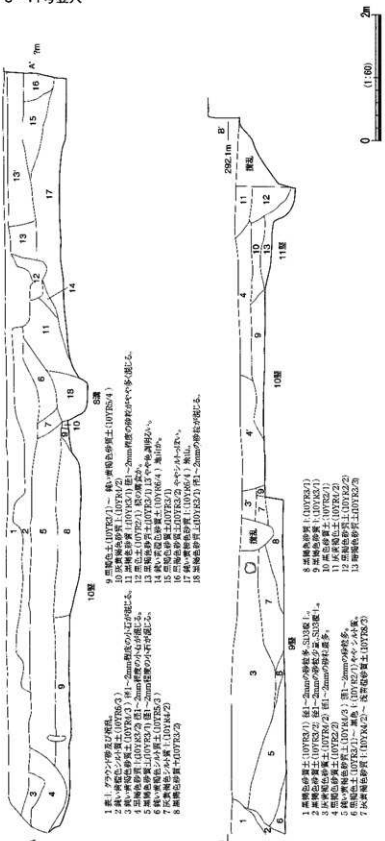
第10図　9～11号竪穴、6・7・15号土坑

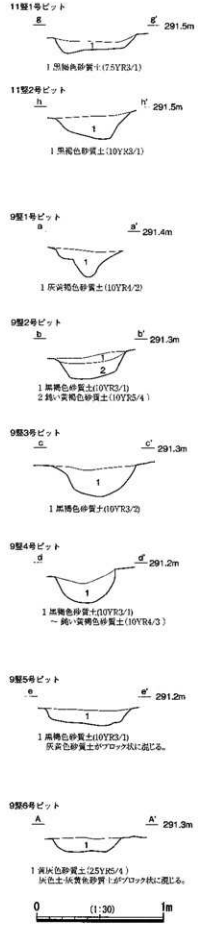
9~11号竪穴



第11図　9~11号竪穴

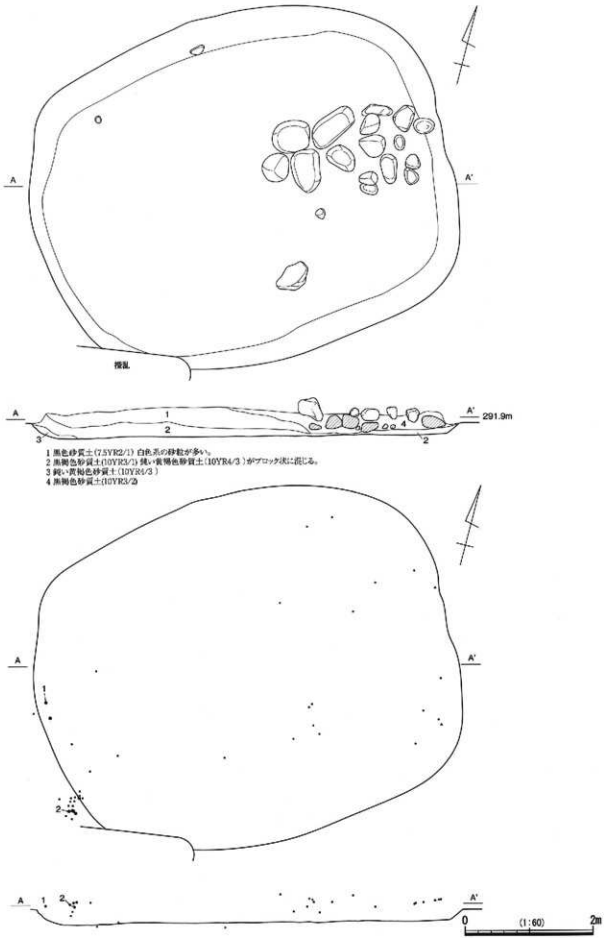
9～11号竪穴



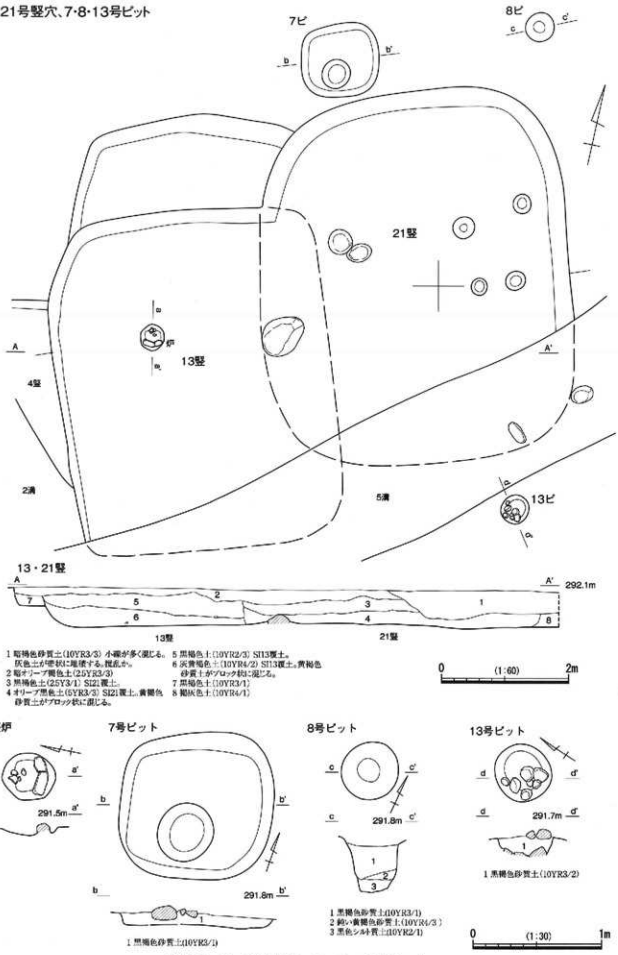


第12図　9～11号竪穴

12号竪穴

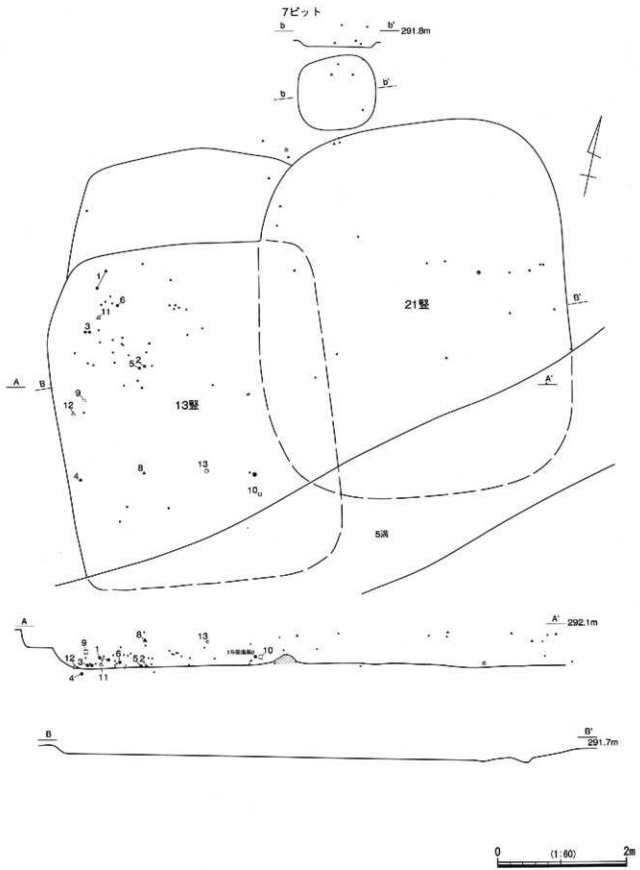


第13図　12号竪穴

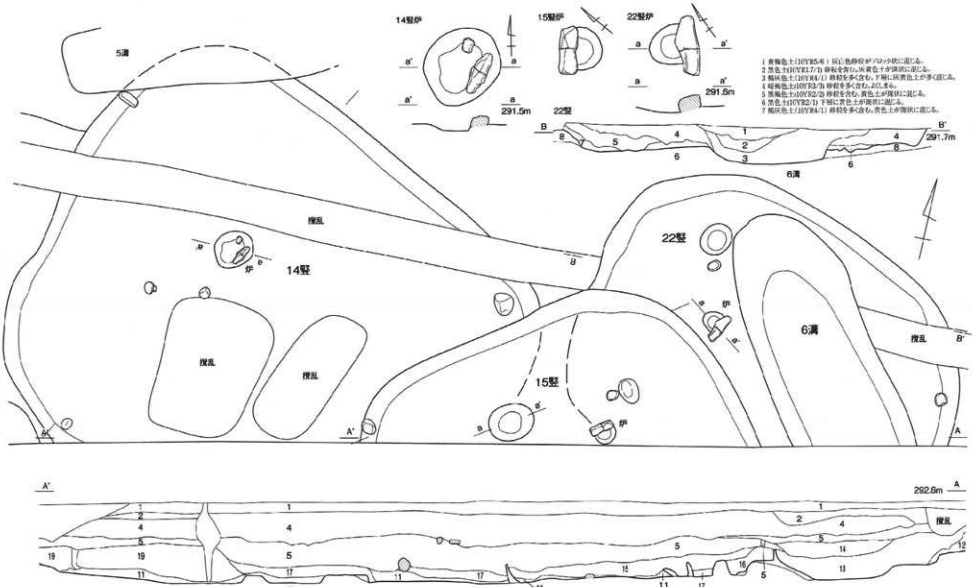


第14図　13・21号竪穴、7・8・13号ピット

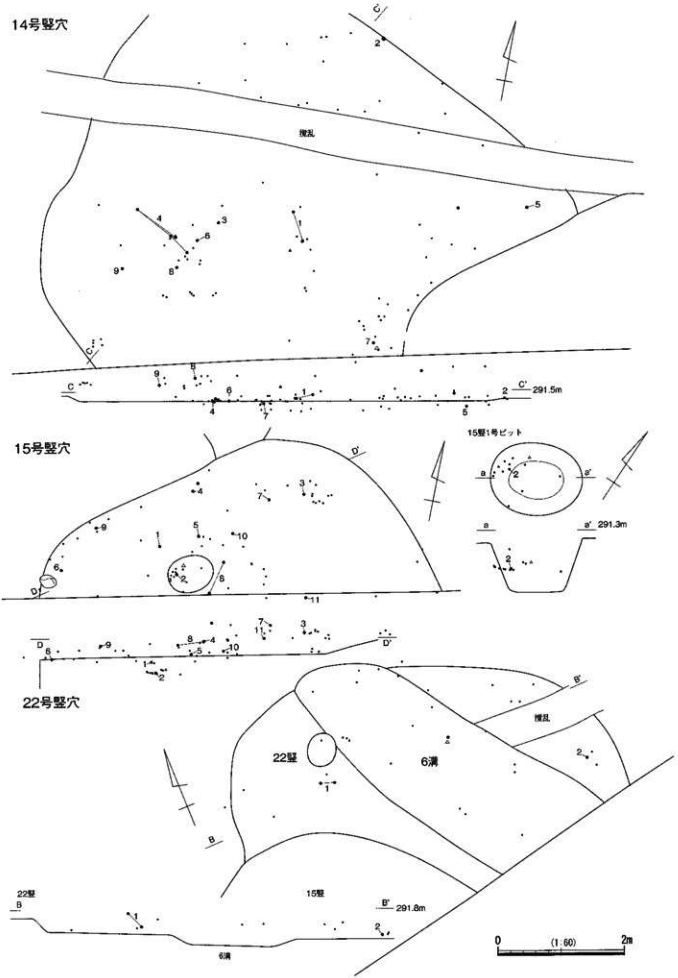
13·21号竪穴、7号ピット



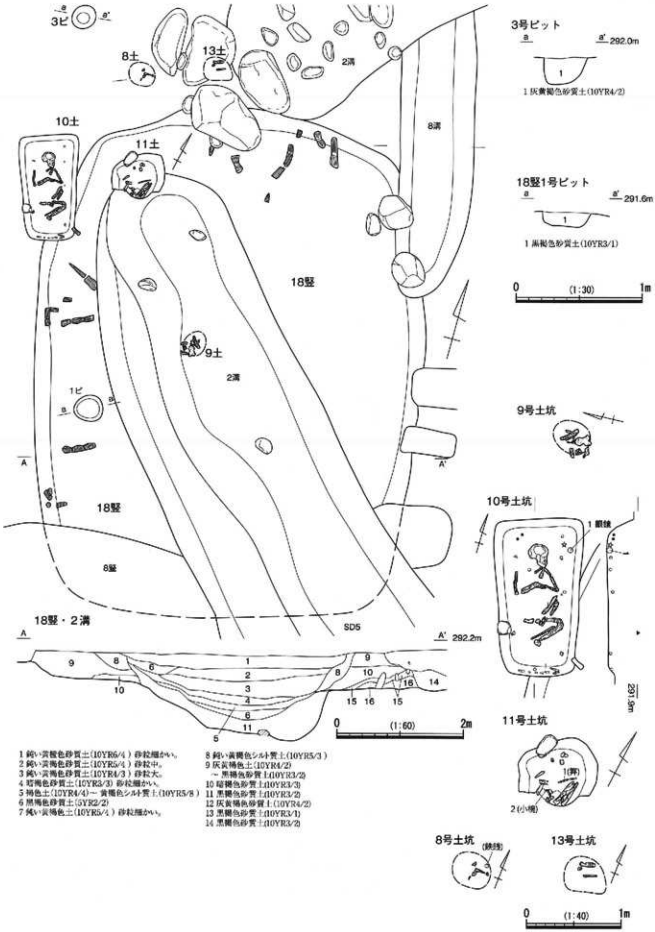
第15図　13・21号竪穴、7号ピット



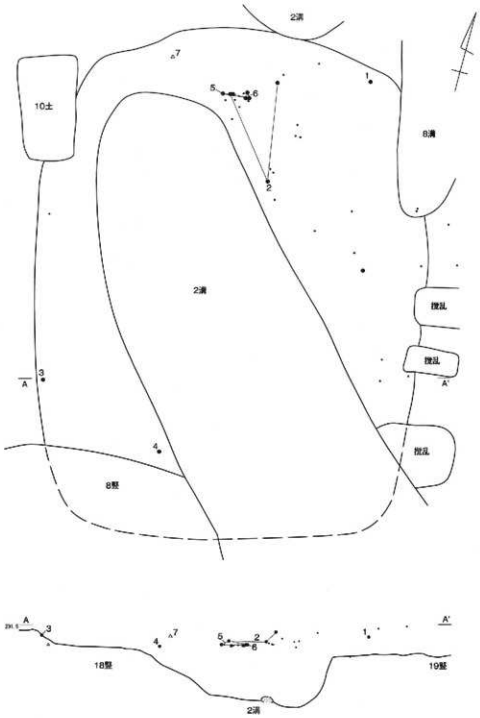
第16図 14・15・22号竪穴



第17図　14・15・22号竪穴

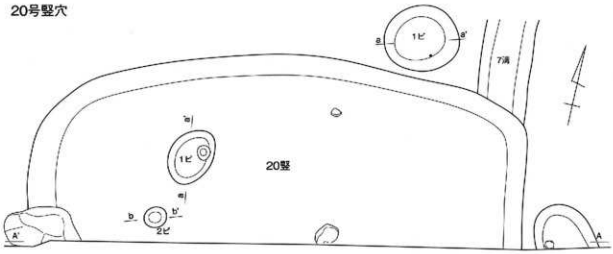


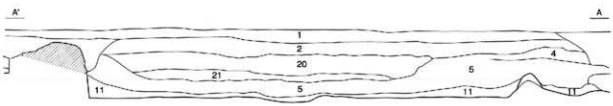
第18図　18号竪穴、3号ピット、8～11・13号土坑



第19図　18号竪穴

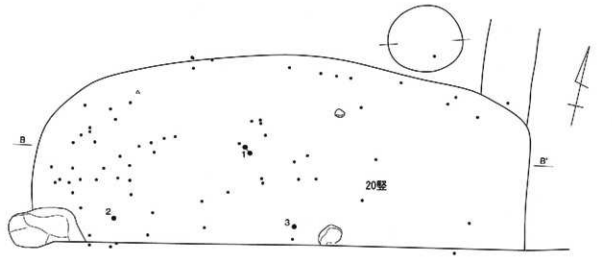
20号竪穴

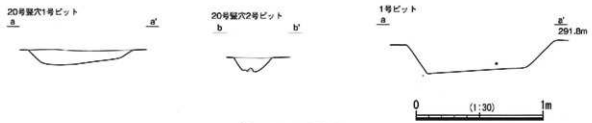




1 褐色土 グラウンド造成面。
2 茶褐色土 グラウンド造成面。
4 黄褐色砂(10YR8/3)
5 黒褐色土(10YR3/1)
11 暗黄褐色土+黒色土 混合土塊、砂質。
20 灰黄褐色土(10YR4/2)
21 鈍い黄橙色土(10YR7/3)黒色土ブロックを多く含む。

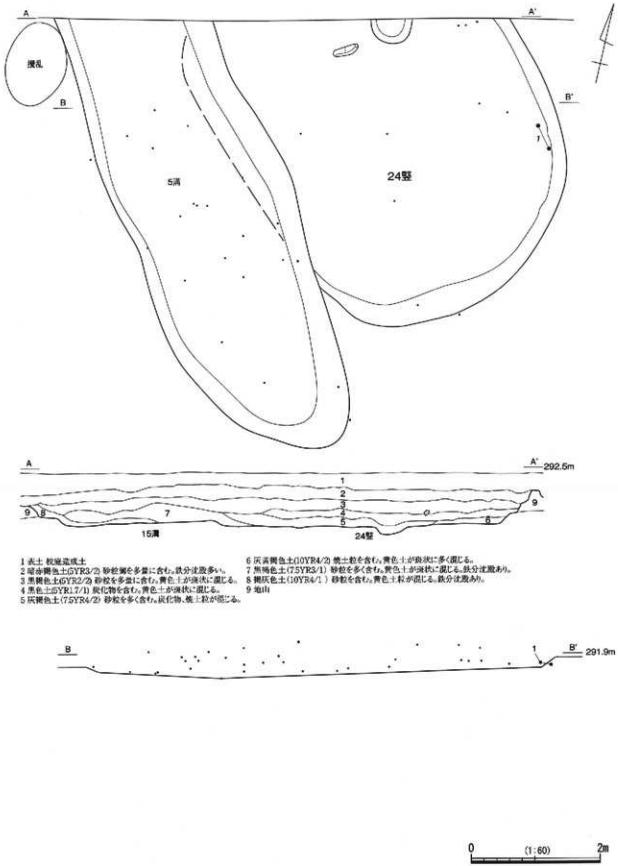
0 (1:60) 2m





第20図 20号竪穴

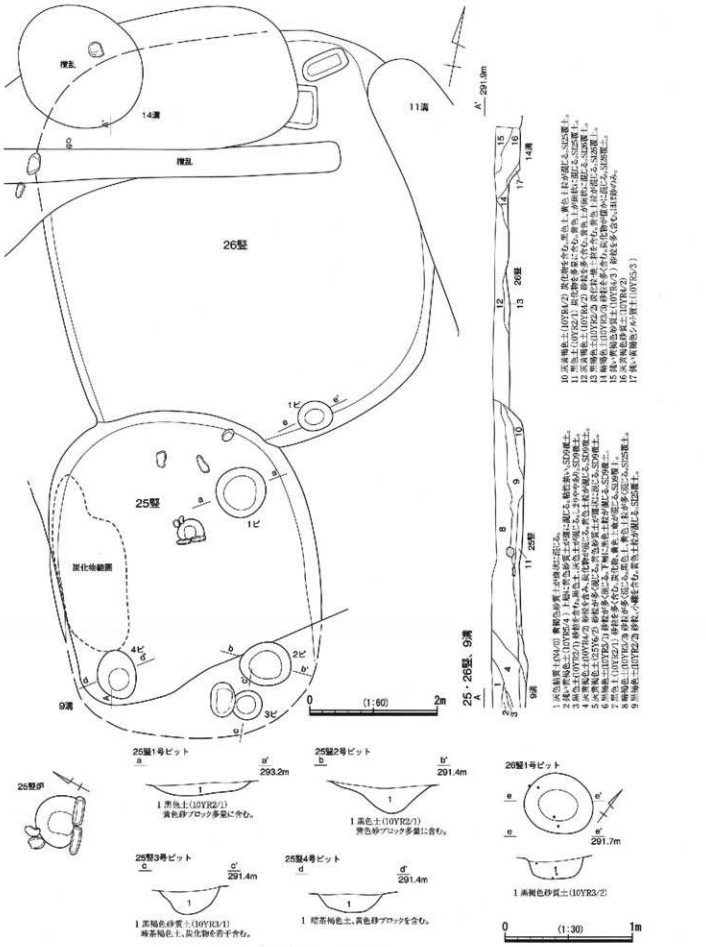
24号竪穴



1 表土 牧場造成土
2 暗赤褐色土(5YR3/2) 砂粒を多量に含む。鉄分沈殿多い。
3 黒褐色土(5YR2/2) 砂粒を多量に含む。黄色土が斑状に混じる。
4 黒色土(5YR1.7/1) 炭化物を含む。黄色土が斑状に混じる。
5 灰褐色土(7.5YR4/2) 砂粒を多く含む。炭化物、焼土粒が混じる。
6 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒を含む。黄色土が斑状に多く混じる。
7 黒褐色土(7.5YR3/1) 砂粒を多く含む。黄色土が斑状に混じる。鉄分沈殿あり。
8 褐灰色土(10YR4/1) 砂粒を含む。黄色土粒が混じる。鉄分沈殿あり。
9 地山

第21図　24号竪穴

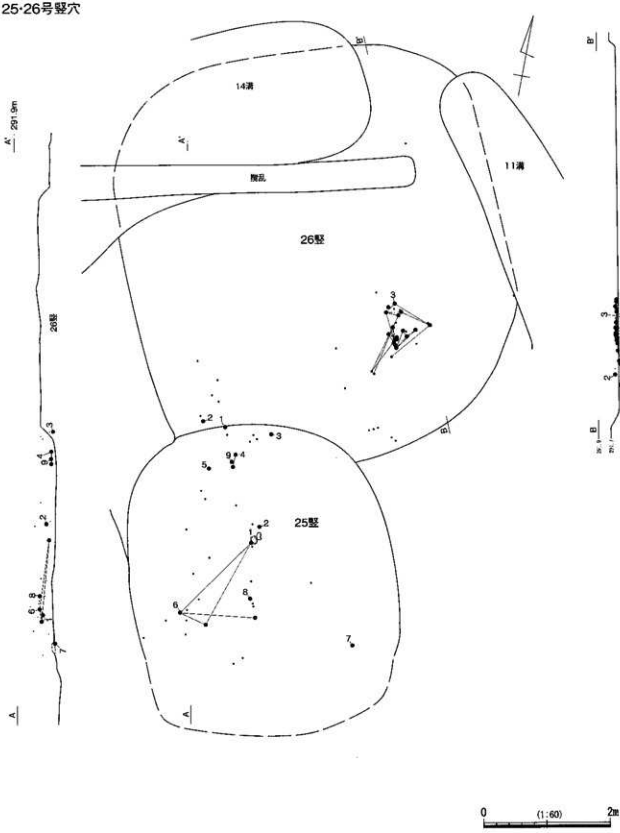
25·26号竪穴



1.灰色粘質土(N4/0) 炭粒含む。
2.黒~黒褐色土(10YR2/1~3/1) 炭粒含む。
3.黒~黒褐色土(10YR2/1~3/1)、黄色砂ブロック多量に含む。
4.黒褐色土(10YR3/2) 炭粒多く含む。
5.黒褐色土(10YR3/2) 炭粒含み、黄色土粒を多く含む。
6.黒褐色土(10YR2/2) 炭粒多く含む。
7.黒色土(10YR2/1) 炭粒多く含む。
8.褐灰色土(10YR4/1) 炭粒含む。
9.褐灰色土(10YR4/1) 炭粒、小礫含む。
10.灰黄褐色土(10YR4/2) 炭化物含む。黄色土粒が混じる。SD2埋土。
11.黒色土(10YR2/1) 炭化物を多く含む。黄色土粒が混じる。SD25埋土。
12.灰黄褐色土(10YR4/2) 炭粒を多く含む。黄色土が斑状に混じる。SD26埋土。
13.黒褐色土(10YR2/2) 炭粒多く含む。黄色土粒が混じる。SD26埋土。
14.黒褐色土(10YR2/3) 炭粒多く含む。
15.褐~黒褐色砂質土(10YR4/3) 炭粒を多く含む。
16.灰黄褐色土(10YR4/2) 炭粒含む。SD26埋土。
17.褐~黒褐色シルト質土(10YR5/3)

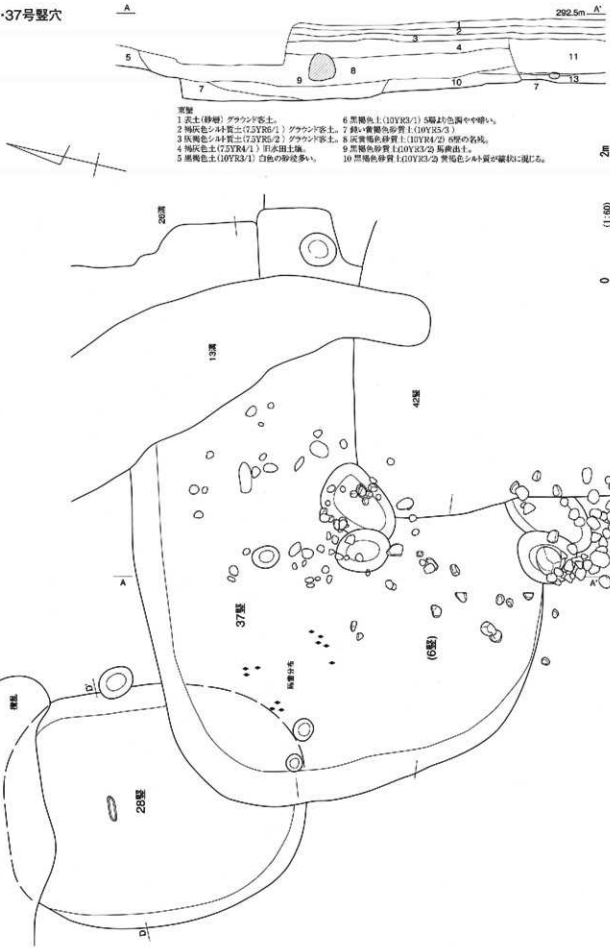
第22図　25・26号竪穴

25·26号竪穴

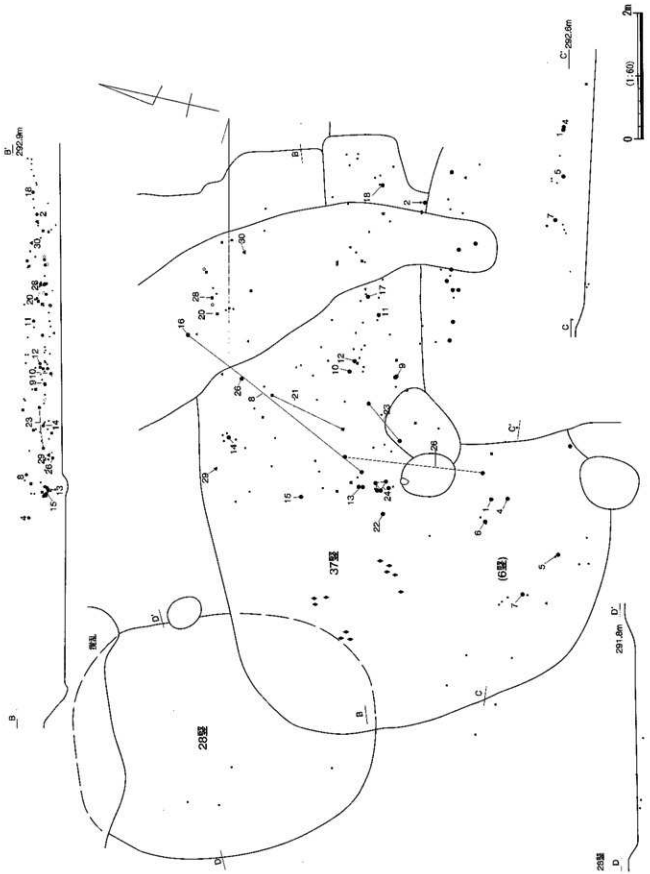


第23図　25・26号竪穴

28·37号竪穴

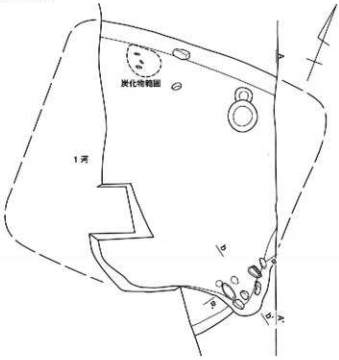


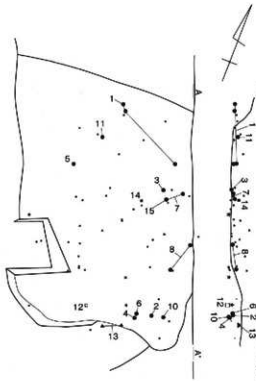
第24図　28・37号竪穴



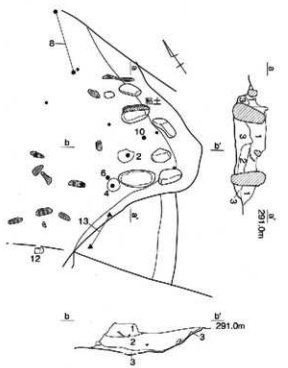
第25図　28・37号竪穴

32号竪穴





32号竪穴竈



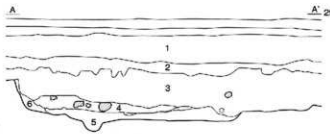
1 黒褐色砂質土(10YR3/2) 炭化物、焼土小ブロック入。
2 黒褐色砂質土(10YR3/2) 焼土小ブロック中多、炭化物有。
3 暗褐色砂質土(10YR3/4) 地山粒似。

0 (1:60) 2m

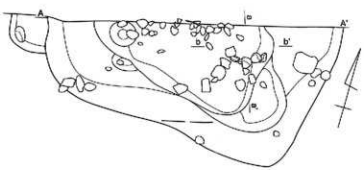
0 (1:30) 1m

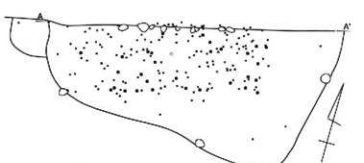
第26図 32号竪穴

33号竪穴

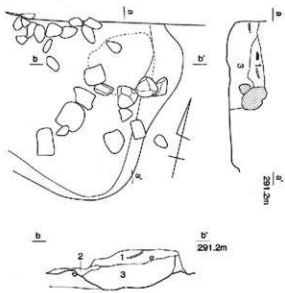


1 暗褐色土(10YR3/3)　白色砂粒多。焼、ヤビ粒入。
2 褐色土(10YR4/4)　ヤビ粒、白色砂粒多。
3 黒褐色土(10YR2/2)　白色砂粒、褐色砂質、炭化物有。
4 黒褐色土(10YR2/2)　炭化物多、焼土と炭化層の互層有。
5 黒褐色土(10YR3/2)　土層に褐灰色粘土層堆積。
　焼土地有、地山ブロック土含。
6 明い黄褐色土(10YR4/3)　地山崩土。



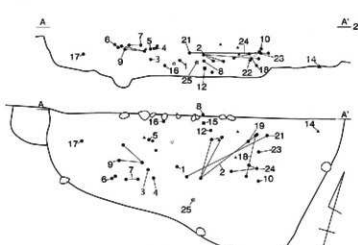


33竪竈



1 黒褐色土(10YR2/3)＋焼土　焼土、炭化物多。
2 黒色土(10YR2/1)　黒味強。炭化物と、焼土小ブロックやや多。
3 黒褐色土(10YR3/2)　地山黄褐色砂質土混。竈下層。

0　(1:30)　1m



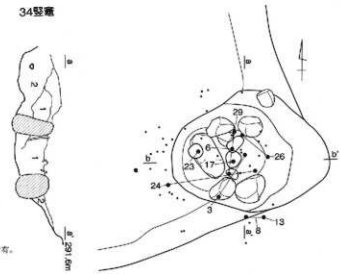
0　(1:60)　2m

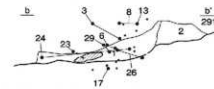
第27図　33号竪穴

34号竪穴

1 暗褐色砂質土(10YR3/3)　サビ粒多、褐色粒、白色粒やや多。
2 黒褐色砂質土(10YR3/2)　白色粒、サビ粒、褐色小ブロック入。炭化物、土器片有。
3 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)　地褐色ブロック主。

34竪穴

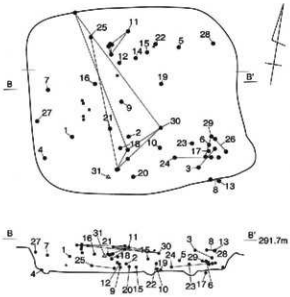


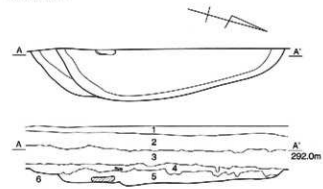


1 黒褐色砂質土(10YR2/3)　白色粒、褐色粒、炭化物やや多。黒味有。
2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)　地山黄色土ブロック、炭化物多。

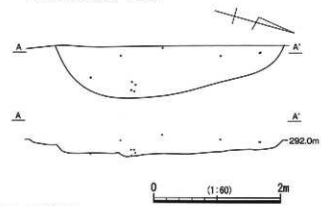
0 (1:30) 1m

35号竪穴





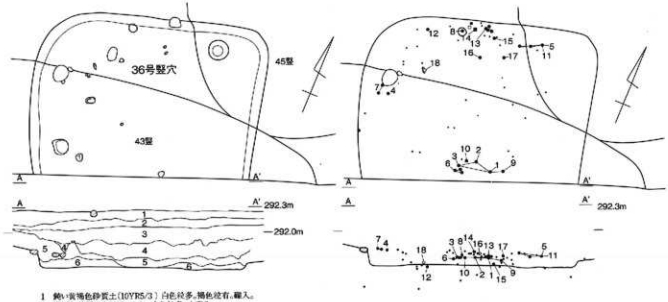
1 褐灰色砂質土(10YR4/1)　グランド整地土。
2 灰黄褐色土(10YR4/2)　白色砂粒、褐色粒入。
3 暗褐色土(10YR3/4)　褐色小ブロック、白色粒、小礫入。
4 黄褐色土(10YR5/8)　サビ層含、白色粒、褐色粒有。
5 黒褐色砂質土(10YR2/3)　サビ粒、白色粒、褐色粒入。礫含。焼味有。
6 黄褐色土(10YR5/8)　白色粒多。



0 (1:60) 2m

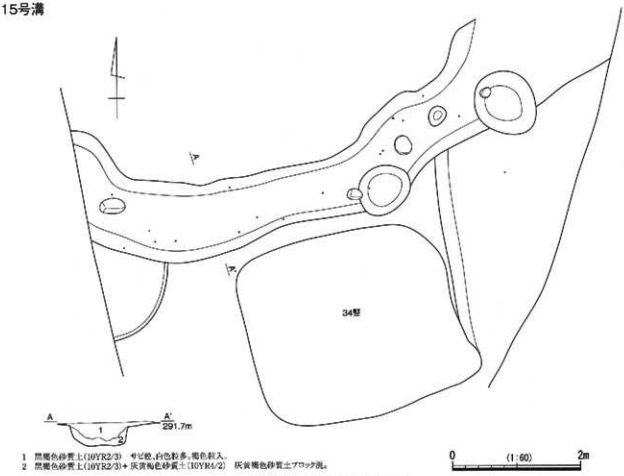
第28図　34・35号竪穴

36号竪穴



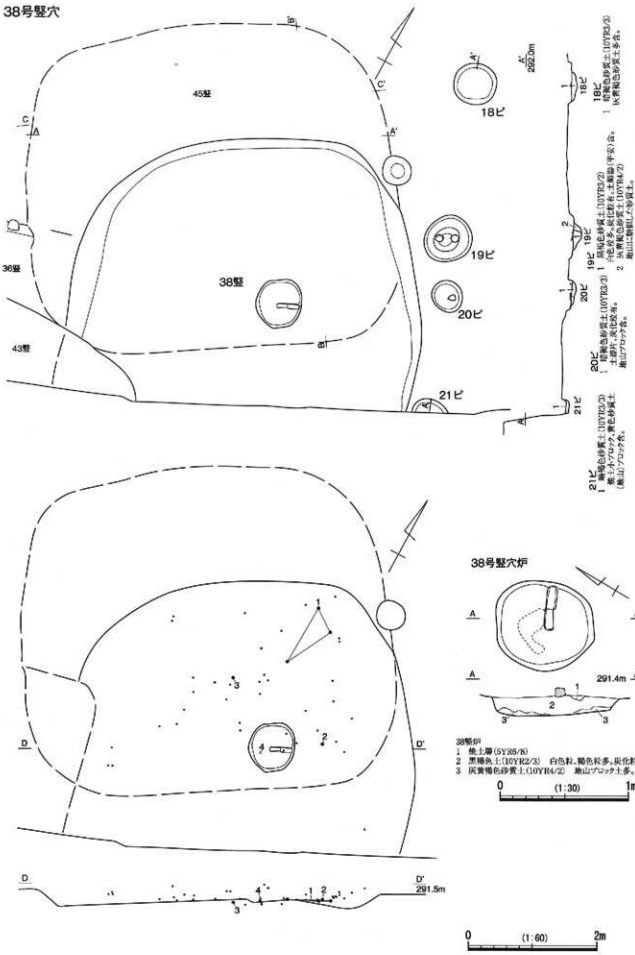
1 鈍い黄褐色砂質土(10YR5/3) 白色粒多。褐色粒有。礫入。
2 褐灰色砂質土(10YR4/1) 白色粒多。小礫入。
3 赤褐色砂質土(5YR4/8) サビ多。白色粒、褐色粒多。小礫入。
4 黒褐色砂質土(10YR3/2) 小礫入。黄褐色小ブロック入。
5 黒褐色砂質土(10YR3/2) 灰白色砂褐含。
6 鈍い黄褐色土(10YR4/3) 黒褐色土混。

15号溝



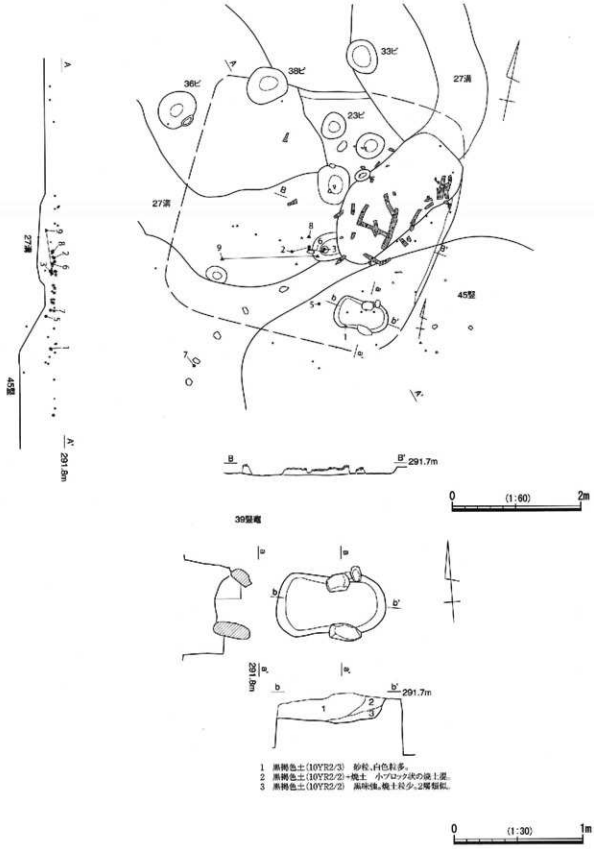
1 黒褐色砂質土(10YR2/3) サビ粒、白色粒多。褐色粒入。
2 黒褐色砂質土(10YR2/3)+灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 灰黄褐色砂質土ブロック混。

第29図 36号竪穴、15号溝


38号竪穴
45竪
36竪
43竪
38竪
18ヒ
19ヒ
20ヒ
21ヒ
38号竪穴炉
291.4m
0 (1:30) 1m
0 (1:60) 2m

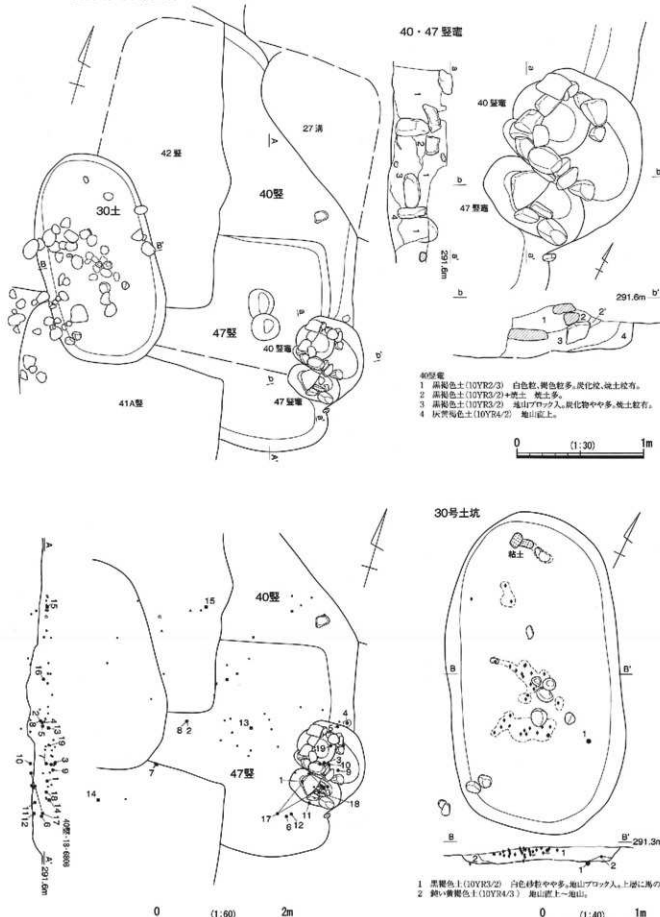
第30図　38号竪穴

39号竪穴



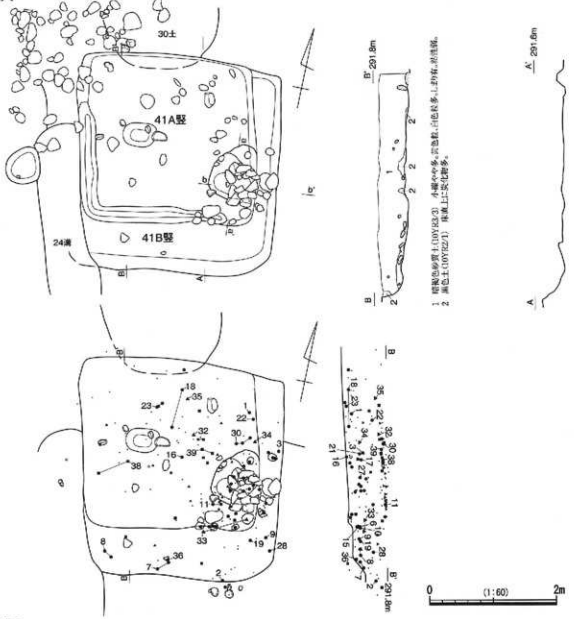
第31図 39号竪穴

40・47号竪穴、30号土坑

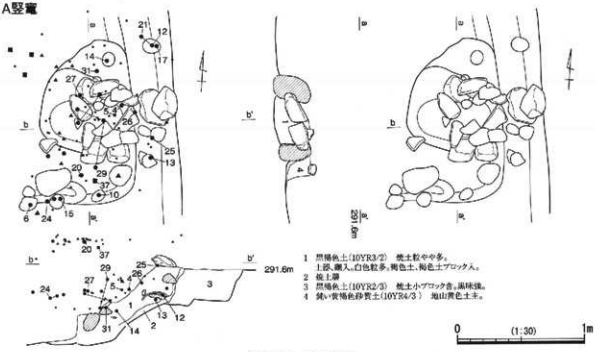


第32図 40・47号竪穴、30号土坑

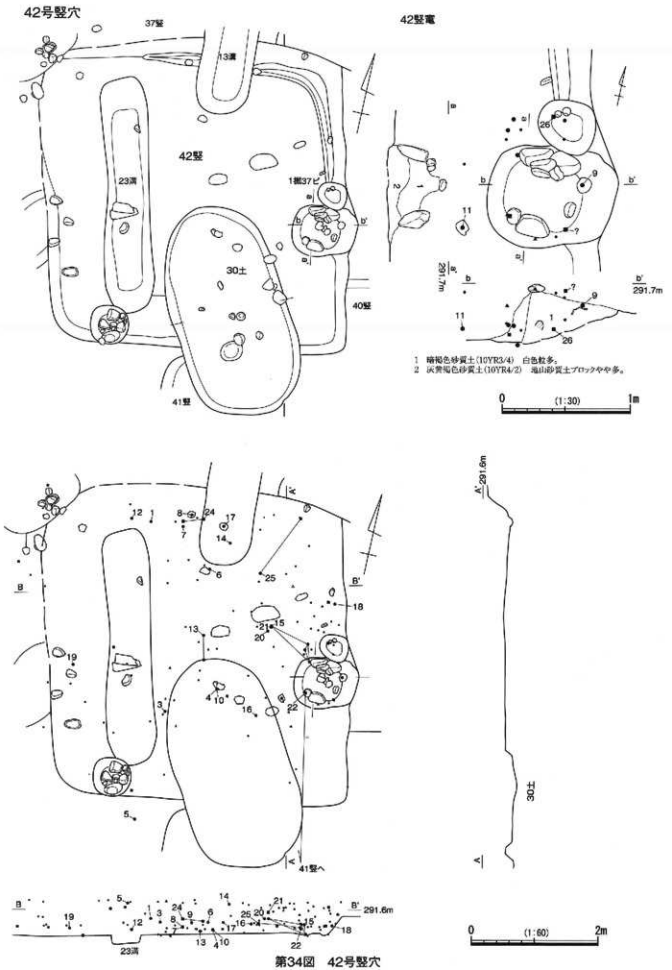
41号竪穴



41A竪竈



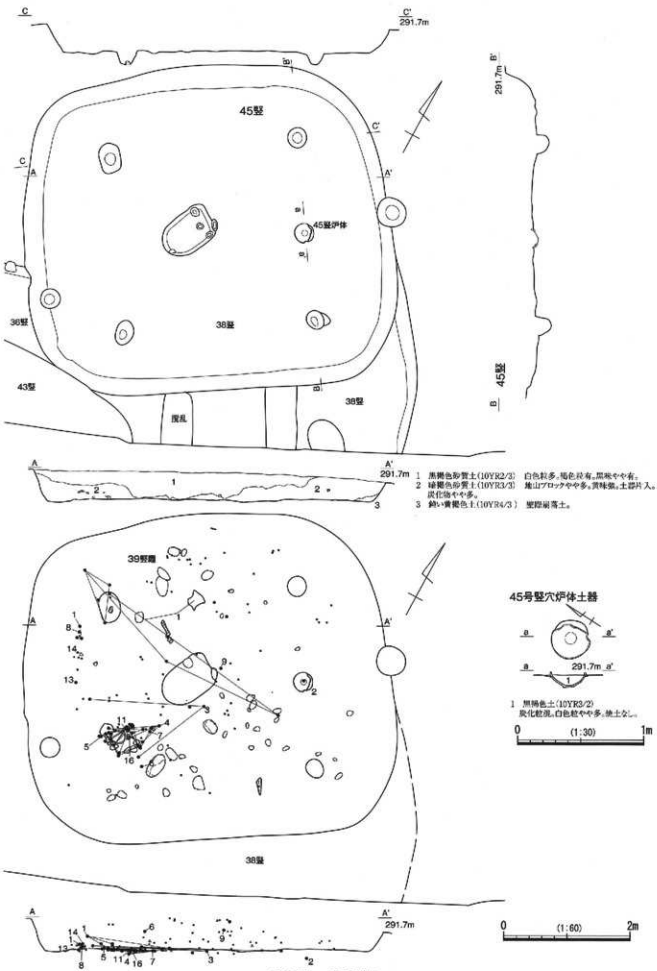
第33図　41号竪穴


42号竪穴
37竪
13溝
42竪
23溝
1棚37ピ
30土
40竪
41竪
42竪電
291.7m
1 暗褐色砂質土(10YR3/4) 白色粒多。
2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 地山砂質土ブロックやや多。
0 (1:30) 1m
291.6m
30土
41竪へ
23溝
0 (1:60) 2m

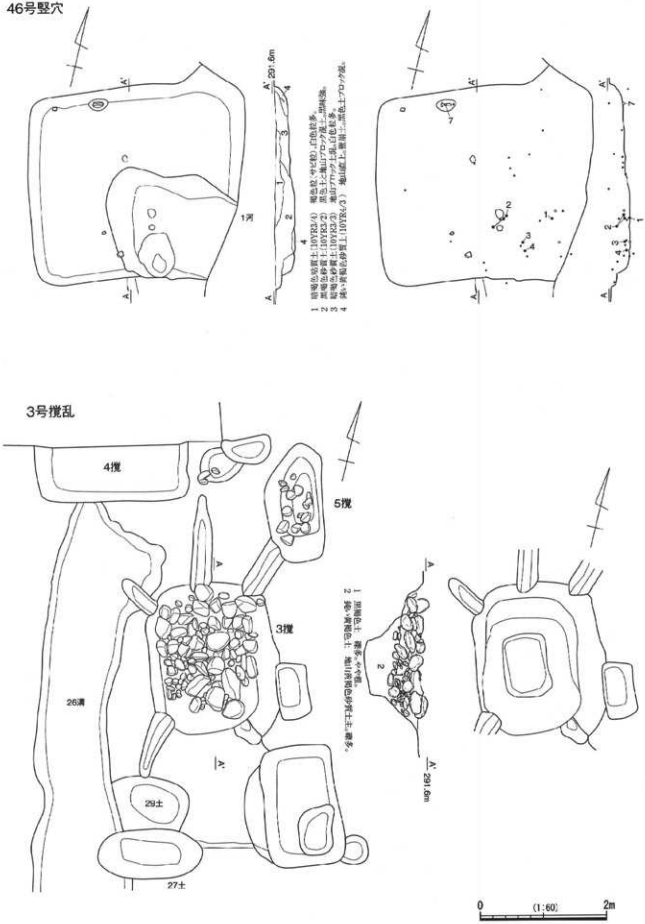
第34図 42号竪穴

第35図　43・44号竪穴

45号竪穴

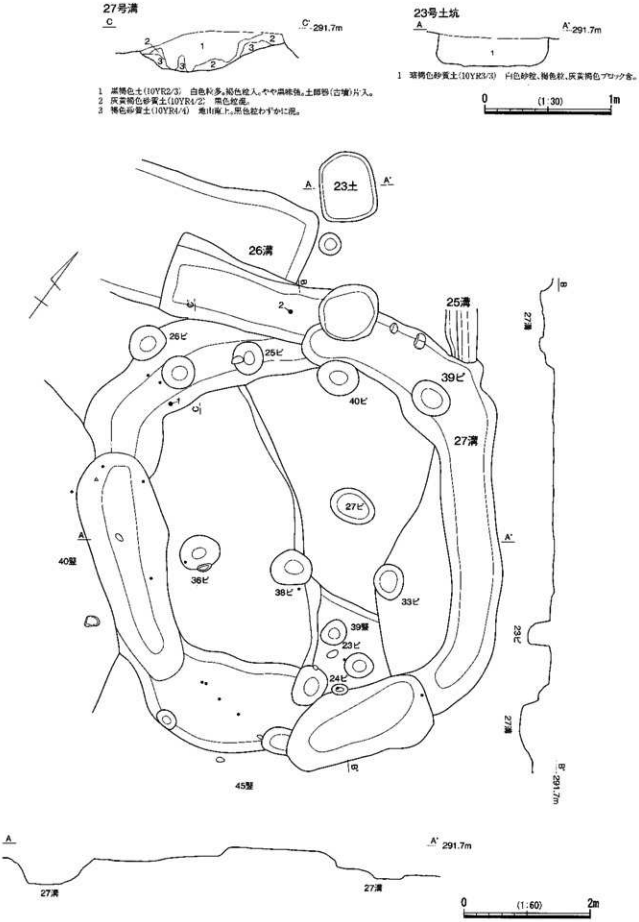


第36図 45号竪穴

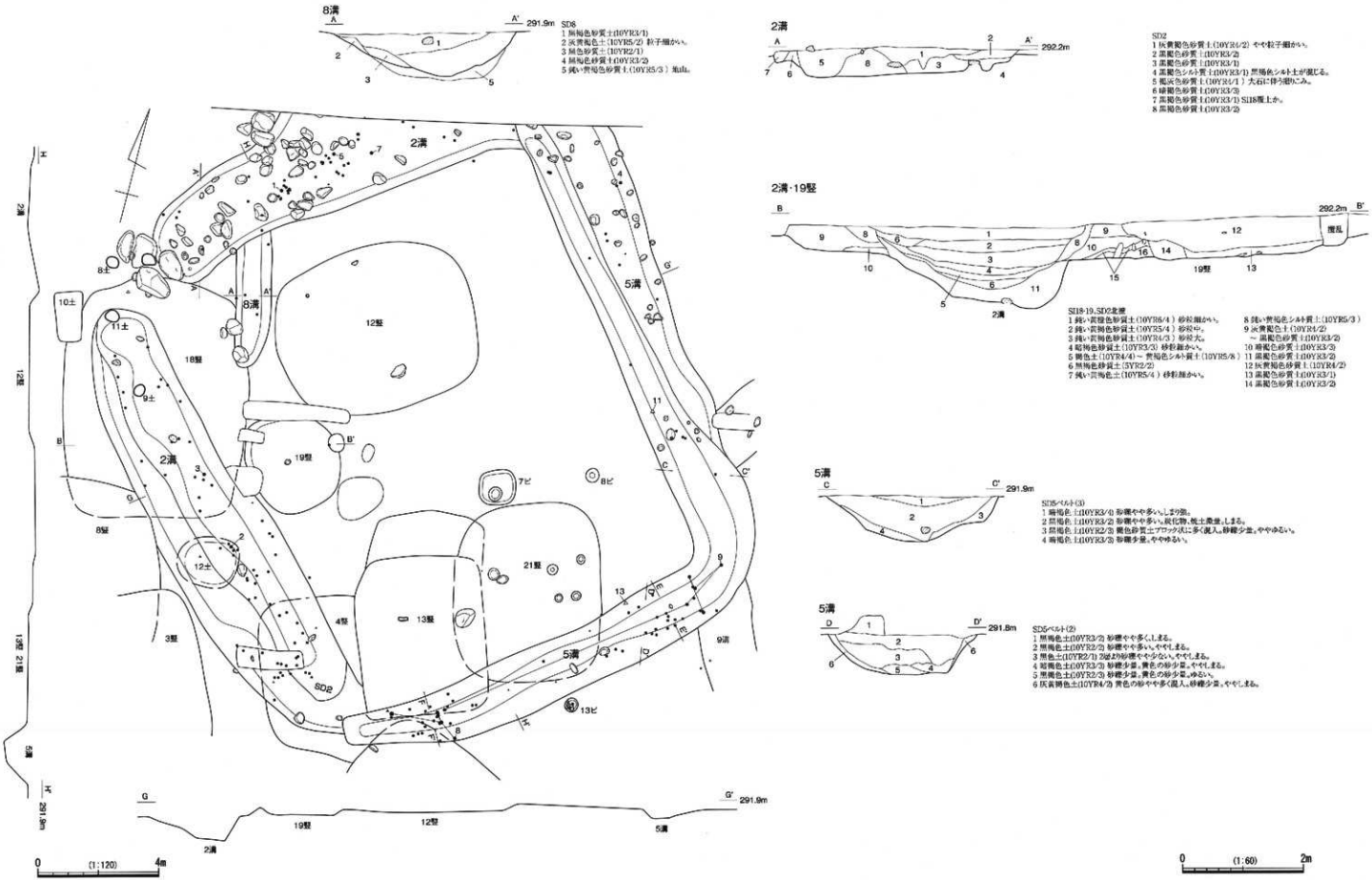


第37図　46号竪穴、3号撹乱

5号周溝墓、23号土坑



第38図　5号周溝墓、23号土坑



第39図　1号周溝墓（2・5号溝）、8号溝

9溝

1 黒色粘質土(N1.5/0) 黄褐色砂質土が斑状に混じる。
2 暗灰色粘質土(N3/0) 灰黄色砂粒を含む。
3 黒褐色土(10YR3/1) 砂粒を多く含む。灰黄色土が斑状に混じる。
4 褐灰色土(10YR4/1) 砂粒を多く含む。灰黄色土が下層に多く堆積する。
5 黒褐色土(10YR2/2) 黄色土が斑状に多く堆積する。
6 黒褐色土(10YR2/2) 砂粒を多く含む。
7 灰黄褐色土(10YR5/2) 黄色土がブロック状に混じる。
8 黒色土(10YR2/1) 砂粒を多く含む。黄色土が斑状に混じる。

9溝

1 灰色粘質土(N4/0) 黄褐色砂質土が斑状に混じる。
2 暗い黄褐色土(10YR5/4) 上層に黄色砂質土が斑に混じる。粘性強い。SD9覆土。
3 黒色土(10YR2/1) 砂粒を含む。黒色土、灰色土が混じる。しまりやや弱い。SD9覆土。
4 灰黄褐色土(10YR4/2) 砂粒を含み、炭化物が混じる。黄色土粒が斑じる。SD9覆土。
5 灰黄褐色土(2.5Y4/2) 砂粒が多く混じる。黄色砂質土が斑状に混じる。SD9覆土。
6 黒褐色土(10YR3/1) 砂粒が多く混じる。下層に黒色土粒が斑じる。SD9覆土。
7 黒色土(10YR2/1) 砂粒を多く含む。炭化物、黄色土粒が混じる。SD9覆土。
8 暗褐色土(10YR3/3) 砂粒が多く混じる。黒色土、黄色土粒が多く混じる。SI25覆土。

9溝?

1 黒褐色土(10YR3/2) 砂粒多い。炭化物少量含む。SD11覆土。
2 黒褐色土(10YR3/2) 砂粒多い。炭化物やや多く含む。SD11覆土。
3 暗褐色土(10YR3/3) 砂質。SD11覆土。
4 淡い黄褐色シルト質土(10YR5/4) 地山。

13溝

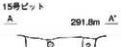
1 黒褐色土(10YR2/3) 白色砂多。褐色粒、灰黄褐色土ブロック有。
2 褐褐色砂質土(10YR3/3) 灰褐色土ブロック入。固結強い。
3 淡い黄褐色砂質土(10YR4/3) 地山直上。灰褐色砂粒主体。

0 (1:60) 2m

14号ピット

1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 炭化物を少量含む。
2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) ややしまる。
3 淡い黄褐色砂質土(10YR4/3)

15号ピット



1 黒褐色砂質土(10YR3/2)
炭化物を少量含む。
2 淡い黄褐色砂質土(10YR4/3)
+褐灰色砂質土(10YR4/1) 互層。

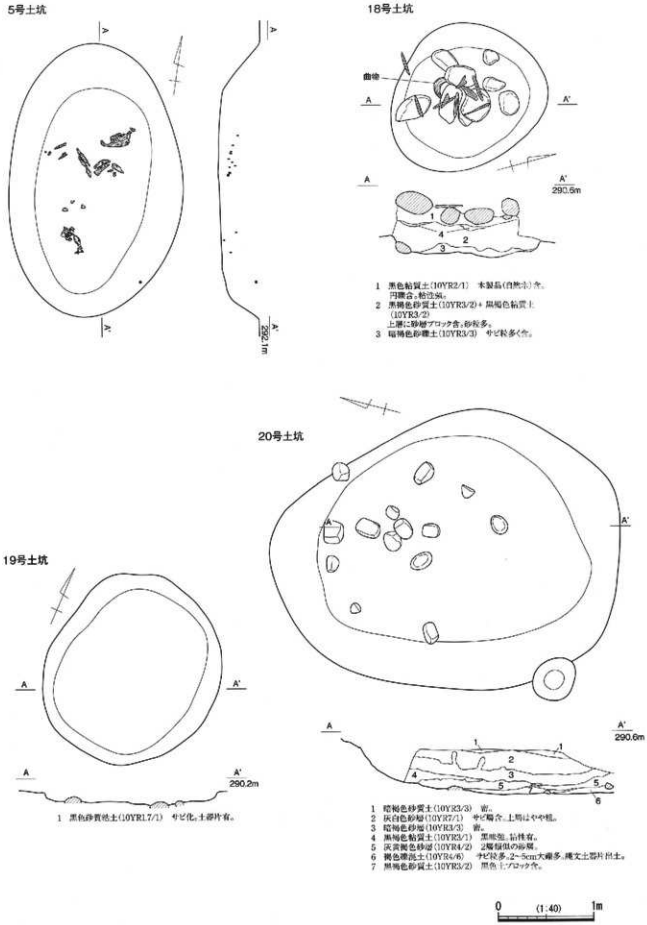
16号ピット

1 黒褐色砂質土(10YR3/1)

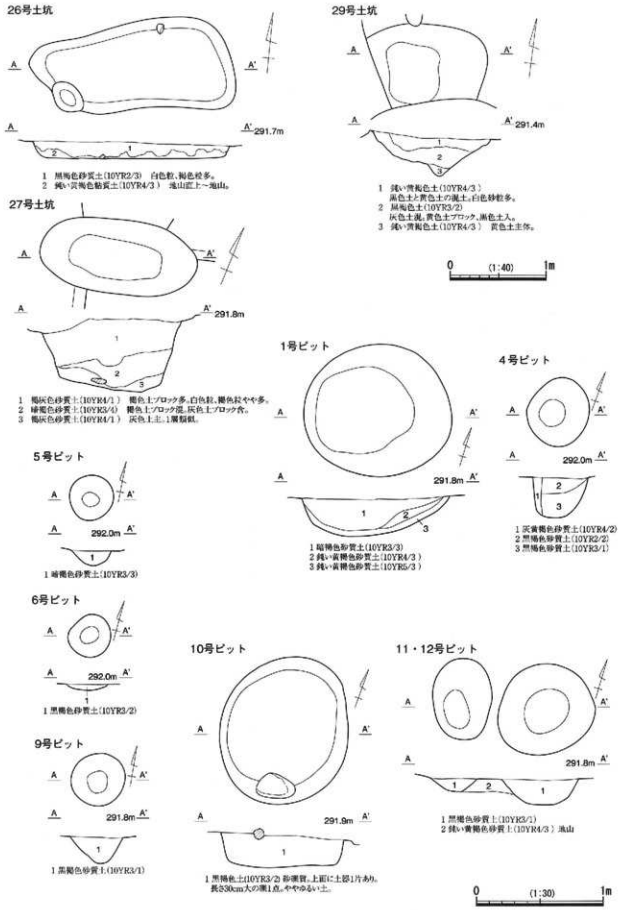
17号ピット

0 (1:30) 1m

第40図　2～4・7号周溝墓、22号溝、14～17号ピット

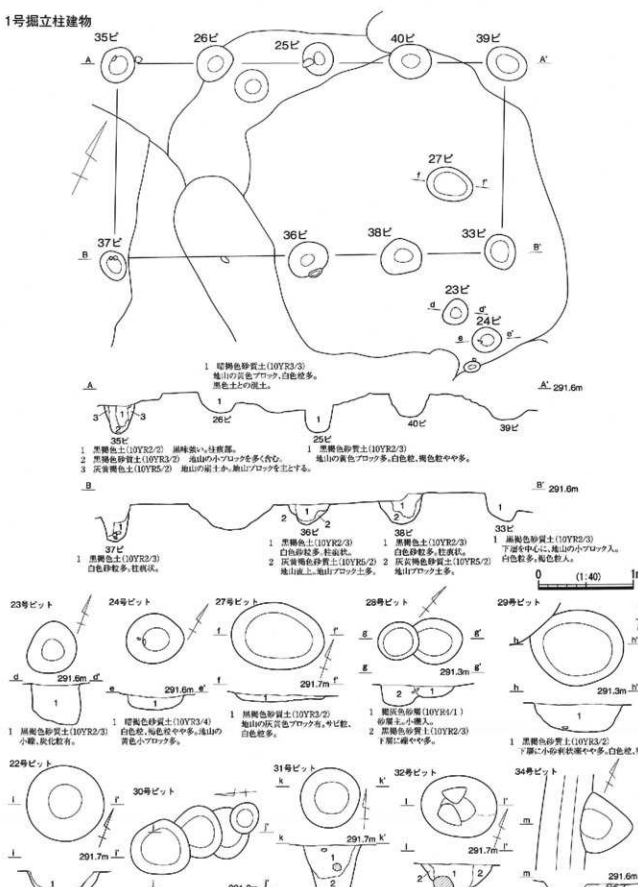


第41図　5・18~20号土坑

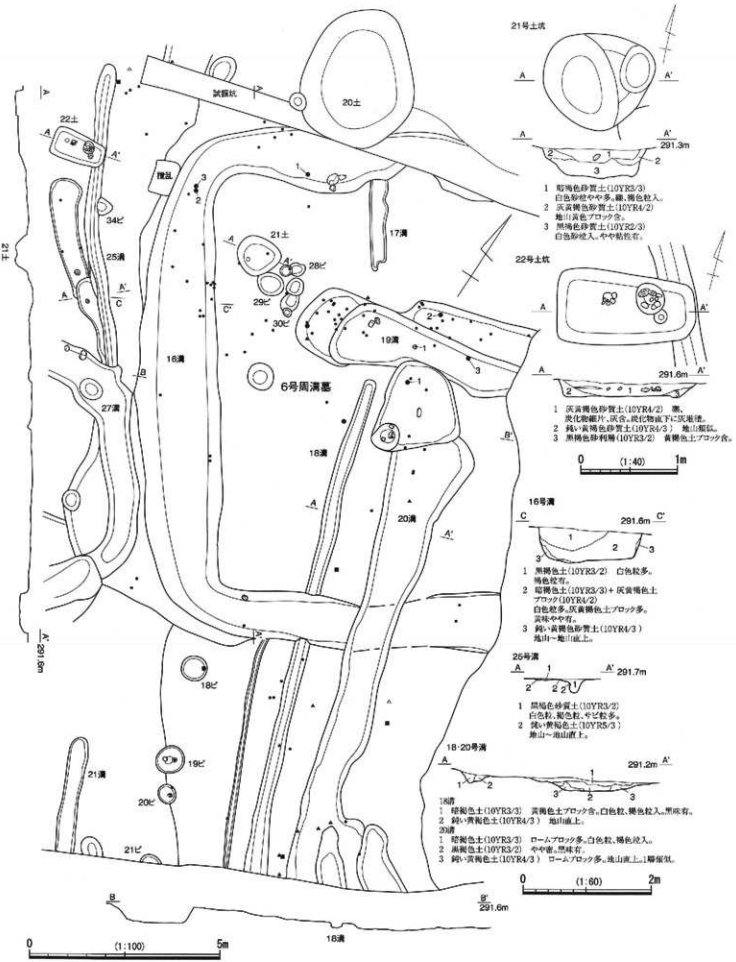


第42図 26～29号土坑、1～12号ピット

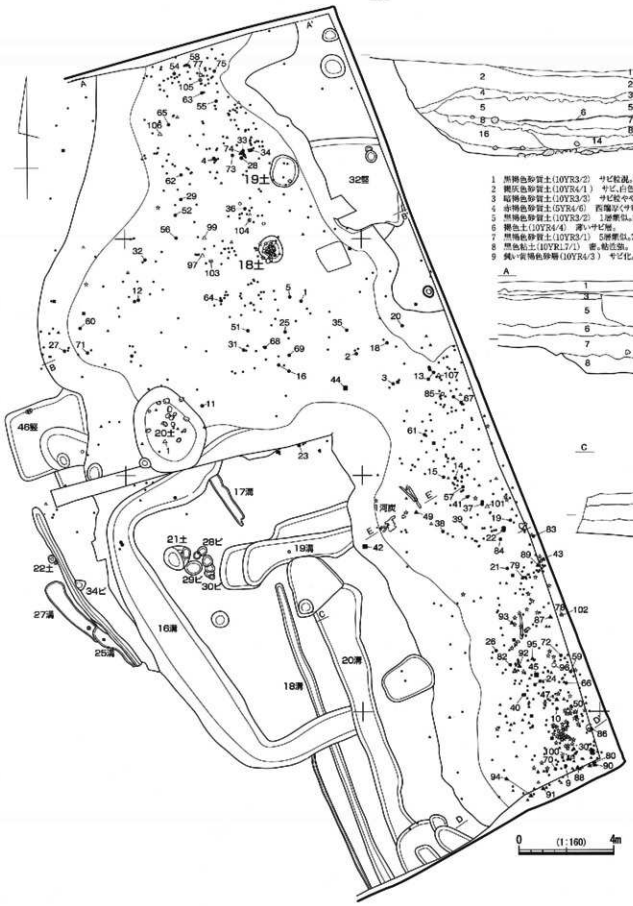
1号掘立柱建物

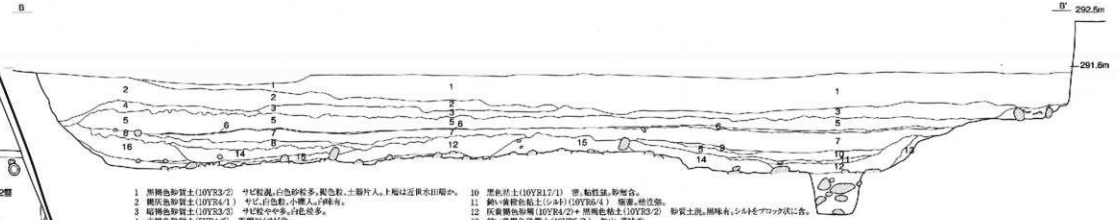


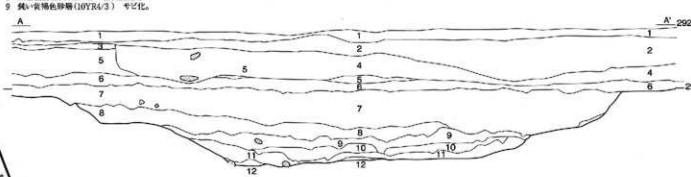
第43図　1号掘立柱建物、23～34号ピット

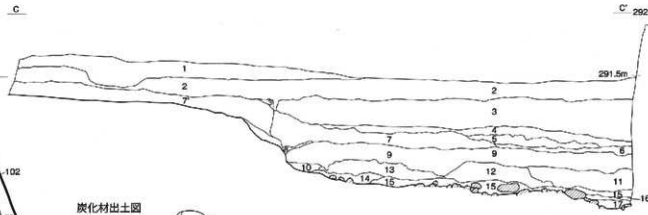


第44図　6号周溝墓(16号溝)、21・23号土坑、18・20・25号溝



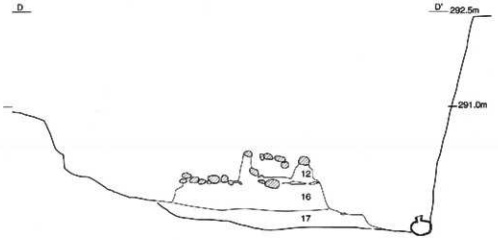






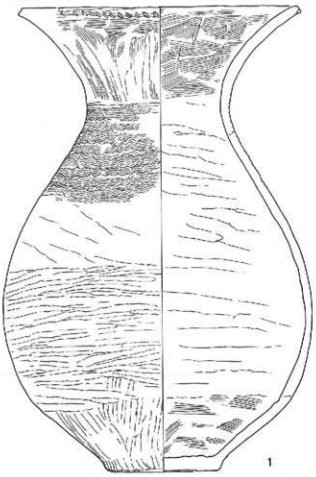
炭化材出土図

1 炭土層(明黄褐色(10YR6/6) 炭化物混。
2 黒褐色砂質土(10YR3/2) サビ粒、礫入。
3 黒褐色砂質土(10YR2/3) 砂層。
4 暗褐色砂質土(10YR3/3) 砂層。

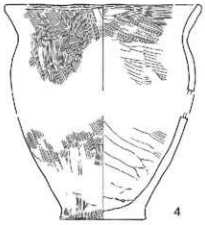


第45図 1号河道

1号竪穴



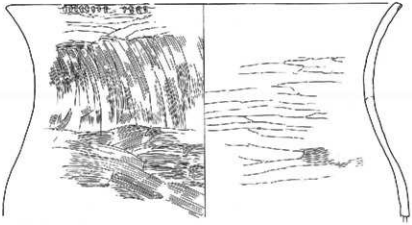
3



4

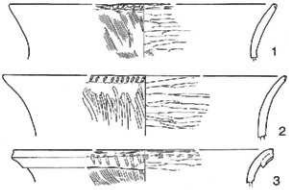
5

1



2

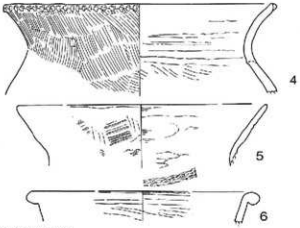
2号竪穴



1

2

3



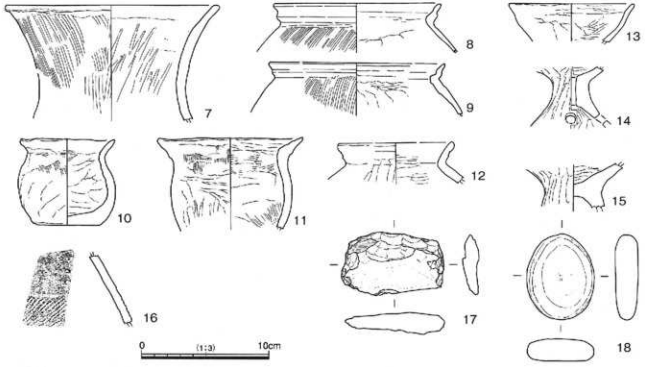
4

5

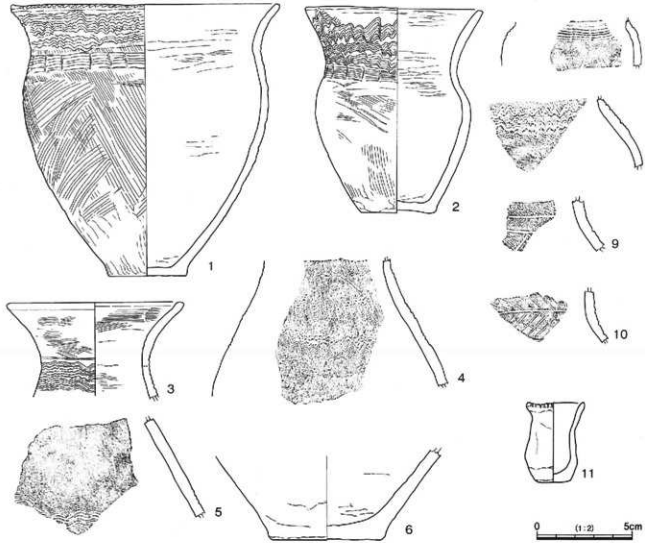
6

第46図　1・2号竪穴遺物

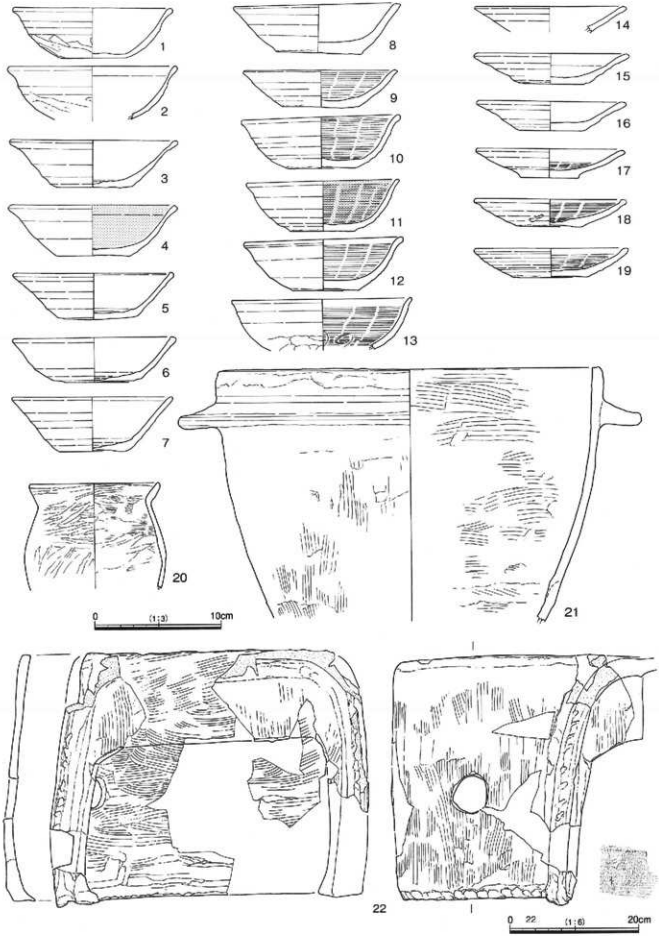
2号竪穴



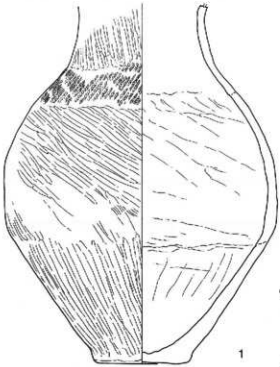
3号竪穴

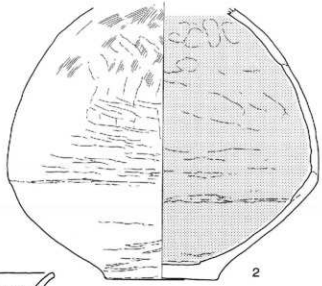


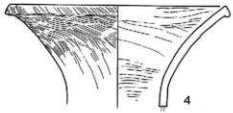
第47図　2・3号竪穴遺物

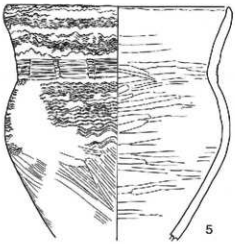

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
0 (1:3) 10cm
0 22 (1:6) 20cm

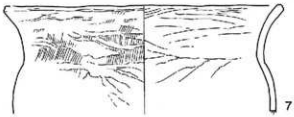
第48図　4号竪穴遺物

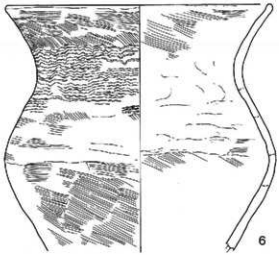


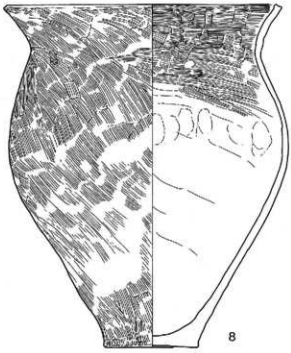






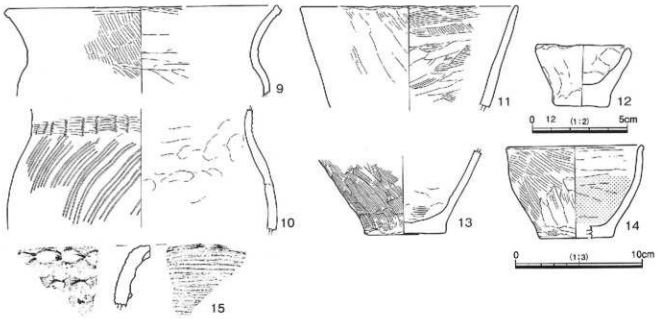




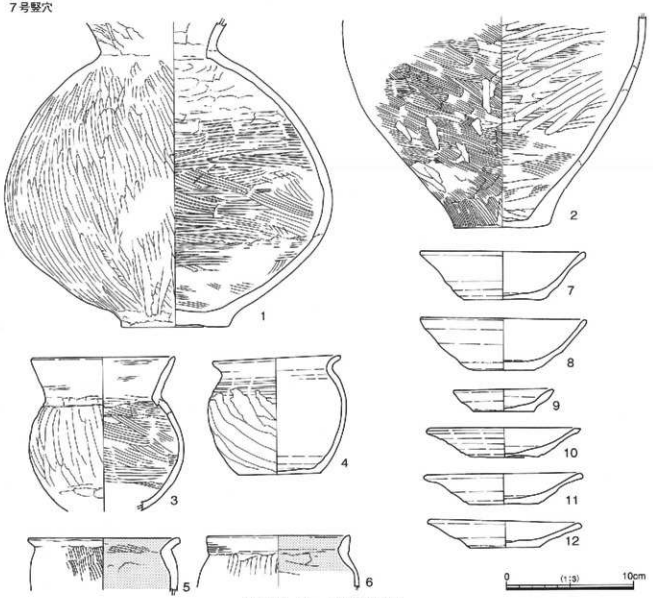


第49図　5号竪穴遺物

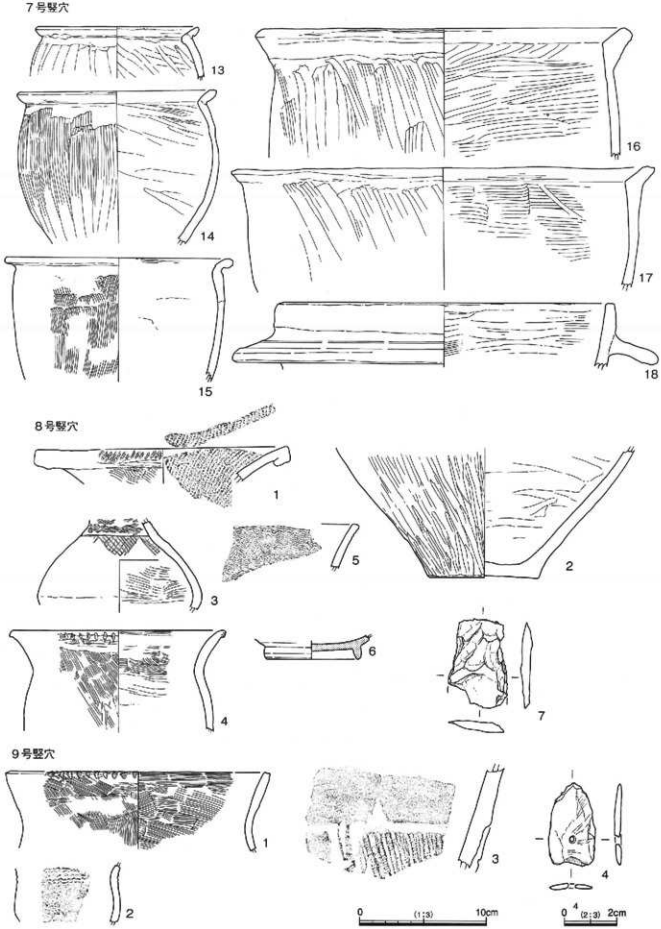
5号竪穴



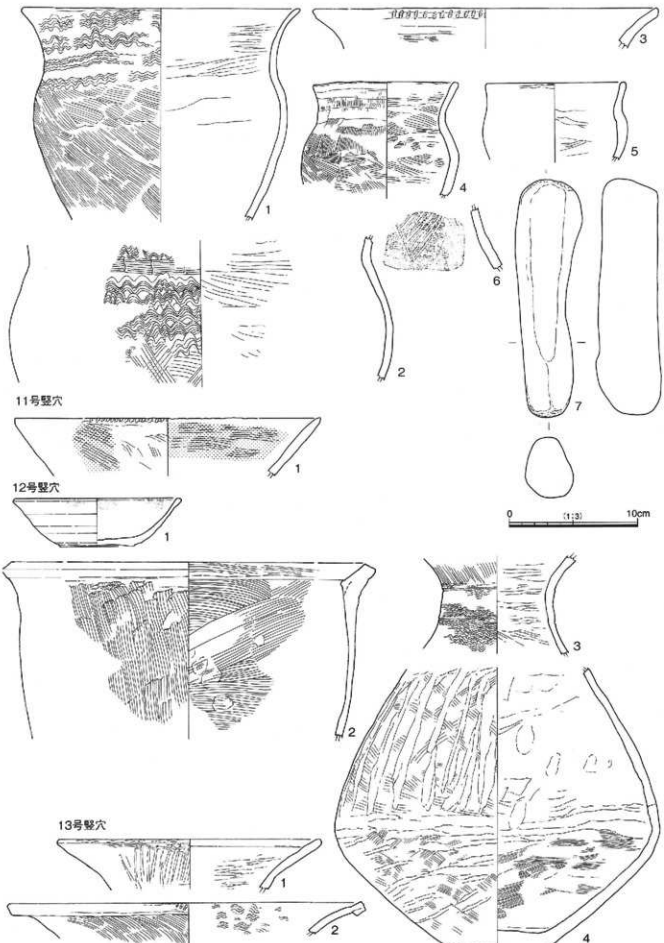
7号竪穴



第50図　5・7号竪穴遺物

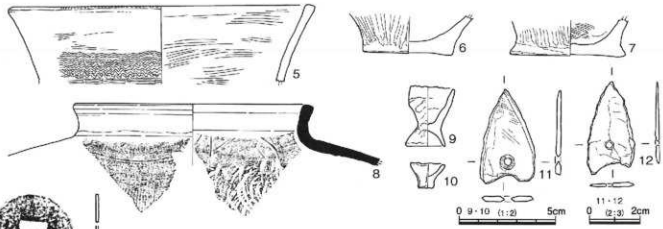


第51図　7～9号竪穴遺物

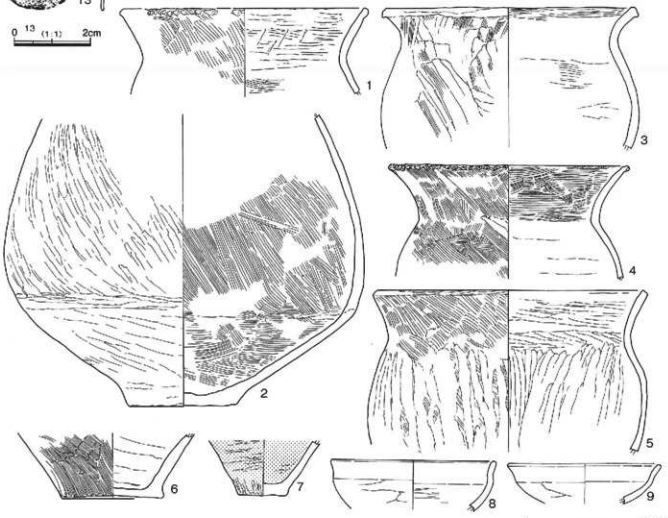


第52図　10～13号竪穴遺物

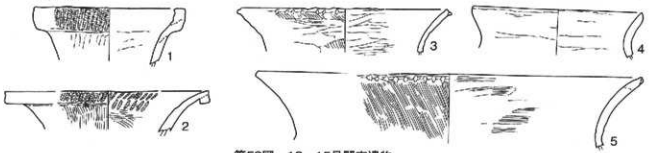
13号竪穴



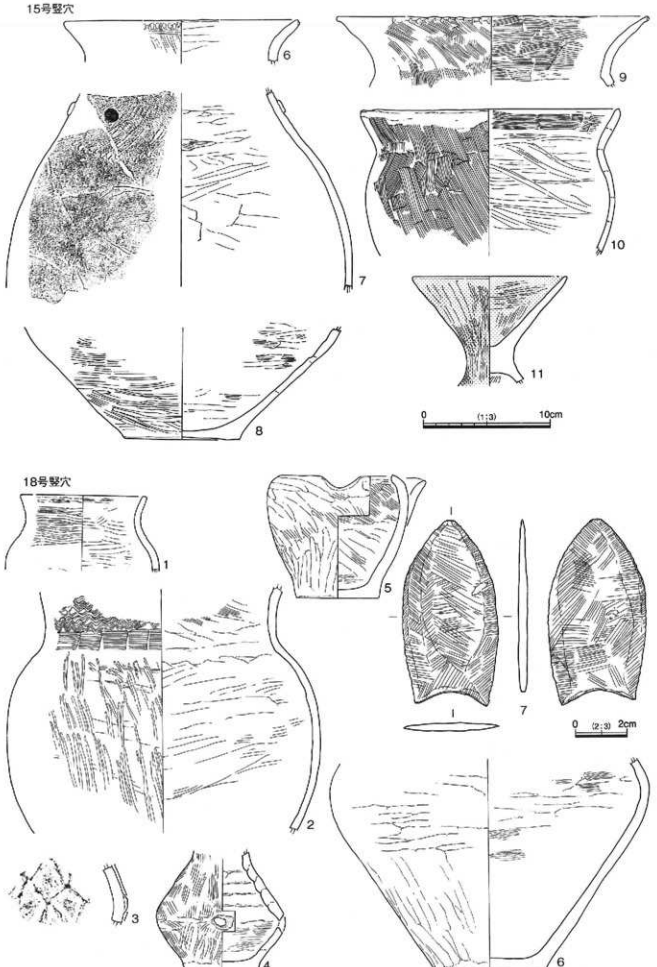
14号竪穴



15号竪穴

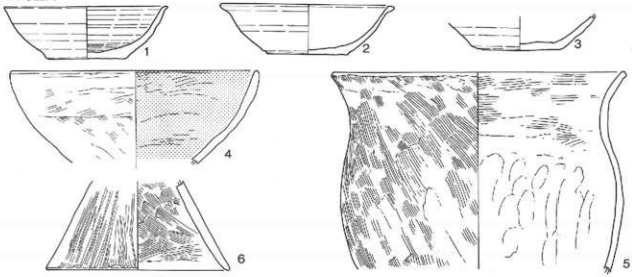


第53図　13～15号竪穴遺物

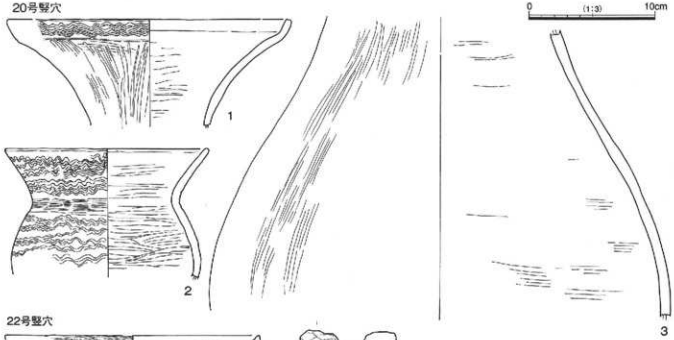


第54図　15・18号竪穴遺物

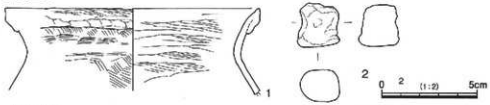
19号竪穴



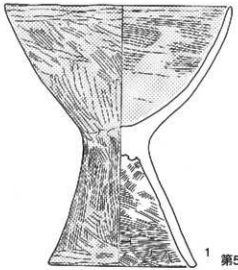
20号竪穴



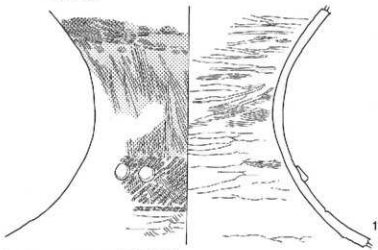
22号竪穴



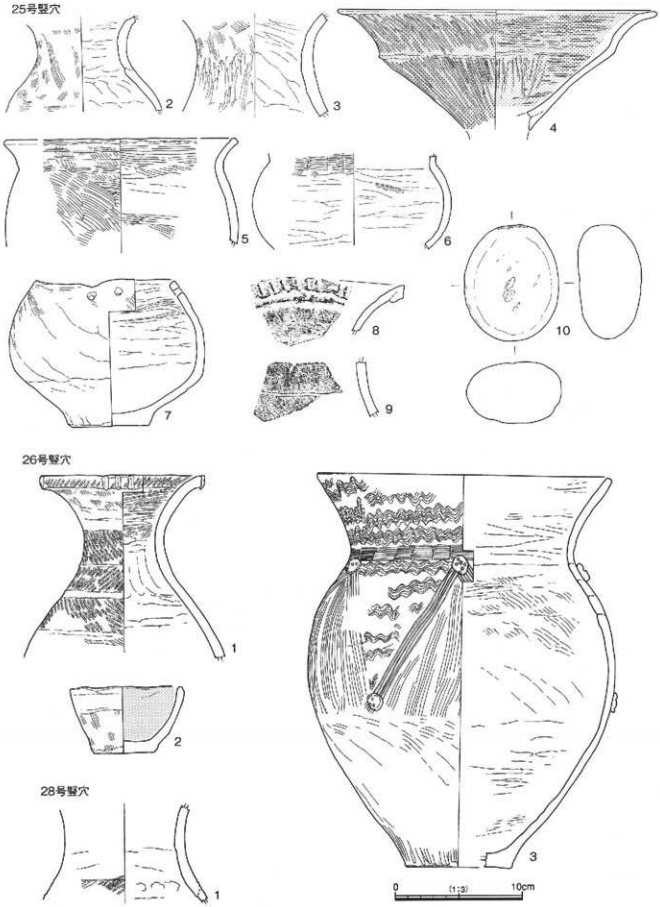
24号竪穴



25号竪穴

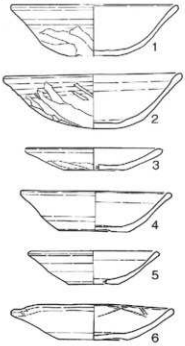


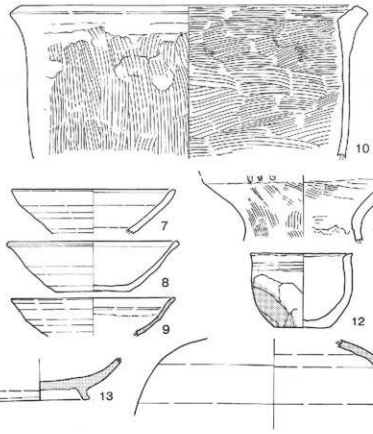
第55図　19・20・22・24・25号竪穴遺物



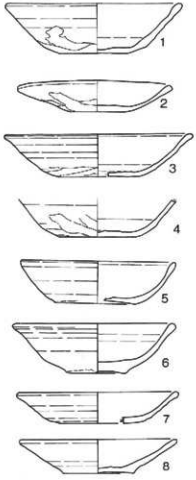
第56図　25・26・28号竪穴遺物

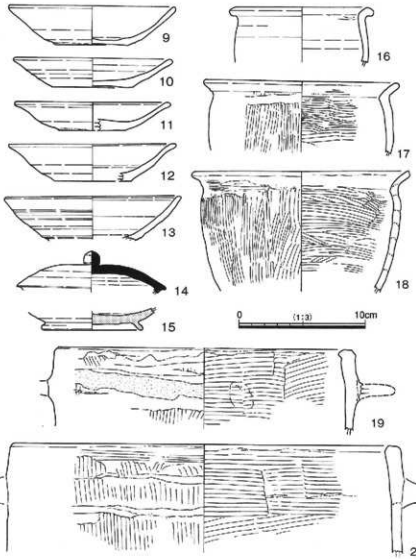
32号竪穴





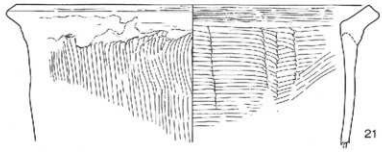
33号竪穴



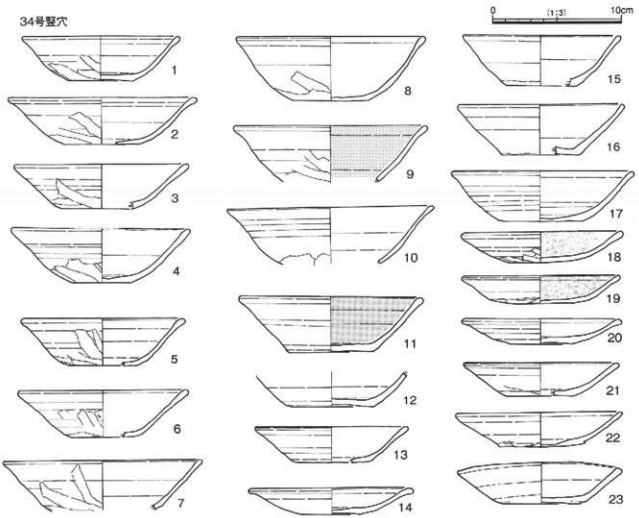


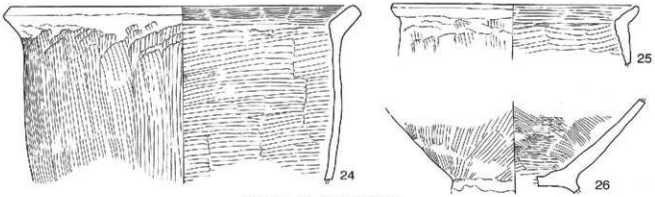
第57図　32・33号竪穴遺物

33号竪穴



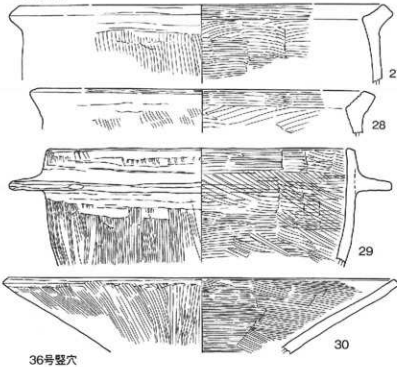
34号竪穴

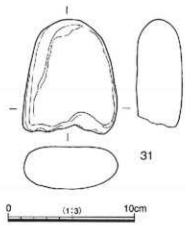




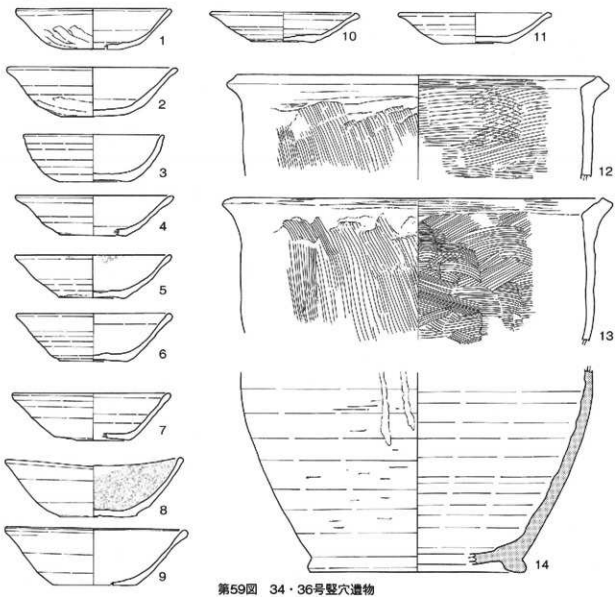
第58図　33・34号竪穴遺物

34号竪穴



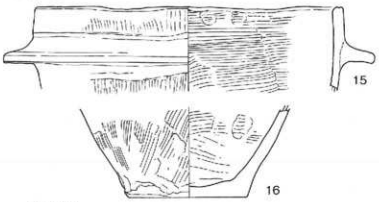


36号竪穴

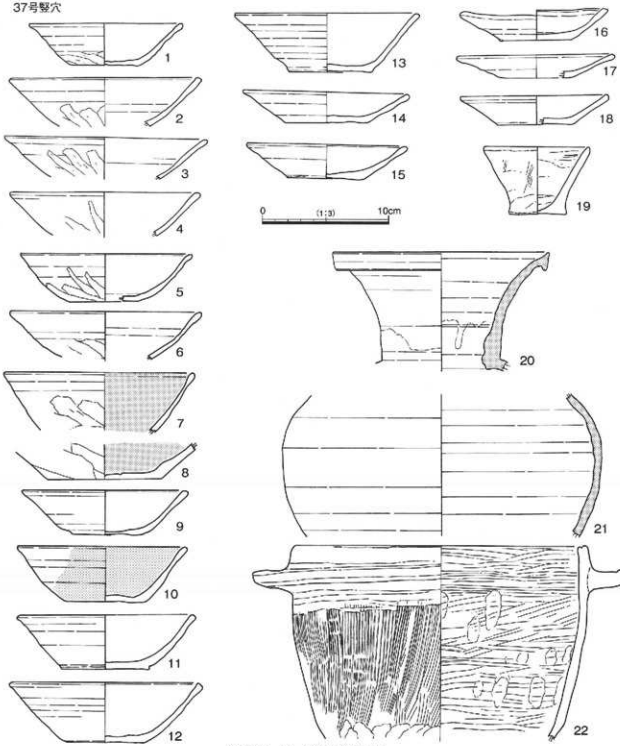


第59図　34・36号竪穴遺物

36号竪穴

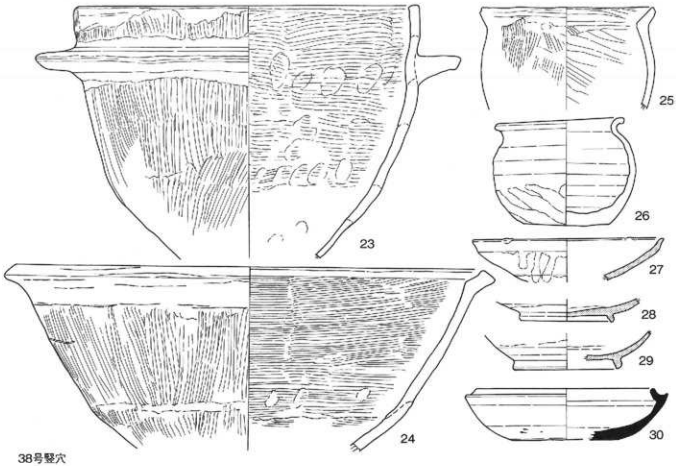


37号竪穴

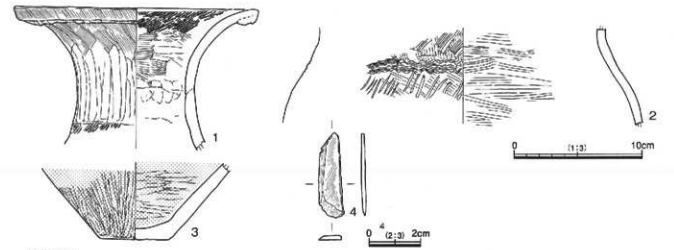


第60図　36・37号竪穴遺物

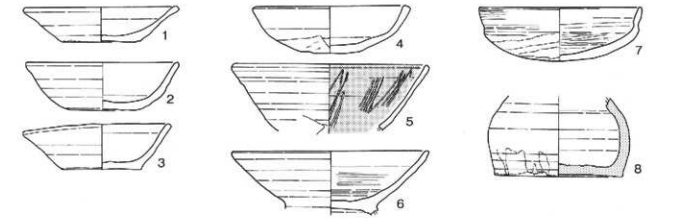
37号竪穴



38号竪穴



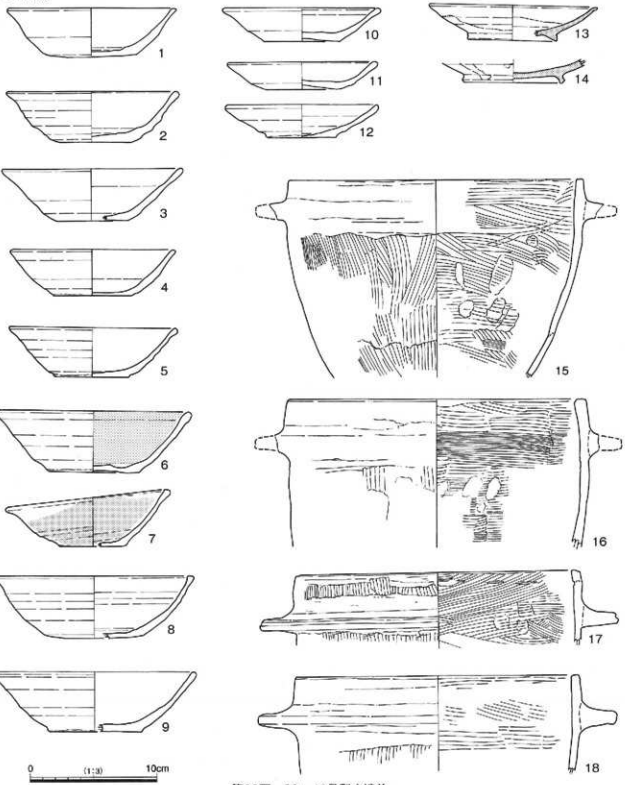
39号竪穴



第61図　37～39号竪穴遺物

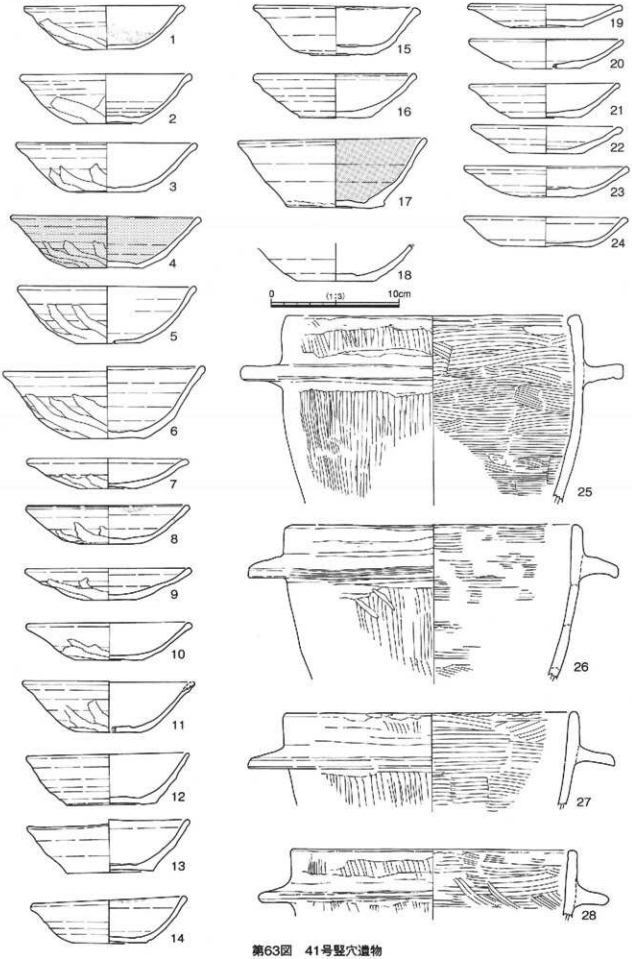
39号竪穴

40号竪穴



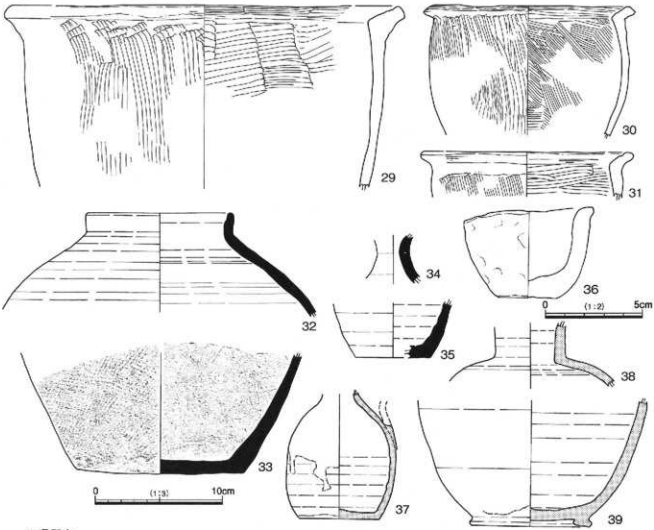
第62図　39・40号竪穴遺物

41号竪穴

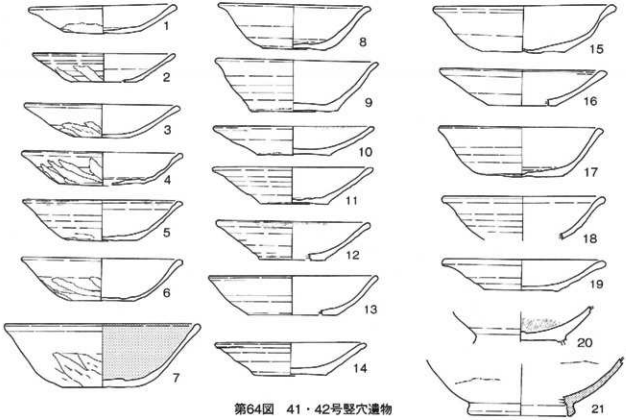


第63図　41号竪穴遺物

41号竪穴

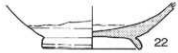


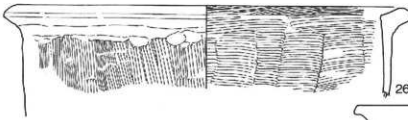
42号竪穴

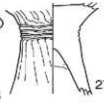


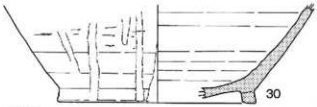
第64図　41・42号竪穴遺物

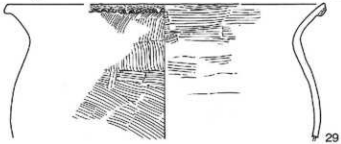
42号竪穴



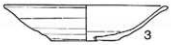


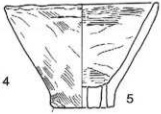


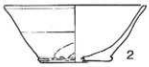




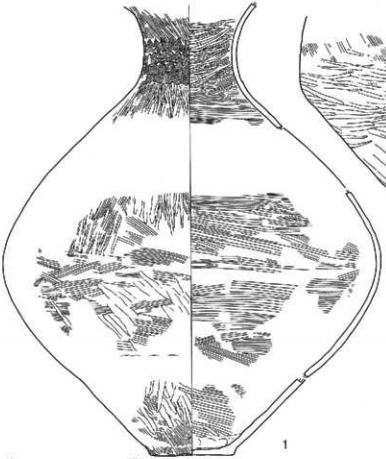
43号竪穴

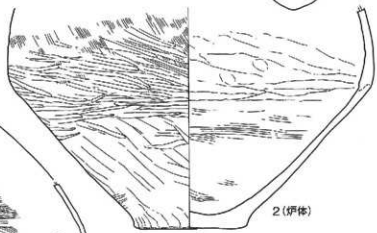


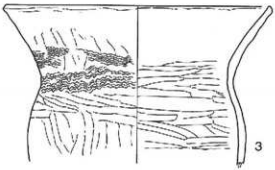




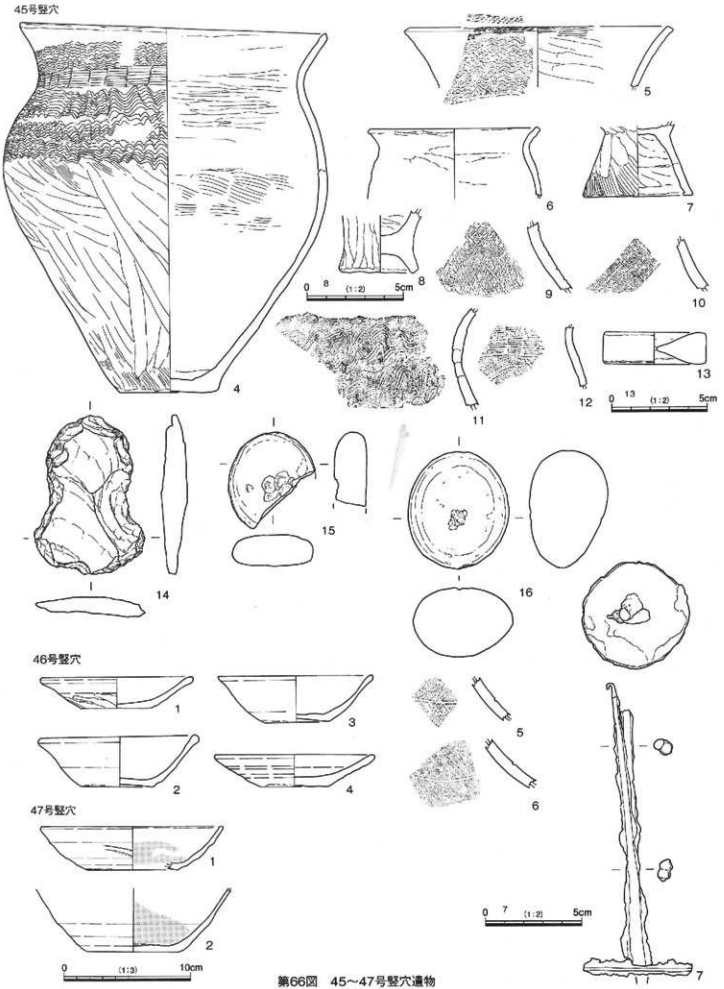
45号竪穴



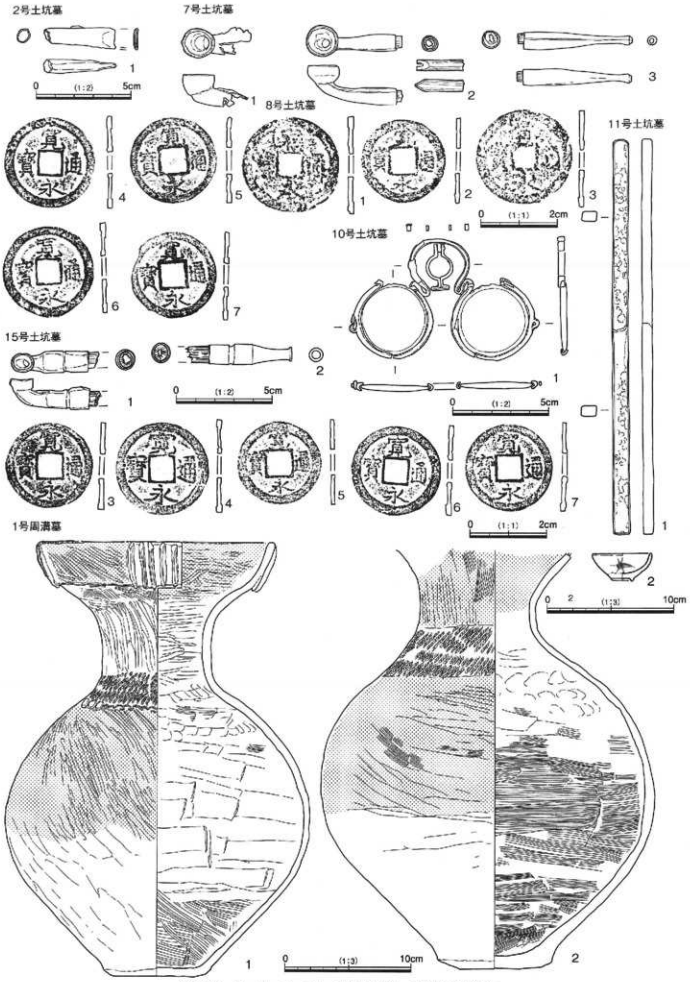




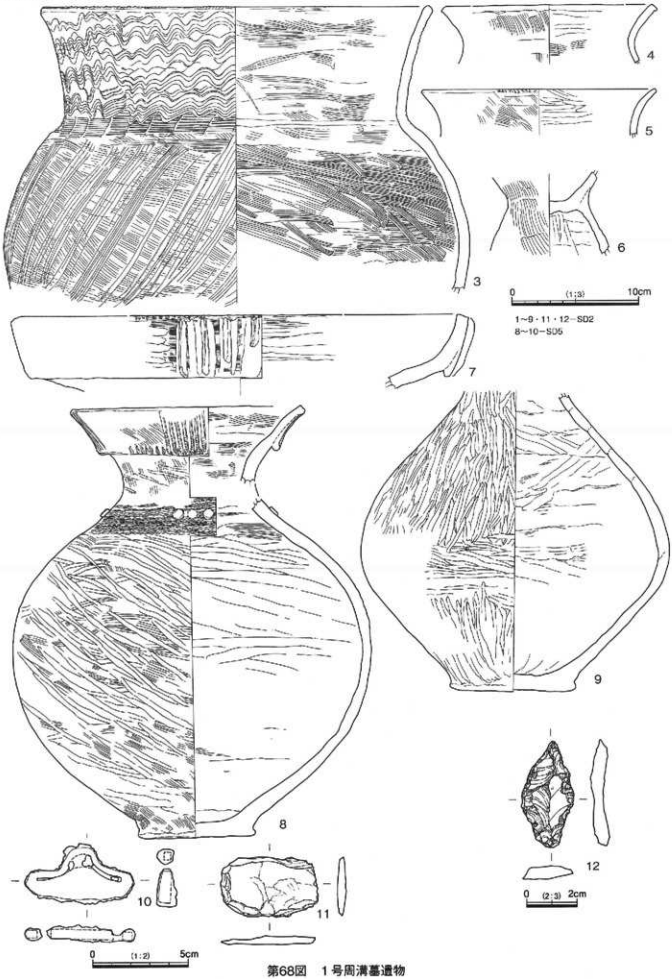
第65図　42・43・45号竪穴遺物



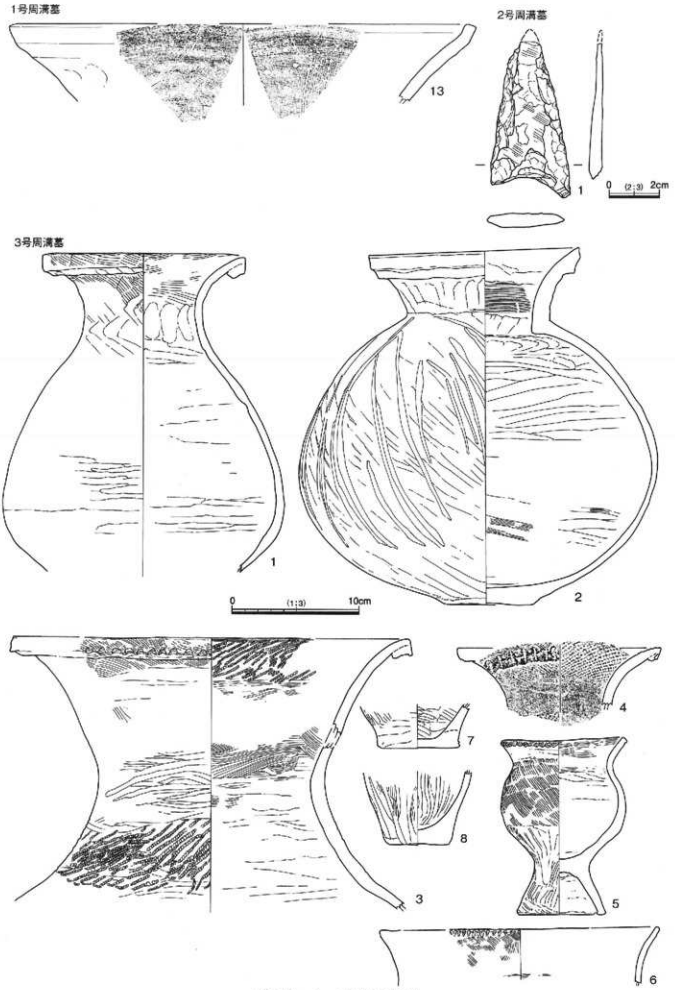
第66図　45～47号竪穴遺物



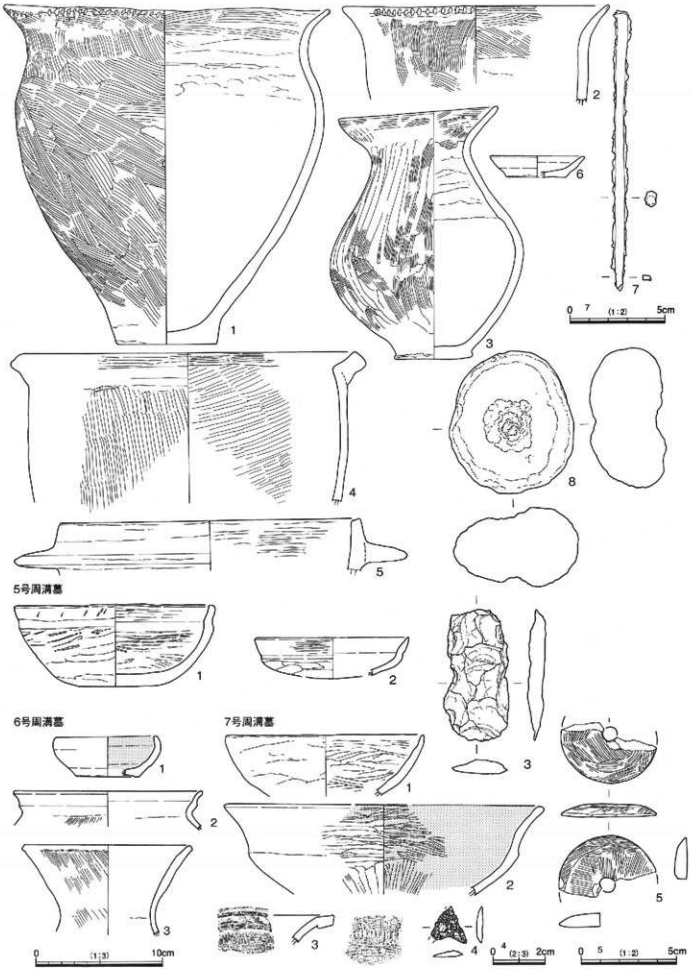
第67図　2・7・8・11・15号土坑墓、1号周溝墓遺物



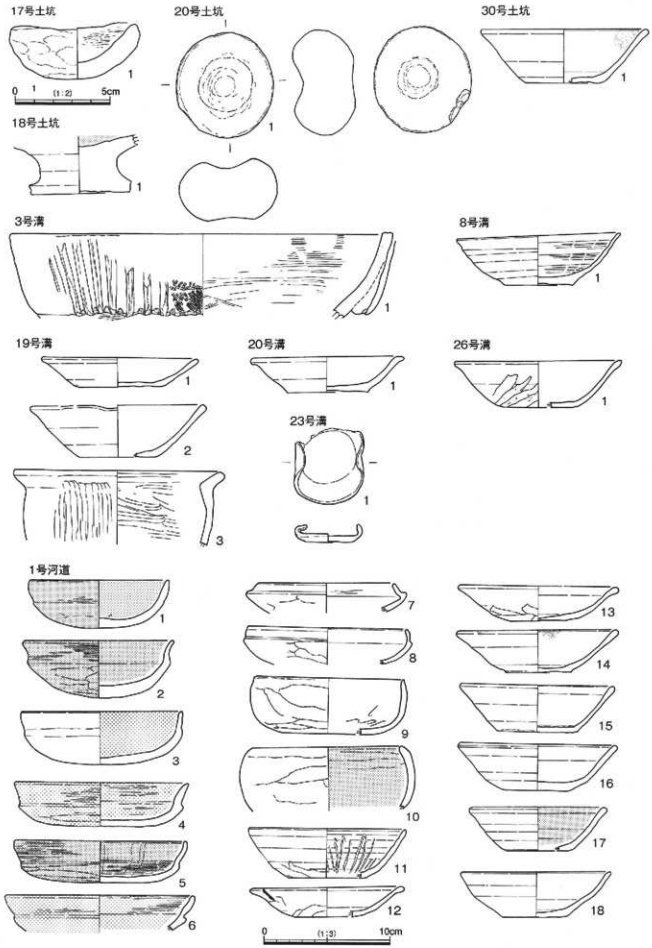
第68図　1号周溝墓遺物



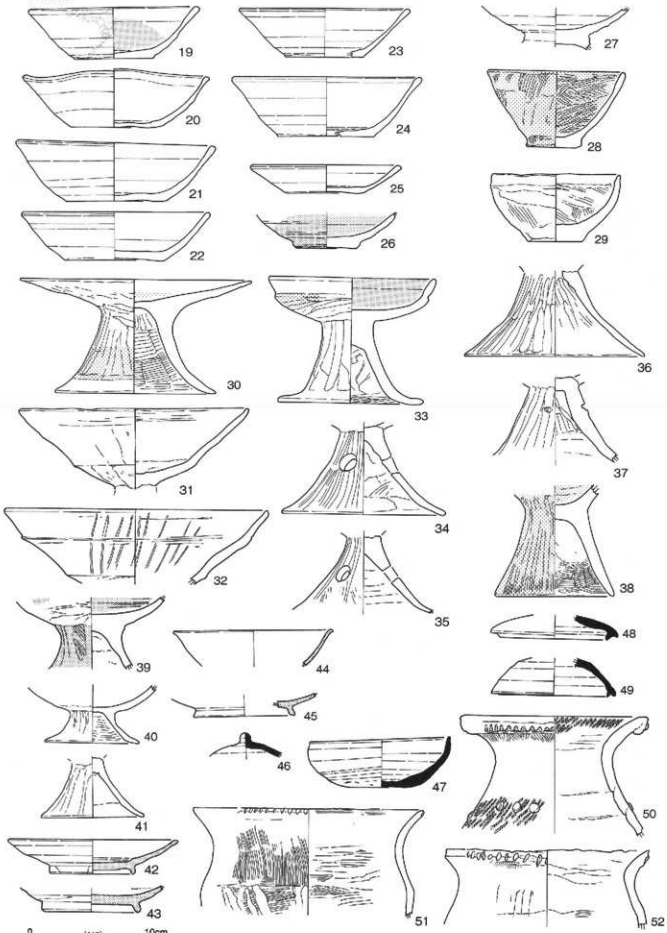
第69図　1～3号周溝墓遺物



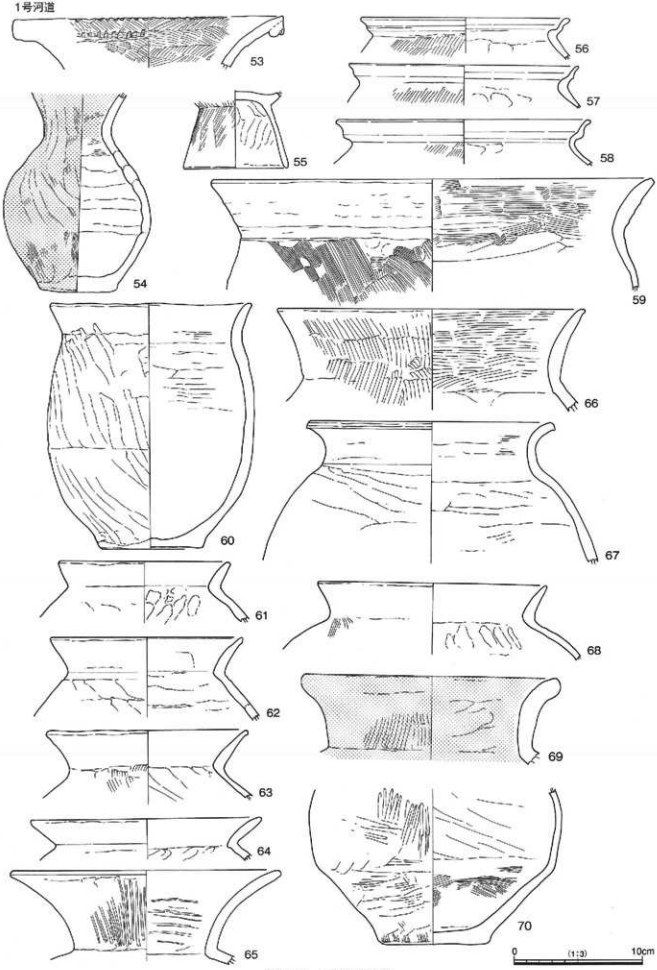
第70図　4～7号周溝墓遺物



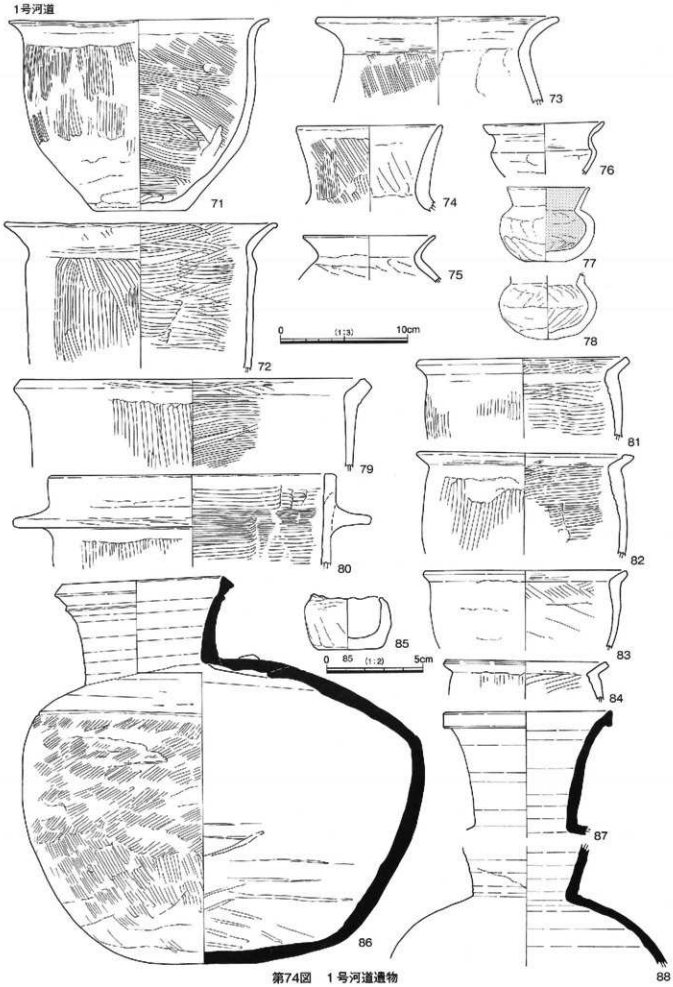
第71図　17・18・20・30号土坑、3・8・19・20・23・26号溝、1号河道遺物


19
23
27
20
24
28
21
25
29
22
26
30
33
36
31
37
34
32
38
35
39
44
48
49
40
45
46
47
41
50
42
51
52
43
0
(1:3)
10cm

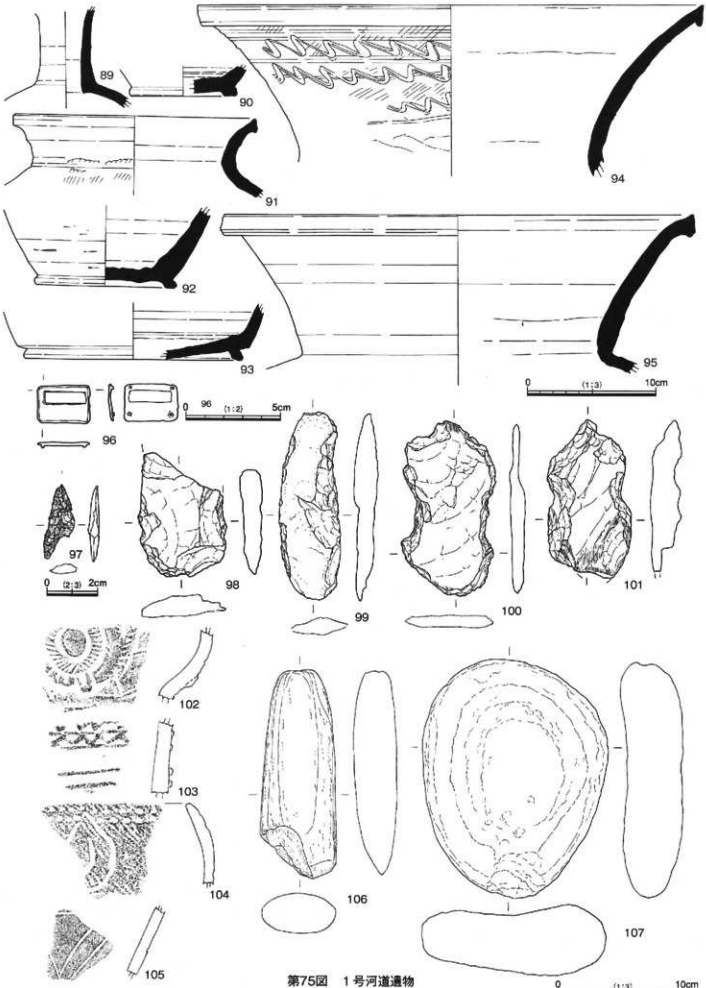
第72図　1号河道遺物



第73図　1号河道遺物

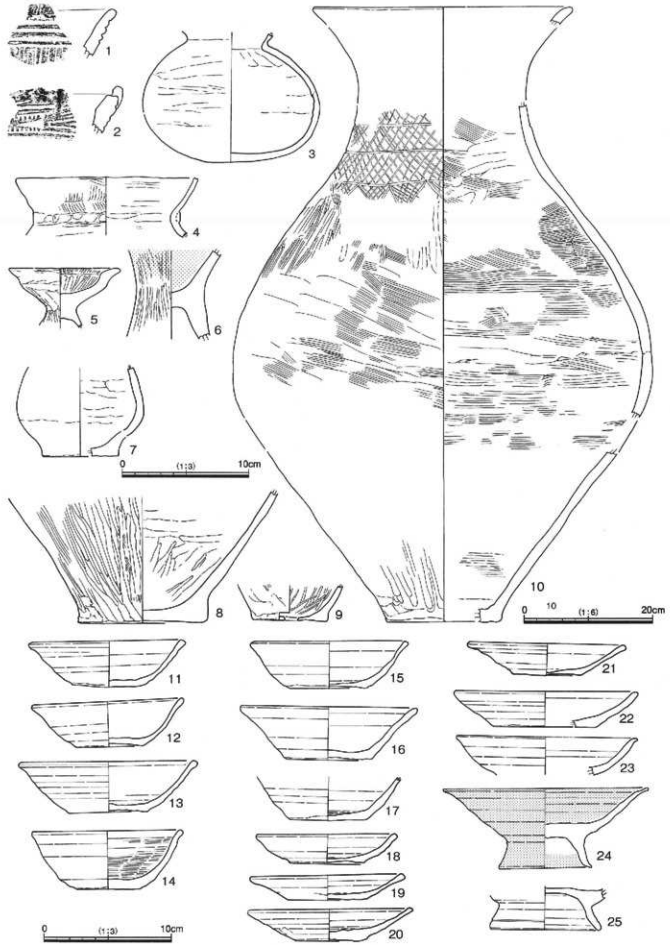

1号河道
71
72
73
74
75
76
77
78
0 (1:3) 10cm
79
80
81
82
83
84
85
0 85 (1:2) 5cm
86
87
88

第74図　1号河道遺物


89
90
91
92
93
94
95
0 (1:3) 10cm
96
0 96 (1:2) 5cm
97
0 (2:3) 2cm
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
0 (1:3) 10cm

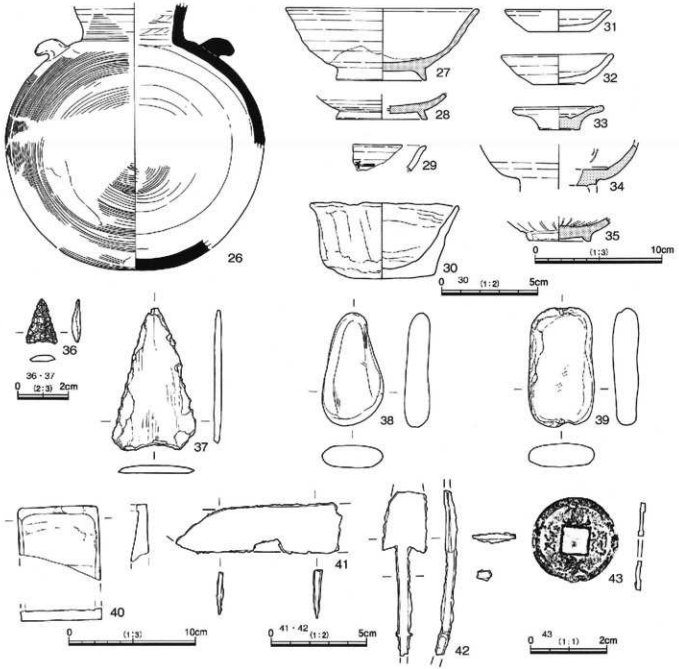
第75図　1号河道遺物

遺構外

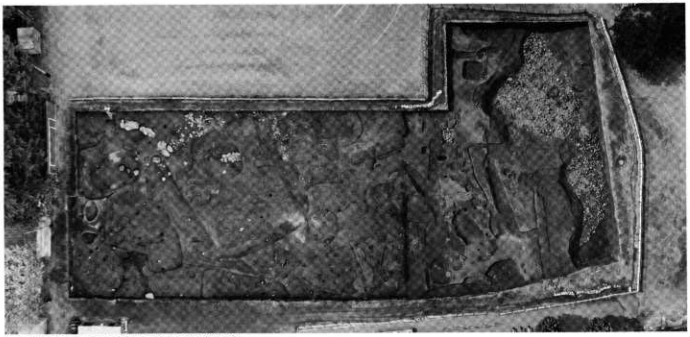


第76図　遺構外遺物

遺構外



第77図　遺構外遺物

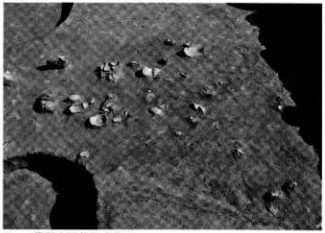


1　塚本遺跡空撮写真（2回の空撮写真を合成）

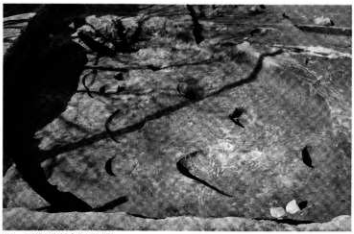
2　2次調査区俯瞰写真（西より）

3　2次調査区俯瞰写真（南より）

図版２



1　1号竪穴遺物出土状況



2　2号竪穴完掘状況

3　3･8号竪穴遺物出土状況

4　3･8号竪穴完掘状況

5　4号竪穴遺物出土状況

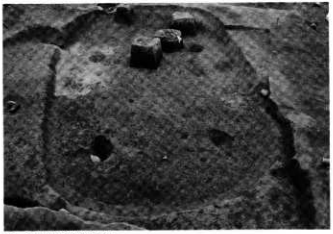
6　5号竪穴遺物出土状況

7　5号竪穴遺物出土状況

8　5号竪穴出土遺物

1　7号竪穴遺物出土状況

2　7号竪穴内配石状石組



3　9号竪穴完掘状況

4　9号竪穴完掘状況

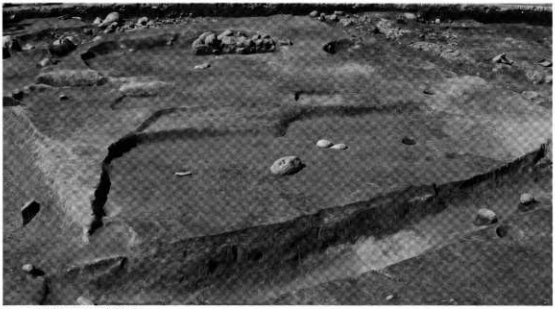
5　10·11号竪穴完掘状況

6　10号竪穴炉

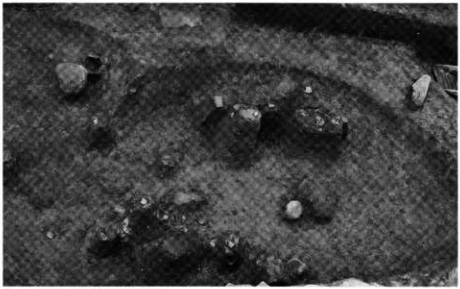
7　13号竪穴遺物出土状況

8　14号竪穴遺物出土状況

図版 4



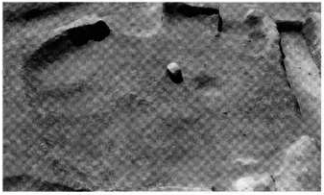
1　13･21号竪穴完掘状況



2　14･15号竪穴遺物出土状況

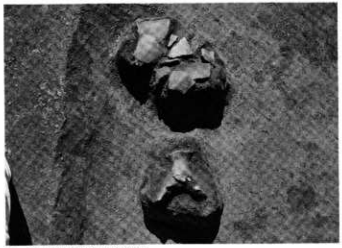
3　14･15号竪穴完掘状況

4　18号竪穴内炭化物出土状況

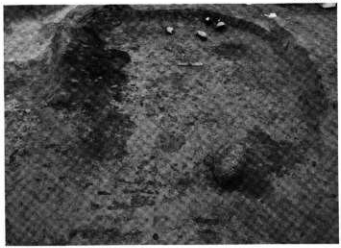


5　19号竪穴完掘状況

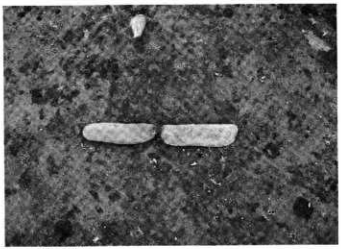
6　22号竪穴･6号溝(7号周溝墓)完掘状況



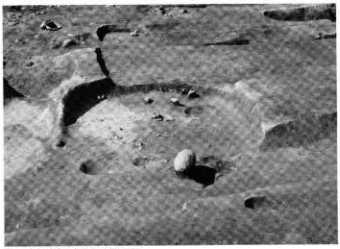
1　24号竪穴遺物出土状況



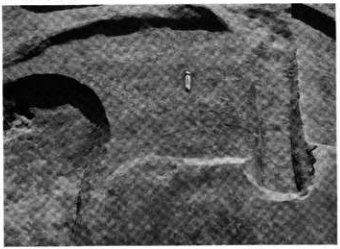
2　25号竪穴完掘状況



3　25号竪穴炉

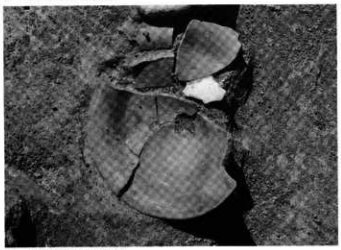


4　25·26号竪穴完掘状況



5　28号竪穴完掘状況

6　25·26号竪穴遺物出土状況



7　25号竪穴出土遺物

8　26号竪穴出土遺物

図版6

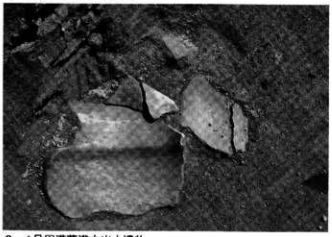
1　26号竪穴遺物出土状況

2　30号竪穴完掘状況

3　1号周溝墓完掘状況(南より)

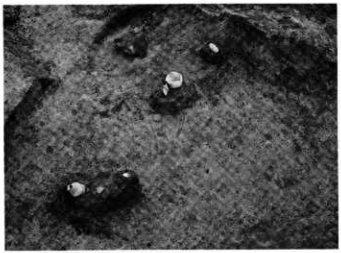
4　1号周溝墓内出土遺物

5　1号周溝墓(2号溝)内出土遺物

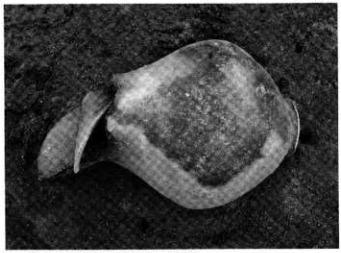


6　1号周溝墓溝内出土遺物

7　1号周溝墓溝断面



1　3号周溝墓(9号溝)遺物出土状況



2　4号周溝墓(13号溝)遺物出土状況

3　3号周溝墓(9号溝)遺物出土状況

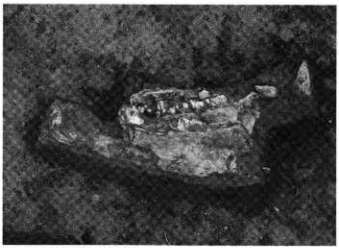
4　3号周溝墓内遺物出土状況

5　5号周溝墓(10号溝)完掘状況

6　4号周溝墓(13号溝)完掘状況

図版8

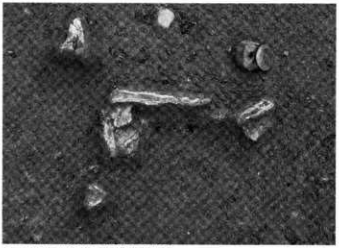
1　5号土坑馬骨出土状況



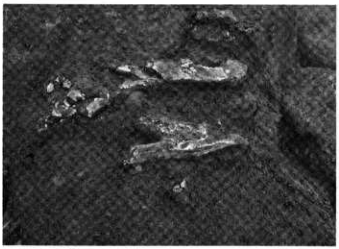
2　5号土坑馬骨出土状況

3　7号土坑墓人骨出土状況

4　7号土坑墓人骨出土状況



5　8号土坑墓人骨・銭貨出土状況

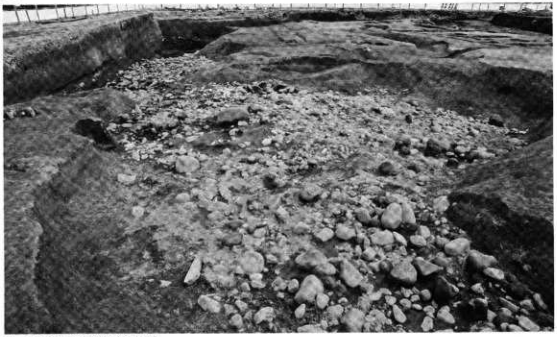


6　9号土坑墓人骨出土状況

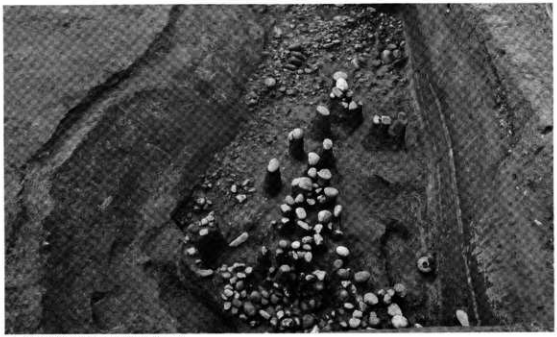
7　10号土坑墓人骨出土状況

8　11号土坑墓人骨出土状況

1　1号河道完掘状況(東より)



2　1号河道完掘状況(北より)

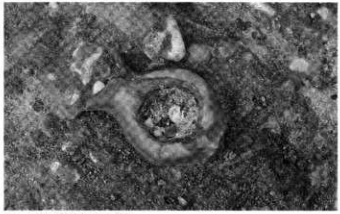


3　1号河道遺物出土状況(南より)

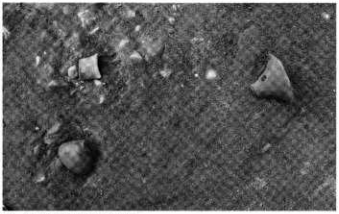
図版 10

1　1号河道中央断面写真

2　1号河道遺物出土状況



3　1号河道遺物出土状況

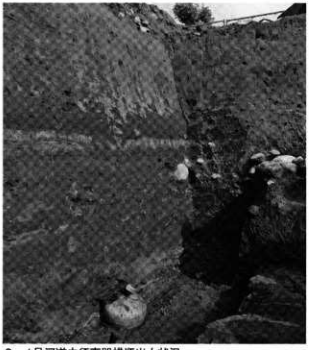


4　1号河道遺物出土状況

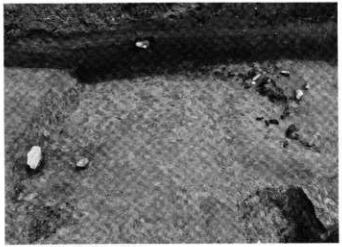
5　1号河道内帯金具（巡方）出土状況

6　1号河道内自然木出土状況

7　1号河道内須恵器横瓶出土状況



8　1号河道内須恵器横瓶出土状況

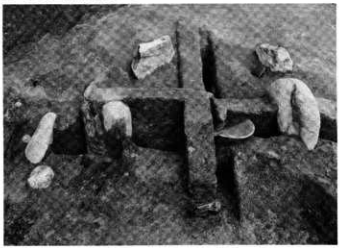


1　32号竪穴遺物出土状況

2　32号竪穴完掘状況

3　32号竪穴断面（西より）

4　32号竪穴竈遺物出土状況



5　32号竪穴竈断割り状況

6　32号竪穴竈完掘状況

7　33号竪穴完掘状況

8　33号竪穴竈

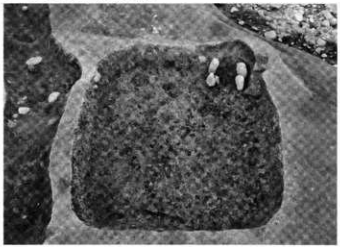
図版 12

1　34号竪穴遺物出土状況

2　34号竪穴竈天井石出土状況

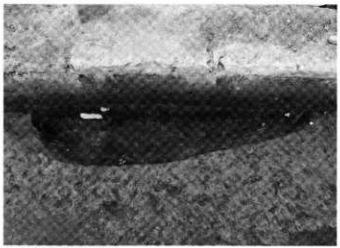
3　34号竪穴南遺物出土状況

4　34号竪穴竈遺物出土状況(上より)



5　34号竪穴完掘状況

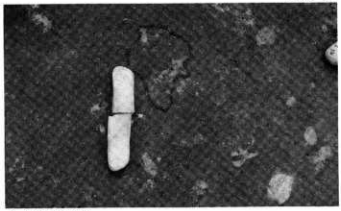
6　34号竪穴竈完掘状況



7　35号竪穴完掘状況

8　36号竪穴遺物出土状況

1　34号竪穴遺物出土状況

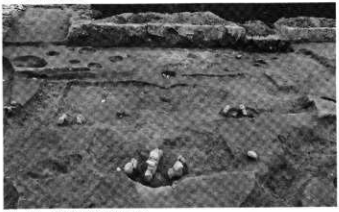


2　38号竪穴炉

3　39号竪穴炭化材出土状況

4　39号竪穴竈

5　40・47号竪穴遺物出土状況



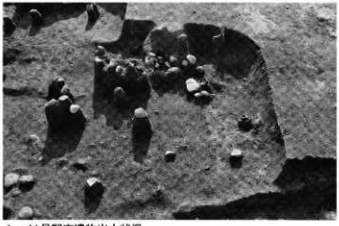
6　40～42号竪穴完掘状況

7　40・47号竪穴竈

8　40・47号竪穴竈(正面より)

9　40・47号竪穴竈

図版 14

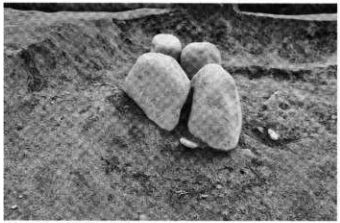


1　41号竪穴遺物出土状況

2　41号竪穴遺物出土状況

3　41号竪穴竈周辺遺物出土状況

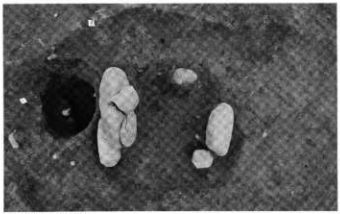
4　41号竪穴竈(正面より)



5　41号竪穴竈(左側面)

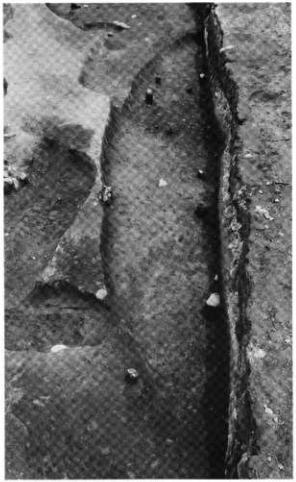
6　41号竪穴下層遺物出土状況

7　42号竪穴遺物出土状況



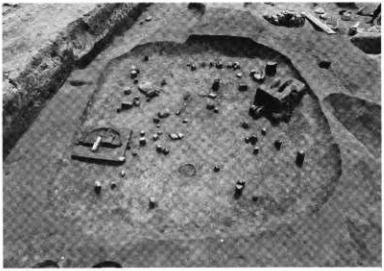
1　42号竪穴竈

2　42号竪穴竈（正面より）



4　43・44号竪穴遺物出土状況

3　42号竪穴竈（左側面）

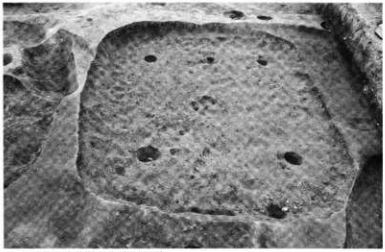


5　45号竪穴遺物出土状況

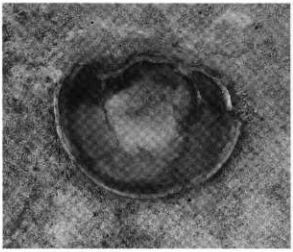
6　45号竪穴遺物出土状況

7　45号竪穴遺物出土状況

図版 16



1　45号竪穴完掘状況（西より）



2　45号竪穴土器埋設炉

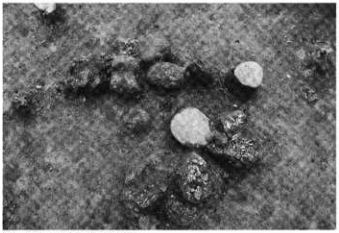
3　46号竪穴完掘状況

4　46号竪穴遺物出土状況

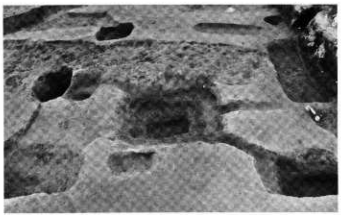
5　18号土坑礫等出土状況

6　18号土坑内曲物出土状況

7　30号土坑馬歯出土状況



8　30号土坑馬歯出土状況



1　3号撹乱完掘状況

2　41号竪穴西側集石状況

3　3号撹乱礫出土状況

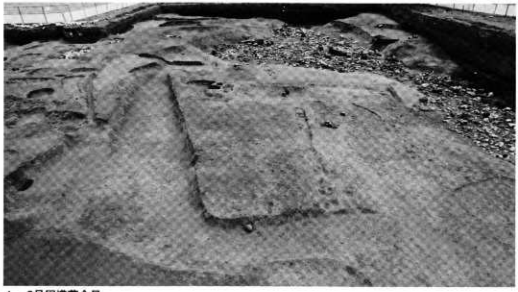
4　2次調査区全景(西より)

5　2次調査区全景(西より)

6　2次調査区全景(南より)

7　2次調査区全景(南より)

図版 18



1　6号周溝墓全景

2　5号周溝墓(27号溝)・1号掘立完掘状況

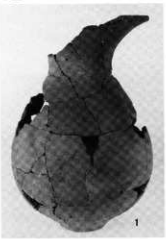
3　1号河道内作業風景

4　2次調査区完掘状況

5　作業風景

6　2次調査区全景(西より)

1竪


1

2

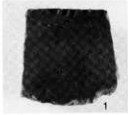
3

5

4

4

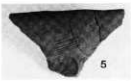
2竪


1

2

3

4


5

6

7

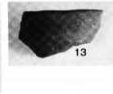
8

9

10

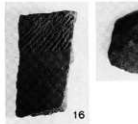
11

12


13

14

15


16

17

18

3竪

1

2

3

4

5

6

7

8

9

11

4竪

1

2

3

4

5

6

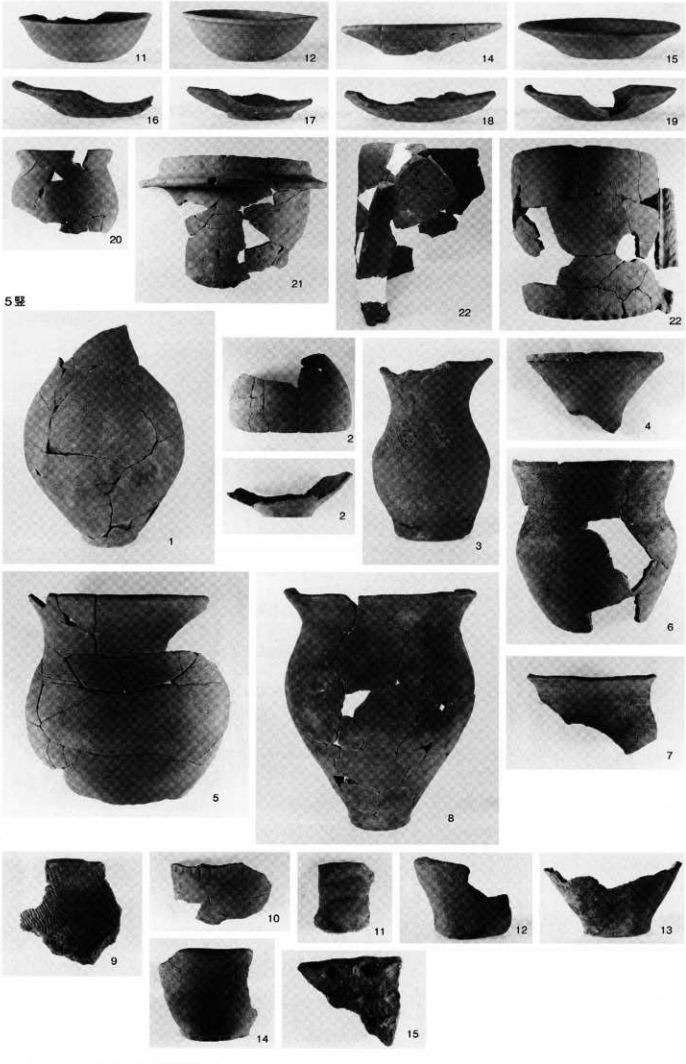
7

8

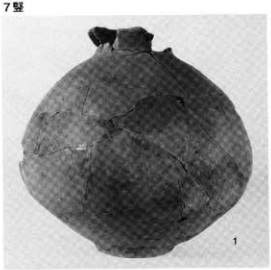
9

10

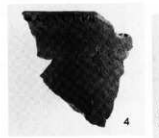
図版 20



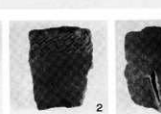
7竪

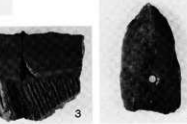


8竪

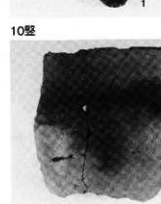


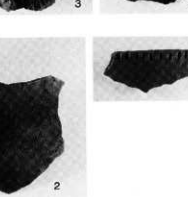
9竪

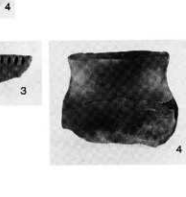




10竪







図版 22

5

6

7

12竪

1

2

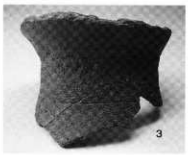
11竪

1

13竪

1

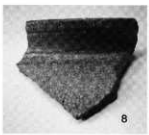
2


3

5

6

7

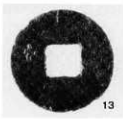

8

9

10

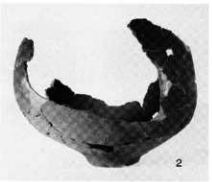
11

12


13

14竪

1


2

3

4

5

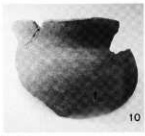
6

8

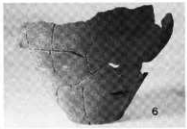
7

9

15型



18型



19型

22型

24型

20型

図版 24

25竪

1

2

3

4

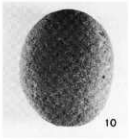
5

6

7

8

9


10

26竪

1

2

28竪

1

2

32竪

1

2

3

4

5

6

7

8

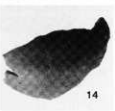
9

10

11

12

13


14

33竪

1

2

3

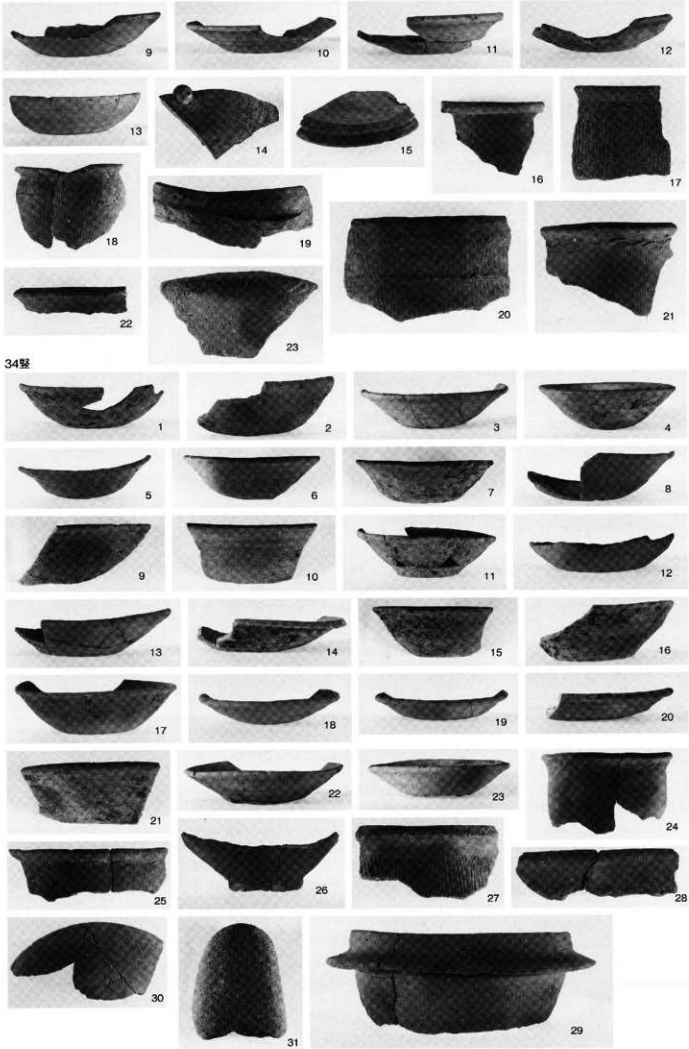
4

5

6

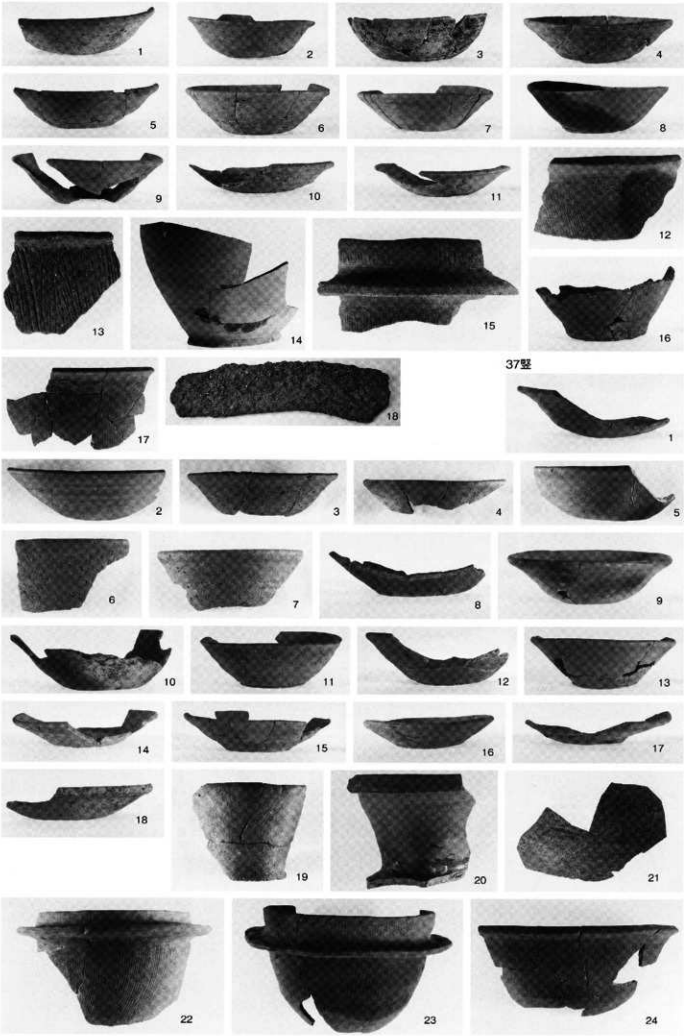
7

8


9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
34竪
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
30
31
29

図版 26

36竪


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24

37竪

1

2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24

25

26

27

28

29

30

38竪

1

2

3

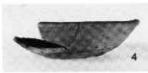
4

39竪

1

2

3


4

5

6

7

8

9

40竪

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

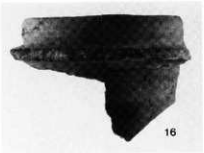
11

12

13

14

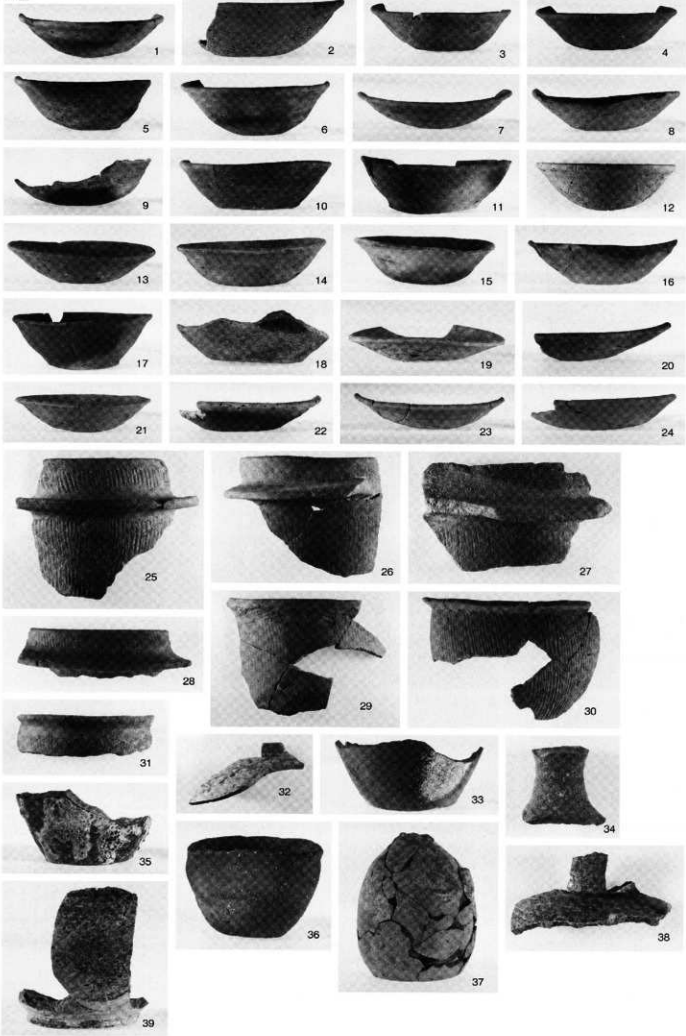
15


16

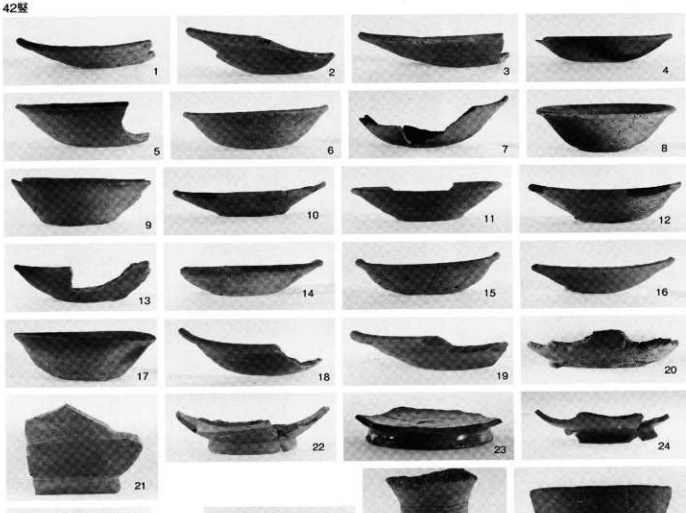
17

18

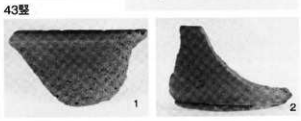
図版 28
41墅

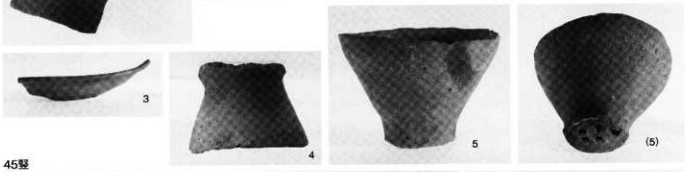

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39

42墓

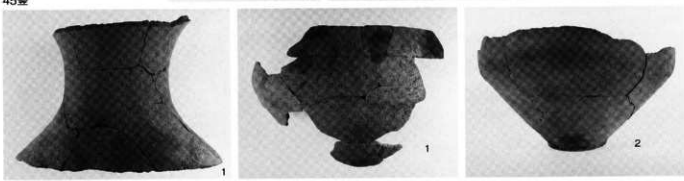

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30

43墓

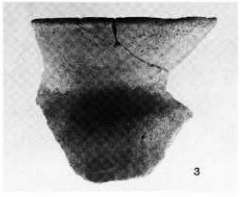

1
2

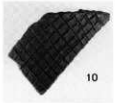

3
4
5
(5)

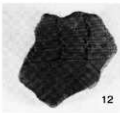
45墓

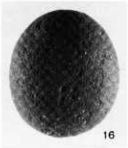

1
1
2

図版 30









46竪

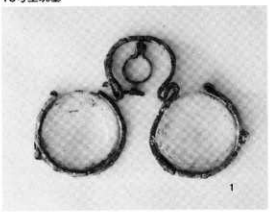
47竪

2号土坑墓

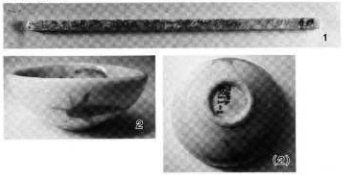
7号土坑墓

8号土坑墓

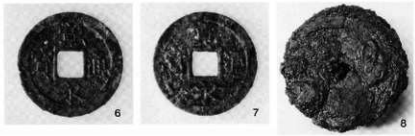
10号土坑墓



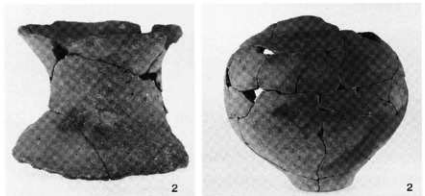
11号土坑墓

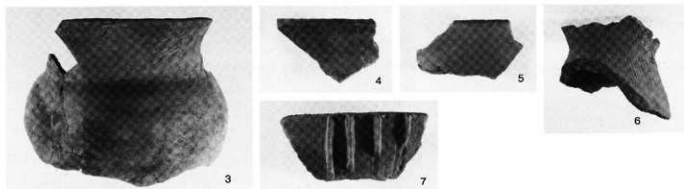


15号土坑墓

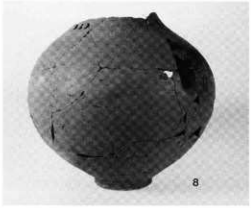


1号周溝墓





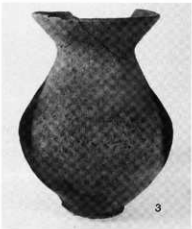
図版 32

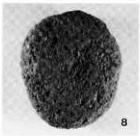


2号周溝墓

3号周溝墓

4号周溝墓





5号周溝墓

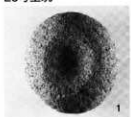
6号周溝墓

7号周溝墓

17号土坑

18号土坑

20号土坑



30号土坑

3号溝

8号溝

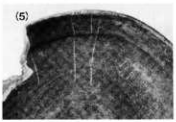
19号溝

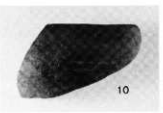
20号溝

23号溝

26号溝

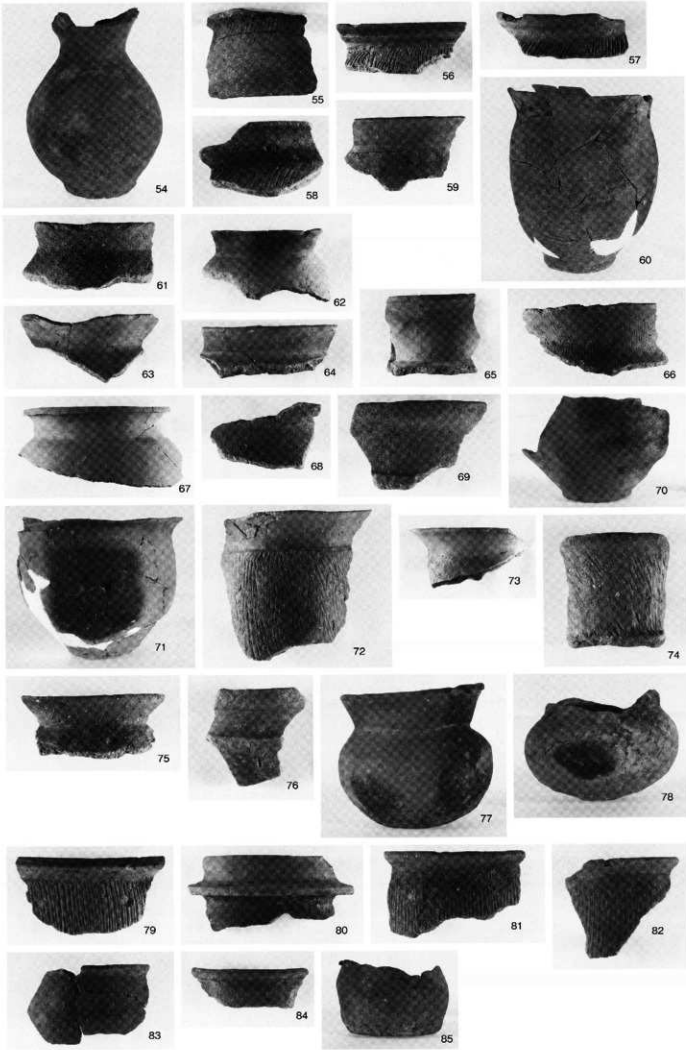
1号河道





図版 34

13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53

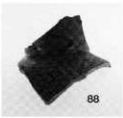

54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85

図版 36

86

(86)

87


88

89

90

91

92

93

94

95

96

(96)

98

99

100

101

102

103

104

105

106

107

遺構外

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

(10)

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

37

38

39

40

41

42

43

報告書抄録

ふりがな	つかもといせき
書名	塚本遺跡
副書名	甲府市立千塚小学校建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	甲府市文化財調査報告
シリーズ番号	55
編著者名	平塚洋一・・梅原功一・植月学・戸澤慎一
編集機関	甲府市・甲府市教育委員会・財団法人 山梨文化財研究所
所在地	(甲府市教育委員会)〒400-8585 山梨県甲府市丸の内1丁目18番1号 TEL 055-223-7324 (山梨文化財研究所)〒406-0032 山梨県笛吹市石和町四日市場1566 TEL 055-263-6441
発行年月日	西暦2011年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″			
つかもといせき 塚本遺跡	やまなしけんこうふしちづか 山梨県甲府市千塚1丁目1810	19201	19	35° 40′ 49.19″	138° 32′ 27.25″	平成22(2010)年1月18日～7月7日	2272	千塚小学校校舎建設

種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
集落遺跡・方形周溝墓群	弥生時代後期・平安時代末・近世	弥生後期竪穴住居20・平安末竪穴住居16・周溝墓8・土坑・土坑墓・ピット・河道	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・緑釉陶器・灰釉陶器・石器・古銭・銅製巡方	長軸長21mの方形周溝墓をはじめとする周溝墓群を検出した。また3m下の埋没河道底から完形の須恵器横瓶、銅製巡方が出土し、平安末の竪穴に伴って緑釉陶器片が出土している。

要約	弥生時代後期と平安時代末の2時期に集落が営まれた。弥生時代後期の集落では後期末、集落東側に方形周溝墓群が出現し、古墳時代前期まで墓域として継続している。弥生後期の土器群は中部高地系の櫛描波状文土器を主とするとともに神奈川方面の壺も流入している。平安時代末には短期的に集落が形成され、埋没河道内より出土した巡方や緑釉陶器の存在から周辺に公的施設が存在した可能性がある。

塚本遺跡

—甲府市立千塚小学校建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成23年(2011)3月31日　発行

編　集　甲府市・甲府市教育委員会・財団法人 山梨文化財研究所

発　行　甲府市・甲府市教育委員会・財団法人 山梨文化財研究所

印　刷　㈱帝京サービス